
1997

[第11回]

牛乳乳製品の
消費動向に
関する調査

社団法人 **全国牛乳普及協会**
後援: 農林水産省 農畜産業振興事業団

はじめに

— 人が勧めたり、思いとどまったりするのはすべて、幸福に寄与するか、あるいは逆に幸福に反するからだ。

古代ギリシアの哲人アリストテレスのことばです。幸福には、健康、よい友をもつこと、よい老年をおくること、美しさなどがふくまれる、と哲人はいっています。

アリストテレスから 2000 年の時代をへた今日でも、日本人が大切にするのは、第 1 に家族、第 2 に健康です。古代ギリシアも現代日本も、人間の価値観は、かわっていません。

今回、日本人の家族観と健康意識をとりあげて、これらと牛乳飲用量との関係をしらべました。主婦の健康配慮のたかい家庭ほど牛乳購入量がおおく、健康意識のたかい人ほど牛乳飲用量もおおい、という興味深い結果をえしました。

日本人は、1 日平均 2.5 リットルの水分をとります。そのなかには、さまざまな飲料がふくまれています。競合する諸飲料のなかで、牛乳はどのような地位をしめているか、もしらべました。

牛乳は栄養に着目して飲み、ヨーグルトは嗜好でとっていることなど、ヨーグルトやチーズまで調査をひろげたことも今年の新しいポイントです。

普通牛乳、低脂肪牛乳と栄養強化牛乳をあわせた牛乳は、年間製造量で、非アルコール系飲料のトップの座をしめ、ひきつづき消費増大の一途をたどっています。

この調査は、その背景と今後の方向を示唆しています。ひろく関係各位に読んでいただきたいと存じます。

1997 年 11 月
社団法人 全国牛乳普及協会
会長 鴻巣 健治

目 次

	page
調査設計 -----	1
調査の目的 -----	3
調査テーマ -----	3
調査方法 -----	4
サンプル構成 -----	6
主な分析軸 -----	11
調査結果の詳細 -----	13
I 牛乳の飲用実態 -----	15
1. 牛乳の飲用頻度と飲用量 -----	15
1) 牛乳の飲用頻度 (問 1) -----	15
2) 牛乳の飲用量 (問 1 × 問 2) -----	17
3) 牛乳の飲用量によるユーザー分類 (問 1 × 問 2) -----	26
2. 1日あたりの牛乳の飲用回数 (問 3) -----	28
3. 牛乳の飲用機会 (問 4 -1) -----	31
4. 牛乳の飲用場所 (問 5) -----	34
5. 牛乳を飲む理由と飲まない理由 -----	37
1) 牛乳を飲む理由 (問 6) -----	37
2) 牛乳を飲まない理由 (問 1-1) -----	41
6. 牛乳の飲用量の変化とその理由 -----	43
1) 牛乳の飲用量の増減 (問 7) -----	43
2) 増えた機会 (問 4 -2) -----	44
3) 変化したのは 1 回あたりの量か回数か (問 7-1、問 7-3) -----	46
4) 変化した理由 (問 7-2、問 7-4) -----	47
5) 変わらない理由 (問 7-5) -----	49
7. 多様な牛乳の種類 (問 8) -----	50

Ⅱ チーズとヨーグルトの食用（飲用）実態 -----	53
1. チーズとヨーグルトの食用（飲用）頻度（問9） -----	53
2. ヨーグルトの食用（飲用）機会（問10） -----	58
3. ヨーグルトの食用（飲用）場所（問11） -----	60
4. ヨーグルトの食用（飲用）タイプ（問12） -----	62
5. ヨーグルトの食用（飲用）理由（問13） -----	64
Ⅲ 牛乳をとりまく背景 -----	67
1. 飲み物の中での牛乳の位置づけ（問14） -----	67
2. カルシウムと骨と牛乳 -----	74
1) カルシウム必要量と牛乳に含まれるカルシウム量 -----	74
2) 骨に対する認知 -----	78
(1) 骨が新陳代謝することの認知（問17） -----	78
(2) 骨密度のピークに関する認知（問18） -----	80
Ⅳ 健康意識、健康行動と牛乳 -----	82
1. 食生活の栄養バランス（問19） -----	82
2. 現在の健康状態（問20） -----	84
3. 健康維持のための配慮（問21） -----	87
4. 朝起きた時の疲労感（問22） -----	90
5. 健康のために積極的に行っている具体的な行動（問23） -----	93
6. 健康の増進のためにお金や時間を使っているもの（問24） -----	95
Ⅴ 牛乳の購入実態 -----	97
1. 牛乳全体の購入頻度と購入量（問5、Q6） -----	97
2. 牛乳の種類別購入量（Q7） -----	103

VI 家族と牛乳-----	106
1. 家族全員で食事をする回数と機会 (Q 11、Q 12) -----	106
2. 平日に家族間で話をする時間 (Q 13) -----	111
3. 家庭での夫婦の役割分担 (Q 10) -----	115
4. 家族の姿 (Q 14) -----	122
5. 家族の健康への配慮 (Q 15) -----	125
付録1) 各年度のテーマとサンプル数 -----	129
付録2) 単純集計結果付き 1997 年調査票 -----	133

調査設計

調査の目的

『牛乳乳製品の消費動向に関する調査』は、1987年度から1996年度まで10回にわたり、毎年全国の消費者に対し調査を実施し、牛乳乳製品の需要動向や意識を時系列で把握してきた。

今回の1997年度調査は、前回調査で課題となった健康と牛乳との関係をさらに深く分析するとともに、家族という新たな視点から健康意識と牛乳との関係を調べた。

調査テーマ

1) 牛乳飲用量の変化

この5年間くらいの間の牛乳飲用量の増減とその理由を明らかにする。

2) 牛乳とチーズ・ヨーグルトの関係

属性別に牛乳とチーズ・ヨーグルトの消費量を調べて、牛乳と乳製品の関係を分析する。

3) 多様な牛乳商品の飲用・購入実態

多様な牛乳商品の中で、よく飲まれているものとこれから飲みたいものを調べるとともに、家庭の購入実態から普通牛乳と低脂肪乳、栄養強化牛乳の割合も推計する。

4) 牛乳と他の飲料の関係

機会別の飲用実態から、性・年齢別に牛乳の競合飲料を調べる。

5) 健康意識と牛乳との関係

健康意識、健康行動と牛乳飲用量との関係を分析する。

6) 現代の家族の姿と健康

家族のコミュニケーション、役割分担、家族観を調べて、現代の家族の姿を明らかにする。また、主婦の健康配慮と牛乳飲用量との関係も調べる。

調査方法

1. 調査の目的

牛乳乳製品に関する飲用、食用、購入実態および消費者意識、知識、イメージなどについて時系列変化をみるとともに、ライフスタイルと牛乳乳製品との関係を調査する。

2. 調査方法

- ・留置併用訪問面接法

3. 調査票の構成と調査項目

個人票 = 本人が回答

- ・牛乳乳製品の飲用・食用実態
- ・カルシウム必要量と牛乳・骨に関する知識
- ・健康意識と健康行動
- ・フェイス

主婦（世帯）票 = その世帯の主婦的役割を担う人が回答
単身世帯の場合は本人が回答することになる

- ・世帯の中の位置づけと年齢
- ・牛乳の購入実態
- ・家族の姿

4. 調査対象者

全国の13歳以上の男女個人 6000人 設定

5. 抽出方法 住民基本台帳より層化多段抽出

*層化多段抽出法の手順は以下の通り。

まず、平成2年国勢調査時の人口に基づき地域と都市規模（各5分類）により層化する。第1次抽出単位として各層ごとに市町村を抽出し、第2次抽出単位として国勢調査の調査区を抽出し、第3次抽出単位で個人を抽出する。
調査対象となる個人の抽出は、調査地点の範囲内（調査地点は町・丁目・番地等で指定）の住民登録台帳より、調査対象適格者（今回の場合は13才以上の男女個人）を等間隔に系統抽出する。

6. 地 域

全国 6,000 サンプル

地域別設定数	
北海道	270
東 北	480
関東・甲信	2,055
東 海	690
北 陸	270
近 畿	1,005
中 国	375
四 国	210
九 州	645
計	6,000

都市規模別設定数	
12大都市	1,290
15万以上の市	1,800
5万～15万の市	1,200
5万未満の市	375
郡 部	1,335
計	6,000

7. 調査期間

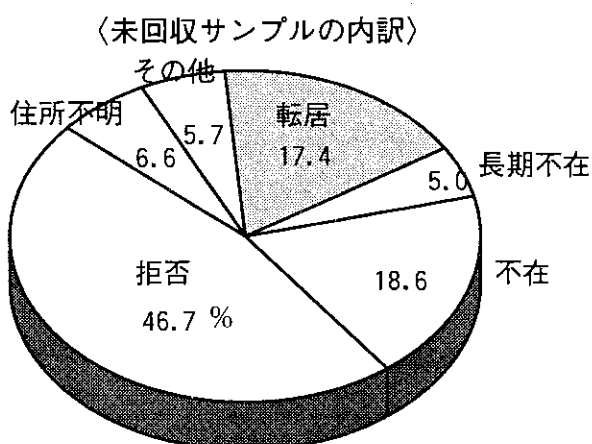
1997年 5月23日(金)～6月13日(金)

8. 回収状況

6,000人設定 → 4,547人有効回収 (有効回収率 75.8%)

回収数	有効数	無効数
4,554	4,547	7

未回収数	転居	長期不在	不在	拒否	住所不明	その他
1,446	252	73	269	675	95	82



9. 本報告書でデータを読む上での注意点

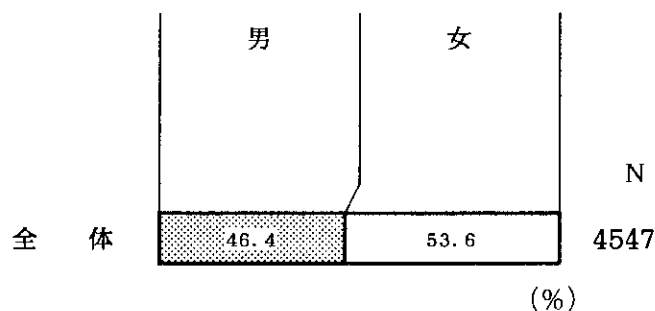
択一式選択肢 (SA) の場合、回答率の合計が100.0%になるべきところで、そうならない箇所がある。これは各回答率を小数点以下第2位で四捨五入しているためである。

10. 要約「調査結果の要約と今後の課題」はダイジェスト版を参照

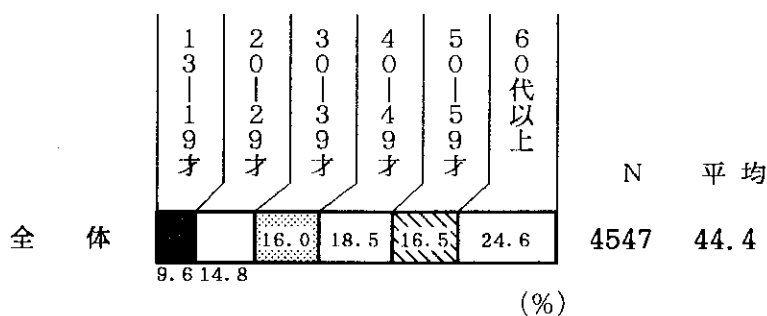
サンプル構成

個人票

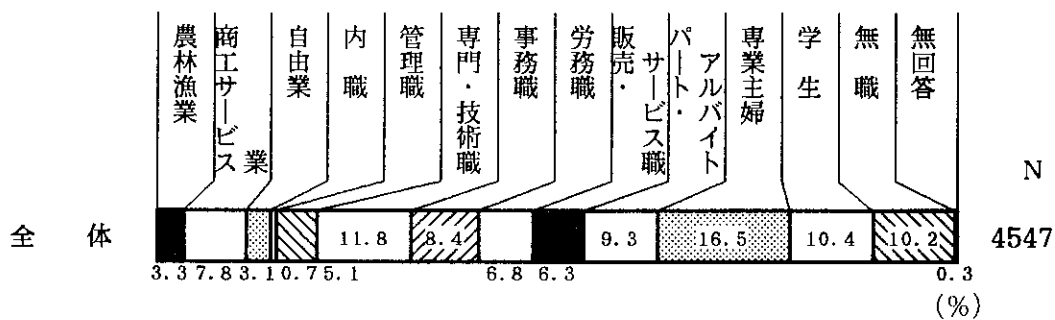
性別



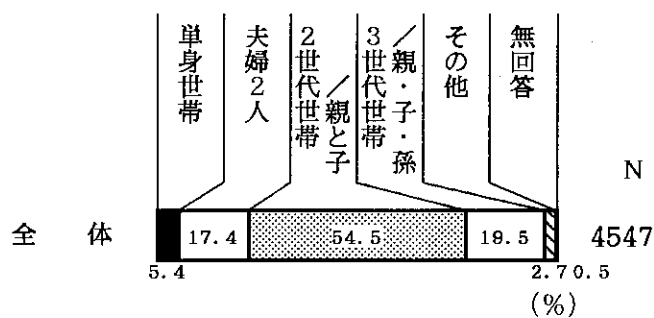
年齢



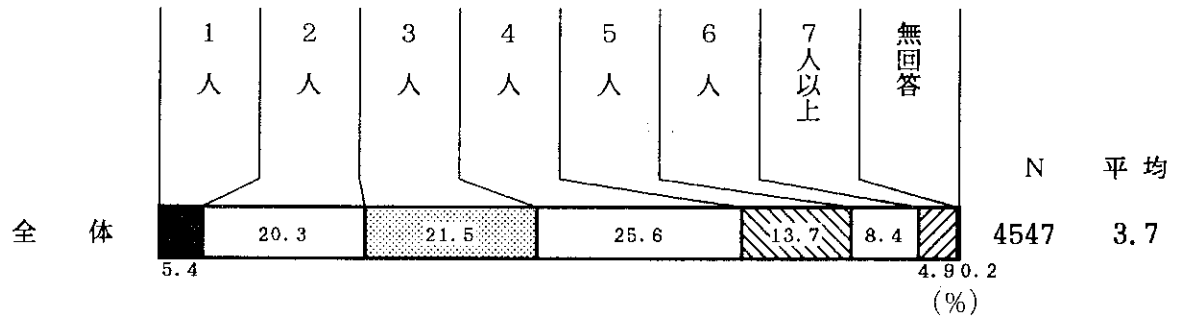
職業



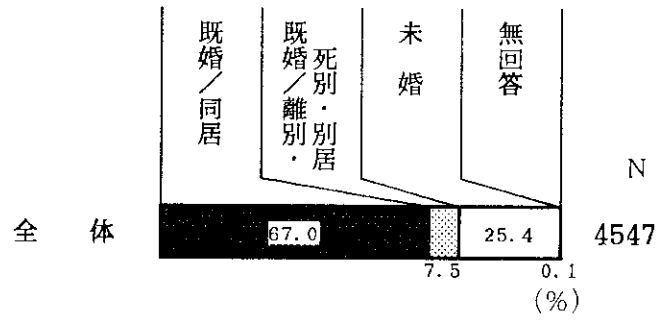
家族構成



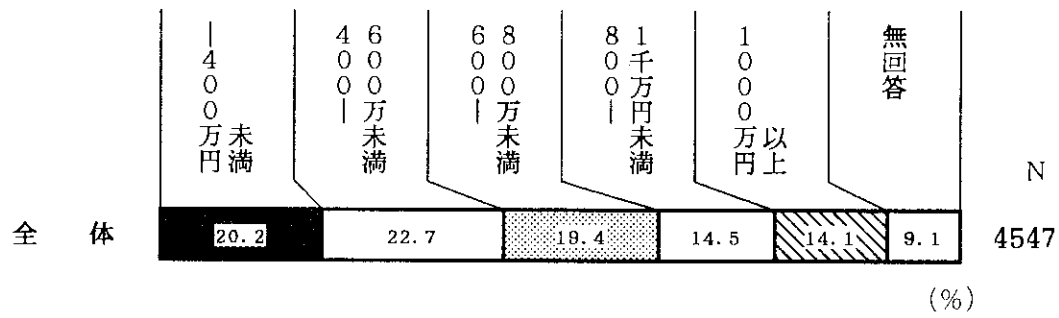
家族人数



結婚の有無

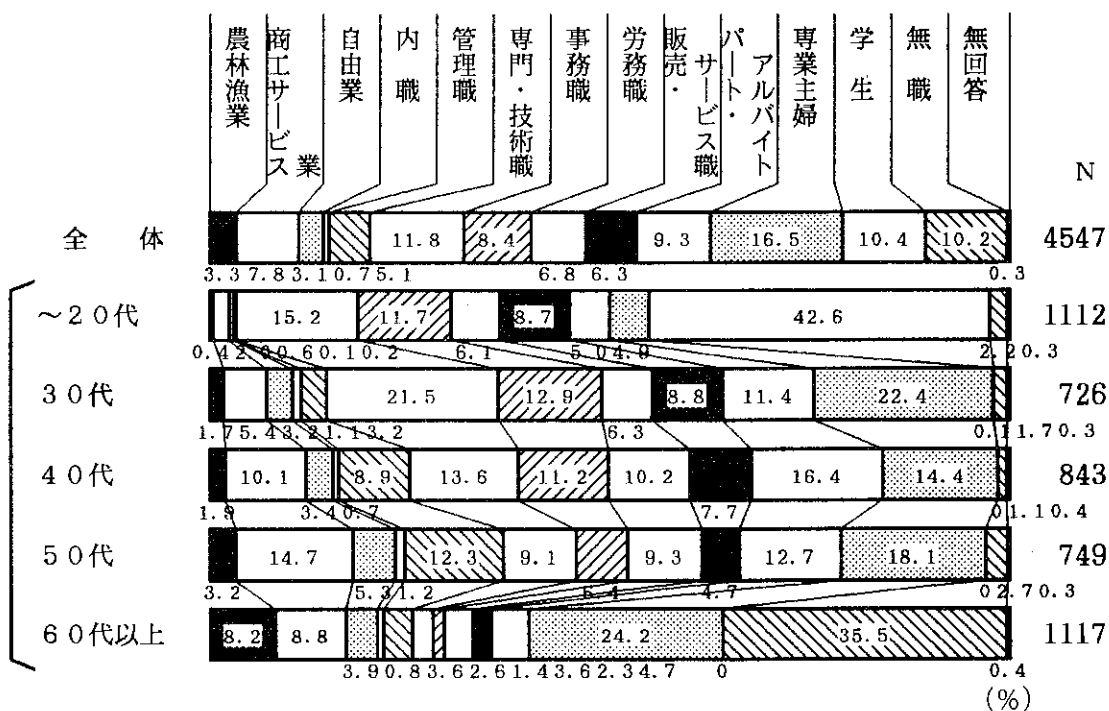


世帯年収



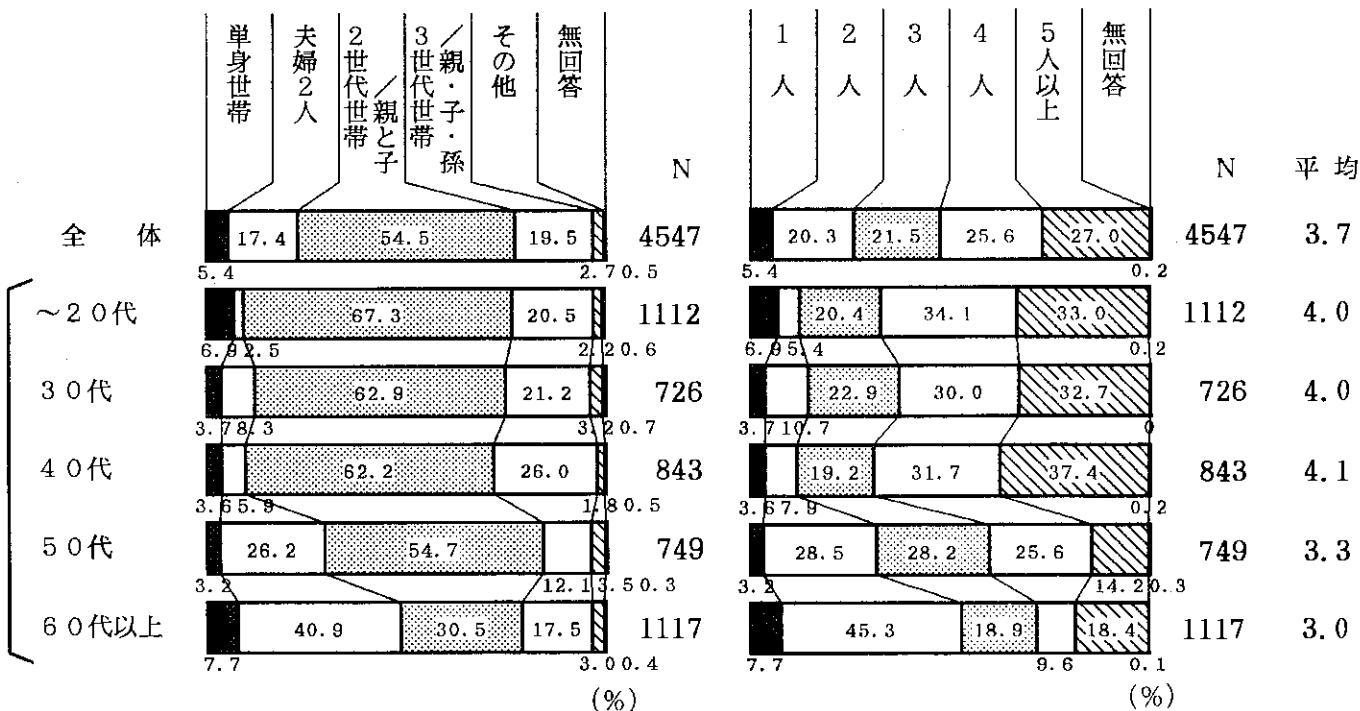
参考として各属性が年齢とどのような関連があるかをみてみた。

年齢別 職業

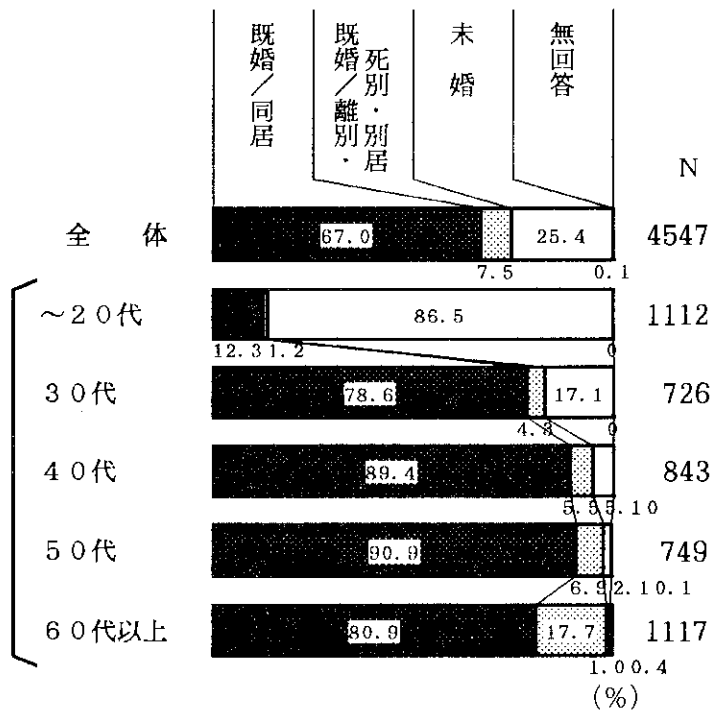


年齢別 家族構成

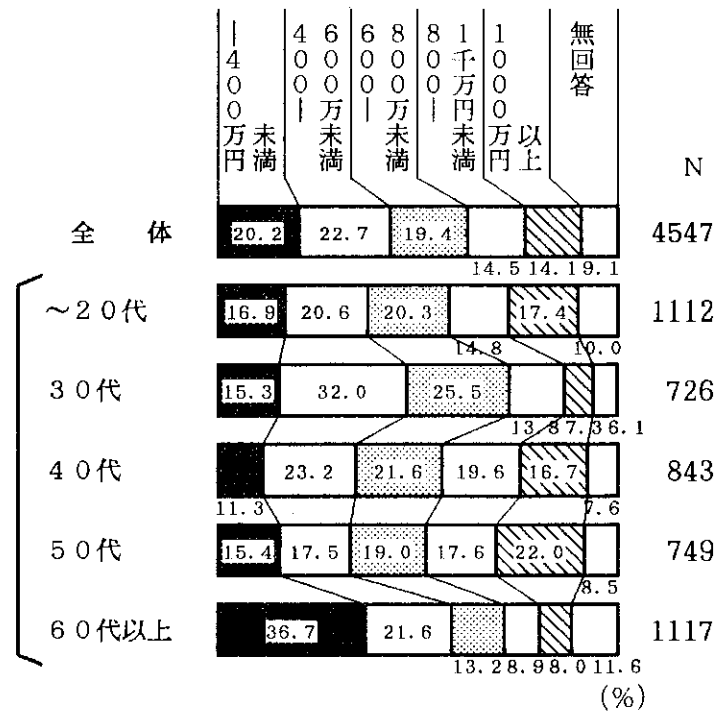
年齢別 家族人数



年齢別 結婚の有無

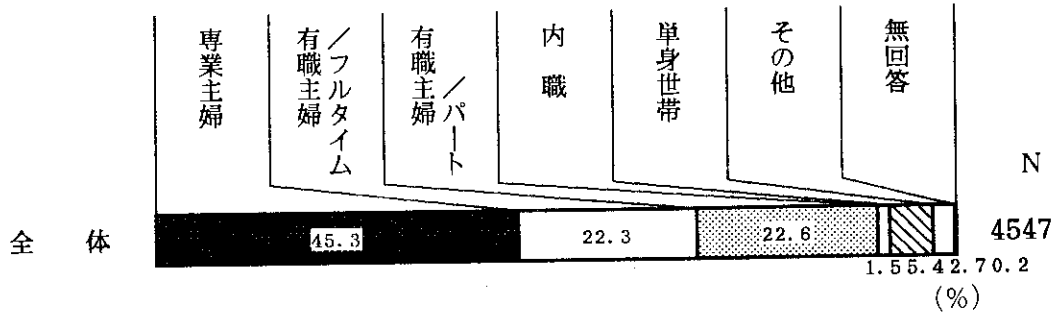


年齢別 世帯年収

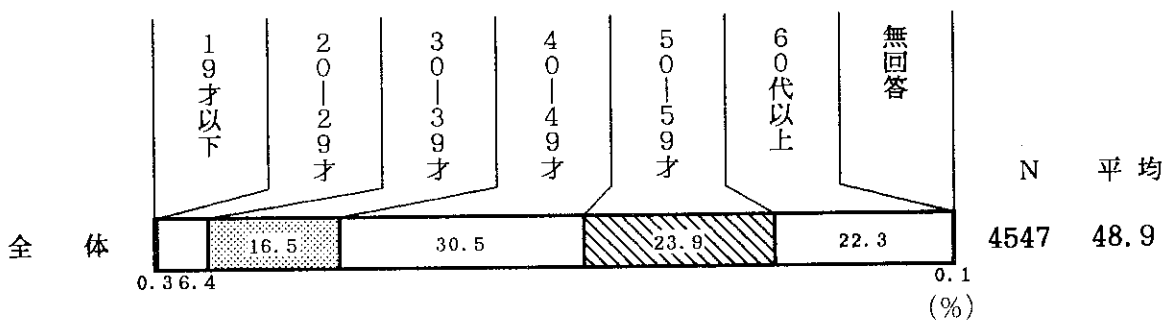


主婦（世帯）票

世帯の中での位置づけ



主婦年齢



主な分析軸

本報告書で利用した主な分析軸は次の通り（数字はサンプル数を示す）。

〈性・年齢〉		〈都市規模・居住地域〉		
男性	10代	223	12 大都市	931
	20代	296	15 万以上市	1358
	30代	320	5 万以上市	939
	40代	386	5 万未満市	291
	50代	346	郡 部	1028
	60代以上	540		
女性	10代	215	北海道	212
	20代	378	東 北	334
	30代	406	関東・甲信	1511
	40代	457	東海・北陸	776
	50代	403	近 畿	741
	60代以上	577	中 国	316
	男性小計	2111	四 国	156
	女性小計	2436	九 州	501

〈職 業〉		〈牛乳の飲用量からみたユーザー分類*〉		
自営・家族従業	農林漁業	148	ヘビーユーザー	1131
	商工サービス業	354	毎日ミドルユーザー	949
	自由業	143	ミドルユーザー	1020
	内 職	33	ライトユーザー	799
勤め人	管理職	232	ノンユーザー	648
	専門・技術職	537		
	事務職	382		
	労務職	310		
	販売・サービス職	287		
	パート・アルバイト	425		
無職	専業主婦	744		
	学 生	475		
	無 職	463		

* 分類のしかたは次ページ参照

〈1週間の牛乳購入量〉

ほとんど買わない	224
2ℓ未満	857
3ℓ未満	1053
5ℓ未満	1175
5ℓ以上	1203
無回答	35

〈世帯主の職業／世帯年収〉

自営・家族従業	1004
勤め人計	2777
管理職	592
専門・技術職	747
事務職	428
労務職	502
販売・サービス職	332
パート・アルバイト	176
無職	744
～400万円未満	919
～600万円	1029
～800万円	883
800万円以上	1303
非該当	6

※

牛乳の飲用量からみたユーザー分類の方法

		1日の牛乳飲用杯数							
		コップ 6杯以上	5杯	4杯	3杯	2杯	1杯	半杯	全く 飲まない
牛乳の 飲用 頻度	毎日飲む	ヘビーユーザー				毎日ミドルユーザー			
	週5～6日	ミドルユーザー							
	週3～4日								
	週1～2日							ライトユーザー	
	月に2～3回	ノンユーザー							
	それ以下								
	全く飲まない								

調査結果の詳細

I 牛乳の飲用実態

1. 牛乳の飲用頻度と飲用量

1) 牛乳の飲用頻度

そのまま飲む以外の場合も含めて（紅茶やココアなど他の飲み物に入れたり、コーンフレークスやシリアルにかけたりなども含む）、日頃どの程度牛乳を飲むかを聞いた。

「毎日飲む」人は46%と半数近くを占めている。他方、「全く飲まない」という人は9%と1割に満たない。

1987年からの時系列変化をみると、「週に5日以上」飲む人の比率は1990年まで増加し、それ以後はあまり変化がみられない。

図表 I - 1 牛乳の飲用頻度

年	毎日飲む	週5に1日飲む	週3に4日飲む	週1に2日飲む	月に数回飲む	それ以下飲まない	全く飲まない	無回答	N	平均 (日/月)		
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)					
1997年	45.7			9.1	13.7	10.4	6.7	5.1	9.1	0.0	4547	18.7
1996年	42.5			9.3	16.9	11.7	6.4	3.7	9.4	0.0	4706	18.3
1995年	48.4			7.5	12.9	9.9	6.6	4.7	9.9	0.1	4668	19.0
1994年	46.8			9.6	13.3	9.2	7.7		10.0	0.0	4617	19.0
1993年	46.5			10.2	14.3	9.2	6.9	3.4	9.4	0.2	4553	19.2
1992年	44.2			9.3	13.8	10.7	8.1	5.0	8.7	0.2	4651	18.4
1991年	45.2			10.4	14.7	10.0	7.0	4.3	8.2	0.2	4714	19.1
1990年	45.7			10.2	14.0	9.5	7.5	4.9	7.9	0.3	4691	19.1
1989年	43.4			9.5	13.5	10.5	7.9	5.0	9.8	0.4	4579	18.2
1988年	39.9			10.4	14.5	10.7	8.7	5.2	10.1	0.5	4604	17.6
1987年	38.5			9.5	14.3	11.6	10.0	6.8	8.7	0.6	4664	17.0

(%)

性・年齢別に平均飲用回数をみると、男性は年齢差が大きく、10代や60代以上で飲用頻度が高いのに対し、20～40代では少ない。

これは、時系列トレンドでみても同様の傾向がみられる。

一方、女性では1997年は年齢によるバラツキが男性ほども大きくない。

図表 I - 2 性・年齢別 牛乳飲用頻度 (平均値)

〈男性〉

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	男性計
1997年	21.5	14.7	16.8	15.6	17.2	19.4	17.5
1996年	21.9	15.7	15.4	15.9	18.5	19.1	17.7
1995年	21.9	17.2	17.0	15.6	17.2	19.6	17.9
1994年	20.8	15.6	17.2	16.3	18.6	20.5	18.2
1993年	21.9	16.8	18.4	17.8	18.3	20.5	18.9
1992年	20.9	14.4	15.7	15.2	18.7	20.4	17.6
1991年	22.0	16.4	16.6	17.2	18.0	20.3	18.4
1990年	18.8	16.4	18.9	18.5	20.5	21.4	18.3
1989年	20.0	15.7	16.7	16.0	17.6	19.1	17.4
1988年	18.9	14.8	16.3	15.8	17.5	19.1	17.1
1987年	19.5	14.5	13.6	15.0	17.3	18.5	16.2

〈女性〉

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	女性計
1997年	19.2	16.2	20.3	20.0	21.5	20.6	19.8
1996年	19.0	16.3	19.5	18.7	19.8	19.8	18.9
1995年	18.1	18.5	21.3	19.3	20.4	21.2	20.0
1994年	17.5	17.0	21.0	19.8	20.7	21.1	19.7
1993年	17.2	17.0	18.8	20.5	20.4	22.2	19.6
1992年	17.6	16.3	19.4	19.6	20.9	20.8	19.2
1991年	18.6	18.3	20.2	19.9	20.2	20.6	19.7
1990年	17.6	17.4	20.4	19.7	21.0	21.6	19.7
1989年	17.2	17.9	19.5	18.9	19.3	19.1	18.8
1988年	17.9	17.3	18.0	18.8	18.3	17.3	18.0
1987年	16.9	16.8	18.0	17.7	18.2	18.2	17.7

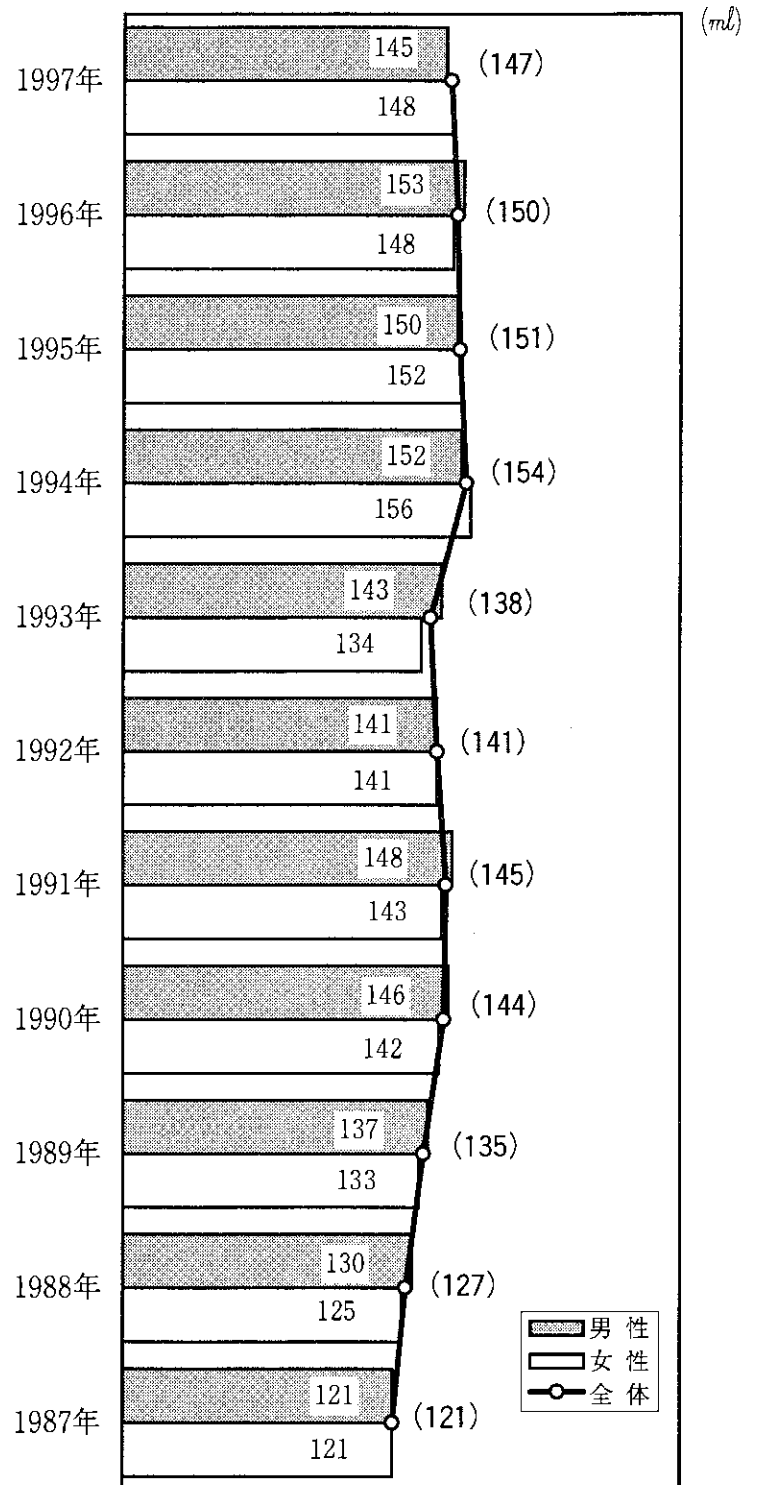
(日/月)

2) 牛乳の飲用量

13才以上の牛乳の1日あたりの平均飲用量を1987年から1997年までの11年間の長期トレンドで見ると、89年から90年と93年から94年にかけて増えており、この11年間で1.2倍に増加している。

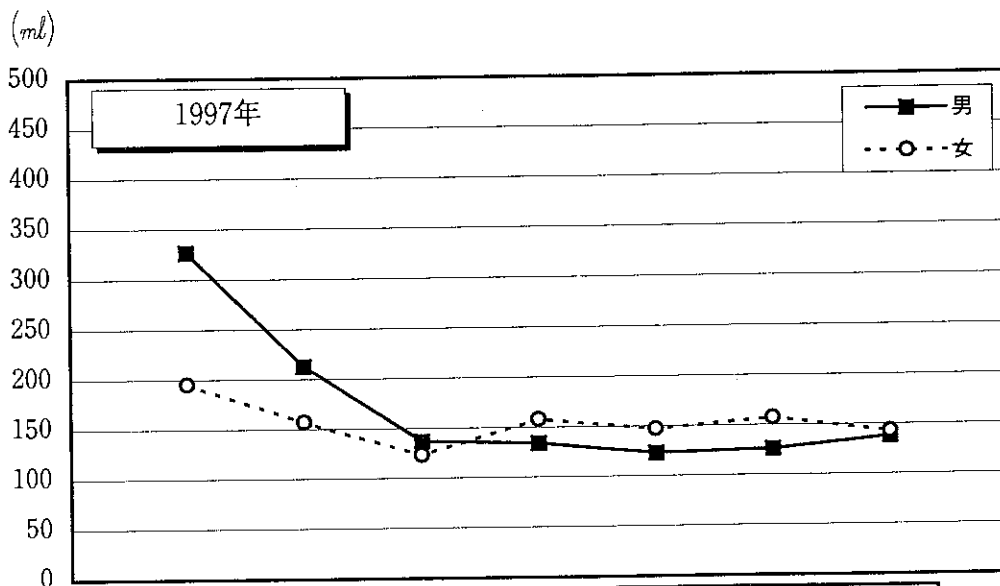
94年から女性の健康意識の高さに支えられて、女性の飲用量が男性より多くなっている。

図表 I - 3 1人1日あたりの牛乳飲用量
(平均値)



性・年齢別に牛乳飲用量をみると、10代男性の平均飲用量の高さが目立ち、特に13～15才の男性では327mlにもものぼる。また男女とも10代が最も多く飲んでいる点は同じだが、20代までは男性の飲用量が女性を上回っており、30代以上は女性の方が多くなっている。つまり、女性の方が年齢差がマイルドであり、男性では20代以降に急激に飲用量が減少し、牛乳を飲まなくなることがわかる。

図表 I - 4 性・年齢別 1人1日あたりの牛乳飲用量 (平均値)

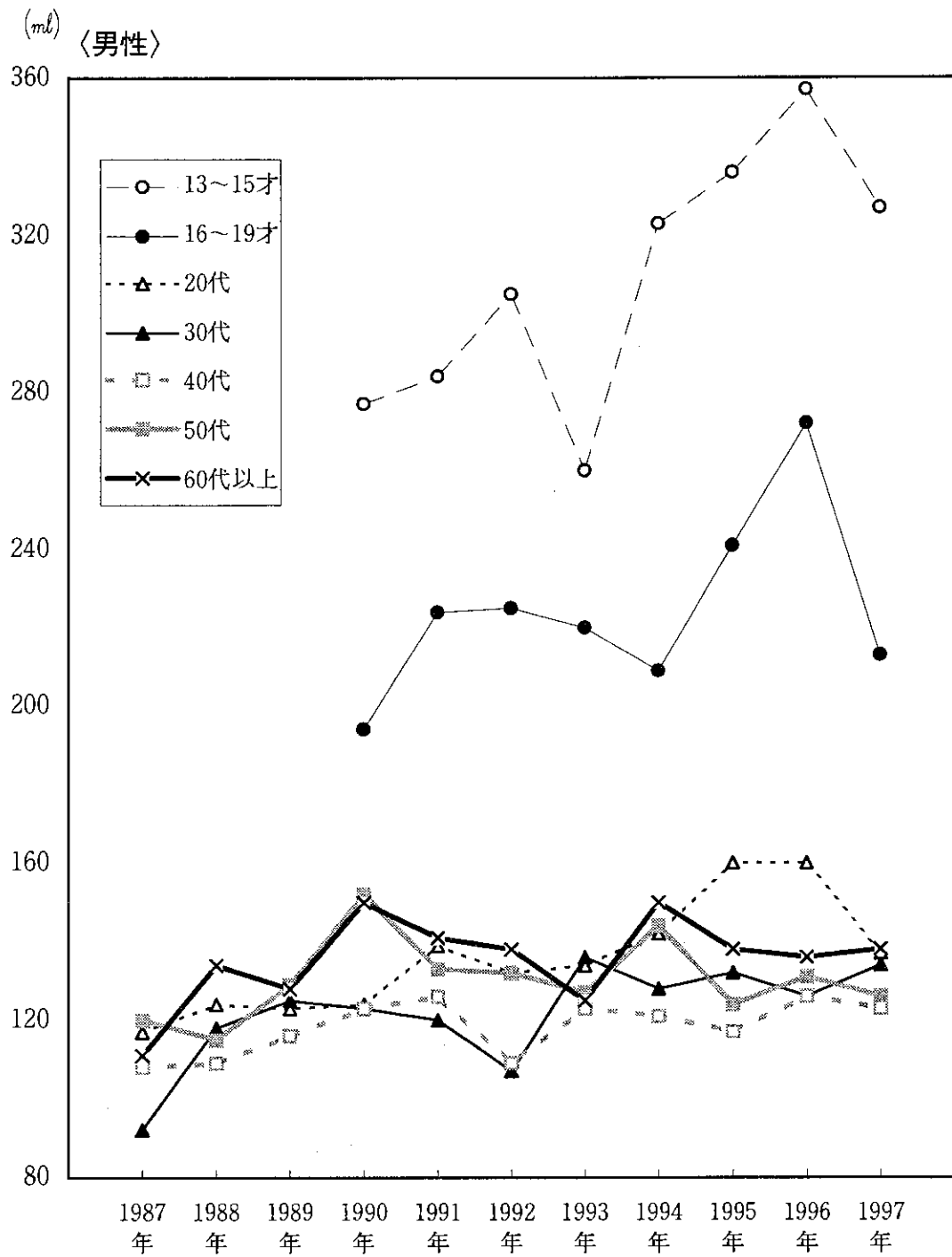


		13～15才	16～19才	20代	30代	40代	50代	60代以上
1997年	男	327	213	137	134	123	126	138
	女	195	157	123	158	147	157	143
1996年	男	357	272	160	126	126	131	136
	女	229	149	136	151	141	157	140
1995年	男	336	241	160	132	117	124	138
	女	207	131	153	158	152	151	142
1994年	男	323	209	142	128	121	144	150
	女	206	124	135	178	153	158	153
1993年	男	260	220	134	136	123	127	125
	女	178	108	122	128	135	140	144
1992年	男	305	225	132	107	109	132	138
	女	173	131	118	141	141	153	144
1991年	男	284	224	139	120	126	133	141
	女	206	122	130	148	151	140	134
1990年	男	277	194	124	123	123	152	150
	女	189	114	121	149	143	149	147
1989年	男	269	192	123	125	116	129	128
	女	208	113	135	133	133	135	126
1988年	男	215	174	124	118	109	115	134
	女	182	125	121	127	133	120	107
1987年	男	247	168	117	92	108	120	111
	女	160	113	122	120	116	125	118

* 1989年までは「13～14才」「15～19才」であったのを、1990年から「13～15才」「16～19才」に変更した。

性・年齢別に牛乳飲用量の時系列変化をみると、10～20代の若い男性では96年から97年にかけて飲用量が低下している。

図表 I - 5 性・年齢別 1人1日あたりの牛乳飲用量 (平均値)

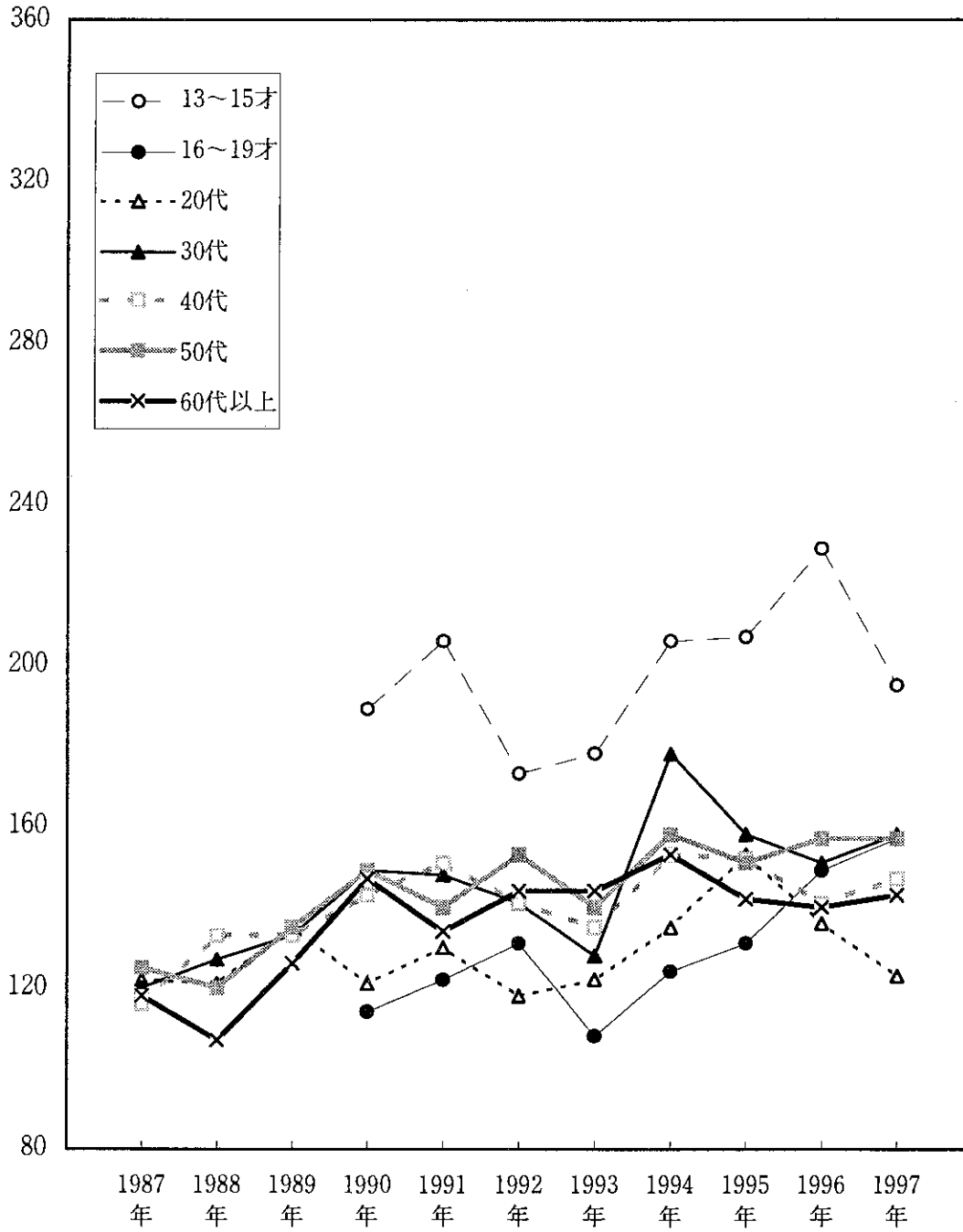


注) 10代は区分が共通している1990年以降を表示

96年から97年の変化をみると、女性では13～15才で大幅に減少している。

図表 I - 6 性・年齢別1人1日あたりの牛乳飲用量(平均値)

(ml) 〈女性〉



注) 10代は区分が共通している1990年以降を表示

図表 I - 7 1日あたりの牛乳飲用量 (全体)

	飲まない	50ml 未満	50ml 以上	100ml 以上	200ml 以上	無回答	N	平均 (ml)	
全 体	1997年	11.1	18.4	13.2	27.7	29.5	0.0	4547	146.8
	1996年	10.4	18.8	15.1	25.3	30.4	0.0	4706	150.2
	1995年	11.7	18.2	12.6	25.3	31.9	0.3	4668	150.8
	1994年	13.4	15.0	16.8	25.2	29.4	0.2	4617	153.9
	1993年	12.8	15.7	19.8	27.6	23.9	0.2	4553	138.0
	1992年	13.7	17.5	13.3	30.6	24.6	0.4	4651	140.9
	1991年	12.5	15.8	14.0	30.0	27.4	0.3	4714	145.2
	1990年	12.8	16.3	13.5	31.0	25.9	0.5	4691	143.7
	1989年	15.4	17.6	12.6	29.6	23.9	0.9	4579	134.8
	1988年	15.4	18.9	13.5	29.2	22.3	0.7	4604	127.0
97 年 年 齡 別	10代	9.1	13.5	10.3	19.6	47.6	0.0	438	218.5
	20代	12.5	25.7	12.3	24.5	25.1	0.0	674	128.7
	30代	7.7	20.8	14.9	27.3	29.3	0.0	726	147.3
	40代	11.6	19.9	15.3	25.4	27.7	0.0	843	136.1
	50代	9.2	17.0	15.5	29.8	28.5	0.0	749	142.5
	60代以上	14.1	14.2	10.7	33.6	27.3	0.0	1117	140.4

(%)

図表 I - 8 1日あたりの牛乳飲用量 (男性)

		飲まない	50ml 未満	50ml 以上	100ml 以上	200ml 以上	無回答	N	平均 (ml)
全 体	1997年	12.9	19.9	13.3	25.6	28.2	0.0	2111	145.3
	1996年	11.5	20.0	14.8	23.8	29.9	0.0	2182	153.0
	1995年	13.1	19.9	12.6	23.7	30.4	0.2	2123	150.0
	1994年	15.1	15.8	15.4	25.7	27.9	0.1	2062	151.9
	1993年	12.8	16.5	18.8	27.1	24.5	0.2	2088	142.5
	1992年	15.1	18.4	13.2	28.4	24.4	0.4	2155	141.4
	1991年	12.7	17.3	14.0	27.9	27.7	0.4	2227	147.9
	1990年	14.2	17.4	13.5	28.0	26.6	0.3	2029	145.8
	1989年	17.7	17.7	12.7	26.3	24.8	0.8	2028	136.8
	1988年	15.7	20.0	13.1	26.6	23.8	0.8	2106	130.0
97 年 年 齢 別	10代	7.6	10.8	9.9	17.5	54.3	0.0	223	261.6
	20代	16.2	23.6	11.5	20.9	27.7	0.0	296	136.6
	30代	9.4	25.6	14.7	24.1	26.2	0.0	320	134.0
	40代	17.9	21.0	14.0	23.1	24.1	0.0	386	122.8
	50代	10.4	23.1	17.1	27.2	22.3	0.0	346	125.9
	60代以上	13.5	15.6	11.9	33.1	26.0	0.0	540	137.5

(%)

図表 I - 9 1日あたりの牛乳飲用量（女性）

	飲まない	50ml 未満	50ml 以上	100ml 以上	200ml 以上	無回答	N	平均 (ml)	
全 体	1997年	9.5	17.1	13.2	29.6	30.6	0.0	2436	148.1
	1996年	9.5	17.7	15.4	26.6	30.7	0.0	2524	147.9
	1995年	10.5	16.7	12.6	26.6	33.2	0.4	2545	151.5
	1994年	12.1	14.3	17.9	24.8	30.6	0.2	2555	155.6
	1993年	12.8	15.1	20.6	28.0	23.3	0.2	2465	134.1
	1992年	12.5	16.7	13.3	32.4	24.8	0.4	2496	140.5
	1991年	12.3	14.4	14.1	31.8	27.1	0.3	2487	142.8
	1990年	11.7	15.5	13.5	33.3	25.3	0.7	2662	142.1
	1989年	13.6	17.5	12.5	32.2	23.3	0.9	2551	133.1
	1988年	15.1	17.9	13.9	31.4	21.0	0.7	2498	125.0
97 年 年 齢 別	10代	10.7	16.3	10.7	21.9	40.4	0.0	215	173.8
	20代	9.5	27.2	13.0	27.2	23.0	0.0	378	122.6
	30代	6.4	17.0	15.0	29.8	31.7	0.0	406	157.8
	40代	6.3	19.0	16.4	27.4	30.9	0.0	457	147.3
	50代	8.2	11.7	14.1	32.0	34.0	0.0	403	156.8
	60代以上	14.7	13.0	9.7	34.0	28.6	0.0	577	143.1

(%)

参考までに、職業別、地域・都市規模別の牛乳の平均飲用量をみた。1997年の結果では、年齢との関係からか、学生の平均飲用量が多いのが目立つ。また、主婦も159mlと比較的
多くなっている。

都市規模別では、大都市になるほど飲用量が多くなる傾向がみられる。

図表 I -10 職業別 1人1日あたり牛乳飲用量 (平均値)

	全 体	自営・家族従業				勤 め						無 職		
		農 林 ・ 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工 業	自 由 業	内 職	管 理 職	専 門 技 術 職	事 務 職	労 務 職	サ ー ビ ス 販 売 職	ア ル バ イ ト	主 婦	学 生
1997年	147	130	142	146	132	109	135	133	137	126	138	159	215	142
1996年	150	129	144	152	125	144	139	133	124	123	138	156	237	140
1995年	151	128	140	160	119	116	134	143	136	140	/	160	225	135
1994年	154	180	150	153	185	138	149	135	131	128	/	167	199	133
1993年	138	113	142	131	218	123	127	112	131	116	/	148	182	128
1992年	141	131	134	127	141	122	129	122	107	119	/	153	198	139
1991年	145	121	135	132	160	140	144	122	122	125	/	150	200	140
1990年	144	139	148	157	113	141	134	124	120	121	/	152	183	137
1989年	135	110	141	129	128	107	128	120	115	123	/	145	174	122
1988年	127	115	127	130	126	122	121	109	121	111	/	129	165	110
1987年	121	113	109	116	115	128	111	108	107	103	/	128	158	111

注) パート・アルバイトは1996年からカテゴリーを追加

(ml)

図表 I -11 地域・都市規模別 1人1日あたり牛乳飲用量 (平均値)

	全 体	地 域 別								都 市 規 模 別				
		北 海 道	東 北	関 東 ・ 甲 信	東 海 ・ 北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	12 大 都 市	15 万 以 上 市	5 万 以 上 市	5 万 未 満 市	郡 部
1997年	147	157	156	145	147	151	144	148	138	155	147	148	143	139
1996年	150	159	151	156	136	156	144	146	149	156	153	146	143	147
1995年	151	143	163	158	148	150	127	153	143	158	155	152	143	141
1994年	154	142	180	151	152	160	153	143	151	151	152	152	159	160
1993年	138	160	133	143	130	143	119	140	134	143	141	135	123	138
1992年	141	137	137	151	123	146	137	116	144	143	146	141	142	133
1991年	145	124	141	147	143	150	154	118	150	147	150	142	153	138
1990年	144	144	150	149	138	141	145	145	136	156	138	137	140	146
1989年	135	150	127	134	130	146	135	166	122	138	140	131	130	130
1988年	127	130	118	129	120	128	124	126	138	129	132	123	130	122
1987年	121	114	115	122	121	125	109	141	122	119	126	120	109	120

(ml)

家族構成別に牛乳飲用量をみると、単身、夫婦2人、2～4人家族、5人以上家族であり大きな違いはみられない。ただし、核家族か否かという視点でみると、核家族の方が飲用量が多くなっている。

未既婚では、年齢との相関が考えられるためか、既婚者よりも未婚者の飲用量が多い。世帯年収別では、年収が高い人ほど牛乳飲用量が多くなる傾向がみられる。

図表 I -12 その他の属性別 1人1日あたりの牛乳飲用量(平均値)

		1997年			1997年
全体 (N=4547)		147	全体 (N=4547)		147
家族構成	単身 (N=244)	144	未既婚	既婚・同居のみ (N=3046)	143
	夫婦2人 (N=791)	151		未婚 (N=1156)	164
	2～4人計 (N=2274)	142	世帯年収	400万円未満 (N=919)	139
	核家族 (N=2038)	144		600万円未満 (N=1029)	142
	それ以外 (N=236)	123		800万円未満 (N=883)	150
	5人以上 (N=1231)	154		800万円以上 (N=1303)	155
	核家族 (N=442)	163	(ml)		
	それ以外 (N=789)	150			

3) 牛乳の飲用量によるユーザー分類

牛乳の飲用頻度と1日の飲用杯数から、牛乳の飲用量によるユーザー分類を行った。具体的分類方法については、調査設計の主な分析軸の章を参照されたい。

5グループの全体構成比をみると、ヘビーユーザーが25%で最も多く、次いでミドルユーザー(22%)、毎日ミドルユーザー(21%)、ライトユーザー(18%)の順となる。またノンユーザーは14%と少ない。

(参考までにユーザー分類別に牛乳の平均飲用量を下表に示す)

1996年と比べると、毎日ミドルユーザーが増えて、ミドルユーザーが減っている。

1987年からの長期トレンドでみると、ヘビーユーザーが増加し、ライトユーザーが減少する傾向がみられる。

図表 I -13 牛乳の飲用量によるユーザー分類

	ヘビーユーザー	毎日ミドルユーザー	ミドルユーザー	ライトユーザー	ノンユーザー	無回答	N
1997年	24.9	20.9	22.4	17.6	14.3	0.0	4547
1996年	25.1	17.5	25.9	18.5	13.0	0.0	4706
1995年	28.3	20.1	19.7	17.1	14.5	0.3	4668
1994年	28.0	18.7	23.0	16.7	13.4	0.2	4617
1993年	23.1	23.4	24.0	16.5	12.8	0.2	4553
1992年	21.4	22.7	22.8	19.0	13.7	0.4	4651
1991年	23.0	22.1	24.7	17.3	12.7	0.1	4714
1990年	22.6	23.1	23.5	17.6	13.1	0.1	4691
1989年	20.1	22.8	21.9	19.0	14.9	1.3	4579
1988年	18.4	21.3	24.1	20.1	15.4	0.7	4604
1987年	17.2	21.2	23.5	22.0	15.4	0.8	4664

(%)

図表 I -14 牛乳のユーザー分類別 1人1日あたりの牛乳飲用量 (平均値)

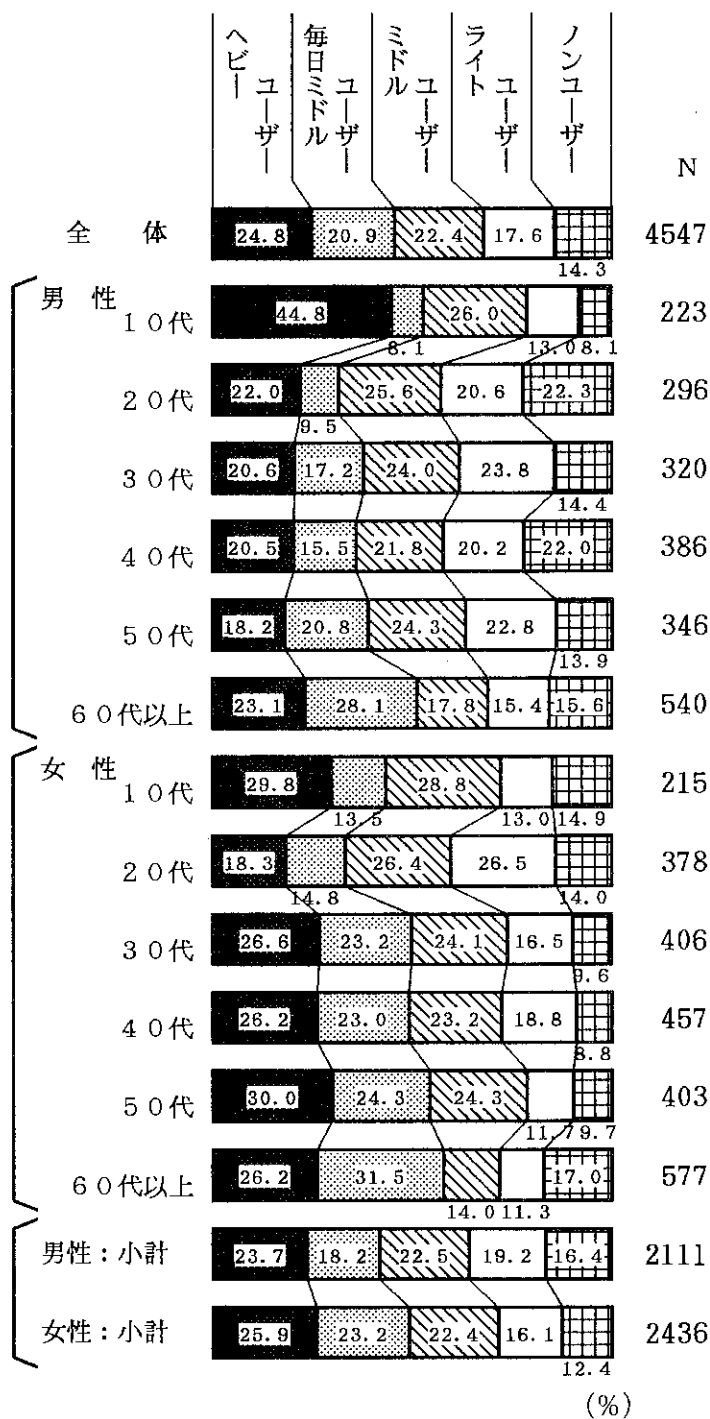
1997年全体 (N=4547)	ヘビーユーザー (N=1131)	毎日ミドルユーザー (N=949)	ミドルユーザー (N=1020)	ライトユーザー (N=799)	ノンユーザー (N=648)
147	352	130	124	25	1

(ml)

性・年齢別にみると、牛乳の平均飲用量の最も多かった10代男性でヘビーユーザーが45%と多い。女性では、10代と50代でヘビーユーザーが約3割ある。

ノンユーザーの比率をみると、20代と40代の男性に多くっており、この層では牛乳を飲まない人が多い。

図表 I -15 性・年齢別 牛乳の飲用量によるユーザー分類



2. 1日あたりの牛乳の飲用回数

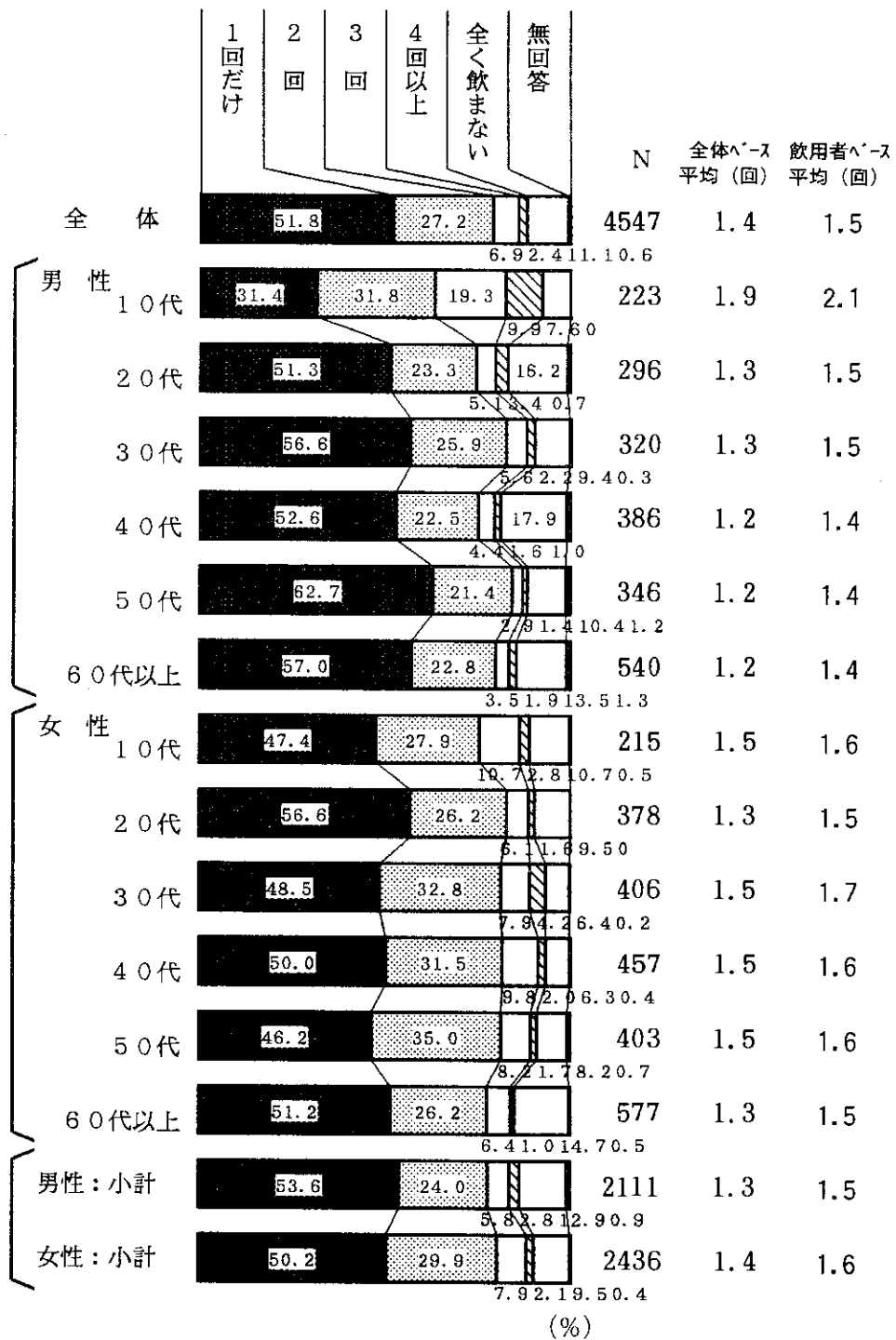
1日に牛乳を飲む回数を1995年からの時系列変化で見ると、1997年には「1回だけ」が増えて、1日に2回以上飲む人が減っている。

図表 I -16 1日あたりの牛乳の飲用回数

	1回だけ	2回	3回	4回以上	全く飲まない	無回答	全体ベース 飲用者ベース			
							N	平均(回)	平均(回)	
1997年	51.8			27.2	6.9	11.1	0.6	4547	1.4	1.5
									2.4	
1996年	47.3			28.5	9.1	10.4	0.5	4706	1.5	1.7
									4.2	
1995年	48.0			26.9	8.4	11.7	1.7	4668	1.4	1.6
									3.3	(%)

1997年の結果を性・年齢別にみると、最も飲用量の多い10代男性で1日に2回以上飲む人が多くなっているが、男女別ではほとんど差はみられなかった。

図表 I -17 性・年齢別 1日あたりの牛乳の飲用回数



牛乳の飲用量別に平均飲用回数をみると、ヘビーユーザーが2.2回で最も多く、ライトユーザーでは平均1.1回である。牛乳の飲用回数の増加が牛乳の飲用量の増加につながっている。

性・年齢別にみると、ヘビーユーザーとミドルユーザーで29才以下の男性の飲用回数が多くなっている。

図表 I -18 性・年齢・牛乳飲用量別 1日あたりの牛乳飲用回数 (平均値)

	全 体	29才以下		30～49才		50才以上	
		男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
全 体	1.4	1.6	1.4	1.3	1.5	1.2	1.4
ヘビーユーザー	2.2	2.5	2.2	2.2	2.4	2.0	2.2
毎日ミドルユーザー	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.2	1.3
ミドルユーザー	1.4	1.6	1.5	1.4	1.4	1.3	1.4
ライトユーザー	1.1	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.1
ノンユーザー	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1

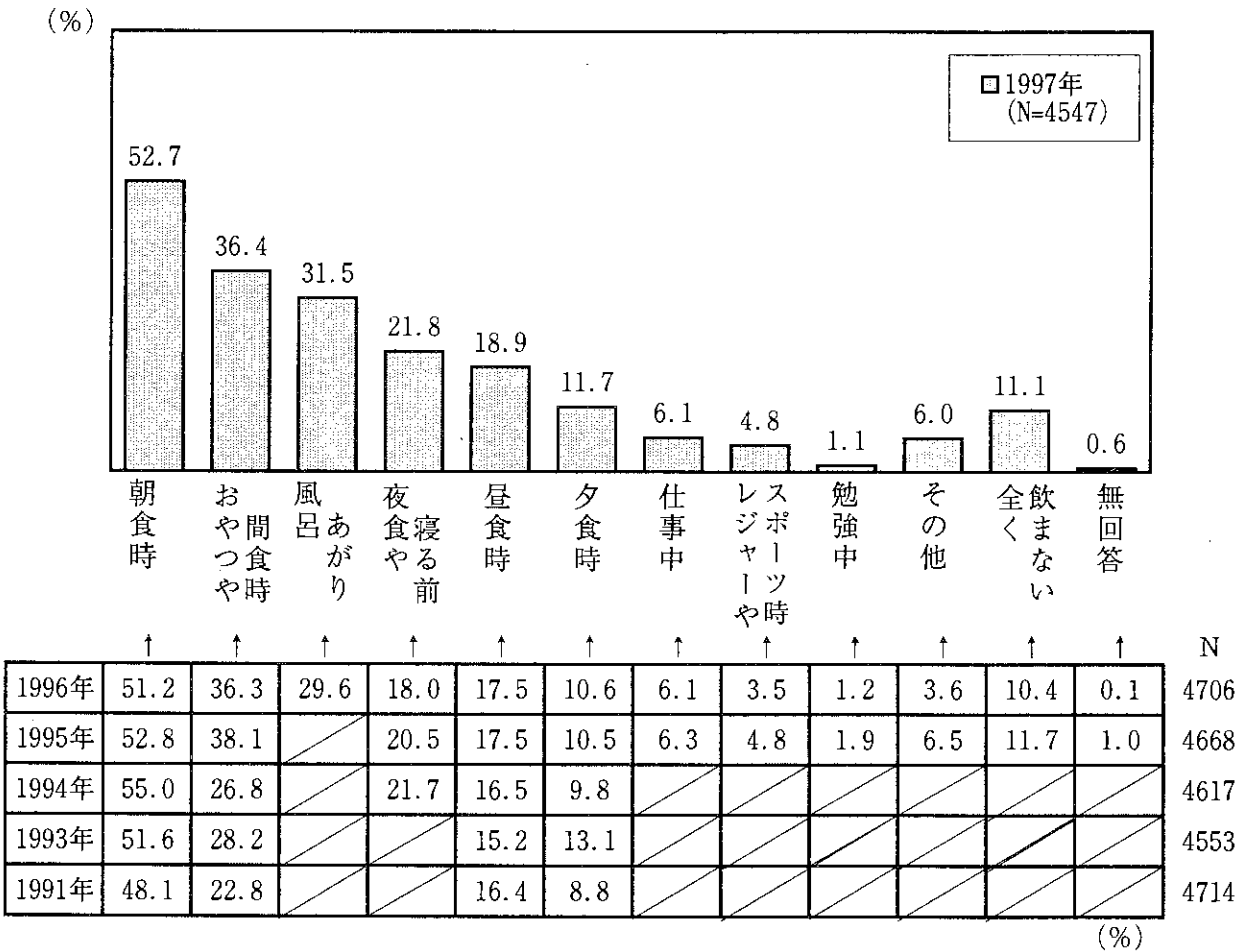
(回)

3. 牛乳の飲用機会

牛乳の飲用機会（複数回答）は、1997年では「朝食時」が最も多く、次いで「おやつや間食」、「風呂上がり」、「夜食や寝る前」、「昼食時」などの順となる。

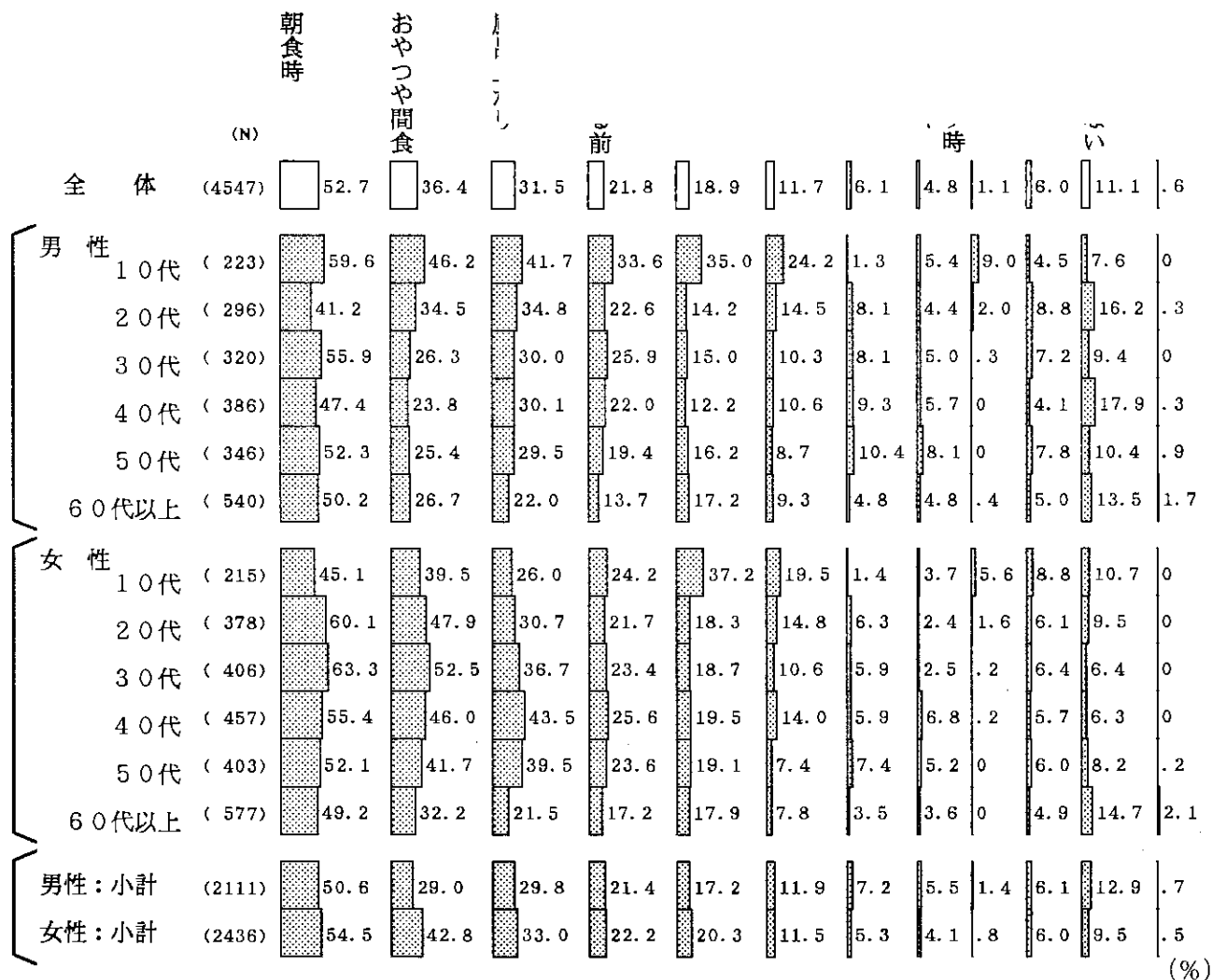
時系列変化に注目すると、96年から97年にかけて「風呂上がり」、「夜食や寝る前」、「夕食時」などの夜での飲用がやや増えている。また、91年からの長期トレンドでは「おやつや間食時」の増加が目立つ。

図表 I -19 牛乳の飲用機会 (MA)



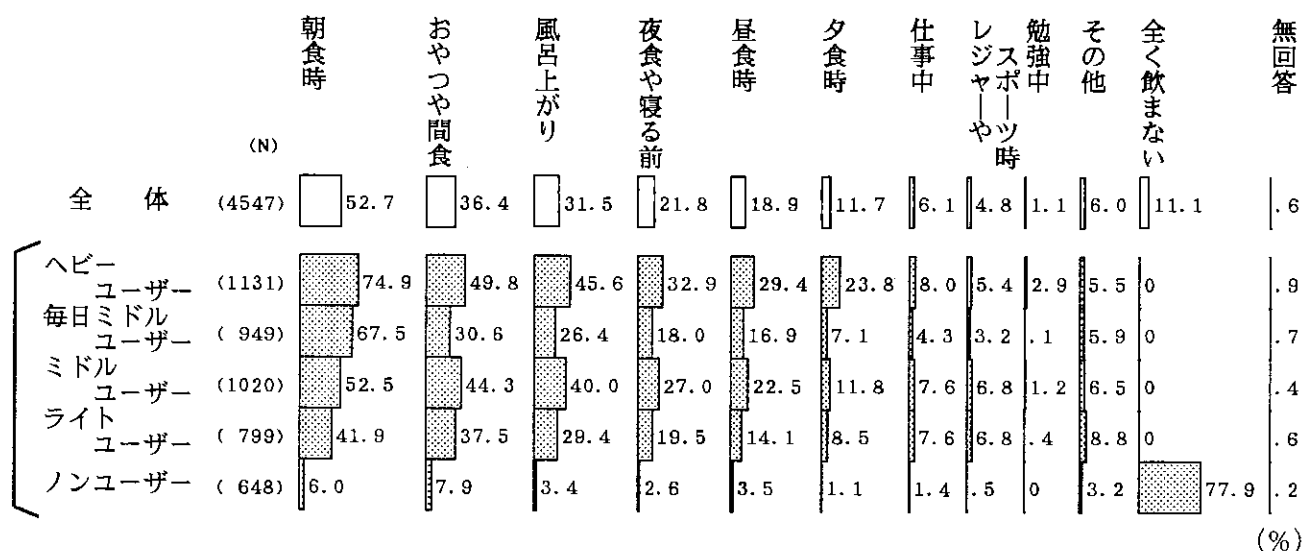
性・年齢別に牛乳の飲用機会をみた、飲用量の多い10代男性に注目「勉強中」などで多くなっており、飲用量の多さに影響していることが

図表 I -20 性・年齢別



牛乳飲用量別にみると、ヘビーユーザーではすべての機会に飲用率が高くなっており、特に「朝食時」で顕著な差がある。

図表 I -21 牛乳飲用量別 牛乳の飲用機会 (MA)



参考までに牛乳の飲用機会を牛乳飲用量×性・年齢別にみたのが、下表である。ヘビーユーザーに注目すると、「おやつや間食」、「風呂上がり」は30才以上の年齢層で男女差が大きく、いずれも女性の飲用率が高くなっている。

図表 I -22 性・年齢・牛乳飲用量別 牛乳の飲用機会 (MA)

	朝 食 時						おやつや間食						風呂上がり					
	29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	49.1	54.6	51.3	59.1	51.0	50.4	39.5	44.9	24.9	49.0	26.2	36.1	37.8	29.0	30.0	40.3	24.9	28.9
ヘビーユーザー	70.3	75.9	75.2	81.6	71.8	73.5	53.3	57.1	33.8	63.6	38.3	48.9	57.0	42.1	45.5	55.7	31.4	41.9
毎日ミドルユーザー	76.1	68.2	69.6	70.9	71.4	59.6	26.1	41.2	21.7	45.2	24.1	26.4	34.8	28.2	24.3	35.7	20.1	23.9
ミドルユーザー	49.3	62.3	54.0	51.5	49.4	48.6	46.3	48.1	36.0	54.9	31.7	47.5	45.5	33.3	39.8	46.1	38.3	36.9
ライトユーザー	36.7	45.3	47.4	45.1	39.5	33.9	40.0	50.8	22.7	45.8	26.5	45.5	22.2	26.6	32.5	34.6	27.2	30.4
ノンユーザー	6.0	7.1	9.9	11.4	3.0	1.5	8.3	14.1	6.9	7.6	4.5	8.0	6.0	4.7	3.1	3.8	3.0	1.5

	夜食や寝る前						昼 食 時						夕 食 時					
	29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	27.4	22.6	23.8	24.6	15.9	19.8	23.1	25.1	13.5	19.1	16.8	18.4	18.7	16.5	10.5	12.4	9.0	7.7
ヘビーユーザー	41.2	36.1	34.5	33.8	26.1	29.4	40.6	34.6	24.1	29.8	25.5	25.4	36.4	33.8	26.2	21.1	22.9	12.9
毎日ミドルユーザー	15.2	12.9	18.3	21.6	12.5	21.8	26.1	21.2	12.2	17.6	13.8	17.9	10.9	7.1	4.3	11.1	5.4	6.1
ミドルユーザー	31.3	29.6	28.6	27.5	23.9	22.3	19.4	32.1	21.1	18.1	23.3	21.2	15.7	18.5	10.6	8.3	10.0	9.5
ライトユーザー	24.4	20.3	29.2	20.3	11.7	11.6	13.3	21.9	5.2	13.1	15.4	17.9	11.1	11.7	9.1	11.8	3.7	4.5
ノンユーザー	3.6	1.2	4.6	6.3	1.5	0.0	3.6	5.9	3.1	6.3	2.3	2.2	1.2	2.4	0.0	2.5	0.8	0.7

	仕 事 中						レジャーやスポーツ時						勉 強 中					
	29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上		29才以下		30～49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	5.2	4.6	8.8	5.9	7.0	5.1	4.8	2.9	5.4	4.8	6.1	4.3	5.0	3.0	0.1	0.2	0.2	0.0
ヘビーユーザー	4.2	7.5	10.3	9.6	7.4	8.1	9.1	1.5	7.6	4.8	5.3	4.4	12.1	6.8	0.7	0.9	0.5	0.0
毎日ミドルユーザー	0.0	5.9	6.1	4.5	5.4	2.9	0.0	3.5	1.7	4.0	3.6	3.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ミドルユーザー	5.2	2.5	14.9	4.9	11.1	7.3	6.0	7.4	7.5	3.9	6.7	9.5	3.7	3.7	0.0	0.0	0.6	0.0
ライトユーザー	11.1	4.7	9.1	6.5	9.3	5.4	2.2	0.0	7.8	7.8	14.8	3.6	1.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
ノンユーザー	3.6	2.4	1.5	0.0	0.8	0.7	0.0	0.0	0.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

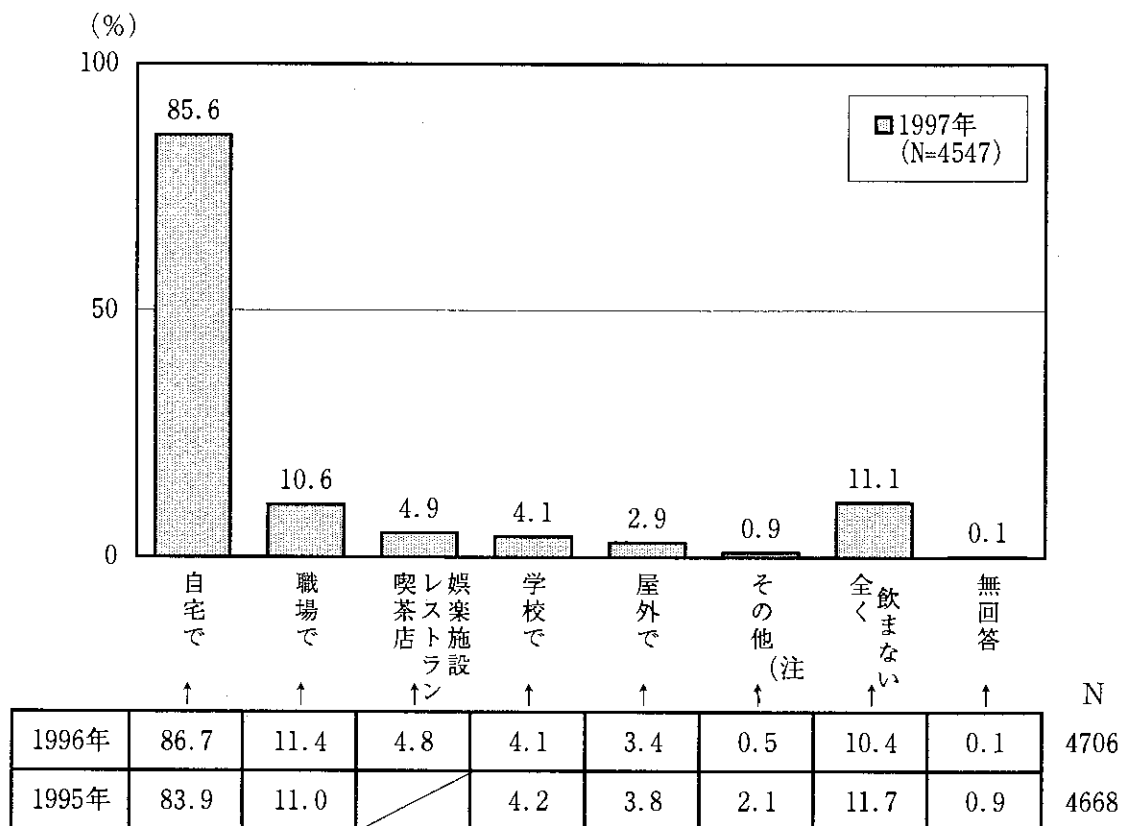
(%)

4. 牛乳の飲用場所

牛乳を飲む場所（複数回答）は「自宅」が圧倒的に多い（86%）。その他としては「職場」が11%、「喫茶店・レストランや娯楽施設等」（5%）、「学校」（4%）、「屋外」（3%）といずれも1割以下にすぎない。

以上の結果は1995年調査からほとんど変わっていない。

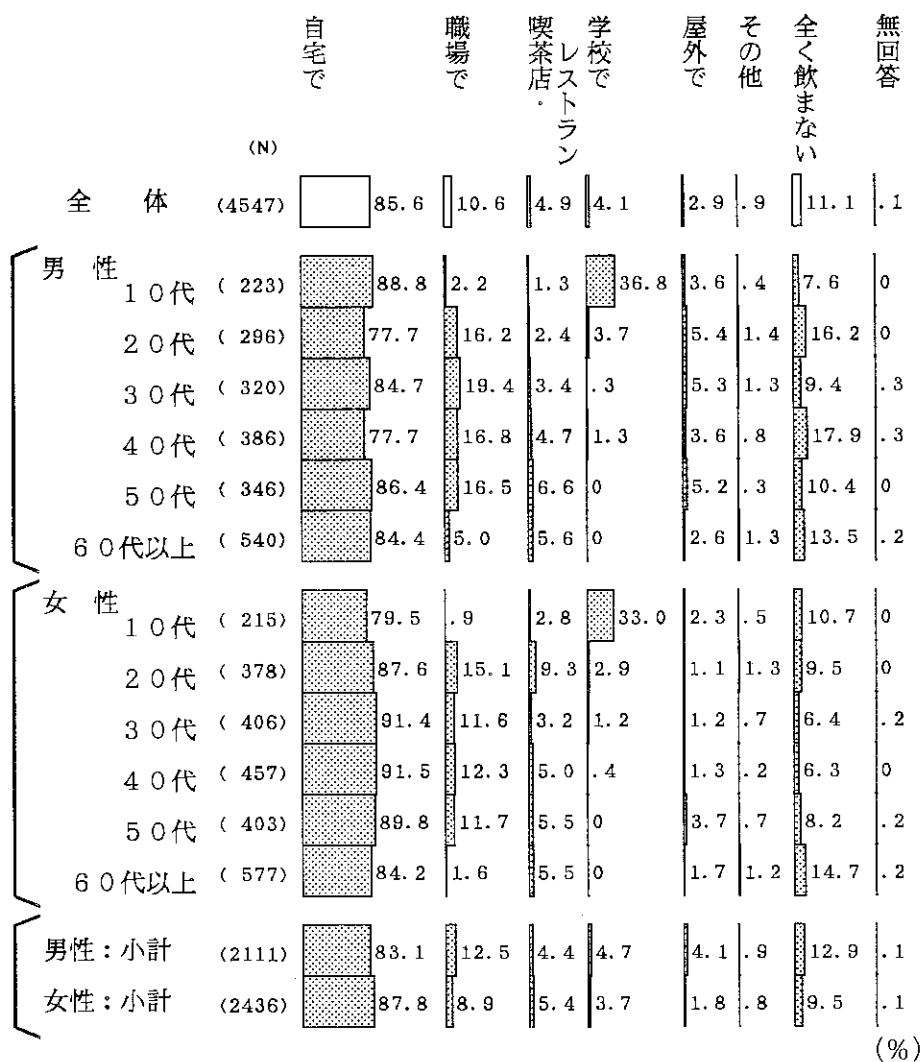
図表 I -23 牛乳の飲用場所 (MA)



注) 1995年は「その他屋外で」

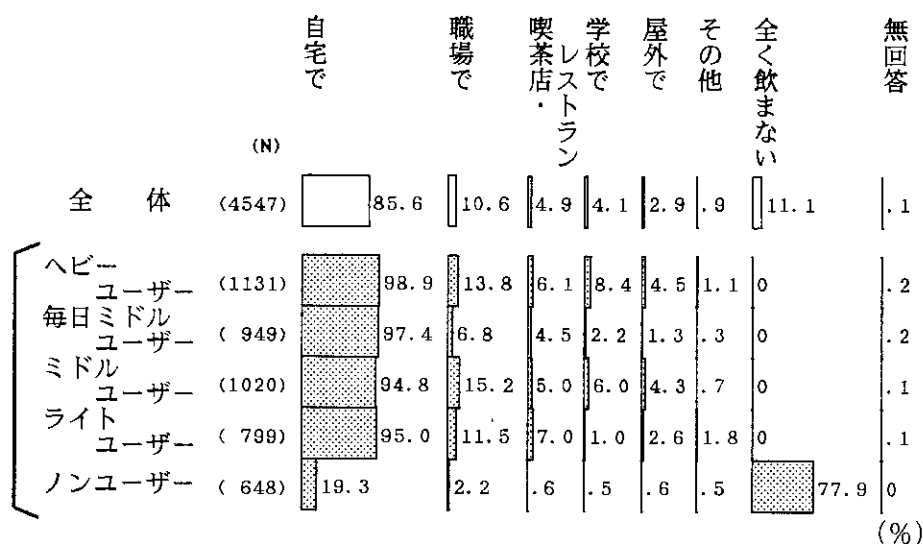
性・年齢別にみると（次ページの図参照）、どの年齢層も「自宅」の飲用率が7割を超えている。また、「職場」は20～50代の男性と20代女性で、「学校」は10代男女が多いという特徴がみられる。

図表 I -24 性・年齢別 牛乳の飲用場所 (MA)



牛乳飲用量別でみると、「自宅」での飲用は、どのユーザー層でも9割以上と多い。飲用場所に関しては牛乳飲用量との相関はみられない。

図表 I -25 牛乳の飲用量別 牛乳の飲用場所 (MA)



性・年齢×牛乳飲用量別にみると、ヘビーユーザーの「自宅」の飲用率はどの年齢層でもほぼ100%に達する。

29才以下の男性では、ヘビーユーザーよりもミドルやライトユーザーで「職場」の飲用率が高くなっている。

図表 I -26 性・年齢・牛乳飲用量別 牛乳の飲用場所 (MA)

	自 宅 で						職 場 で						喫茶店・レストラン・娯楽施設など					
	29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	82.5	84.7	80.9	91.4	85.2	86.5	10.2	9.9	18.0	11.9	9.5	5.7	1.9	6.9	4.1	4.2	6.0	5.5
ヘビーユーザー	98.8	100.0	96.6	99.1	98.4	99.6	7.3	12.8	28.3	14.9	15.4	8.5	3.6	6.8	6.2	5.3	6.9	7.4
毎日ミドルユーザー	93.5	92.9	96.5	98.5	98.2	98.2	4.3	7.1	12.2	11.1	5.4	3.2	2.2	7.1	3.5	3.5	5.4	4.6
ミドルユーザー	93.3	90.1	93.8	95.1	97.8	97.8	16.4	8.6	29.2	15.2	14.4	8.4	0.7	5.6	5.6	4.4	7.2	5.6
ライトユーザー	92.2	95.3	92.9	98.0	93.8	97.3	15.6	16.4	11.7	9.2	10.5	7.1	0.0	11.7	4.5	5.2	9.3	9.8
ノンユーザー	16.7	25.9	19.8	29.1	16.7	13.1	3.6	1.2	5.3	2.5	0.0	0.7	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0

	学 校 で						屋 外 で					
	29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	17.9	13.8	0.8	0.8	0.0	0.0	4.6	1.5	4.4	1.3	3.6	2.6
ヘビーユーザー	34.5	23.3	0.7	2.6	0.0	0.0	7.9	3.0	5.5	2.2	4.8	4.4
毎日ミドルユーザー	21.7	11.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.0	2.2	1.4
ミドルユーザー	15.7	21.6	2.5	0.5	0.0	0.0	6.7	3.1	6.2	1.5	6.1	3.4
ライトユーザー	4.4	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	5.8	0.7	3.7	2.7
ノンユーザー	1.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.8	0.0

(%)

5. 牛乳を飲む理由と飲まない理由

1) 牛乳を飲む理由

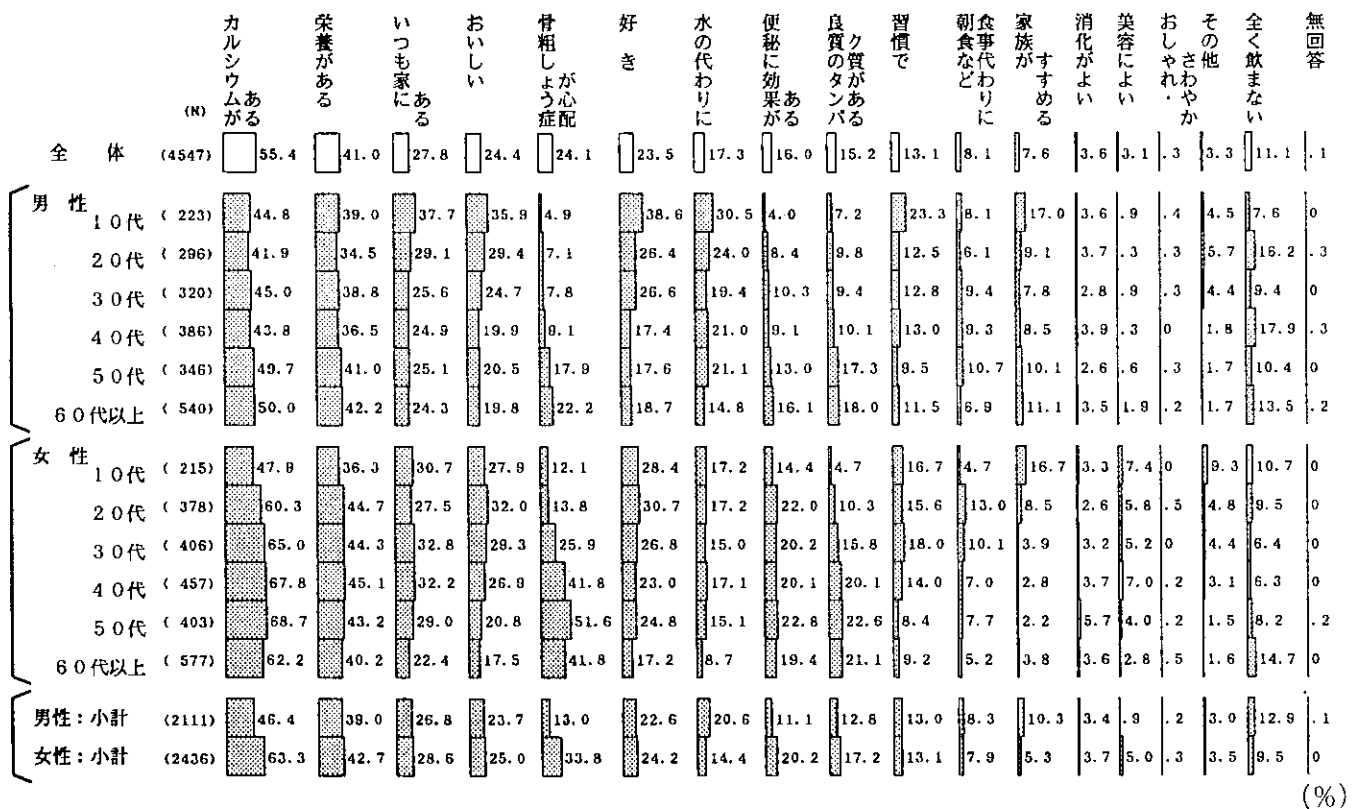
牛乳を飲む理由を次の15カテゴリーの中から複数回答で答えてもらった。

「カルシウムがある」(55%)が最も多く、次いで「栄養がある」(41%)が多い。その他としては「いつも家にある」、「おいしい」、「骨粗しょう症が心配」、「好き」、「水の代わりに」などが理由として多くあげられた。

興味深いのは「おいしい」や「好き」などの味の問題よりも、「カルシウム」や「栄養」などの機能面の理由が多いことである。

今回調査で新たに追加した「良質のタンパク質がある」は15%とそれほど多くなく、牛乳といえば「カルシウム」か「栄養」までにとどまっている。

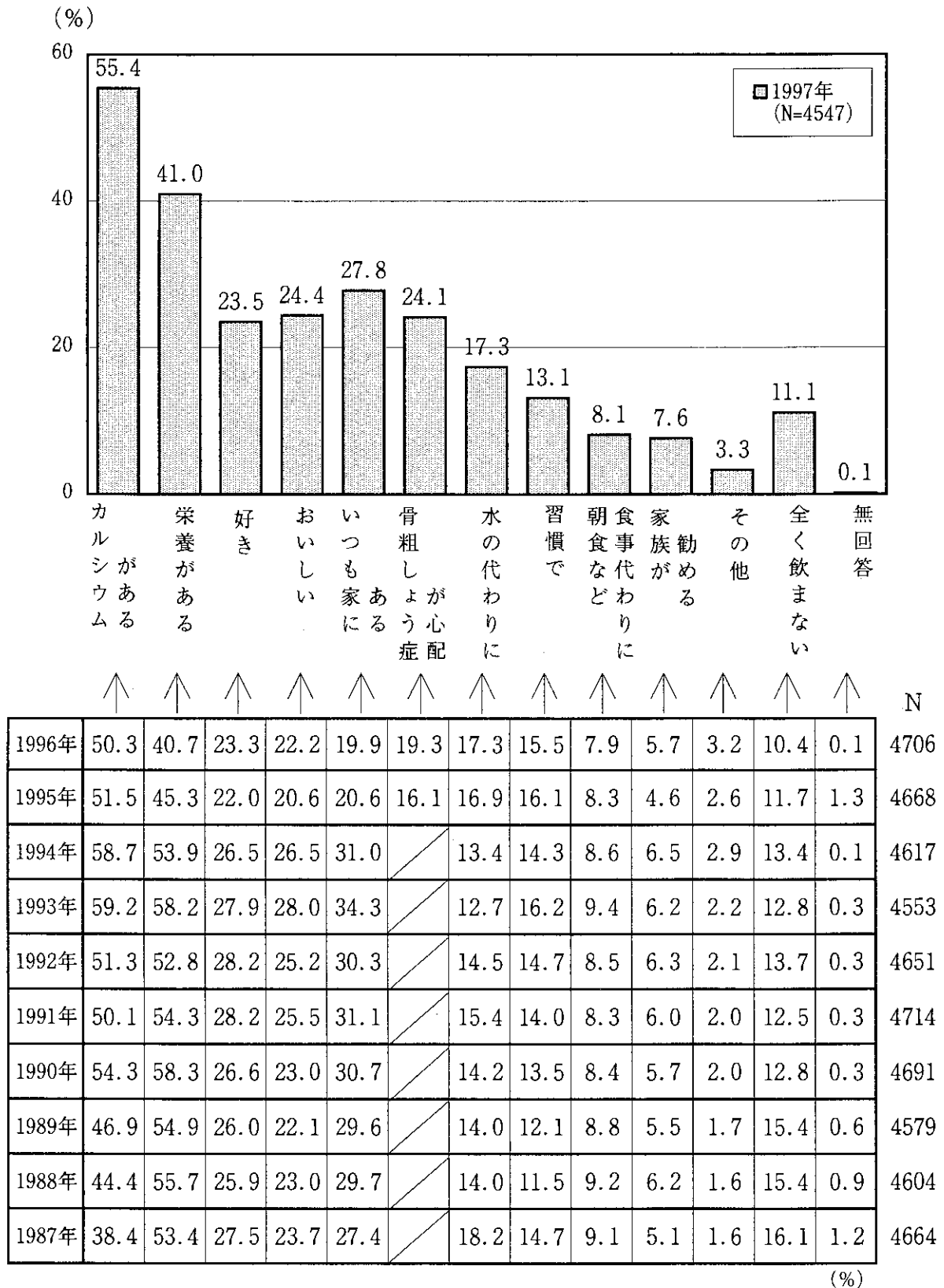
図表 I -27 性・年齢別 牛乳の飲用理由 (MA)



性・年齢別にみると、女性で「カルシウム」、「骨粗しょう症が心配」、「便秘に効果がある」が多く、男性では「水の代わりに」、「家族がすすめる」が多い。また、飲用量の多い10代では「好き」、「家族がすすめる」が多くなっている。

96年調査と同一項目のみに注目して時系列変化をみてみた。長期的なトレンドでは「カルシウムがある」が増加し、「栄養がある」が減少している。

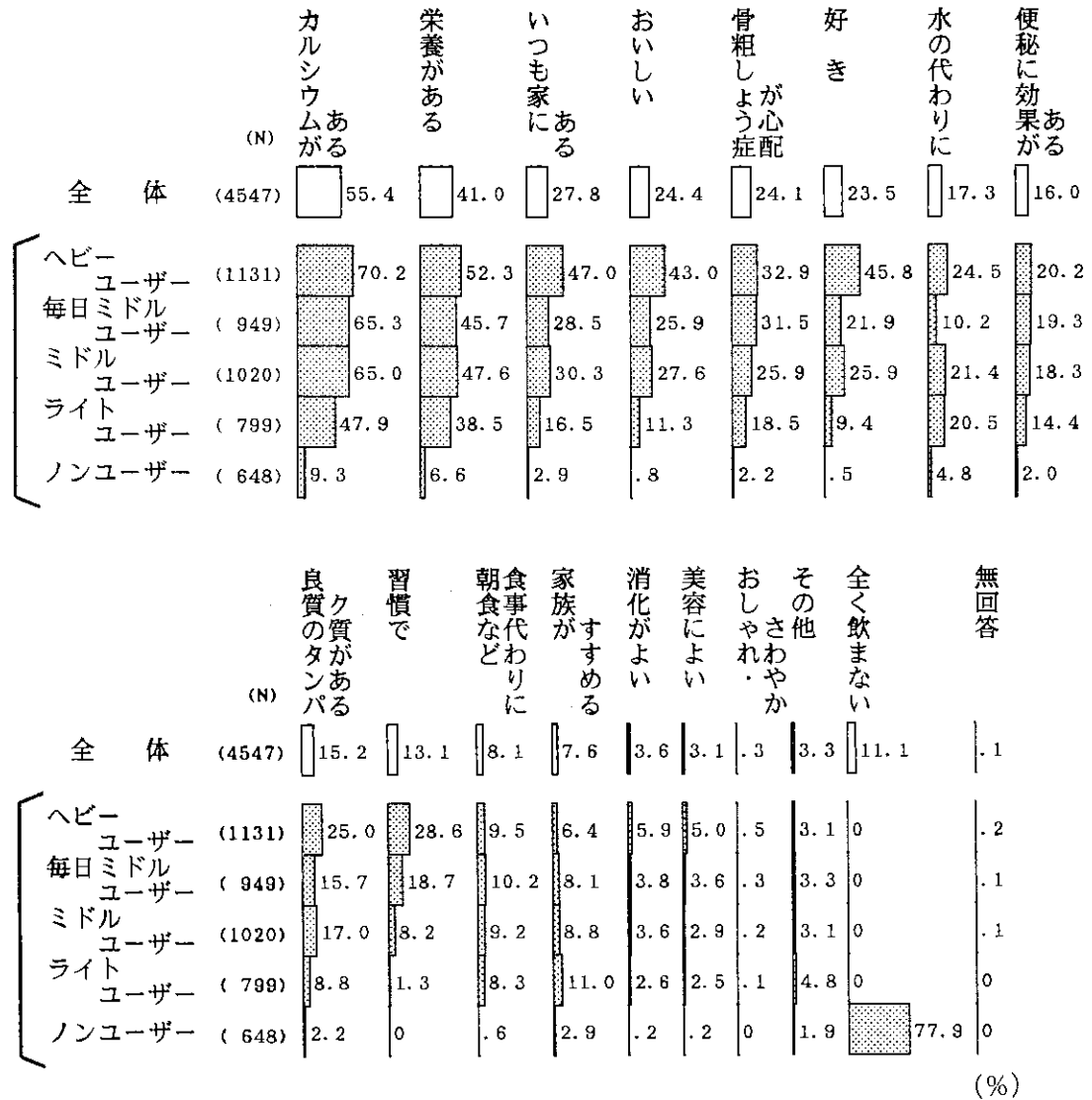
図表 I -28 牛乳の飲用理由 一時系列比較のできる項目のみ (MA)



※1997年調査は、この他に「良質のタンパク質がある」「美容によい」「消化がよい」「便秘に効果がある」「おしゃれ・さわやかなイメージがある」を追加した。

牛乳飲用量別に飲用理由をみると、ヘビーユーザーではどの理由も多いという特徴がある。ヘビーユーザーが多いものをひろってみると、「いつも家にある」、「おいしい」、「好き」、「水の代わりに」、「習慣で」などである。つまり、ミドルやライトユーザーとヘビーユーザーの大きな違いは「カルシウム」や「栄養」よりも、常備率の問題や味、習慣であることがわかる。

図表 I -29 牛乳飲用量別 牛乳の飲用理由 (MA)



図表 I -30 性・年齢・牛乳飲用量別 牛乳の飲用理由 (MA)

—全体で10%以上のもの—

	カルシウムがある						栄養がある						いつも家にある					
	29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	43.2	55.8	44.3	66.5	49.9	64.9	36.4	41.7	37.5	44.7	41.8	41.4	32.8	28.7	25.2	32.4	24.6	25.1
ヘビーユーザー	57.0	70.7	62.8	77.2	64.4	80.1	44.8	55.6	49.0	53.5	53.7	55.1	57.6	51.1	46.9	48.7	41.0	41.5
毎日ミドルユーザー	37.0	55.3	52.2	70.4	62.1	77.5	45.7	37.6	44.3	48.2	49.6	43.9	19.6	30.6	29.6	38.7	24.6	24.6
ミドルユーザー	51.5	69.1	54.0	78.9	58.9	71.5	41.8	49.4	47.8	51.0	50.0	44.1	30.6	34.0	26.1	30.4	32.8	27.9
ライトユーザー	36.7	51.6	42.2	56.2	42.0	58.0	35.6	41.4	35.1	39.9	39.5	39.3	24.4	13.3	19.5	16.3	16.0	10.7
ノンユーザー	13.1	14.1	7.6	13.9	6.1	5.8	7.1	9.4	9.2	3.8	3.0	7.3	3.6	4.7	3.1	6.3	0.8	1.5

	おいしい						骨粗しょう症が心配						好 き					
	29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	32.2	30.5	22.1	28.0	20.1	18.9	6.2	13.2	8.5	34.3	20.5	45.8	31.6	29.8	21.5	24.8	18.3	20.3
ヘビーユーザー	57.0	54.1	37.9	50.0	37.2	29.8	7.9	15.8	13.1	42.1	29.3	61.8	58.2	54.9	43.4	49.6	35.1	39.3
毎日ミドルユーザー	21.7	31.8	30.4	27.6	25.4	22.1	13.0	14.1	13.9	32.7	27.2	49.6	23.9	30.6	19.1	24.6	20.5	19.3
ミドルユーザー	40.3	38.9	28.0	26.0	20.0	17.3	6.0	15.4	7.5	42.2	24.4	49.7	35.8	38.3	28.6	21.1	19.4	16.8
ライトユーザー	8.9	14.1	13.6	12.4	8.0	9.8	5.6	13.3	7.1	30.1	13.0	42.9	8.9	12.5	13.0	5.9	8.6	7.1
ノンユーザー	1.2	1.2	0.0	1.3	1.5	0.0	0.0	3.5	1.5	3.8	0.8	3.6	1.2	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0

	水の代わりに						便秘に効果がある						良質のタンパク質がある					
	29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上		29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	26.8	17.2	20.3	16.1	17.3	11.3	6.6	19.2	9.6	20.2	14.9	20.8	8.7	8.3	9.8	18.1	17.7	21.7
ヘビーユーザー	35.8	26.3	33.1	22.4	20.2	16.9	6.7	21.1	10.3	24.6	22.3	27.9	13.3	12.8	19.3	25.9	29.8	37.1
毎日ミドルユーザー	21.7	11.8	10.4	11.1	10.7	6.8	13.0	20.0	12.2	22.6	15.2	23.9	4.3	8.2	8.7	16.6	15.6	22.1
ミドルユーザー	32.8	19.8	21.7	16.7	25.6	15.1	9.0	24.7	13.7	21.6	17.2	21.2	10.4	12.3	11.2	20.1	25.0	19.6
ライトユーザー	23.3	15.6	26.0	17.6	25.3	13.4	5.6	18.8	9.1	18.3	14.2	18.8	6.7	3.1	7.1	11.8	11.7	10.7
ノンユーザー	6.0	5.9	6.1	6.3	3.0	2.9	0.0	5.9	2.3	1.3	1.5	1.5	1.2	1.2	1.5	6.3	1.5	2.2

	習慣で					
	29才以下		30~49才		50才以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全 体	17.1	16.0	12.9	15.9	10.7	8.9
ヘビーユーザー	37.0	36.8	31.0	32.9	21.3	19.5
毎日ミドルユーザー	32.6	27.1	25.2	23.1	17.0	9.3
ミドルユーザー	9.7	11.7	9.3	6.9	8.3	4.5
ライトユーザー	0.0	3.1	1.3	1.3	1.2	0.0
ノンユーザー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

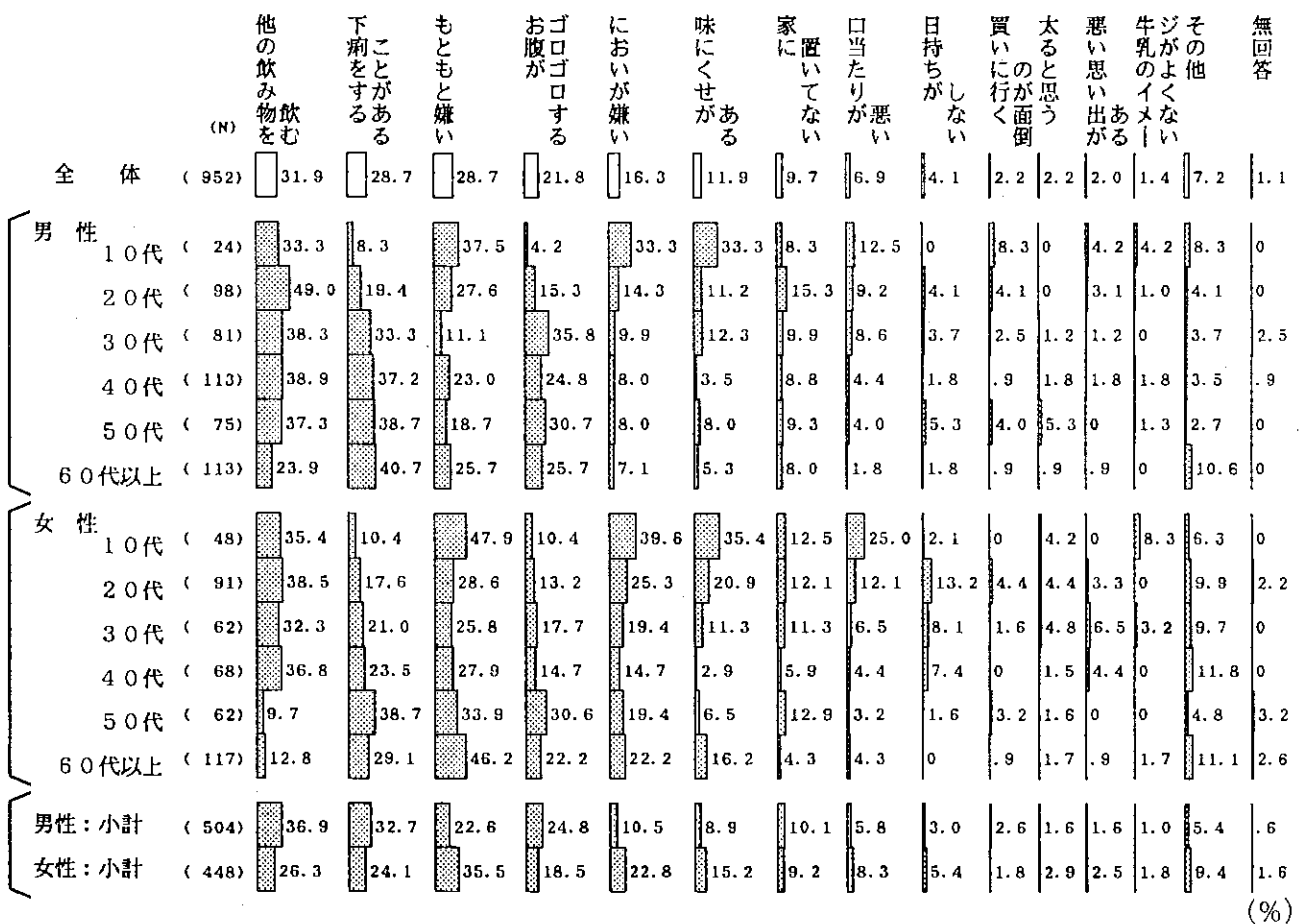
2) 牛乳を飲まない理由

牛乳をあまり飲まない人（飲用頻度が週1日に満たない人：952人）に、飲まない理由を複数回答で聞いた。

「他の飲み物を飲む」、「下痢をすることがある」、「もともと嫌い」、「お腹がゴロゴロする」、「においが嫌い」などが主な理由である。

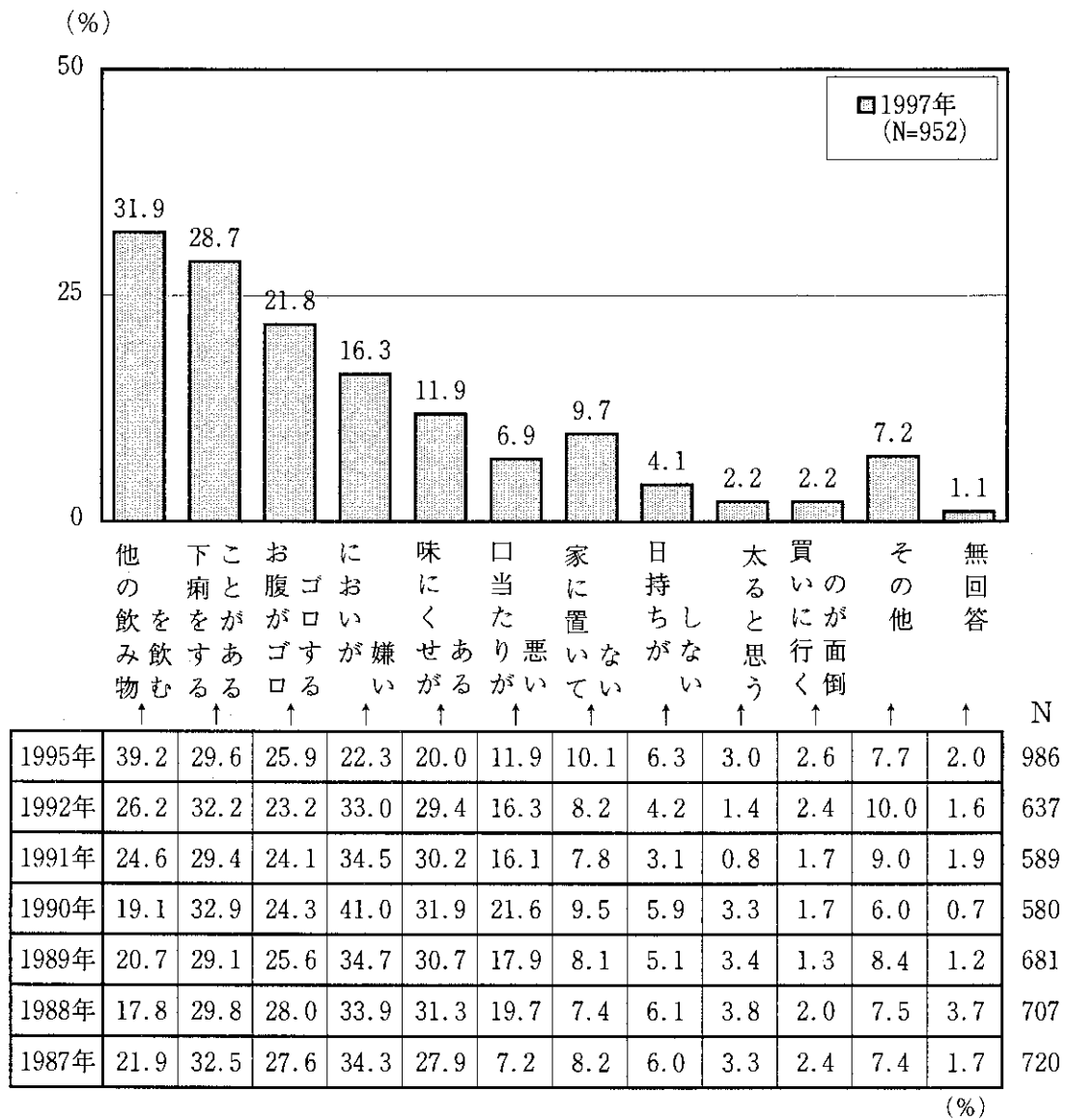
性・年齢別にみると、男性は「他の飲み物を飲む」、「下痢をすることがある」、「お腹がゴロゴロする」が多く、女性は「もともと嫌い」、「においが嫌い」、「味にくせがある」が多い。「におい」と「味にくせ」は10代男女、「口当たり」は10代女性、「下痢をすることがある」は男女とも50代以上で多くなっている。

図表 I -31 性・年齢別 牛乳を飲まない理由
(飲用頻度が週1日に満たない人ベース：MA)



時系列比較できる項目に注目して長期的変化をみると、「他の飲み物を飲む」が増えて、「においが嫌い」、「味にくせがある」、「口当たりが悪い」などのテイストに関する理由は減ってきている。

図表 I -32 牛乳を飲まない理由 -時系列比較のできる項目のみ-
(飲用頻度が週1日に満たない人ベース：MA)



※ 回答者条件は1992年以前は牛乳の飲用頻度が「月に数回に満たない人」であった。

※ 1997年はこの他に「もともと嫌い」「強制的に飲まされた悪い思い出がある」「牛乳のイメージがよくない」を追加した。

※ 1993年、1994年、1996年は調査していない。

6. 牛乳の飲用量の変化とその理由

1) 牛乳の飲用量の増減

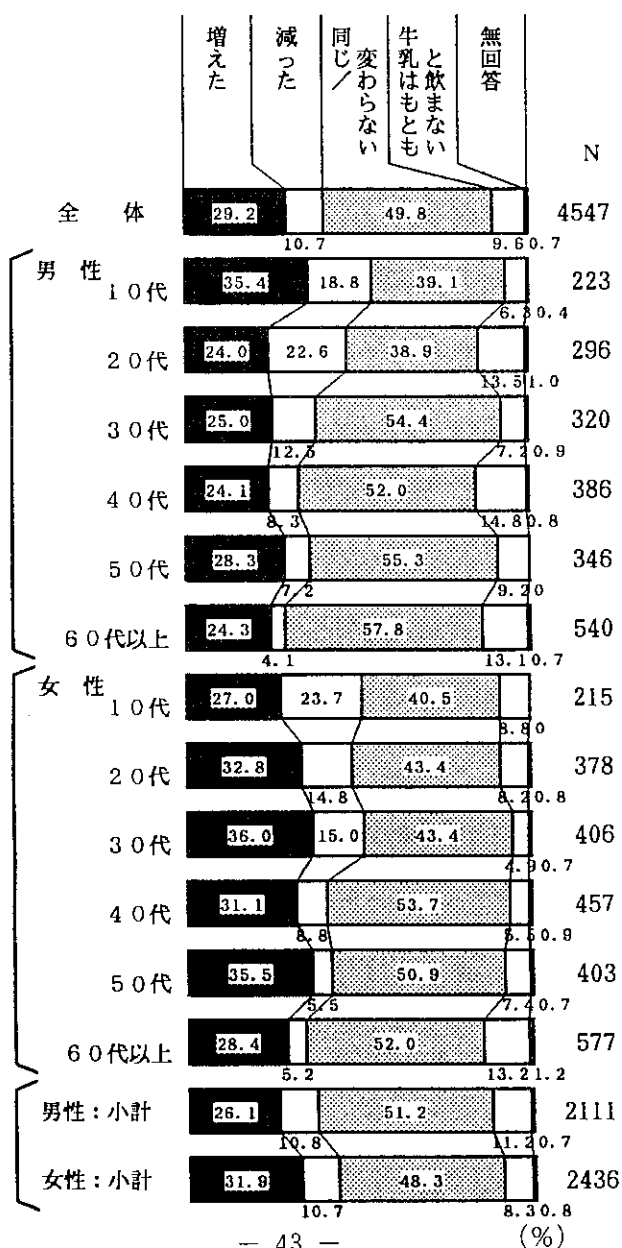
今回の調査では、この5年くらいの間の牛乳飲用量（摂取量）の増減に関する質問を新たに設定し、最近の牛乳飲用量のトレンドとその影響要因を探ることとした。

「同じ／変わらない」という回答が5割と多い。「増えた」か「減った」かでは、「増えた」人の方が上回っており、マインド的には増加のトレンドがみられる。これは実際の飲用量で92年 141ml → 97年 147ml とやや増えていることと合致している。

性・年齢別にみると、飲用量の最も多かった10代男性および30代と50代の女性で「増えた」という実感が多い。男女トータルでは女性の方が「増えた」が高い。反対に「減った」が比較的多いのは20代男性と10代女性である。

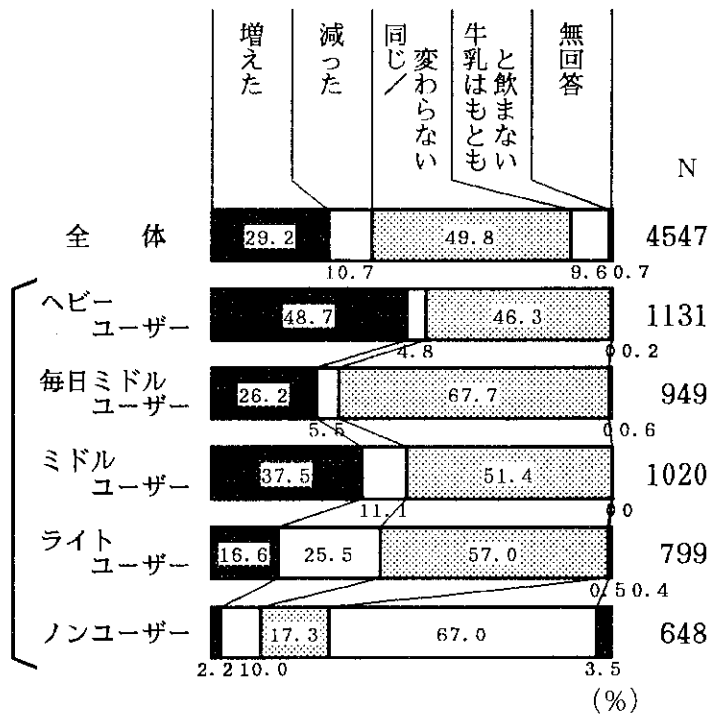
男女とも年配層になると「同じ／変わらない」が増える傾向がみられ、男性は20代、女性は30代までに牛乳の飲用量は大きく変化することがわかる。

図表 I -33 性・年齢別 この5年くらいの間の牛乳飲用量の増減



牛乳飲用量別に飲用量の変化をみると、ヘビーユーザーでは49%が「増えた」と答えているのに対し、ライトユーザーでは「減った」が26%と比較的多いのが目立つ。

図表 I -34 牛乳飲用量別 この5年くらいの間の牛乳飲用量の増減



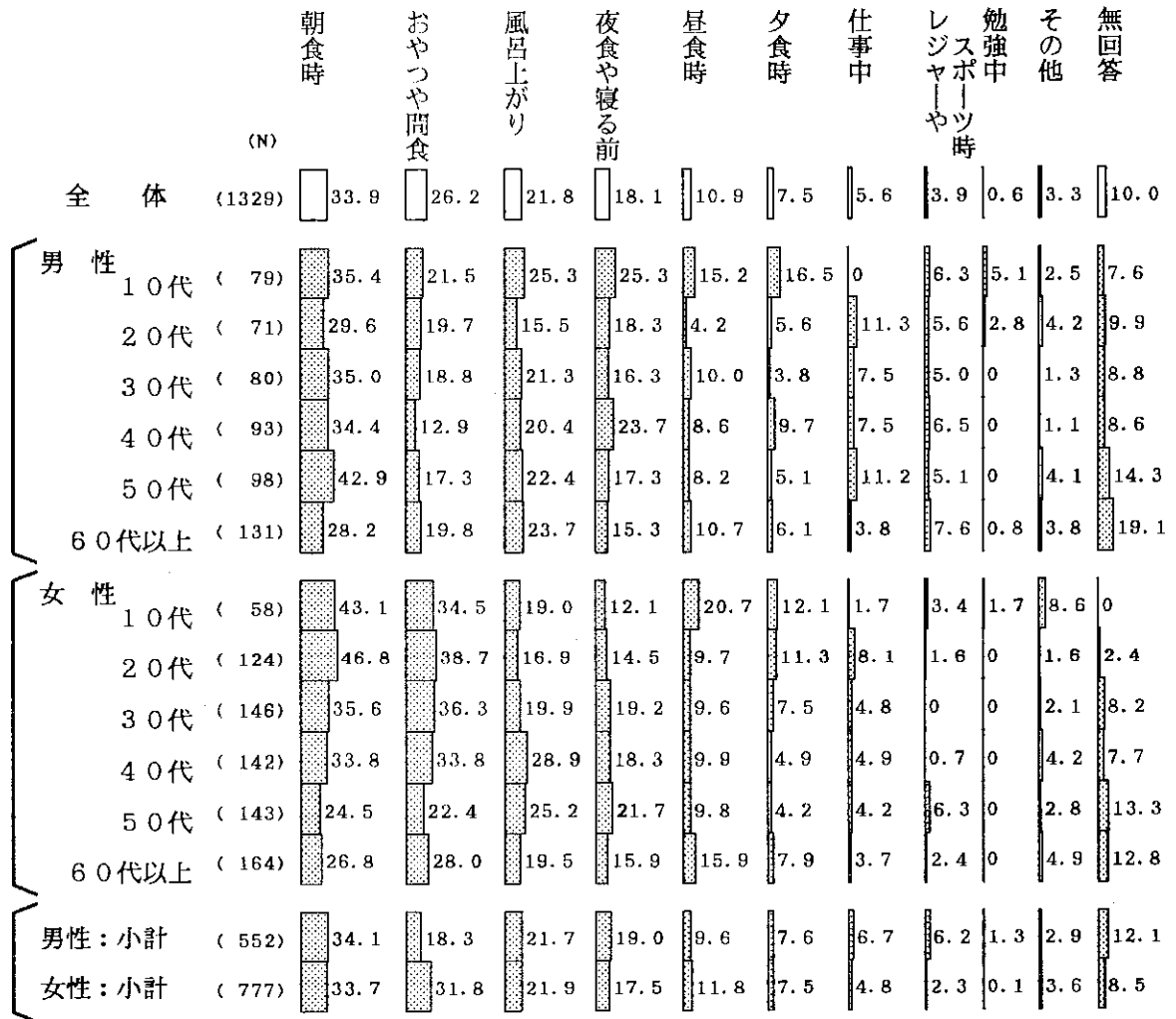
2) 増えた機会

この5年くらいの間に増えた機会は（増えた人：1329人）、「朝食時」が最も多く、「おやつや間食」、「風呂上がり」、「夜食や寝る前」などが多い。これは牛乳の飲用機会と同じである。

性・年齢別にみると、女性は「おやつや間食時」が多い。10代男女では「昼食時」、「夕食時」に増えている人が多くなっている。

図表 I -35 性・年齢別 この5年くらいの間が増えた機会

(増えた人ベース：MA)

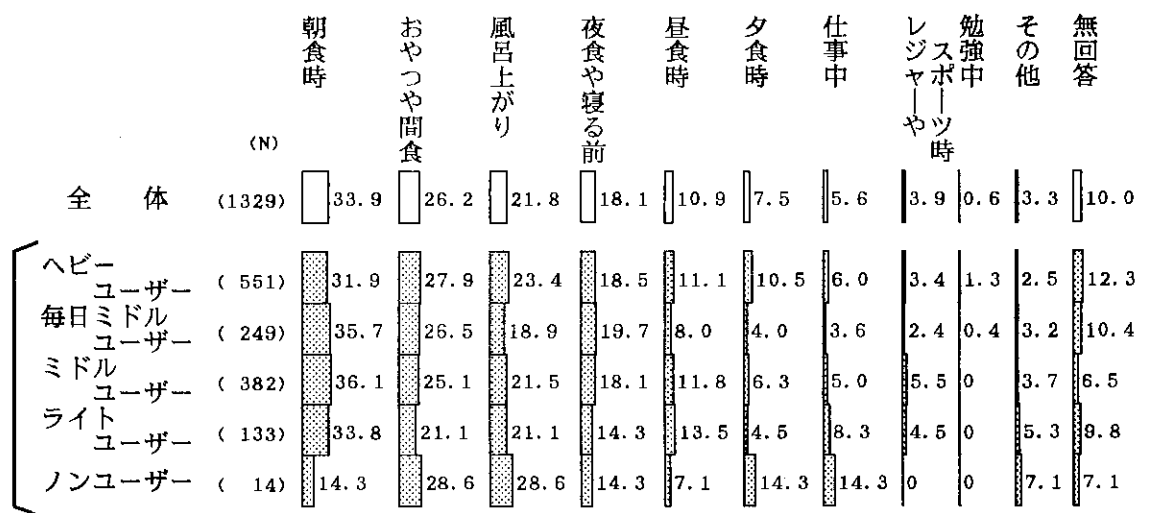


(%)

牛乳飲用量別でみると、大差はみられない。

図表 I -36 牛乳飲用量別 この5年くらいの間が増えた機会

(増えた人ベース：MA)



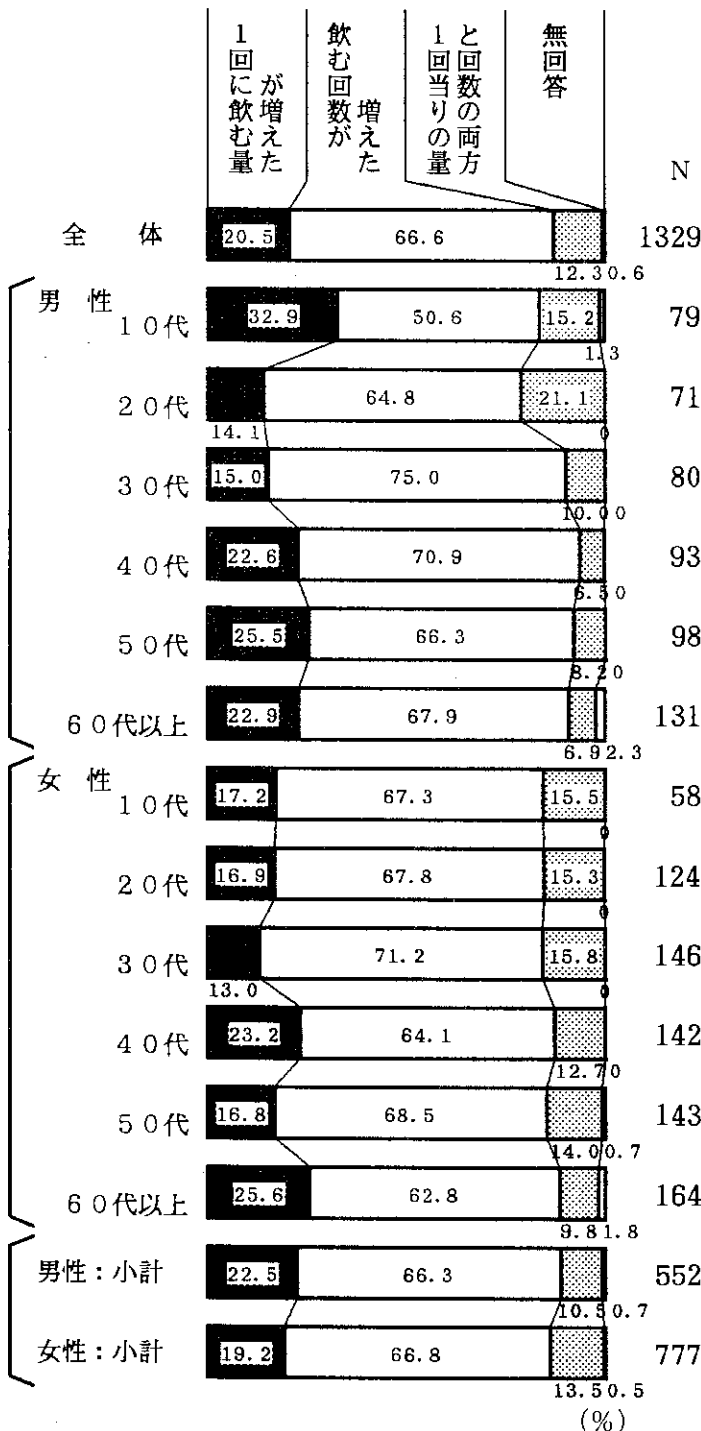
(%)

3) 変化したのは1回あたりの量か回数か

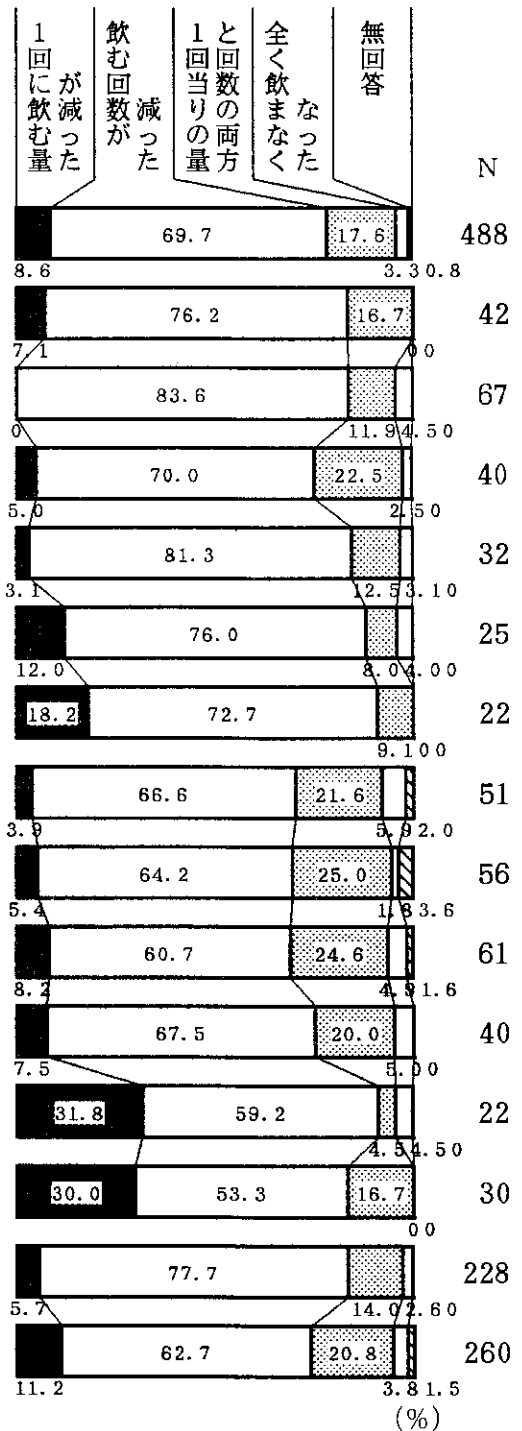
この5年くらいの中に牛乳の飲用量が「増えた」という人(1329人)に、増えたのは1回に飲む量か、それとも飲む回数かを聞いたところ、全体では「回数」という回答が67%と多かった。ただし、10代男性では「1回に飲む量」も33%と比較的多くみられる。

他方、「減った」という人(488人)については、同じく「回数が減った」が7割と多い。ただし、女性の50代以上では「1回に飲む量が減った」が約3割と多くみられる。以上の結果から、増えた人も減った人も1回あたりの飲用量ではなく、回数の増減が牛乳の需要量に大きく影響していることがわかる。

図表 I -37 性・年齢別 増えたのは1回あたりの量か回数か (増えた人ベース)



図表 I -38 性・年齢別 減ったのは1回あたりの量か回数か (減った人ベース)



4) 変化した理由

牛乳の飲用量が増えた人と減った人それぞれに対し、その理由を複数回答で聞いた。

まず増加理由（1329人）については、「カルシウムをとる」が60%と最も多い。次いで、「健康に気をつけるようになった」、「栄養バランスを考えて」、「家に常備するようになった」、「好き・おいしい」が多くあげられた。このうちカルシウム、栄養、常備性、好きは飲用理由で上位にあがった理由でもあり、これらが消費者にとって牛乳の重要なベネフィットであることがわかる。

性・年齢別にみると、10代男女で「好き」、「身長を伸ばしたい」が比較的多いのにに対し、40代以上の年齢層では「健康に気をつける」が多くなっている。また「カルシウム」は50代以上の女性に特に多く、「家に常備するようになった」は20~30代の男性に多い。

男女をトータルで見ると、「カルシウム」、「健康」は女性に多く、「好き・おいしい」、「飲むようにすすめられた」は男性に多いという特徴がみられる。

図表 I -39 性・年齢別 牛乳の飲用量が増えた理由（増えた人ベース：MA）



この5年くらいの間に牛乳飲用量が減ったと答えた人（488人）に減少した理由を複数回答で聞いたところ、「他の飲料を飲むようになった」が最も多かった。次いで、「代わりにヨーグルトなどの乳製品をとるようになった」、「学校などの給食がなくなった」などが多い。

一方、「健康に不安を感じないので、牛乳を飲まなくなった」、「家族から飲むように言われなくなった」、「牛乳は太ると思って控えるようになった」などは減少理由として少ない。

サンプル数が少ないので参考までに、性・年齢別にみると、20代以下の男女で「学校などの給食がなくなった」、40代男性では「他の飲料を飲むようになった」が多い。50代男性では「代わりに乳製品をとるようになった」、40代と60代以上の女性では「乳製品」や「他の食品」でカルシウムをとるとい人が比較的多くみられる。

図表 I -40 性・年齢別 牛乳の飲用量が減った理由
(減った人ベース：MA)



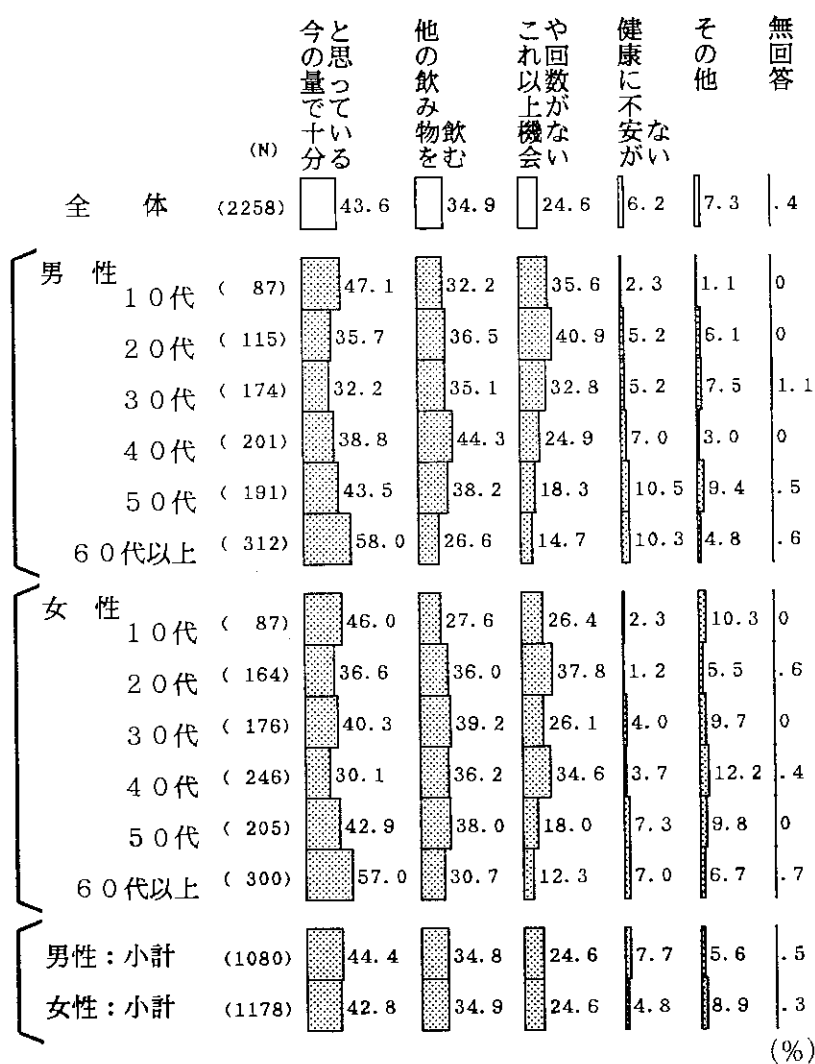
5) 変わらない理由

牛乳を飲む量がこの5年くらいの間に変わらないと答えた人(2258人)に、その理由を複数回答で聞いた。

全体で見ると、「今の量で十分だと思っている」が44%と最も多く、次に「他の飲み物を飲むので、これ以上牛乳は飲めない」、「これ以上飲む機会や回数がない」が多い。一方、「健康に不安がないので、これ以上必要を感じない」という人はあまりいなかった。

性・年齢別にみると、60代以上の層で「今の量で十分」が多く、40代男性では「他の飲み物を飲むので、これ以上牛乳は飲めない」が多い。30代以下の男性や20代および40代の女性では「これ以上飲む機会や回数がない」が多くなっている。

図表 I -41 性・年齢別 牛乳飲用量が変わらない理由
(同じ/変わらない人ベース:MA)



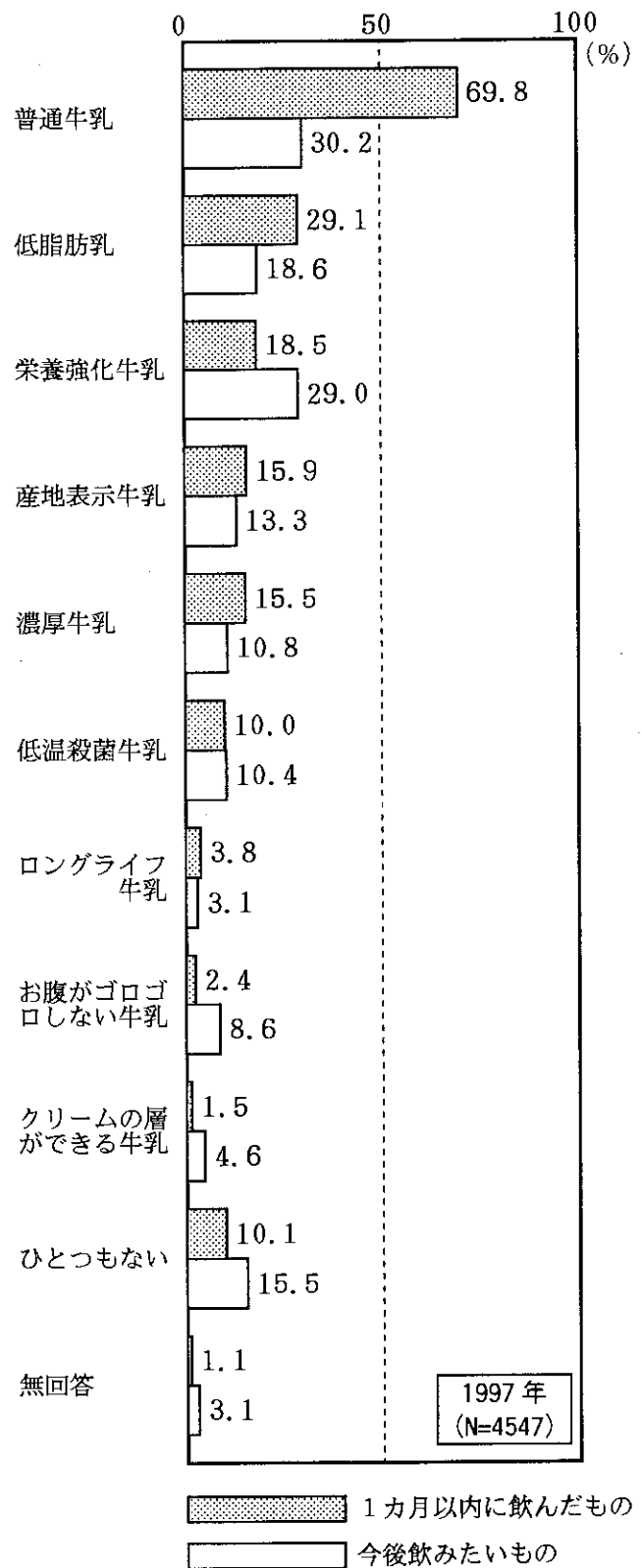
7. 多様な牛乳の種類

以下の9種類の牛乳商品の中から、過去1ヵ月間に飲んだものと今後飲みたいと思うものをそれぞれ複数回答で答えてもらった。

過去1ヵ月間の飲用経験率をみると、「普通牛乳」が7割と高い。次いで「低脂肪乳」、「栄養強化牛乳」が多い。

今後の飲用意向では「普通牛乳」と「栄養強化牛乳」が同じくらい多い。「栄養強化牛乳」と「お腹がゴロゴロしない牛乳」は飲用経験率よりも意向率の方が高い。

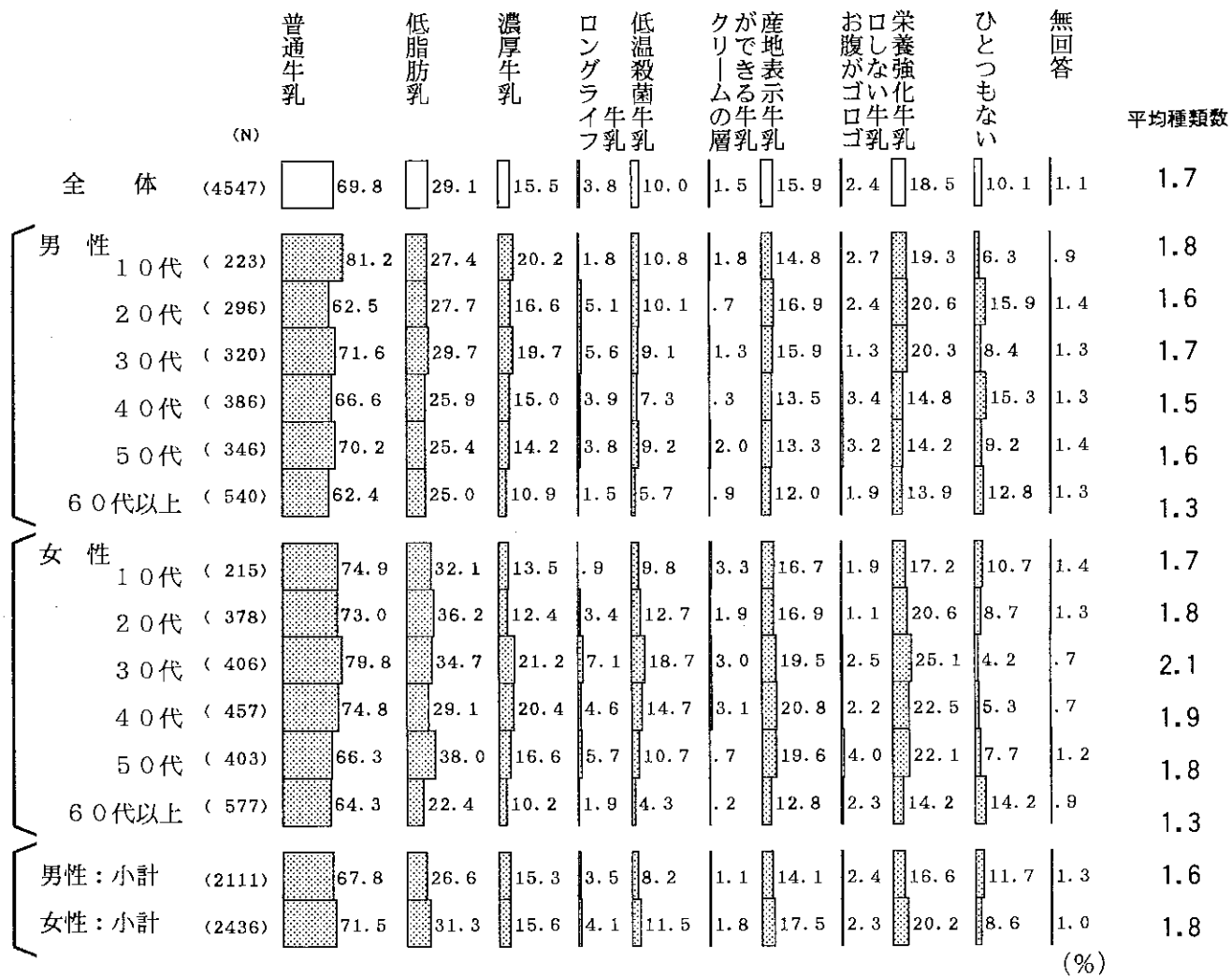
図表 I -42 牛乳商品の過去1ヵ月間の飲用経験と今後飲みたいもの (各MA)



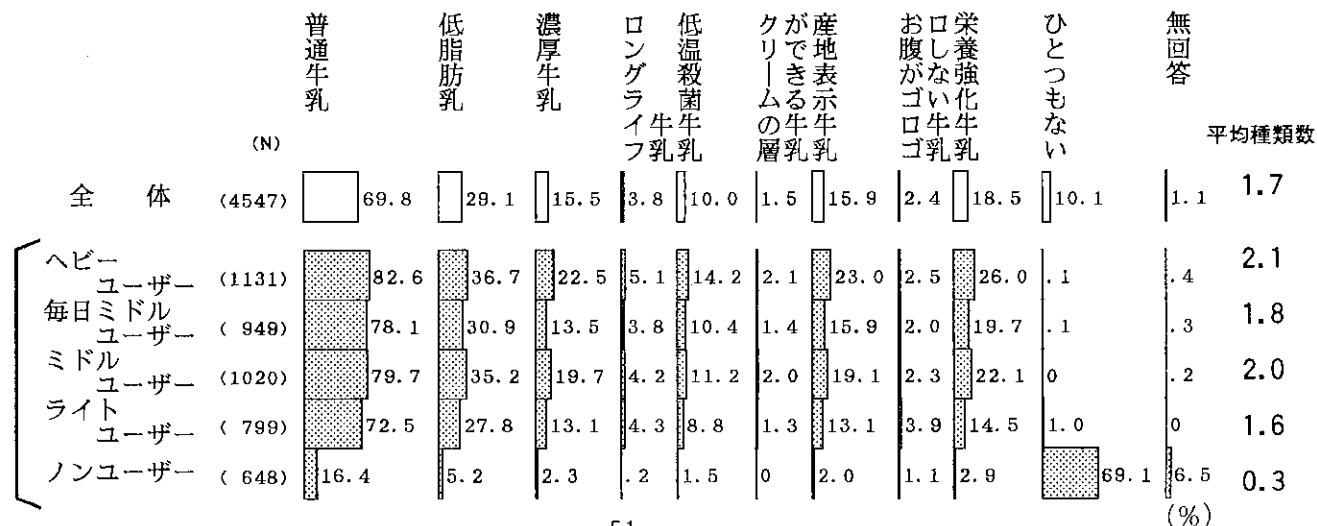
性・年齢別に過去1ヵ月間の飲用経験率をみると、「普通牛乳」は10代男性で特に多い。「低脂肪乳」は男性よりも女性で多く、とりわけ50代女性で目立つ。一方、「濃厚牛乳」は10代男性と30~40代女性に人気がある。30代女性はこの商品の飲用率も高くなっており、この層が多様な商品を最も受け入れていると推察される。

牛乳飲用量別では、いずれもヘビーユーザーほど高くなっている。

図表 I -43 性・年齢別 牛乳商品の過去1ヵ月間の飲用経験率 (MA)



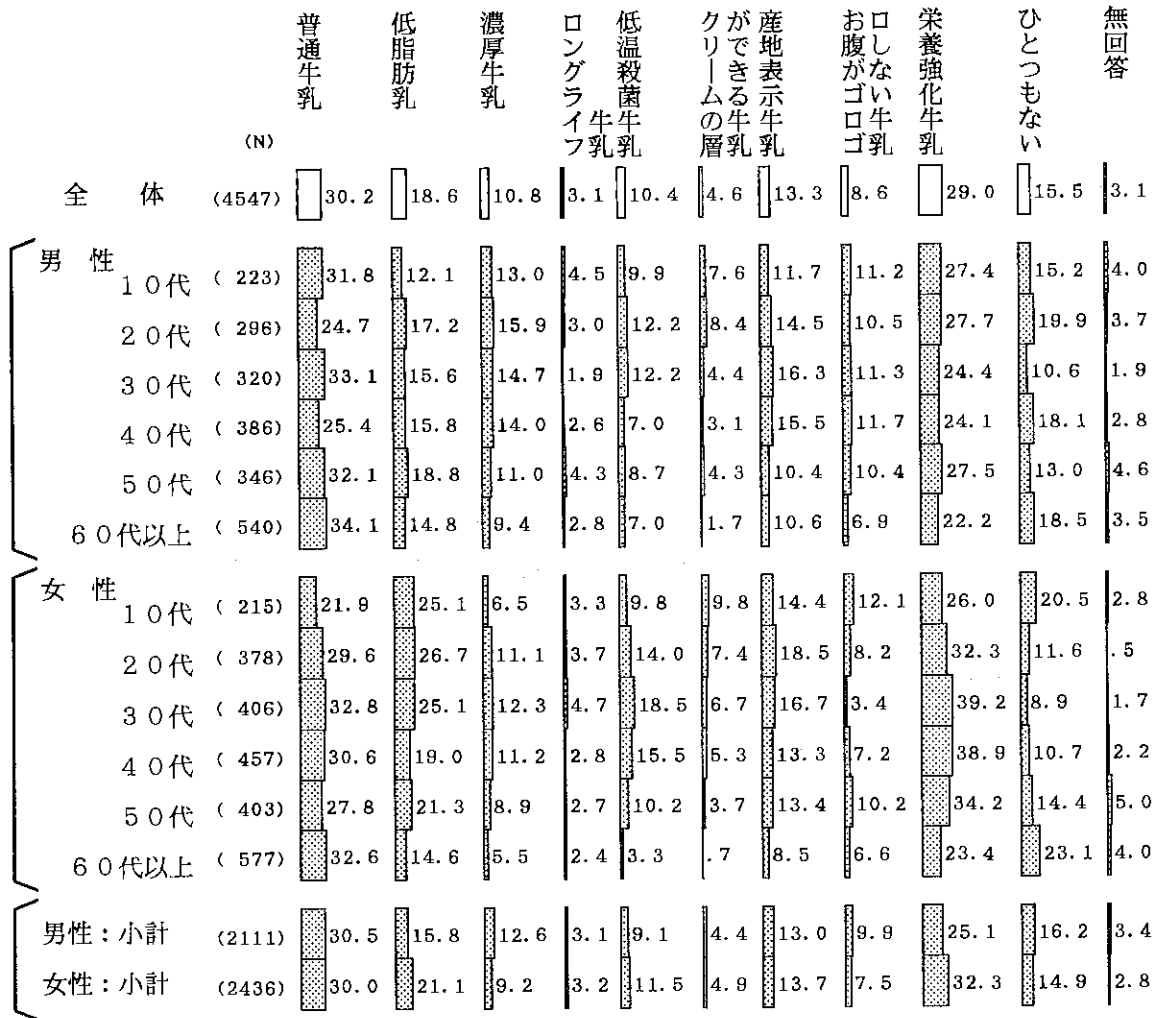
図表 I -44 牛乳飲用量別 牛乳商品の過去1ヵ月間の飲用経験率 (MA)



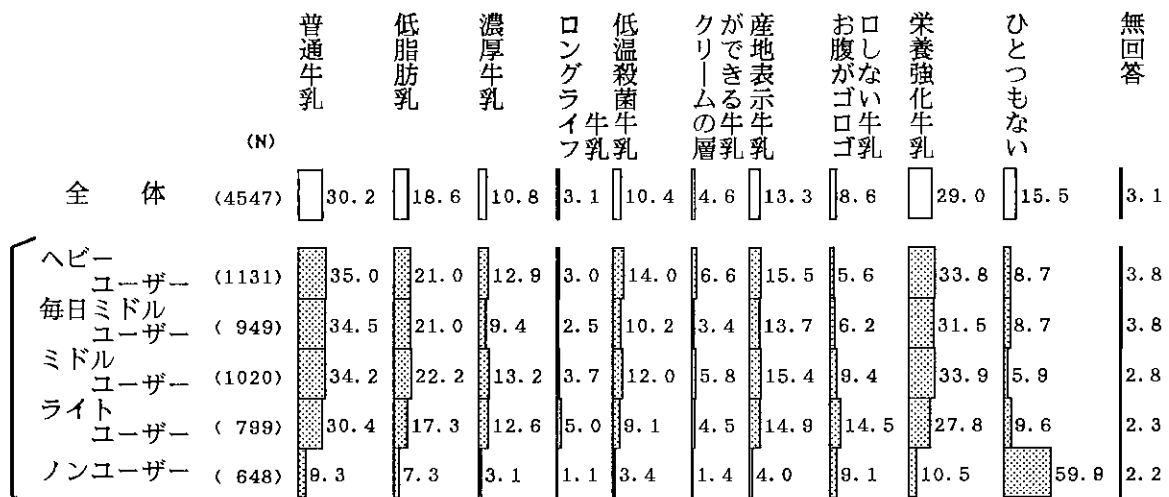
今後飲みたいと思うものについては「低脂肪乳」は男性よりも女性で人気が高く、反対に「濃厚牛乳」は男性の方が高い。「栄養強化牛乳」は20～50代の女性に多く、総じてみて男性より女性で人気が高い。

牛乳飲用量別にみると、「産地表示牛乳」や「濃厚牛乳」などはライトユーザーとヘビーユーザーの間に大差はみられないが、「普通牛乳」、「栄養強化牛乳」、「低脂肪乳」、「低温殺菌牛乳」ではヘビーユーザーの方がやや多い。しかし、「お腹がゴロゴロしない牛乳」だけはライトユーザーで人気が高い。

図表 I -45 性・年齢別 牛乳商品の今後の飲用意向率 (MA)



図表 I -46 牛乳飲用量別 牛乳商品の今後の飲用意向率 (MA)



II チーズとヨーグルトの食用（飲用）実態

1. チーズとヨーグルトの食用（飲用）頻度

チーズとヨーグルト（1997年は飲むヨーグルトも含めて）の食用頻度をそれぞれ聞いたところ、チーズでは週1回以上食べる人は33%、ヨーグルトは50%で、ヨーグルトの方が多。全く食べない人も含めて月あたりの平均回数を算出すると、チーズは3.5回、ヨーグルトは5.5回となる。

1994年からの時系列変化をみると、チーズを週1回以上食べる人は31%から33%とほとんど変化していないのに対し、ヨーグルトは42%から50%と増加している。

図表 II - 1 チーズを食べる頻度

	週に4回以上	週に3回位	週に1回位	月に2回以上3回位 (注)	それ以下	全く食べない	無回答	N	平均 (回/月)
1997年	4.8	12.2	16.3	24.6	23.4	18.4	0.3	4547	3.5
1996年	5.1	12.2	16.1	23.0	22.8	20.5	0.4	4706	3.5
1995年	5.8	12.3	17.3	23.9	21.3	18.4	0.1	4668	3.7
1994年	4.4	11.2	15.7	34.0	16.9	17.7	0.1	4617	3.3

(%)

図表 II - 2 ヨーグルトを食べる（飲む）頻度

	週に4回以上	週に3回位	週に1回位	月に2回以上3回位 (注)	それ以下	全く飲まない 食べない	無回答	N	平均 (回/月)
1997年	15.1	18.7	16.3	18.0	12.9	18.8	0.2	4547	5.5
1996年	11.6	18.1	16.3	17.9	15.7	19.9	0.6	4706	4.9
1995年	13.2	17.2	16.4	16.0	16.3	19.5	1.4	4668	5.1
1994年	10.3	16.4	14.8	24.6	12.1	21.7	0.1	4617	4.5

(%)

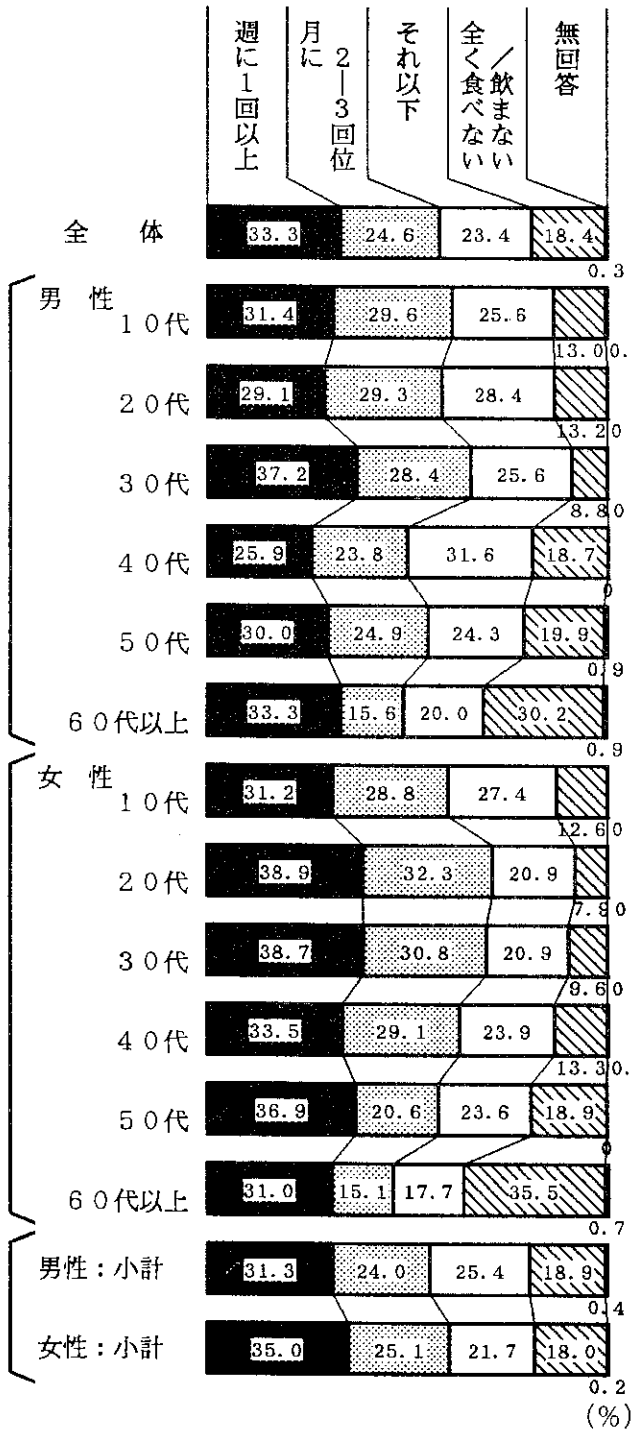
注) 1994年は「月に数回」

性・年齢別に平均食用頻度をみると、チーズは30代男性、20~30代と50代の女性が多い。トータルで見ると、男性より女性の食用頻度が高い。

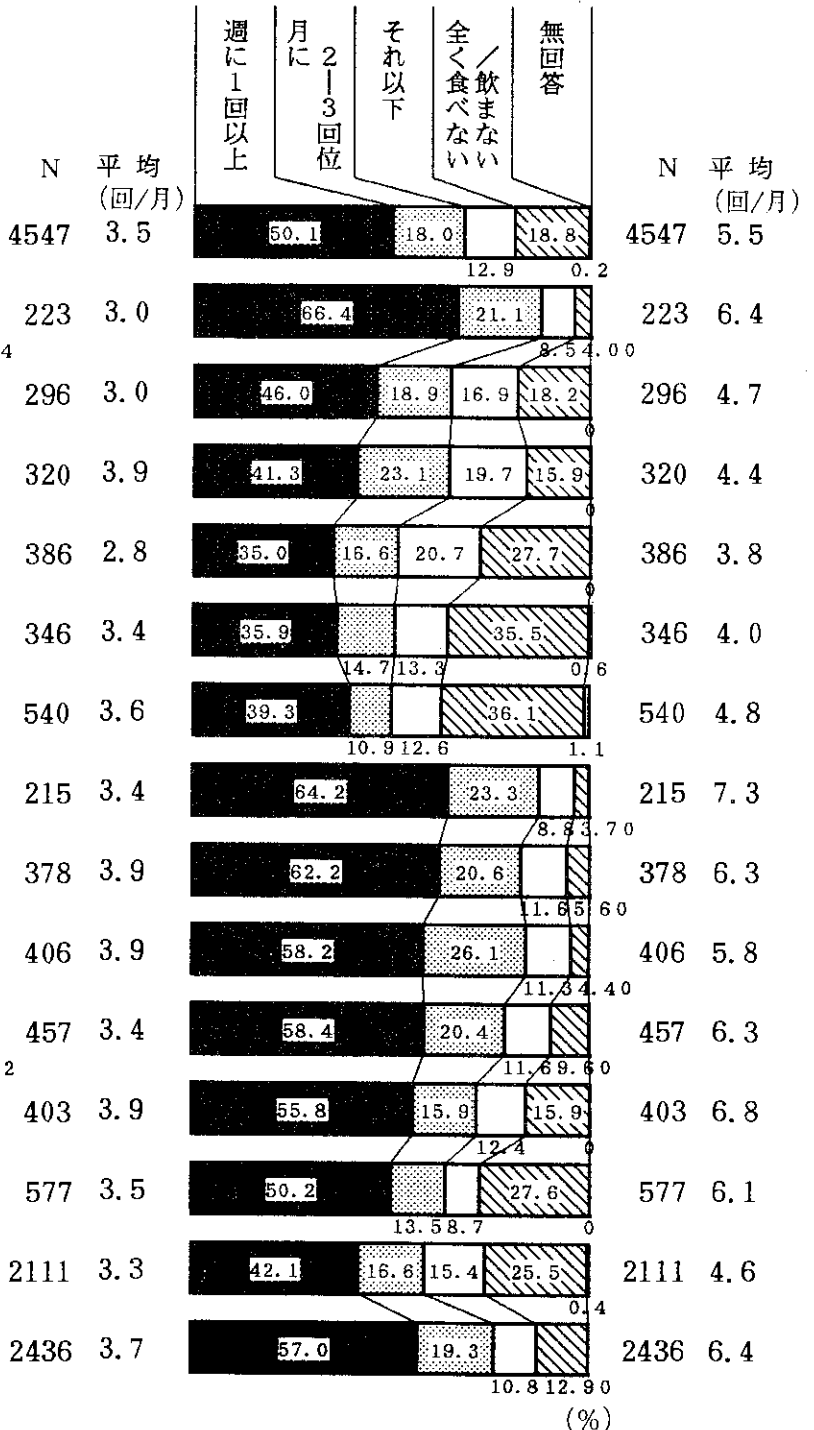
ヨーグルトはチーズと比べて男女差も年齢差も大きくなっている。すなわち、男性よりも女性で多く食べられており、年齢では10代女性の食用頻度が特に高い。

一方、40代男性はチーズもヨーグルトも平均頻度が最も少ない。この層は牛乳の飲用量も少なく、牛乳も乳製品もあまりとっていない。

図表 II - 3 性・年齢別
チーズを食べる頻度

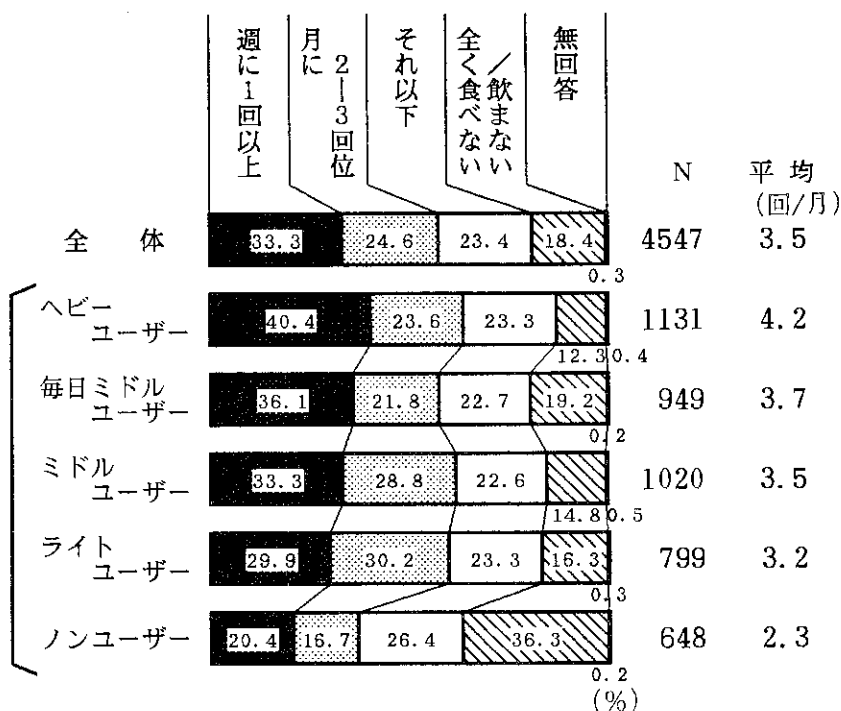


図表 II - 4 性・年齢別
ヨーグルトを食べて (飲む) 頻度

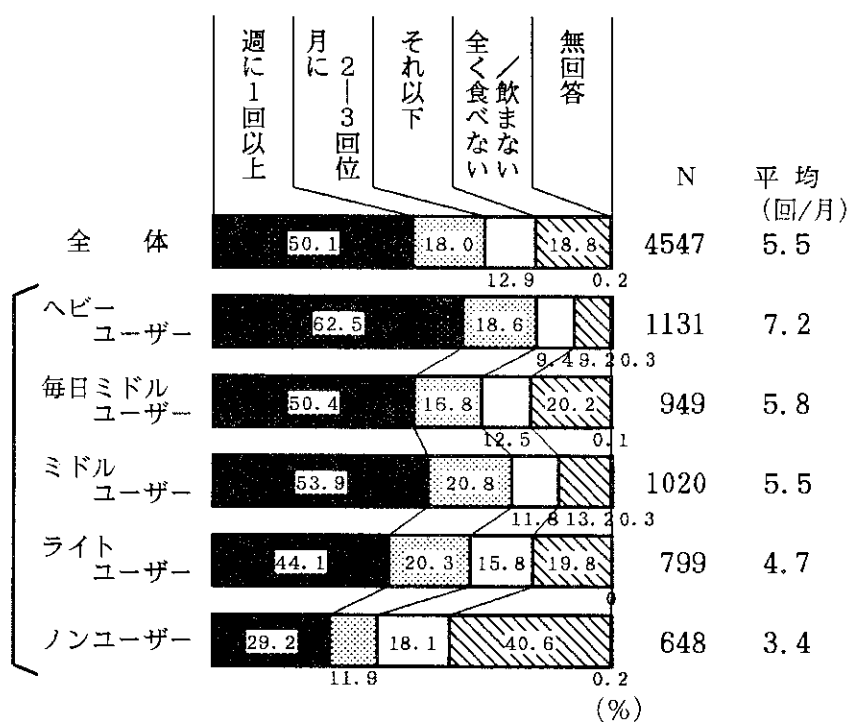


牛乳飲用量別にみると、牛乳のヘビーユーザーほどチーズもヨーグルトも食用頻度が高くなっている。牛乳をよく飲む人は乳製品も多く摂取している。

図表 II - 5 牛乳飲用量別 チーズを食べる頻度



図表 II - 6 牛乳飲用量別 ヨーグルトを食べる頻度



以下は、性・年齢別やその他の属性別に牛乳の平均飲用量（1人1日あたり：ml）とチーズ・ヨーグルトの平均食用頻度（1人1ヵ月あたり：回）をまとめたものである。

性・年齢別では、牛乳を最も多く飲んでいる10代の男女は、チーズの食用頻度があまり高くないが、ヨーグルトはよく食べている。50代の女性は牛乳飲用量もチーズ・ヨーグルトの食用頻度も高い。

また、10代男性と20代男性を除けば、牛乳、チーズ、ヨーグルトのいずれも消費量は男性より女性の方が多くなっている。

一方、牛乳の飲用量があまり高くない20代女性は、チーズやヨーグルトの乳製品を多く摂取している。これに対し、同じく牛乳をあまり飲まない40代の男性は乳製品もあまり食べていない。

世帯年収別では、年収の高い層ほど牛乳の飲用量やチーズ・ヨーグルトの乳製品の食用頻度が高くなるという傾向がみられる。

図表 II - 7 性・年齢・その他の属性別 牛乳の平均飲用量と
チーズ・ヨーグルトの平均食用頻度（平均値）

		牛乳 (ml)	チーズ (回/月)	ヨーグルト (回/月)			牛乳 (ml)	チーズ (回/月)	ヨーグルト (回/月)
全 体 (N=4547)		147	3.5	5.5	全 体 (N=4547)		147	3.5	5.5
性・年齢	男性 10代	262	3.0	6.4	未既婚	既婚同居のみ (N=3046)	143	3.6	5.3
	20代	137	3.0	4.7		未婚 (N=1156)	164	3.4	6.2
	30代	134	3.9	4.4	家族構成	単身 (N=244)	144	3.5	5.5
	40代	123	2.8	3.8		夫婦2人 (N=791)	151	3.9	5.8
	50代	126	3.4	4.0		2~4人計 (N=2274)	142	3.5	5.6
	60代以上	138	3.6	4.8		核家族 (N=2038)	144	3.5	5.6
	女性 10代	174	3.4	7.3		それ以外 (N=236)	123	2.9	5.7
	20代	123	3.9	6.3		5人以上 (N=1231)	154	3.3	5.3
	30代	158	3.9	5.8		核家族 (N=442)	163	3.6	5.3
	40代	147	3.4	6.3		それ以外 (N=789)	150	3.2	5.3
	50代	157	3.9	6.8	世帯年収	400万円未満 (N=919)	139	3.3	5.0
	60代以上	143	3.5	6.1		600万円未満 (N=1029)	142	3.5	5.3
	男性計	145	3.3	4.6		800万円未満 (N=883)	150	3.7	5.5
	女性計	148	3.7	6.4		800万円以上 (N=1303)	155	3.7	6.1

同様に、職業・地域・都市規模別にみてもみた。

職業別にみると、主婦は牛乳飲用量、チーズ、ヨーグルトの食用頻度がともに高い。学生は牛乳とヨーグルトは多いが、チーズについては平均的である。

地域別では、北海道で牛乳やチーズ・ヨーグルトの摂取が多く、北海道という地域性がよく表れている。関東・甲信は牛乳の飲用量は平均的であるが、チーズ、ヨーグルトの食用頻度が高いのが目立つ。

全体としてみればヨーグルトは関東より東で多く、西で少ないという地域差がみられる。一方、牛乳とチーズは規模の大きい都市ほど多くなっている。

図表 II - 8 職業・地域・都市規模別 牛乳の平均飲用量と
チーズ・ヨーグルトの平均食用頻度

		牛乳 (ml)	チーズ (回/月)	ヨーグルト (回/月)			牛乳 (ml)	チーズ (回/月)	ヨーグルト (回/月)
全 体 (N=4547)		147	3.5	5.5	全 体 (N=4547)		147	3.5	5.5
職 業	農林・漁業(N=148)	130	1.8	3.7	地 域	北海道 (N=212)	157	4.0	5.9
	商工サービス業(N=354)	142	3.6	5.1		東 北 (N=334)	156	3.3	5.7
	自由業(N=143)	146	3.2	5.4		関東・甲信(N=1511)	145	4.1	6.2
	内職 (N=33)	132	2.7	5.8		東海・北陸(N=776)	147	3.3	5.5
	管理職(N=232)	109	3.7	4.8		近 畿 (N=741)	151	3.2	5.0
	専門技術職(N=537)	135	3.6	5.3		中 国 (N=316)	144	2.7	5.1
	事務職(N=382)	133	3.6	6.3		四 国 (N=156)	148	3.0	4.7
	労務職(N=310)	137	2.9	3.4		九 州 (N=501)	138	3.1	4.7
	販売サービス職(N=287)	126	3.2	4.8		都 市 規 模	12大都市(N=931)	155	3.9
	パート・アルバイト(N=425)	138	3.5	5.9	15万以上市(N=1358)		147	3.5	5.8
	主 婦 (N=744)	159	4.1	6.5	5万以上市(N=939)		148	3.5	5.4
	学 生 (N=475)	215	3.5	7.0	5万未満の市(N=291)		143	3.2	5.8
	無 職 (N=463)	142	3.5	5.0	郡 部 (N=1028)		139	3.2	5.1

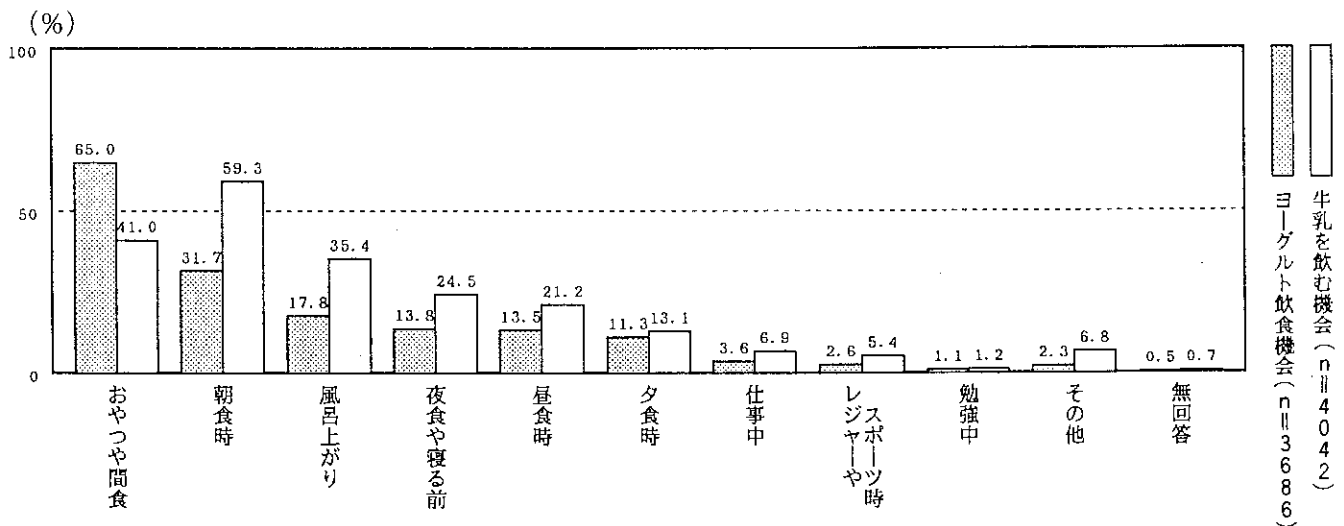
2. ヨーグルトの食用（飲用）機会

今年はヨーグルトについて食用機会、食用場所、食用タイプ、食用理由を聞いてみた。

まず、ヨーグルトの食用機会（複数回答）を牛乳との比較からみてみると、上位5位に「おやつや間食」、「朝食時」、「風呂上がり」、「夜食や寝る前」、「昼食時」が入っていることは牛乳の場合と変わらない。しかし、牛乳の場合に最も多かった「朝食時」が減って、牛乳で2番目に多かった「おやつや間食」がヨーグルトでは第1位となっている。

ヨーグルトは牛乳と比べると「おやつや間食」のみに集中する傾向がみられ、食用機会は固定化されているようである。

図表 II -9 ヨーグルトと牛乳の食・飲用機会の比較
(各食・飲用者ベース：MA)

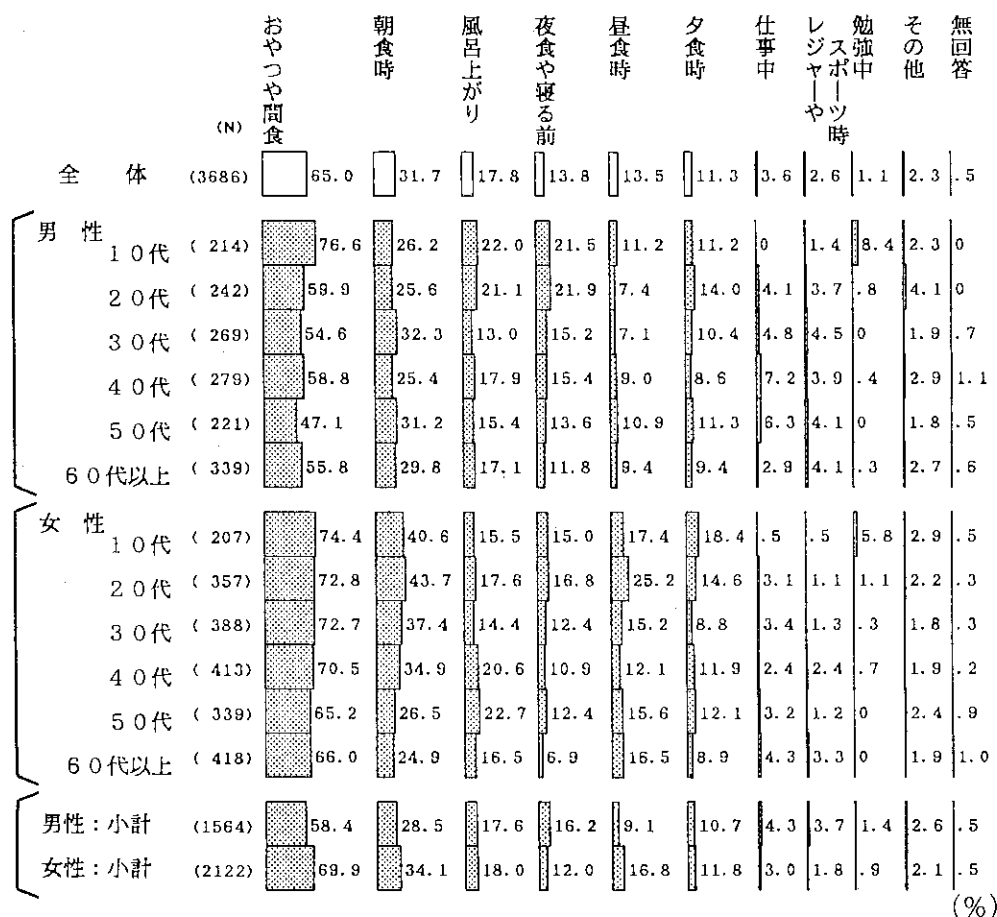


注) ヨーグルト（食用者ベース）との比較を行うために、牛乳の飲用理由はここでは飲用者ベースで比率を算出している。

性・年齢別にみると、「おやつや間食」は10代の男女、「朝食時」は10~20代の女性、「夜食や寝る前」は10~20代の男性で多くなっている。「昼食時」は20代女性で比較的多い。

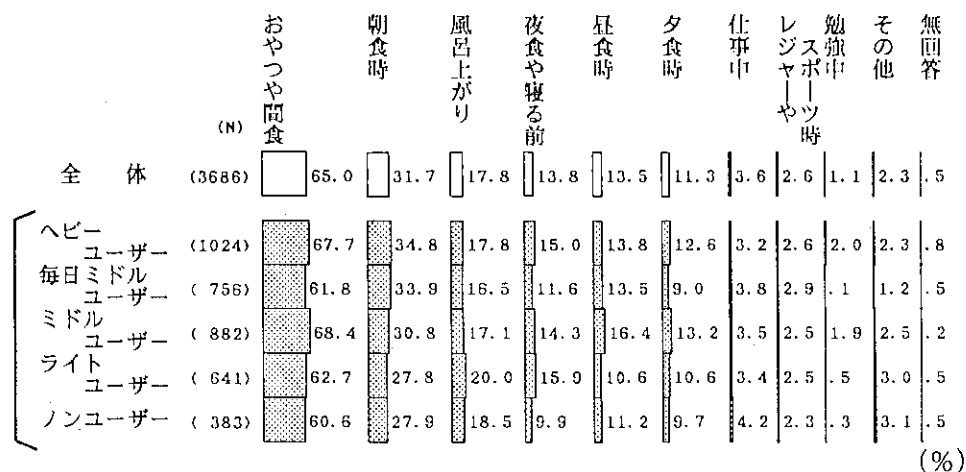
牛乳飲用量別では、牛乳のヘビーユーザーはライトユーザーと比べてヨーグルトを「朝食時」や「おやつや間食時」で食べる率が高い。しかし、その差はわずかなものであり、全体としてみれば牛乳飲用量による違いはあまりみられない。

図表 II -10 性・年齢別 ヨーグルトの食・飲用機会
(ヨーグルトの飲・食用者ベース：MA)



(%)

図表 II -11 牛乳飲用量別 ヨーグルトの食・飲用機会
(ヨーグルトの飲・食用者ベース：MA)

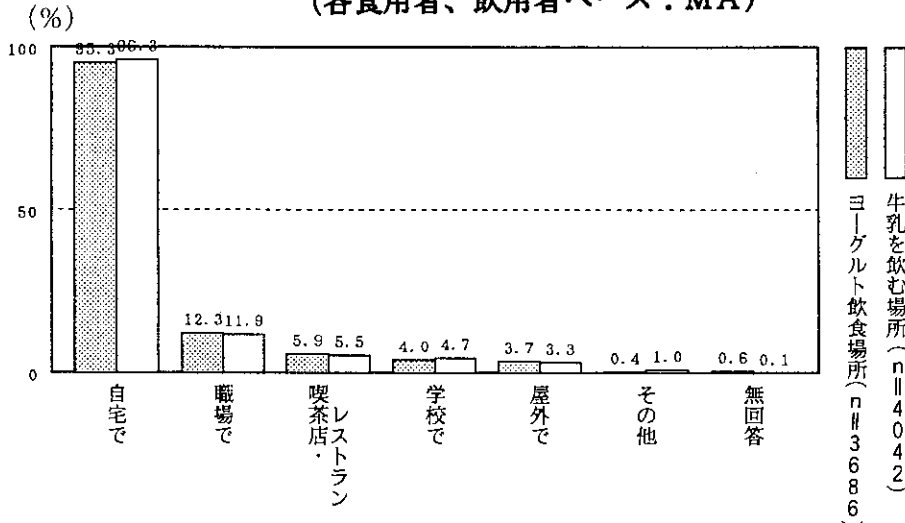


(%)

3. ヨーグルトの食用（飲用）場所

どんな所でヨーグルトを食べたり飲んだりしているかを、牛乳と比較してみたところ（複数回答）、どちらも「自宅で」が圧倒的に多く、9割をこえている。その他の場所の食用率、飲用率についてもヨーグルトと牛乳ではほとんど変わらない。

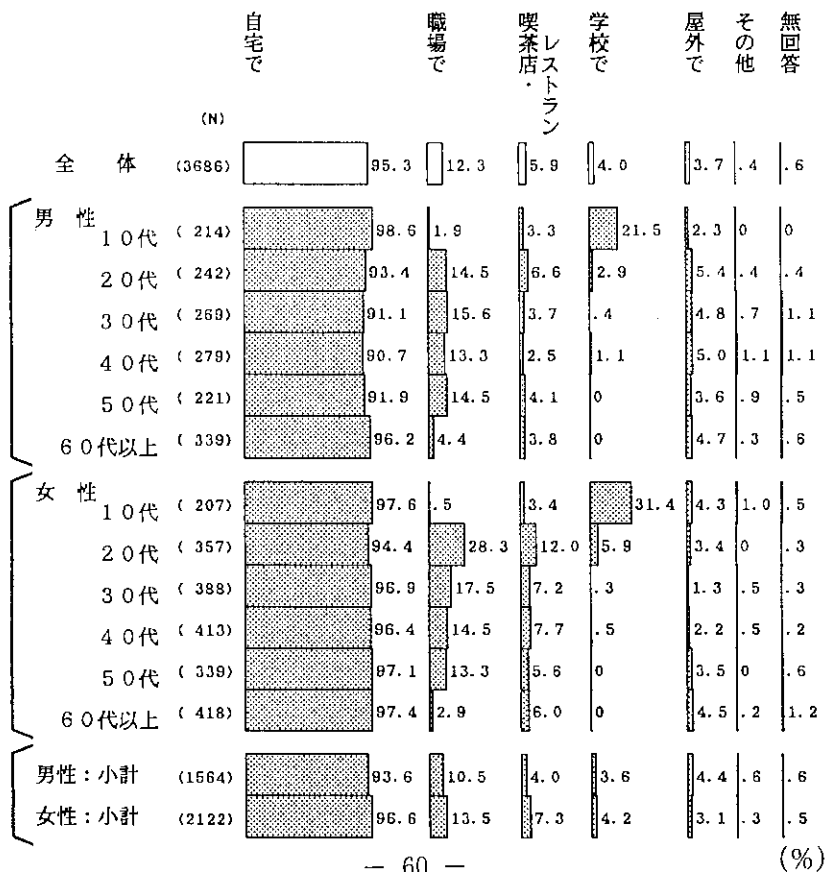
図表 II -12 ヨーグルトの食用場所と牛乳の飲用場所
(各食用者、飲用者ベース：MA)



注) ヨーグルト（食用者ベース）との比較を行うために、牛乳は飲用者ベースで比率を算出している。

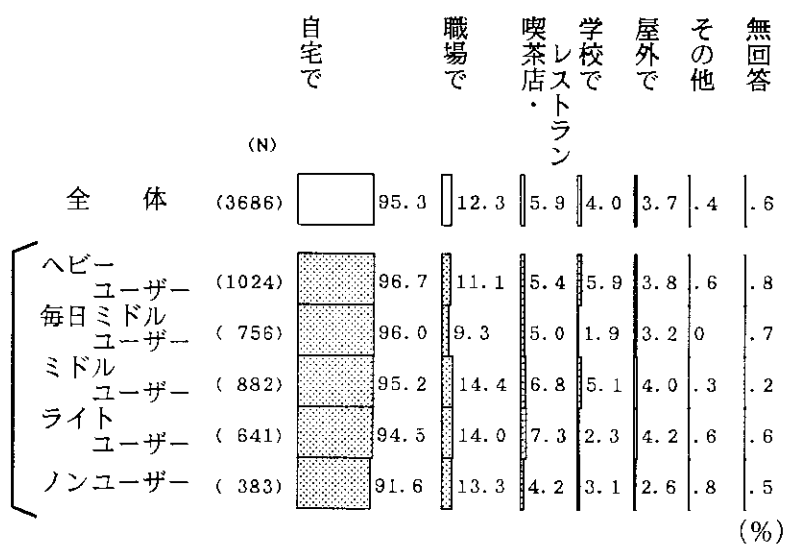
性・年齢別にヨーグルトの食用場所をみると、どの年齢層も「自宅」が9割以上を占めている。「職場で」や「喫茶店・レストラン」は20代の女性に、「学校」は10代男女に比較的多くみられる。

図表 II -13 性・年齢別 ヨーグルトの食用場所
(ヨーグルトの飲・食用者ベース：MA)



牛乳飲用量別にみても、ヘビーユーザーとライトユーザーで大きな違いはみられず、ヨーグルトの食用場所はいずれも「自宅」が95%以上と集中している。

図表 II -14 牛乳飲用量別 ヨーグルトの食用場所
(ヨーグルトの飲・食用者ベース：MA)



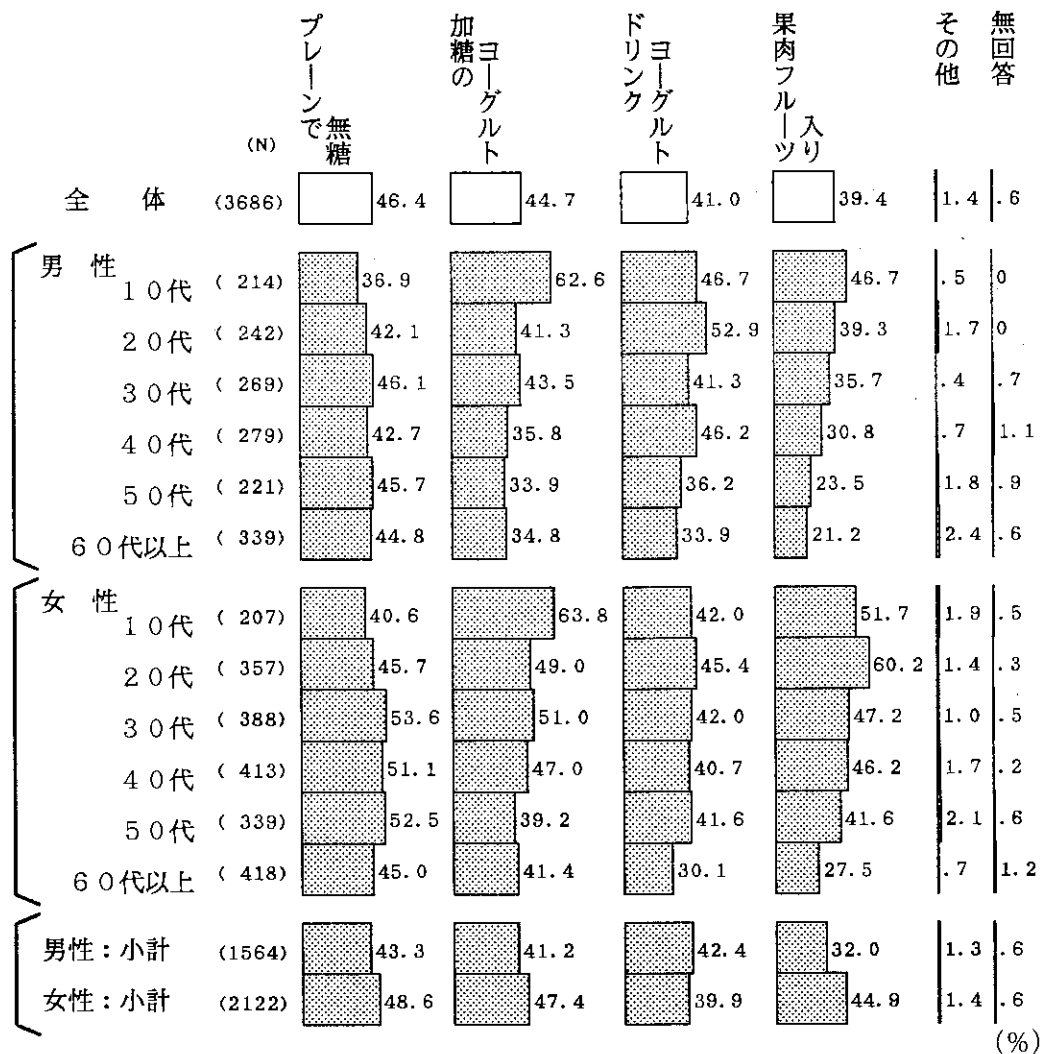
4. ヨーグルトの食用（飲用）タイプ

どのようなタイプのヨーグルトを食べたり、飲んだりすることが多いのかを複数回答で聞いた。

全体で見ると、「プレーンで無糖」、「加糖」、「ドリンクヨーグルト」、「果肉フルーツ入り」の順に多くなっているが、4タイプの差はほとんどない。すなわち、1つのタイプが飛び抜けて食べられているのではなく、4つのタイプが同じくらい人気があると言える。

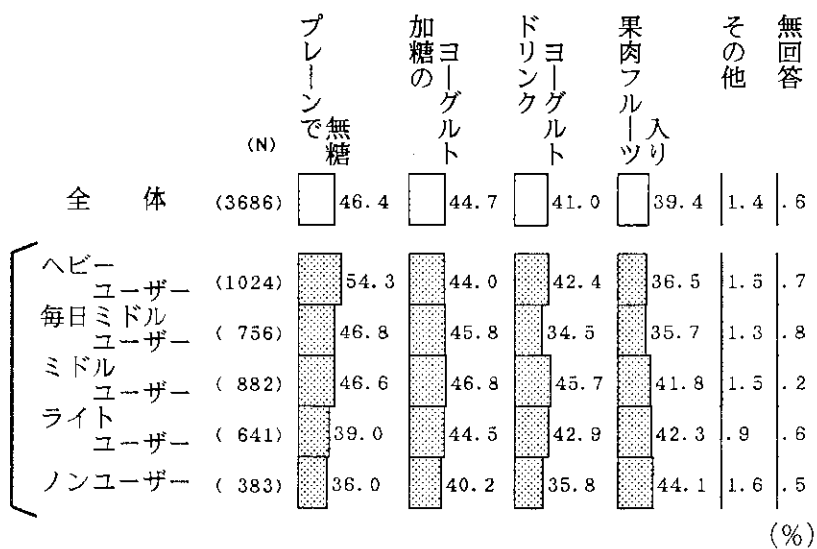
しかし、性・年齢別にみると、層によって好みの違いがあるようで、「プレーン」は30～50代の女性、「加糖」は10代の男女、「ドリンクヨーグルト」は20代男性に人気が高い。「果肉フルーツ入り」は男女とも若い層ほど好まれているが、とりわけ20代女性の食用率が高い。

図表 II -15 性・年齢別 よく食べたり飲んだりするヨーグルトのタイプ
(飲・食用者ベース：MA)



牛乳飲用量別にみると、「加糖」はヘビーユーザーとライトユーザー間に差がないが、「プレーン」はヘビーユーザー、「果肉フルーツ入り」はライトユーザーでそれぞれ多くなっている。牛乳のノンユーザーでは、「プレーン」、「加糖」、「ドリンクヨーグルト」の食用率が低い中、「果肉フルーツ入り」だけは高いのが注目される。

図表 II -16 牛乳飲用量別 よく食べたり飲んだりするヨーグルトのタイプ
(飲・食用者ベース：MA)



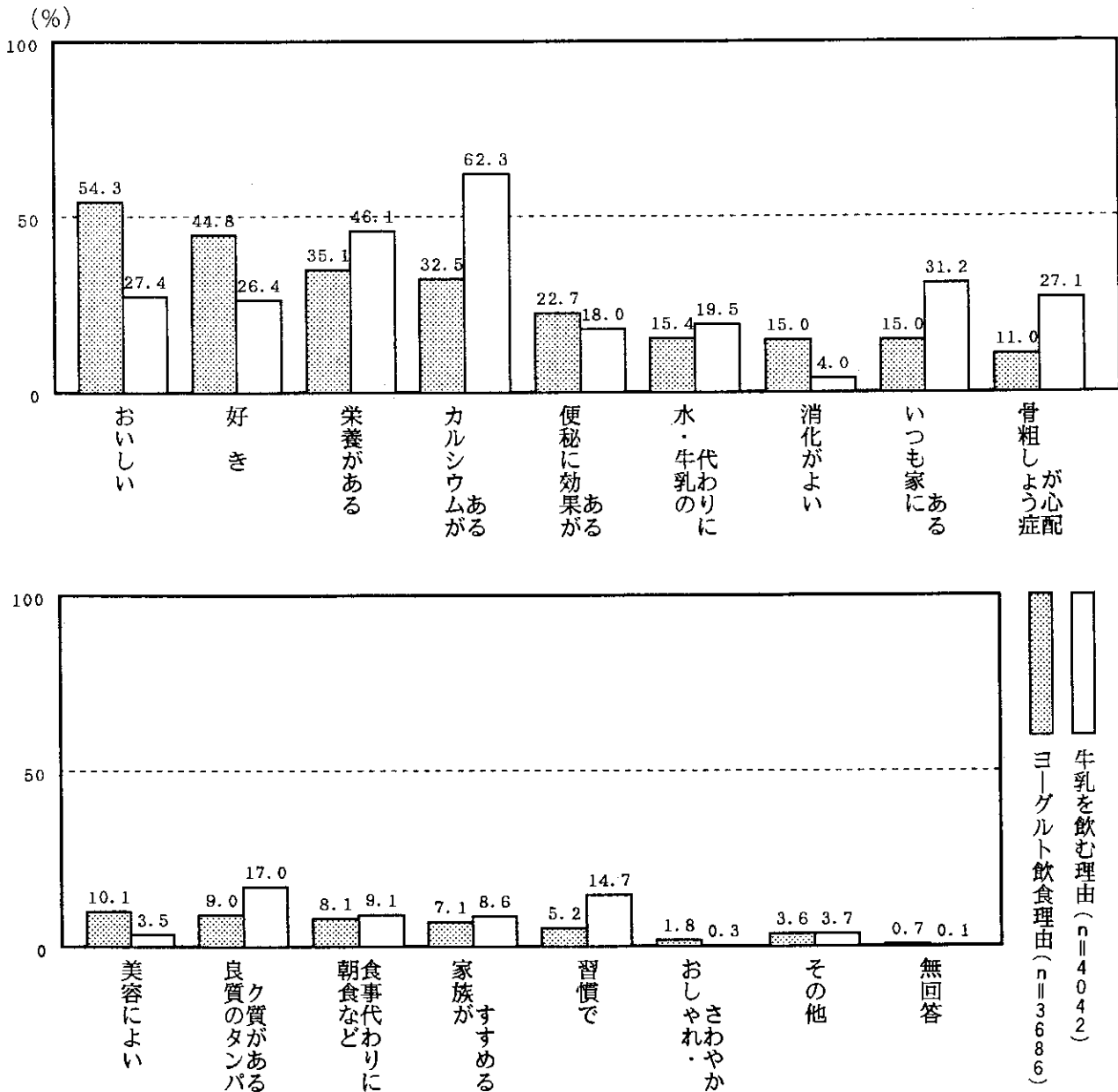
5. ヨーグルトの食用（飲用）理由

ヨーグルトの食用理由を牛乳の飲用理由との比較でみた（複数回答）。

牛乳では「カルシウム」と「栄養」などの健康に関連する機能的理由が多かったが、ヨーグルトでは「おいしい」や「好き」の嗜好性が、「カルシウム」や「栄養」を上回った。つまり、牛乳の機能性に対し、ヨーグルトは嗜好性が重視されていることがわかる。

牛乳と比べて「いつも家にある」、「骨粗しょう症が心配」、「良質のタンパク質がある」、「習慣で」などは低いが、「便秘に効果がある」、「消化によい」、「美容によい」はヨーグルトの方が評価が高くなっている。

図表 II -17 ヨーグルトの食用理由と牛乳の飲用理由
(各食用者・飲用者ベース：MA)



注) ヨーグルトでは「牛乳の代わりに」だが、牛乳では「水の代わりに」と表現が異なっている。
ヨーグルト（食用者ベース）に合わせるため、牛乳も飲用者ベースで比率を算出している。

性・年齢別にヨーグルトの食用理由をみると、「おいしい」や「好き」は男女とも若い人ほど多くなっている。反対に「栄養」と「カルシウム」は年齢が高くなるほど多い。「骨粗しょう症が心配」は50代以上の女性、「美容によい」は10~40代の女性に多く、「家族がすすめる」は20代以上の男性に多くなっている。

図表 II -18 性・年齢別 ヨーグルトの食用理由
(ヨーグルトの飲・食用者ベース：MA)

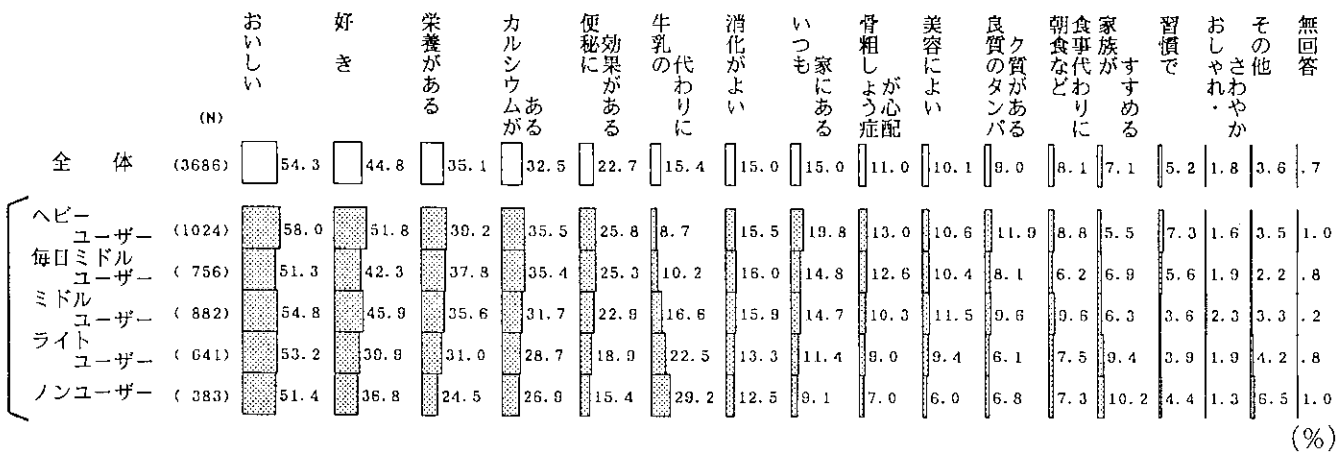
	(N)	おいしい	好き	栄養がある	カルシウムがある	便秘に効果がある	牛乳の代わりに	消化がよい	いつも家にある	骨粗しょう症が心配	美容によい	良質のタンパク質がある	朝食代わりなどに	家族がすすめる	習慣で	おしゃべり・やさしく	その他	無回答	
全体	(3686)	54.3	44.8	35.1	32.5	22.7	15.4	15.0	15.0	11.0	10.1	9.0	8.1	7.1	5.2	1.8	3.6	1.7	
男性																			
10代	(214)	73.4	62.6	26.2	22.9	5.1	10.3	6.1	26.2	1.9	1.9	4.2	8.4	7.0	7.0	1.4	3.7	0	
20代	(242)	65.3	54.1	31.0	24.4	10.7	12.0	13.2	15.3	2.1	2.1	4.5	8.3	11.2	6.2	2.9	4.5	1.4	
30代	(269)	49.1	45.4	33.5	26.8	10.4	11.5	12.6	13.0	3.0	3.0	6.3	13.0	12.3	5.6	1.1	6.3	1.1	
40代	(279)	46.2	33.3	37.6	24.0	15.4	14.0	10.4	14.3	2.5	3.6	10.4	5.7	12.9	4.7	1.7	3.6	1.1	
50代	(221)	35.7	27.6	35.3	25.3	18.6	15.8	13.6	15.8	9.5	3.6	10.9	7.2	18.1	6.3	1.9	3.2	1.4	
60代以上	(339)	40.4	26.3	36.6	33.6	20.9	17.7	14.5	19.2	15.3	2.9	9.4	2.7	15.3	5.3	1.2	2.1	1.5	
女性																			
10代	(207)	79.7	68.1	25.1	26.1	17.9	15.0	12.1	19.3	4.8	18.8	2.9	11.1	6.8	6.3	5.3	2.4	1.5	
20代	(357)	75.4	63.0	30.3	29.1	30.5	14.8	13.4	10.6	4.2	19.9	3.6	14.8	2.8	5.0	3.1	2.5	1.3	
30代	(388)	65.7	51.8	35.6	37.9	25.5	17.3	14.2	8.8	8.8	17.8	9.8	11.9	2.1	4.4	2.6	4.9	1.5	
40代	(413)	58.1	48.7	38.0	37.5	28.1	16.2	22.0	11.6	14.3	18.2	13.1	8.2	1.0	5.3	1.2	4.1	1.5	
50代	(339)	41.6	38.3	39.2	41.3	35.1	18.9	20.9	17.4	23.6	10.9	12.1	4.1	1.6	2.7	1.5	2.4	1.6	
60代以上	(418)	33.7	29.7	42.6	43.5	32.8	16.7	18.2	15.8	26.1	8.6	14.1	3.3	5.3	5.3	1.0	3.8	1.0	
男性：小計	(1564)	50.6	40.3	33.8	26.7	14.1	13.8	12.0	17.1	6.2	2.9	7.8	7.3	13.0	5.8	1.3	3.8	1.0	
女性：小計	(2122)	57.1	48.2	36.1	36.9	29.1	16.6	17.2	13.4	14.5	15.4	9.9	8.7	2.8	4.8	2.2	3.5	1.6	

(%)

牛乳飲用量別にみると、ヘビーユーザーになるほど「おいしい」、「好き」、「栄養」、「カルシウム」、「いつも家にある」、「骨粗しょう症が心配」、「良質のタンパク質」、「便秘に効果」が多くなっている。特に「好き」という理由がヘビーユーザーで半数あるのが注目される。牛乳をたくさん飲んでいる人はヨーグルトを好きで食べている人が多いということだろう。

一方、ノンユーザーやライトユーザーでは、「牛乳の代わりに」や「家族がすすめる」が比較的多い。

図表 II -19 牛乳飲用量別 ヨーグルトの食用理由
(ヨーグルトの食用者ベース：MA)



Ⅲ 牛乳をとりまく背景

1. 飲み物の中での牛乳の位置づけ

以下の9つの飲料について、朝食時、昼食時、おやつ時、夜くつろいでいる時の4つの機会別にふだんよく飲んでいるものは何か（複数回答）を聞いた。

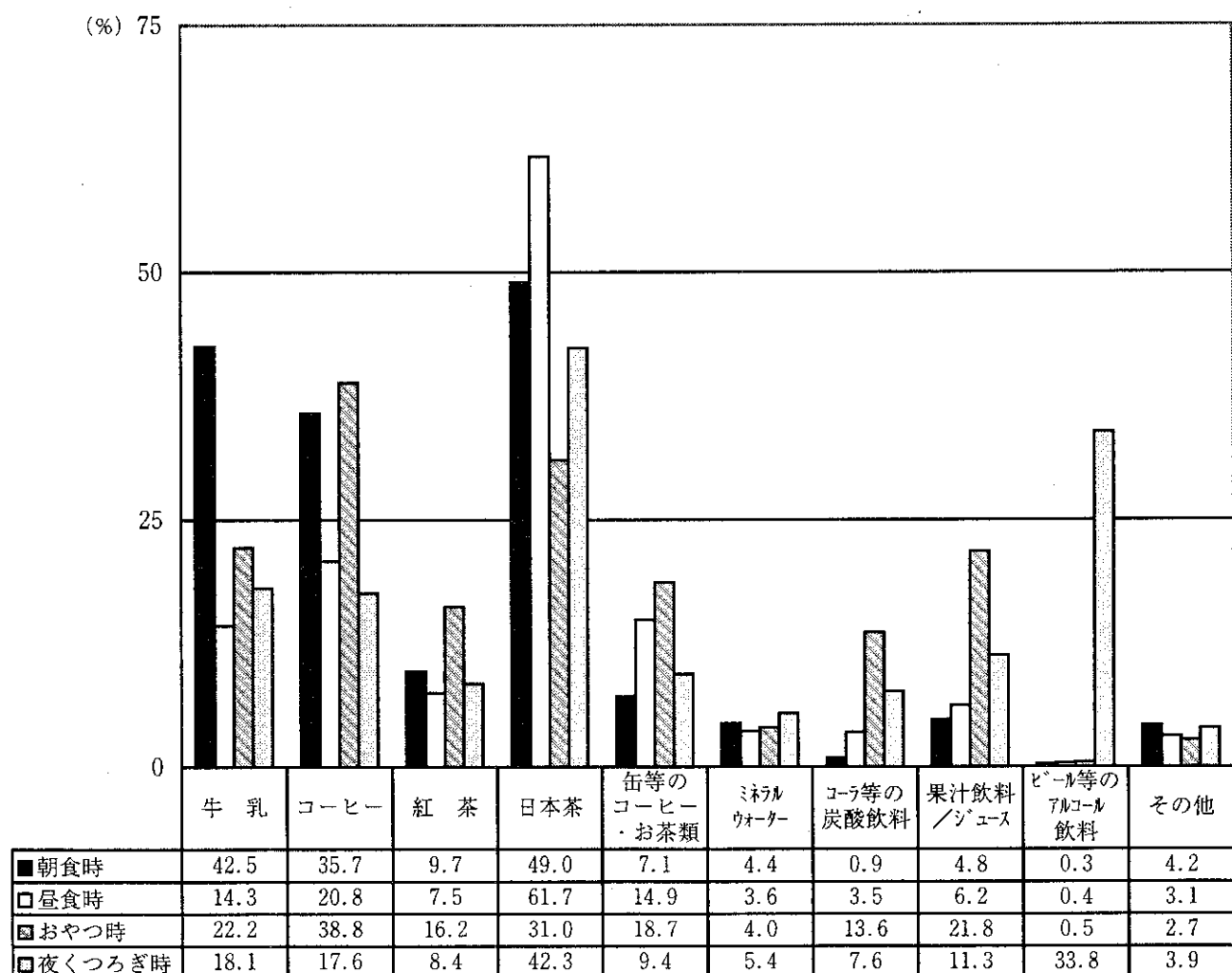
朝食時は、「日本茶」が49%とトップで、「牛乳」、「コーヒー」の順によく飲まれている。昼食時では、「日本茶」の飲用率が62%とさらに高くなり、20%以下の飲用率で「コーヒー」、「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」、「牛乳」が続く。

おやつ時をみると、「コーヒー」が最もよく飲まれ、「日本茶」「牛乳」「果汁飲料/ジュース」となる。

夜くつろいでいる時においても、「日本茶」が42%と高く、次いで「ビール、ワイン等のアルコール類」がよく飲まれている。「牛乳」は「コーヒー」と並んで18%の飲用率である。

4つの機会を通してみると、総じて「日本茶」がよく飲まれており、「コーヒー」、「牛乳」と続く。「牛乳」の飲用機会としては、「朝食時」が圧倒的に多く、次いで「おやつ時」「夜くつろいでいる時」の順となり、「昼食時」の飲用率が最も低い。

図表 Ⅲ-1 よく飲む飲み物（朝食・昼食・おやつ・夜）（MA）

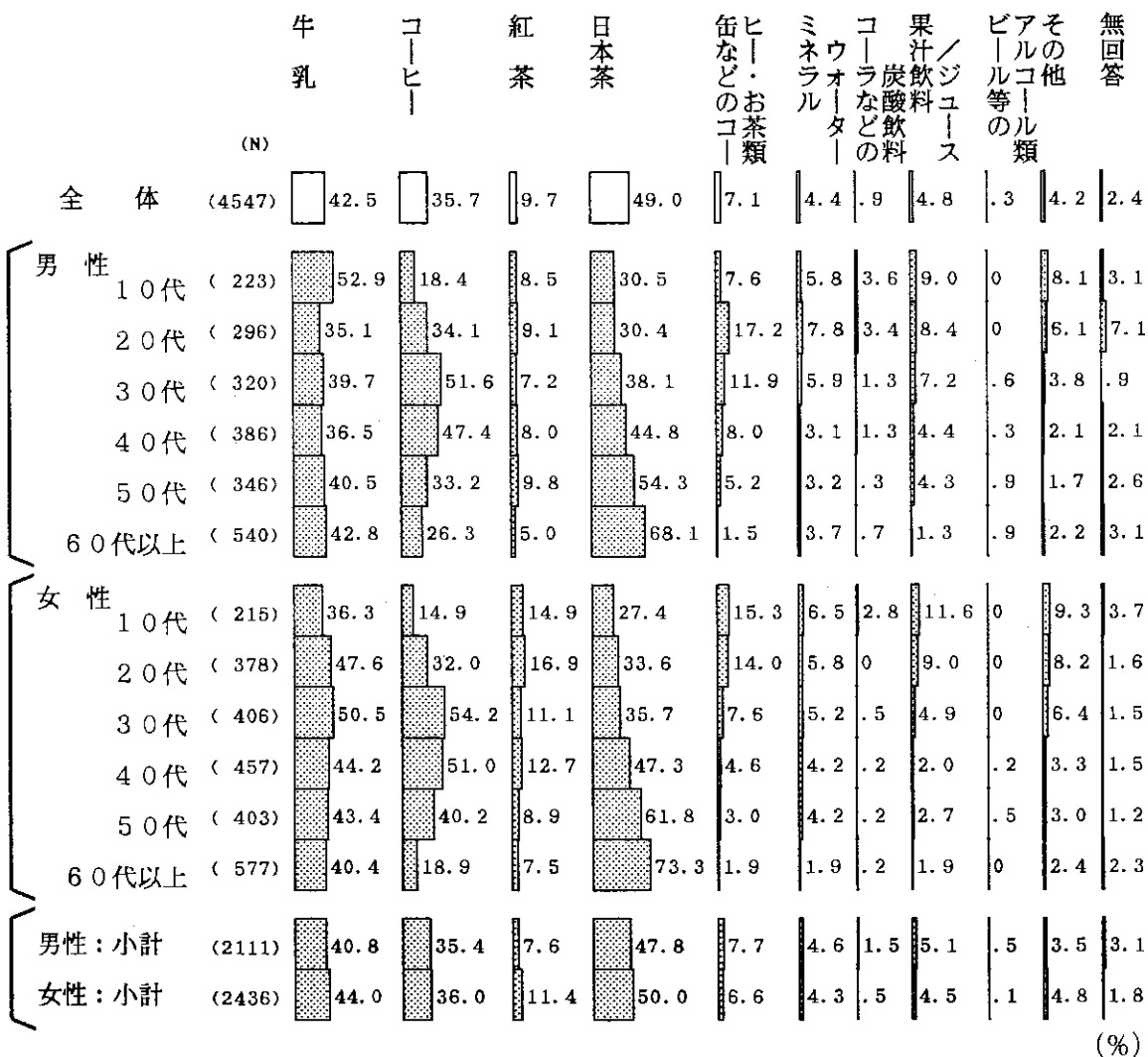


性・年齢別に、4つの飲用機会に分けてよく飲む飲み物をみてみた。

朝食時に「牛乳」を飲んでいる人は、10代の男性と30代の女性に多く、「コーヒー」を飲む人は男女とも30~40代に多い。「日本茶」は男女とも50代以上の飲用率が高くなっている。

10代、20代では、朝から「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」、「コーラなどの炭酸飲料」、「果汁飲料/ジュース」を飲んでいる割合が高い。

図表 III-2 性・年齢別 よく飲む飲み物（朝食時）（MA）

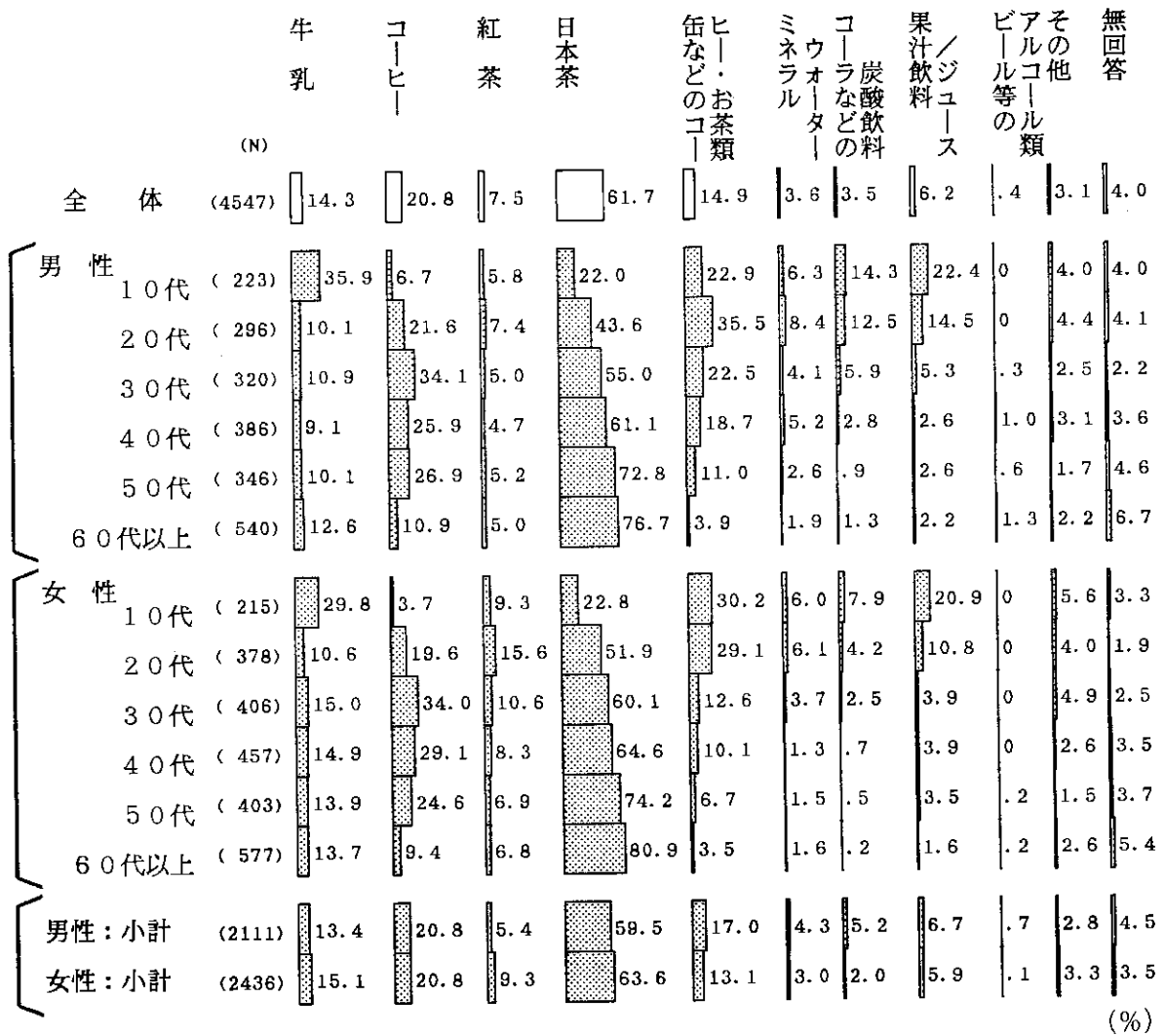


(%)

昼食時も朝食時とほぼ同じ傾向がみられ、「牛乳」は男女の10代、「コーヒー」は男女とも30~40代、「日本茶」は50代以上の飲用率が高い。

昼食時も「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」、「コーラなどの炭酸飲料」、「果汁飲料／ジュース」の飲用率が高いのは、10代、20代である。

図表 Ⅲ-3 性・年齢別 よく飲む飲み物（昼食時）（MA）

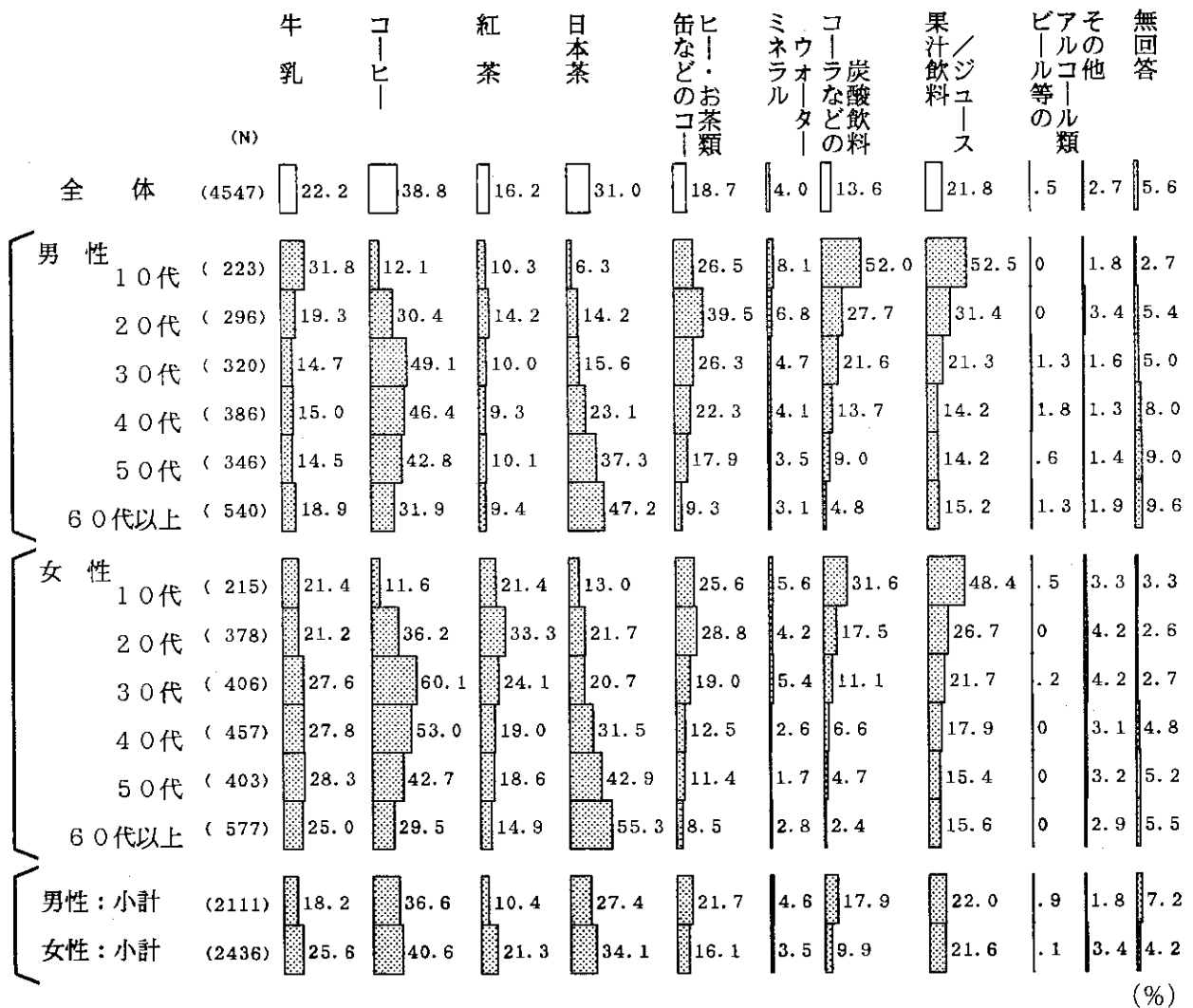


おやつ飲み物をみると、「牛乳」を最もよく飲んでいるのが10代の男性であるが、30代以上の女性も比較的好く飲んでいる。

「コーヒー」は30~40代、「日本茶」は50代以上、「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」、「コーラなどの炭酸飲料」、「果汁飲料/ジュース」は10~20代がよく飲んでおり、朝食および昼食時と傾向は同じである。

「紅茶」は、朝食時、昼食時でも10~30代の女性によく飲まれていたが、特におやつ時の飲用率が高くなっている。

図表 III-4 性・年齢別 よく飲む飲み物（おやつ時）（MA）

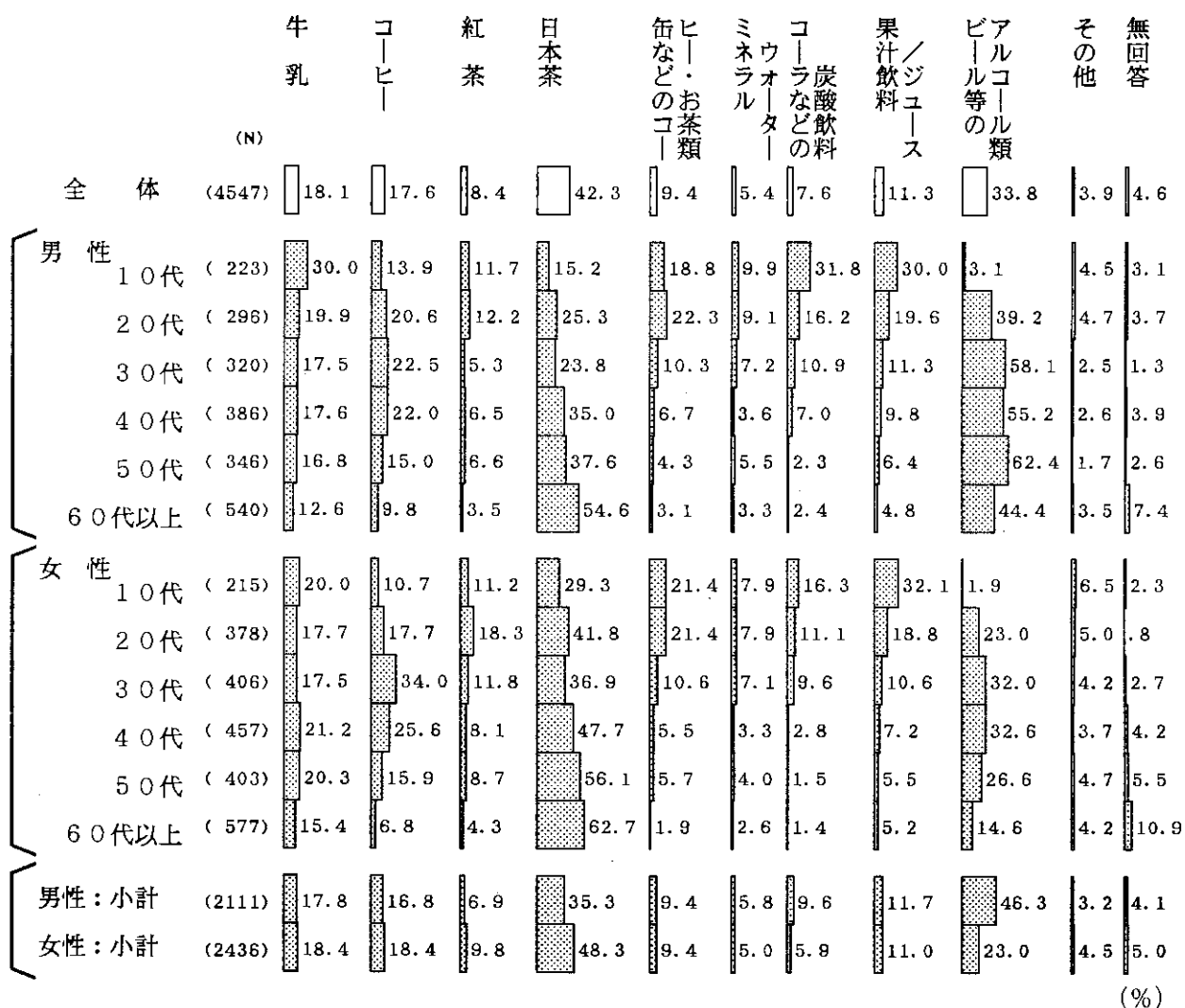


夜くつろいでいる時に「牛乳」を飲む人は、10代の男性である。

他の飲用機会ではあまり飲まれず、夜くつろいでいる時によく飲まれていたのが「ビール等のアルコール類」で、30代以上の男性で飲用率が非常に高い。

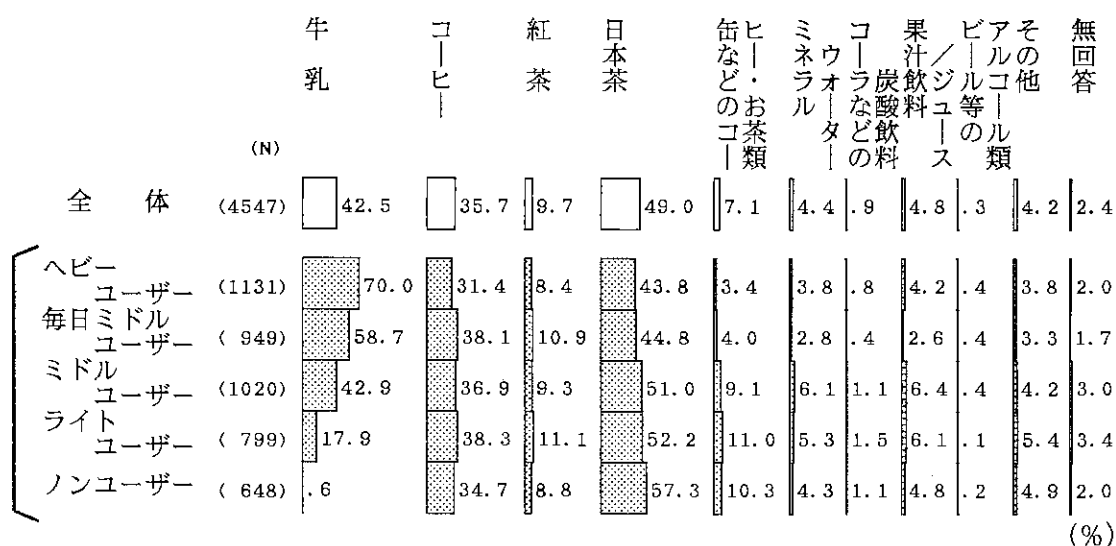
どの飲用機会においても、「コーヒー」、「日本茶」、「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」、「コーラなどの炭酸飲料」、「果汁飲料/ジュース」の飲用傾向は変わらなかった。

図表 III-5 性・年齢別 よく飲む飲み物（夜くつろいでいる時）（MA）



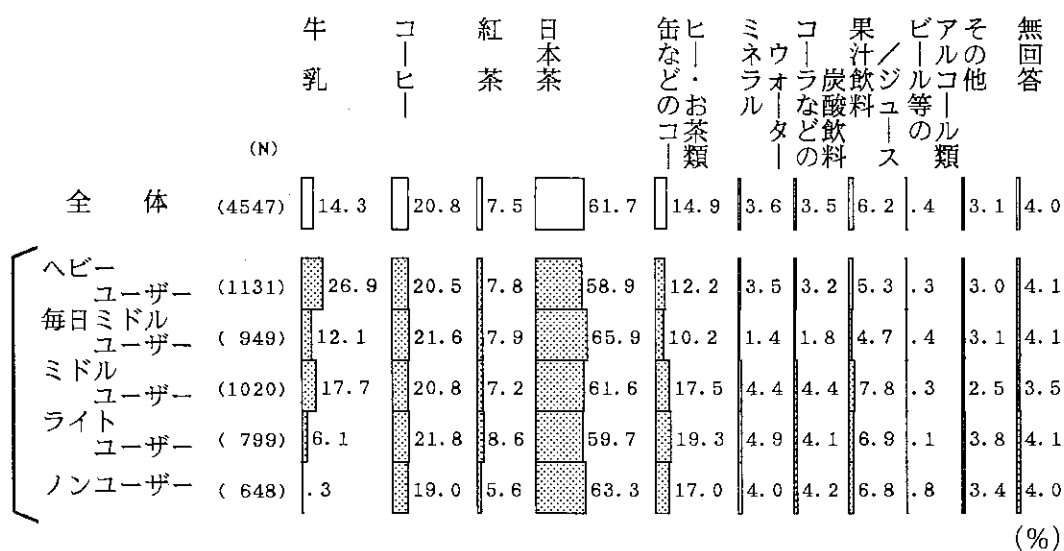
牛乳の飲用量別にみると、どのユーザーでも朝食における牛乳の競合は「日本茶」「コーヒー」である。ミドルユーザー以下になると、「日本茶」が「牛乳」よりよく飲まれている。

図表 Ⅲ-6 牛乳飲用量別 よく飲む飲み物（朝食）（MA）



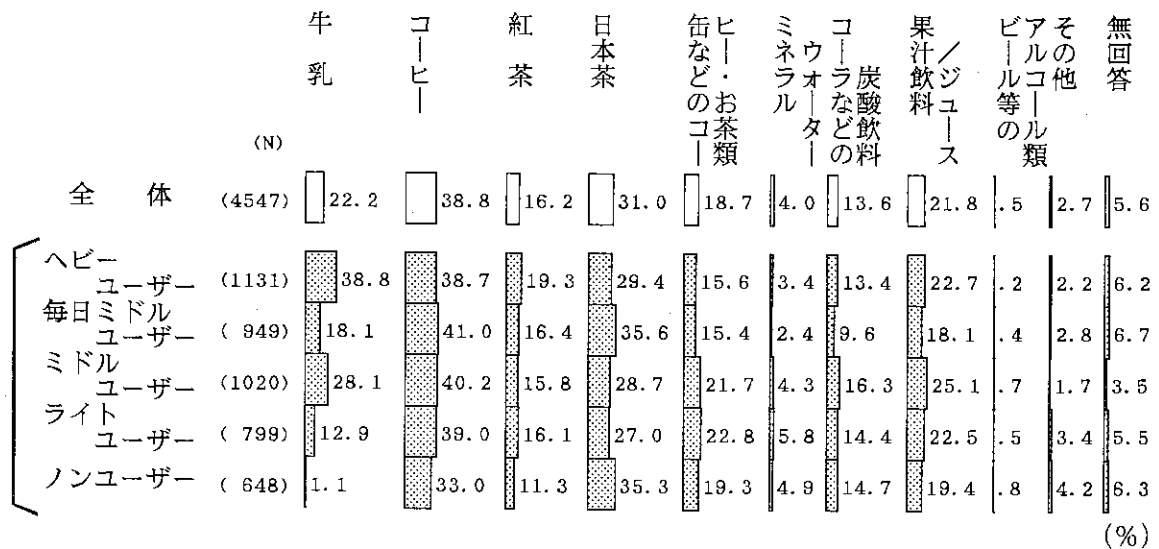
昼食時では、どのユーザーでも「日本茶」が圧倒的によく飲まれている。毎日ミドルユーザー以下では、「牛乳」よりも「コーヒー」の方がよく飲まれている。

図表 Ⅲ-7 牛乳飲用量別 よく飲む飲み物（昼食）（MA）



おやつ時をみてみると、ヘビーユーザーでは、「牛乳」と「コーヒー」が同率で飲まれているが、それ以外のユーザーでは、「コーヒー」、「日本茶」が「牛乳」よりよく飲まれている。また、ミドルユーザー以下では、「果汁飲料／ジュース」、「ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類」の飲用率も高い。

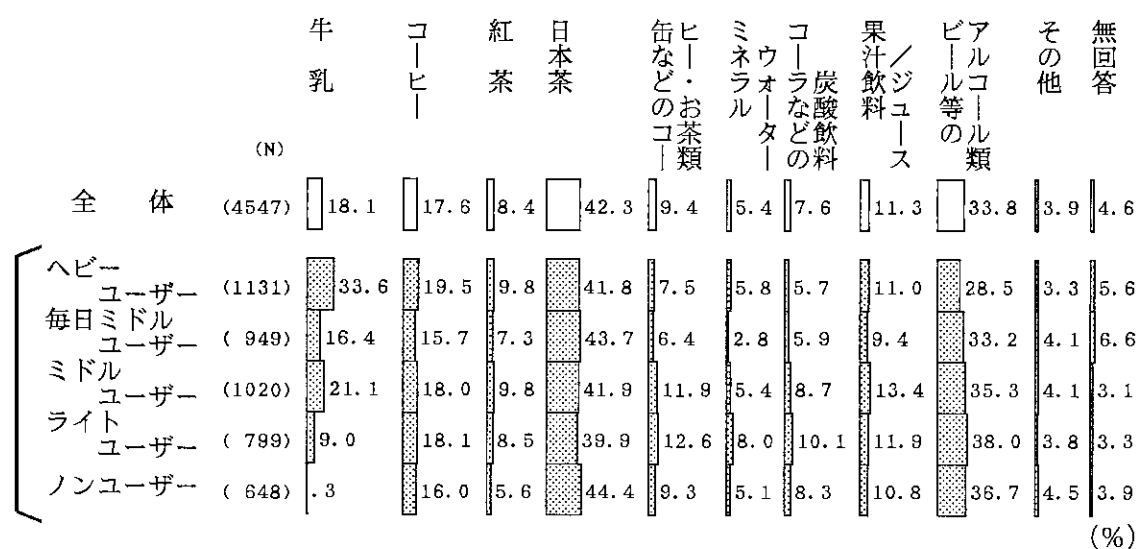
図表 Ⅲ-8 牛乳飲用量別 よく飲む飲み物（おやつ）（MA）



夜くつろいでいる時によく飲んでいるものは、どのユーザーでも「日本茶」がトップである。次いで、「ビール等のアルコール飲料」がよく飲まれている。

「牛乳」はヘビーユーザーでは「ビール等のアルコール飲料」よりもよく飲まれており、毎日ミドルユーザー、ミドルユーザーでも3番目によく飲まれている飲料である。

図表 Ⅲ-9 牛乳飲用量別 よく飲む飲み物（夜くつろいでいる時）（MA）



2. カルシウムと骨と牛乳

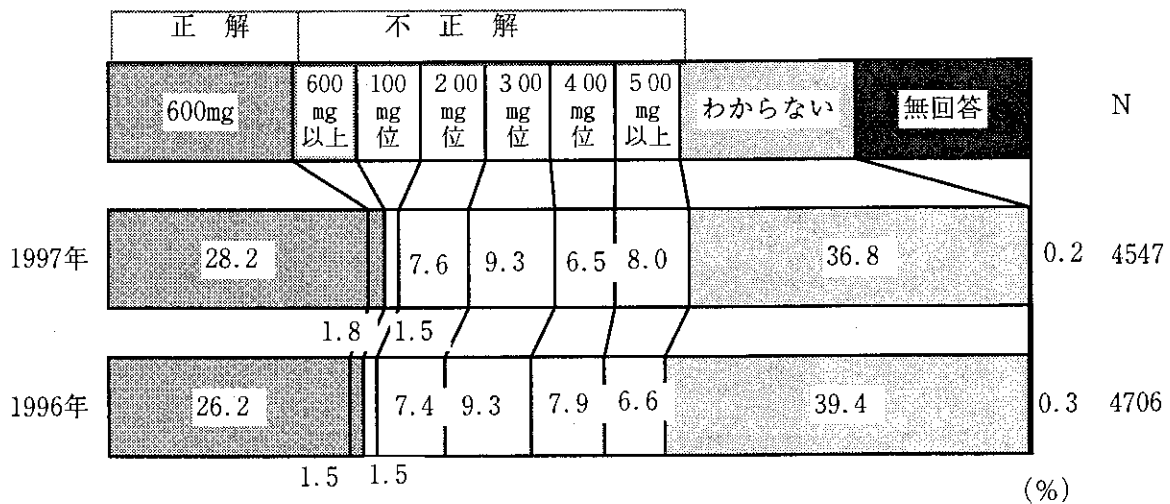
1) カルシウム必要量と牛乳に含まれるカルシウム量

成人の1日のカルシウム必要量を聞いたところ、「600mg」および「600mg 以上」と正しく答えられた人は30%であり、昨年の28%から2ポイント正解率がわずかながら上がっている。

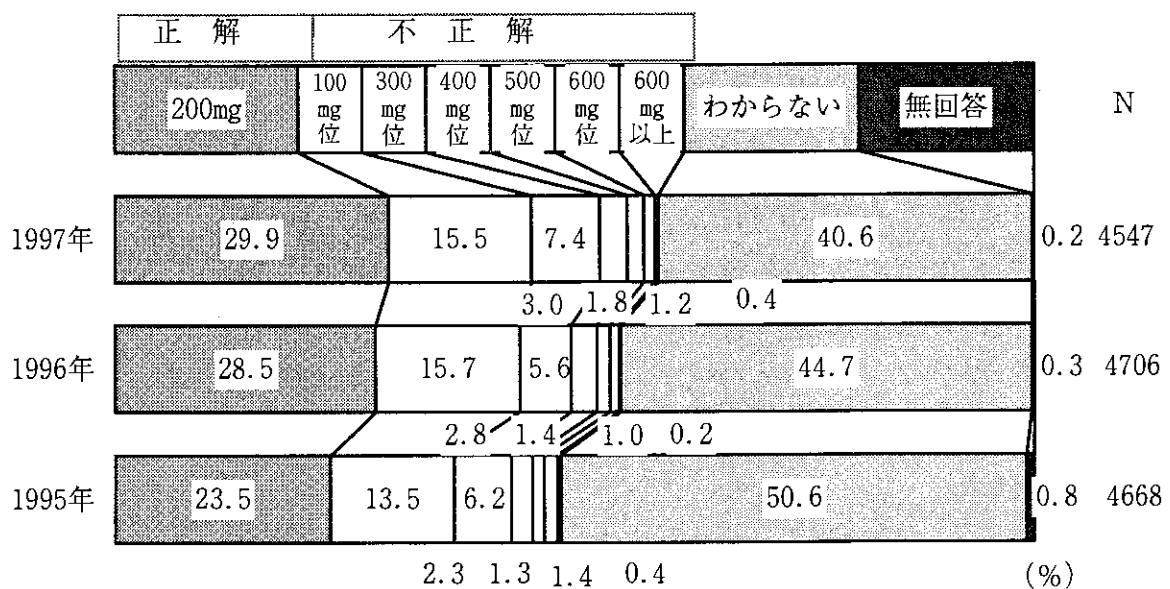
牛乳200mlに含まれるカルシウム量を聞いたところ、「200mg」と正解した人は30%であり、カルシウム必要量の正解率と同じであった。時系列でみると、95年の24%から正解率は年々あがってきている。

カルシウム必要量と牛乳に含まれるカルシウム量ともに、「わからない」と答えた人は少なくなっているものの、依然として4割を占めている。具体的なカルシウム量の認知に関しては、更なる啓発活動が必要であろう。

図表 III-10 成人の1日のカルシウム必要量



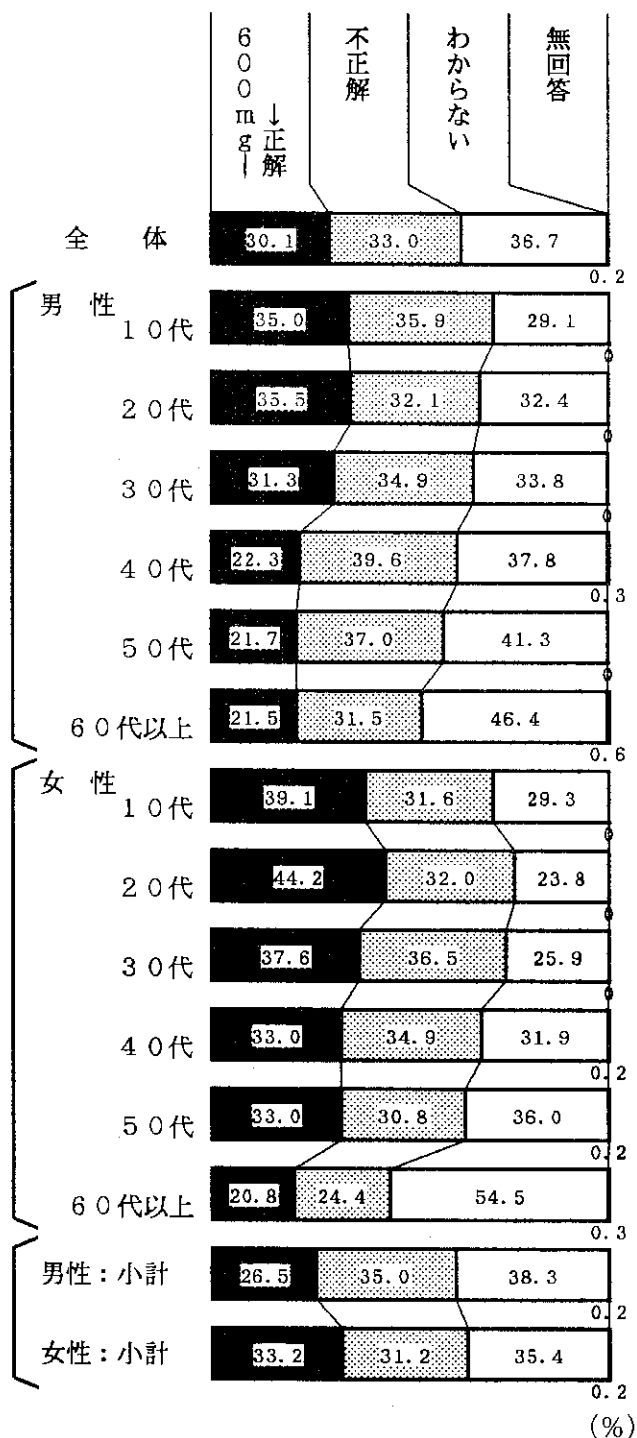
図表 III-11 牛乳200mlに含まれるカルシウム量



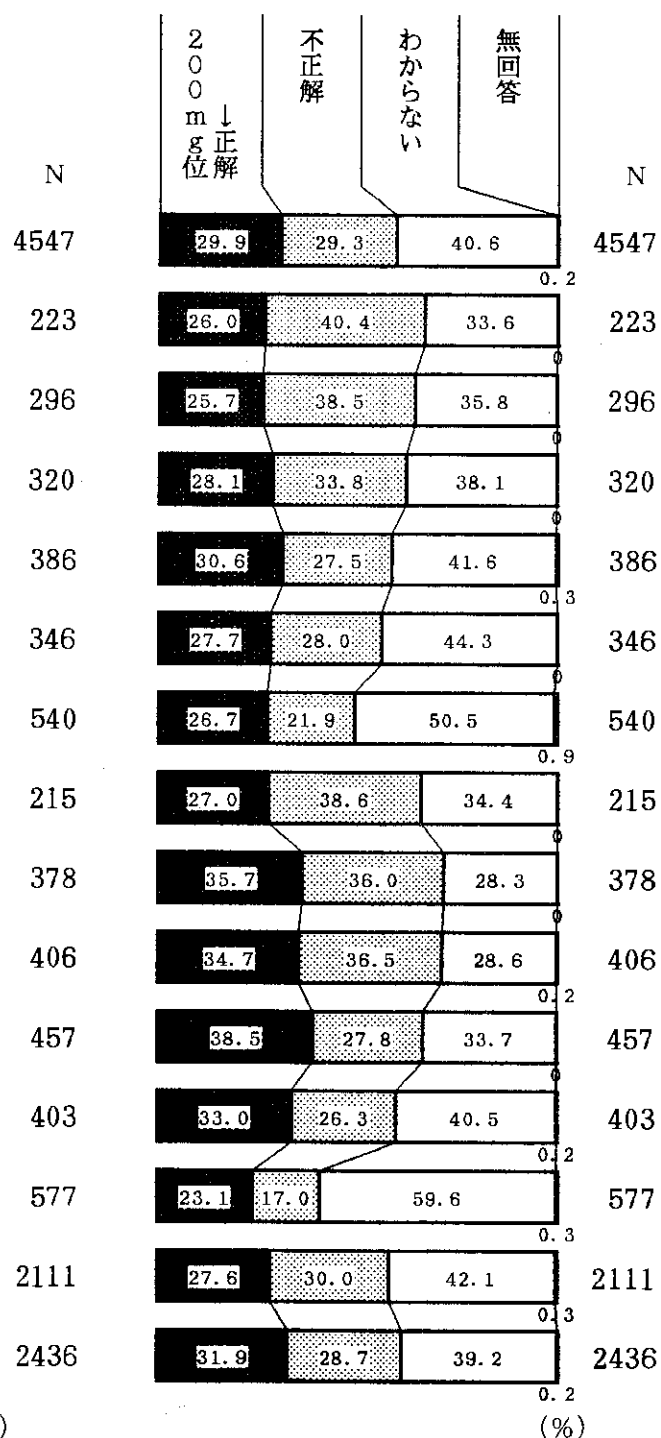
性・年齢別にみると、昨年同様男性より女性の方がともに正解率が高い。1日に必要なカルシウム量の正解率は、20代の女性が44%と最も高く、男女ともに若い世代の方が必要量をよく認識している。牛乳に含まれるカルシウム量については、20~40代の女性の正解率が高い。

「わからない」の割合が加齢とともに高くなる傾向は依然として変わらず、高齢者への知識の普及は引き続き課題である。

図表 III-12 性・年齢別
成人の1日のカルシウム必要量



図表 III-13 性・年齢別
牛乳200mlに含まれるカルシウム量

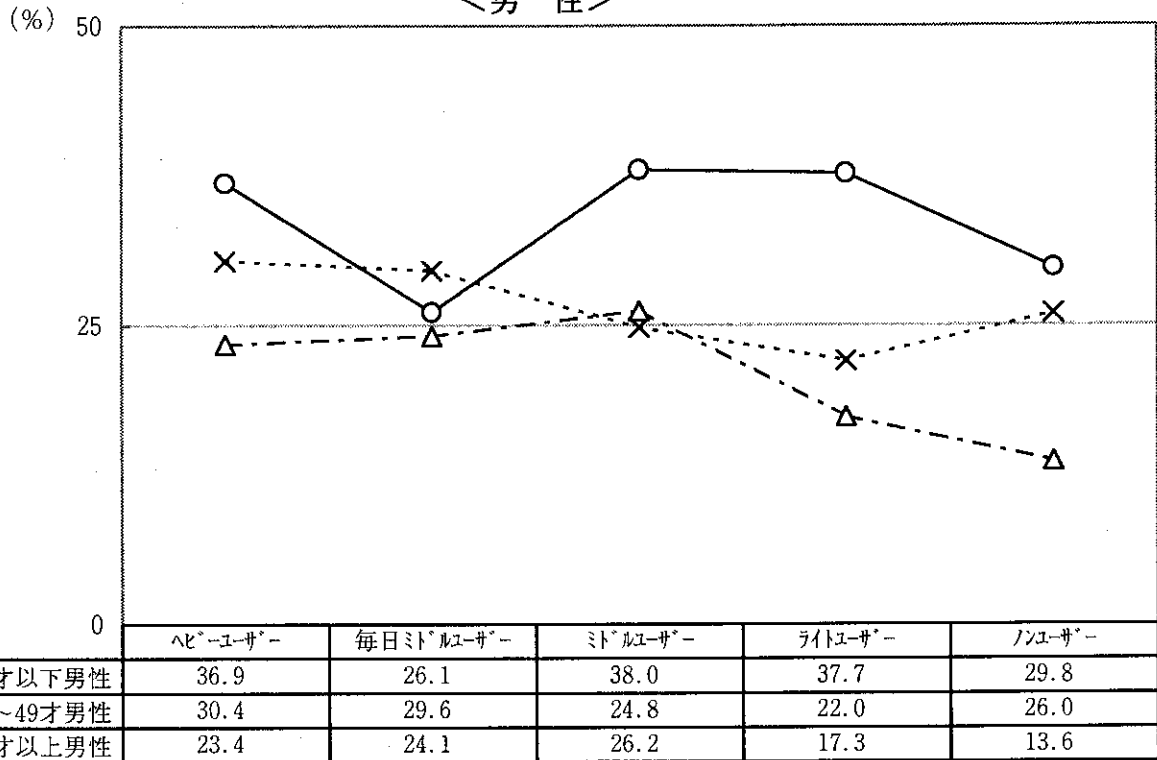


牛乳飲用量別に正解率をみると、牛乳の飲用量が多い人ほど正解率が高い。

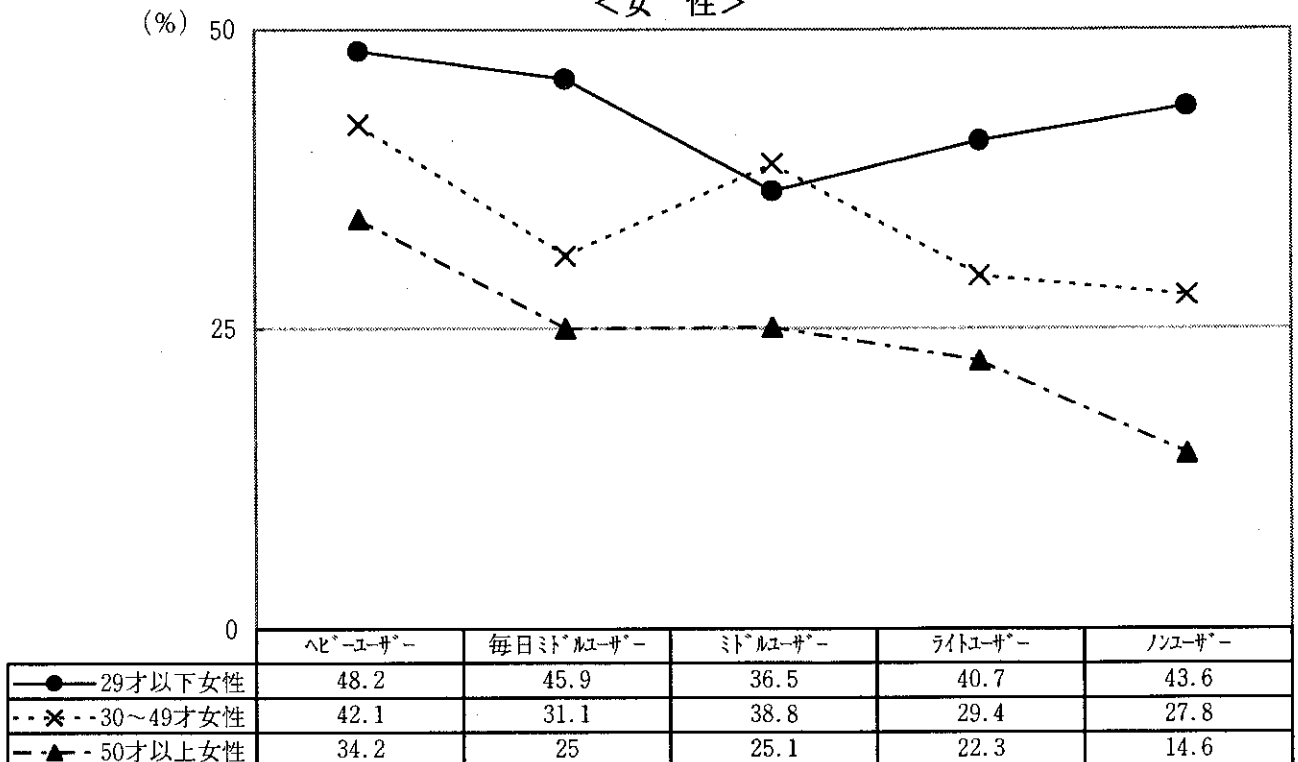
必要なカルシウム量の正解率は、29才以下の女性のヘビーユーザーおよび毎日ミドルユーザーで高い。女性の29才以下は総じて正解率が高いが、若い女性は知識があってもそれが飲用にまでは結びついていない。

図表 Ⅲ-14 性・年齢・牛乳飲用量別 成人の1日のカルシウム必要量 (正解率)

<男 性>



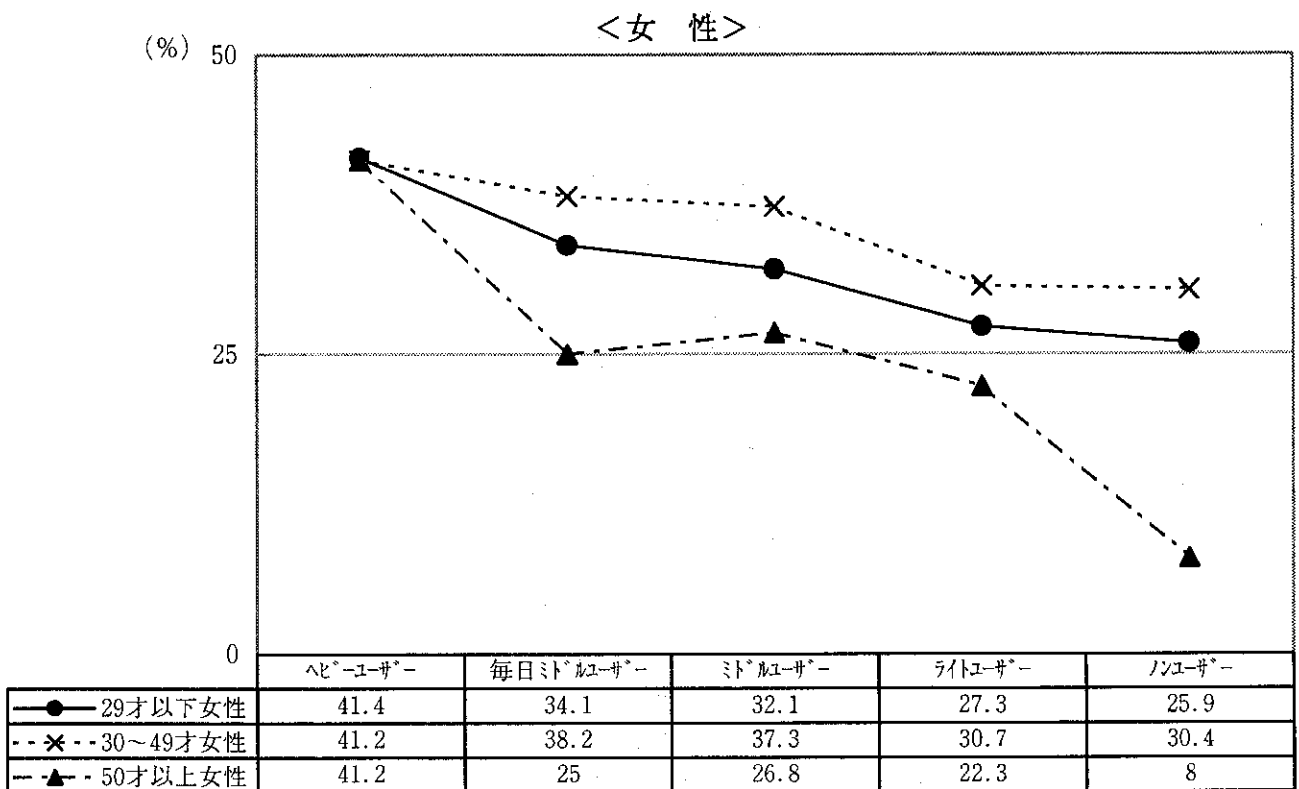
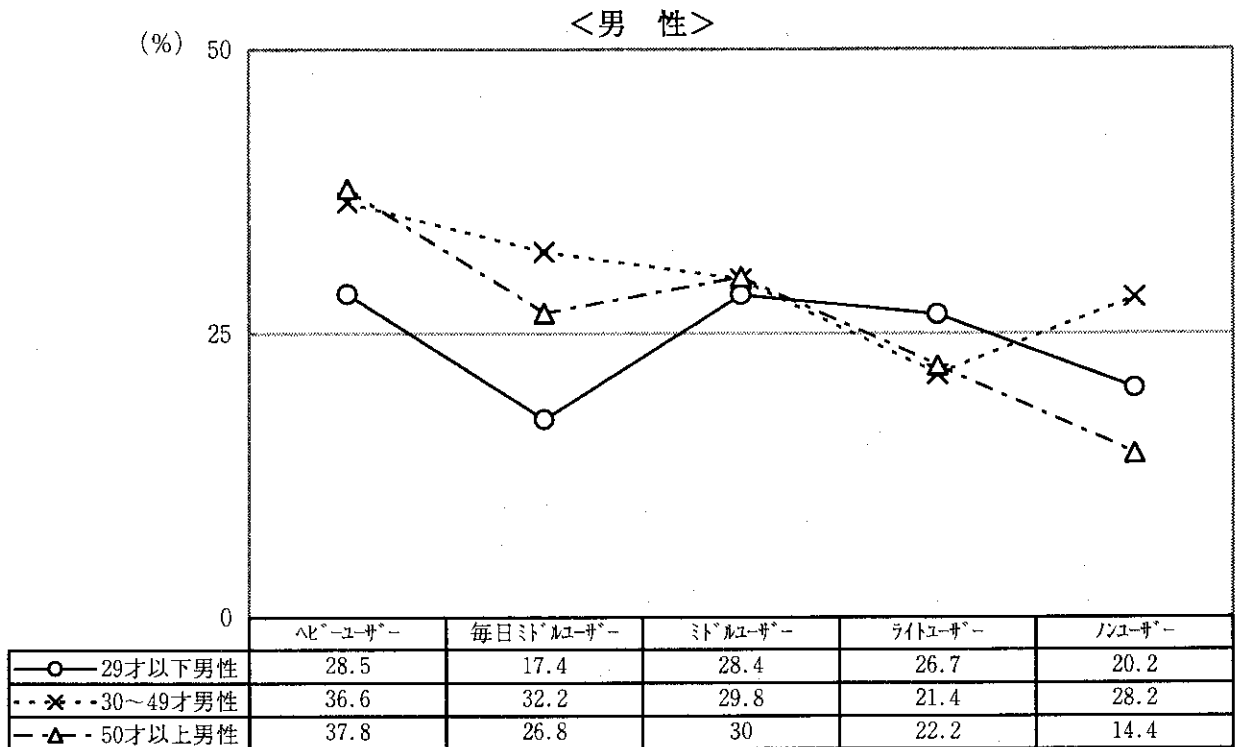
<女 性>



牛乳に含まれるカルシウム量の正解率も牛乳の飲用量と相関がみられる。

年齢を問わず女性のヘビーユーザーで4割と高く、女性はノンユーザーでも知識としてはよく知っている。一方、29才以下の男性では牛乳飲用量を問わず、3割以下と正解率が低い。

図表 Ⅲ-15 性・年齢・牛乳飲用量別 牛乳 200ml に含まれるカルシウム量 (正解率)



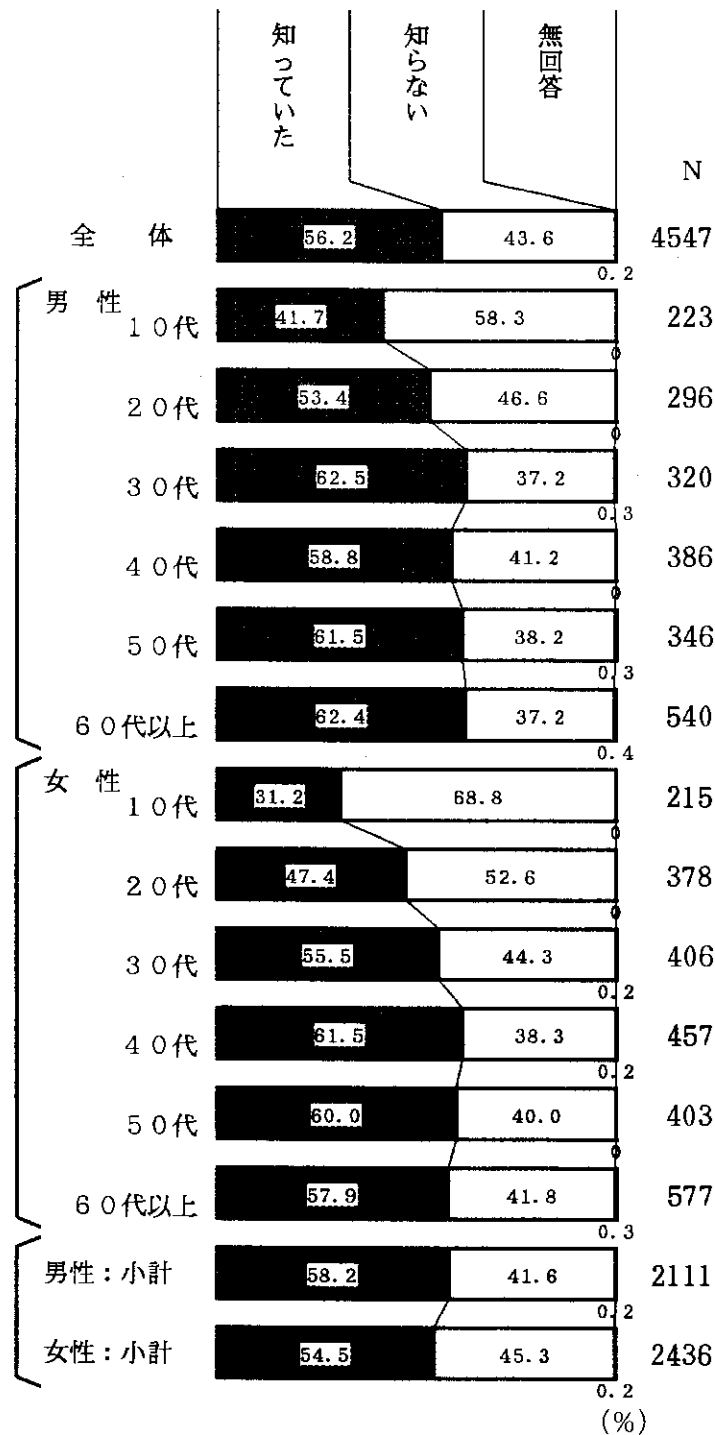
2) 骨に対する認知

(1) 骨が新陳代謝することの認知

本年は、「骨粗しょう症」という言葉の認知を問うかわりに、骨が新陳代謝することを知っていたかどうかを聞いてみた。

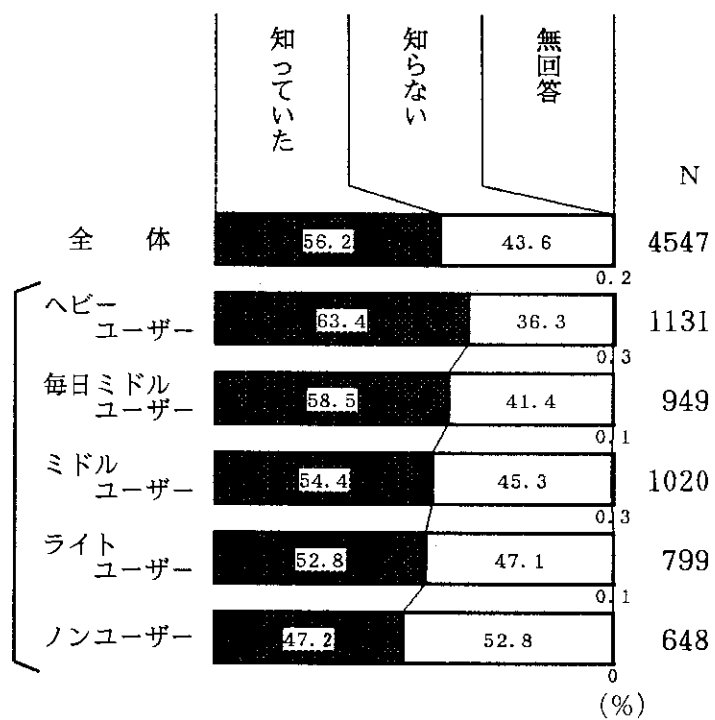
骨が新陳代謝することを知っていた人は、全体の56%で、女性より男性の方がわずかながら認知率が高い。年齢別にみると、10代の女性が31%と最も認知率が低く、男女とも加齢とともに認知率は上昇する。「骨粗しょう症」と同じく、若い世代に「骨の新陳代謝」の理解を深めていくことが必要であろう。

図表 III-16 性・年齢別 骨が新陳代謝することの認知



牛乳の飲用量と「骨の新陳代謝」の認知とは相関がみられ、ヘビーユーザーになるほど認知率が高くなる。

図表 Ⅲ-17 牛乳飲用量別 骨が新陳代謝することの認知



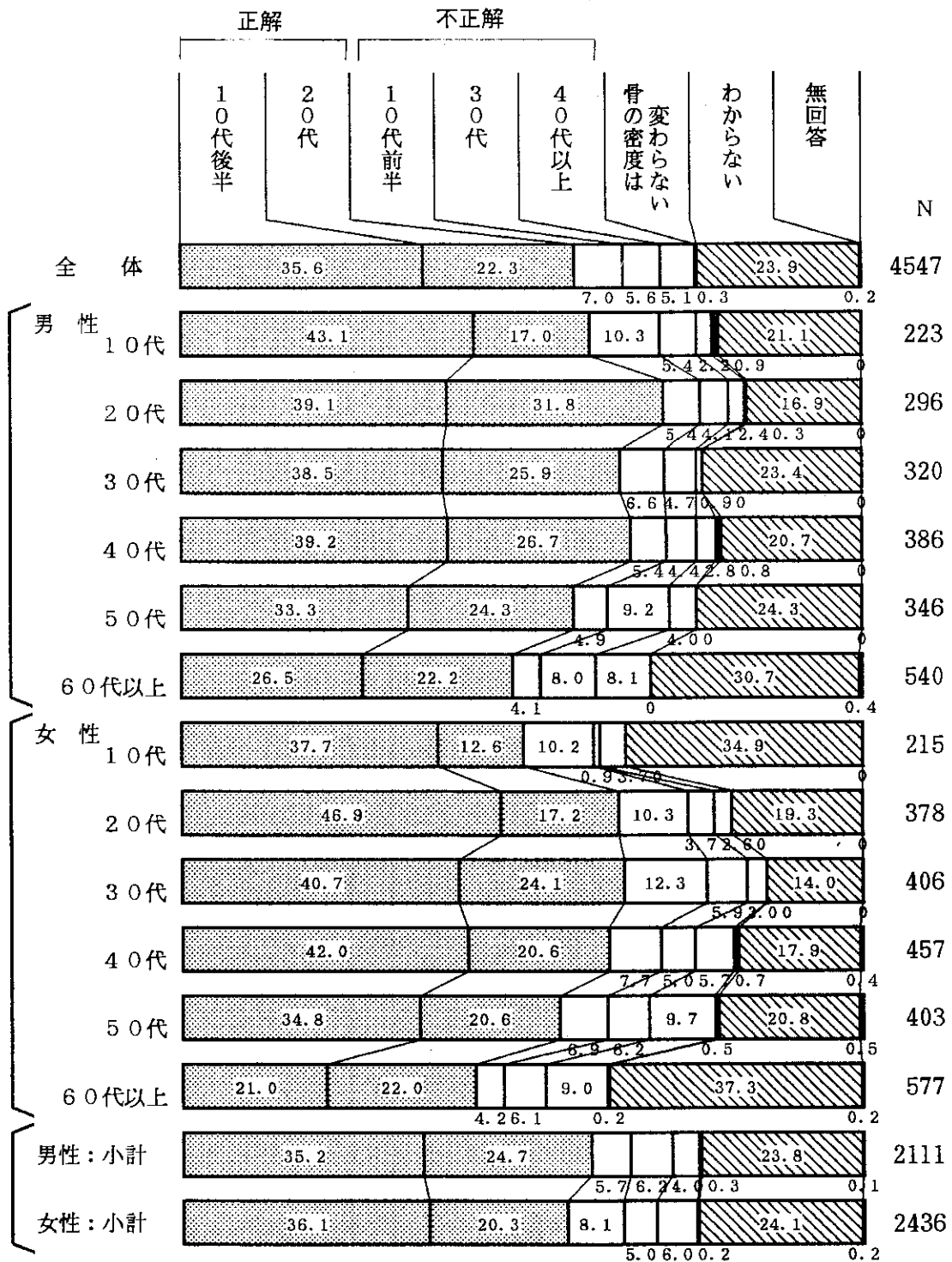
(2)骨密度のピークに関する認知

「骨の密度がピークになるのが何歳の時か知っているか」を聞いてみた。

正解の「10代後半」、「20代」と答えた人は、全体の58%で、男女で見ると男性の方がわずかに正解率が高い。「骨の密度は変わらない」と考えている人はほとんどいないものの、「わからない」と答えた人も全体の2割いた。

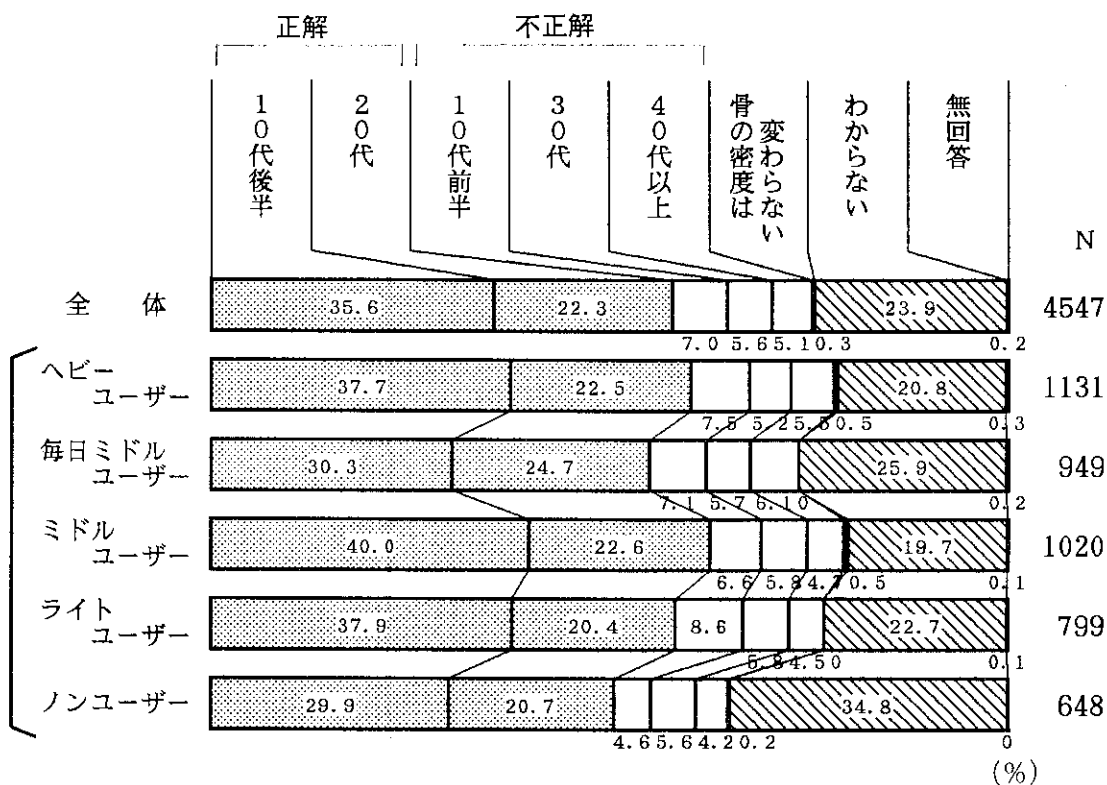
年齢別にみると、男女とも20~40代の層を中心に正解率が高く、「わからない」と答えた人も少ない。正解率が低く、「わからない」人も多かったのが、男女とも60代以上と10代の女性である。

図表 Ⅲ-18 性・年齢別 骨密度のピークに関する認知



牛乳の飲用量別にみると、牛乳のユーザーの中ではあまり違いはみられないが、ノンユーザーは正解率が50%と低く、「わからない」率も35%と高い。

図表 Ⅲ-19 牛乳飲用量別 骨密度のピークに関する認知



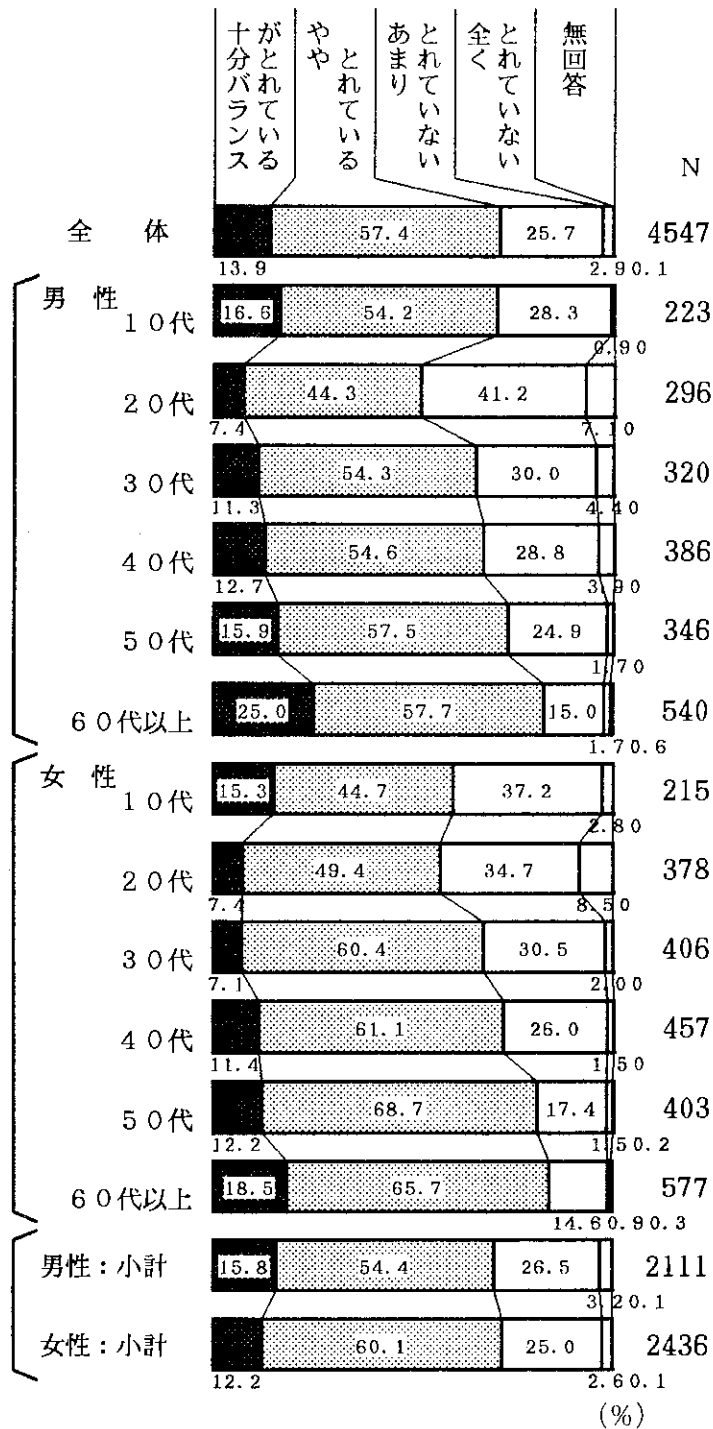
IV 健康意識、健康行動と牛乳

1. 食生活の栄養バランス

「食生活の栄養バランスが全体として十分」かどうかを4段階で聞いた。男女ともに年齢が高くなるほど「やや」も合わせて「バランスがとれている」という回答が多くなっている。

「栄養バランスがとれていない」という自覚が「あまり」と「全く」を合わせて最も多いのは男女とも20代であり、男性48%、女性が34.7%となっている。

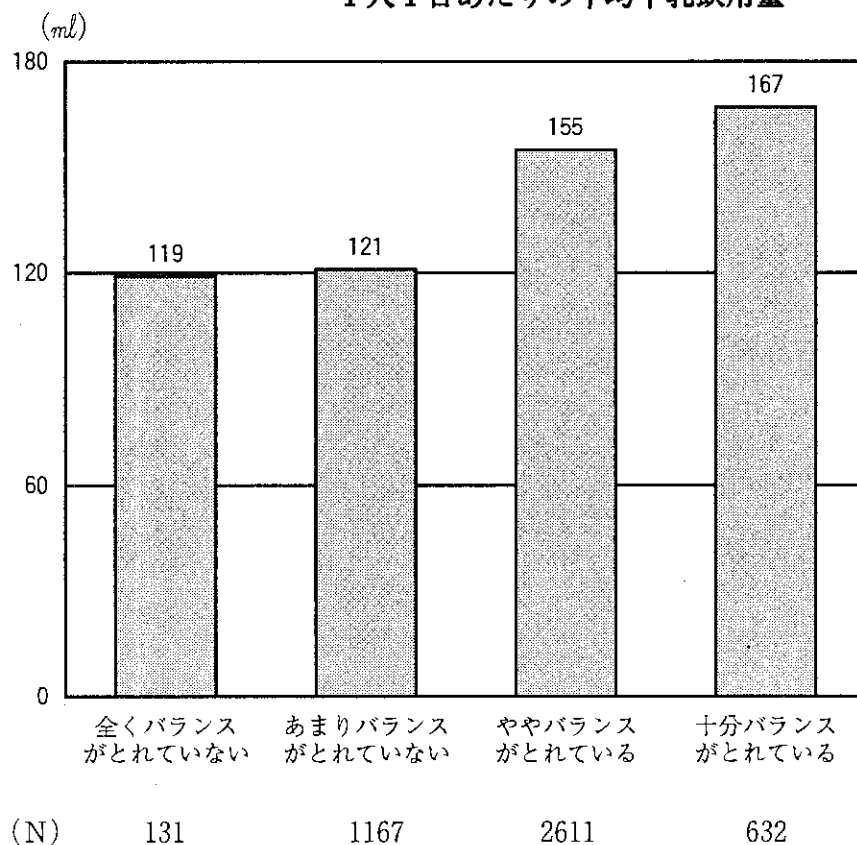
図表 IV - 1 性・年齢別 食生活の栄養バランスの自覚度



牛乳飲用量との関連をみると、「バランスがとれている」という自覚をしている人ほど牛乳の飲用量が多い。

牛乳の飲用量が食生活の栄養バランス意識と連動していることがうかがえる。

図表 IV - 2 食生活の栄養バランスの自覚度別
1人1日あたりの平均牛乳飲用量



2. 現在の健康状態

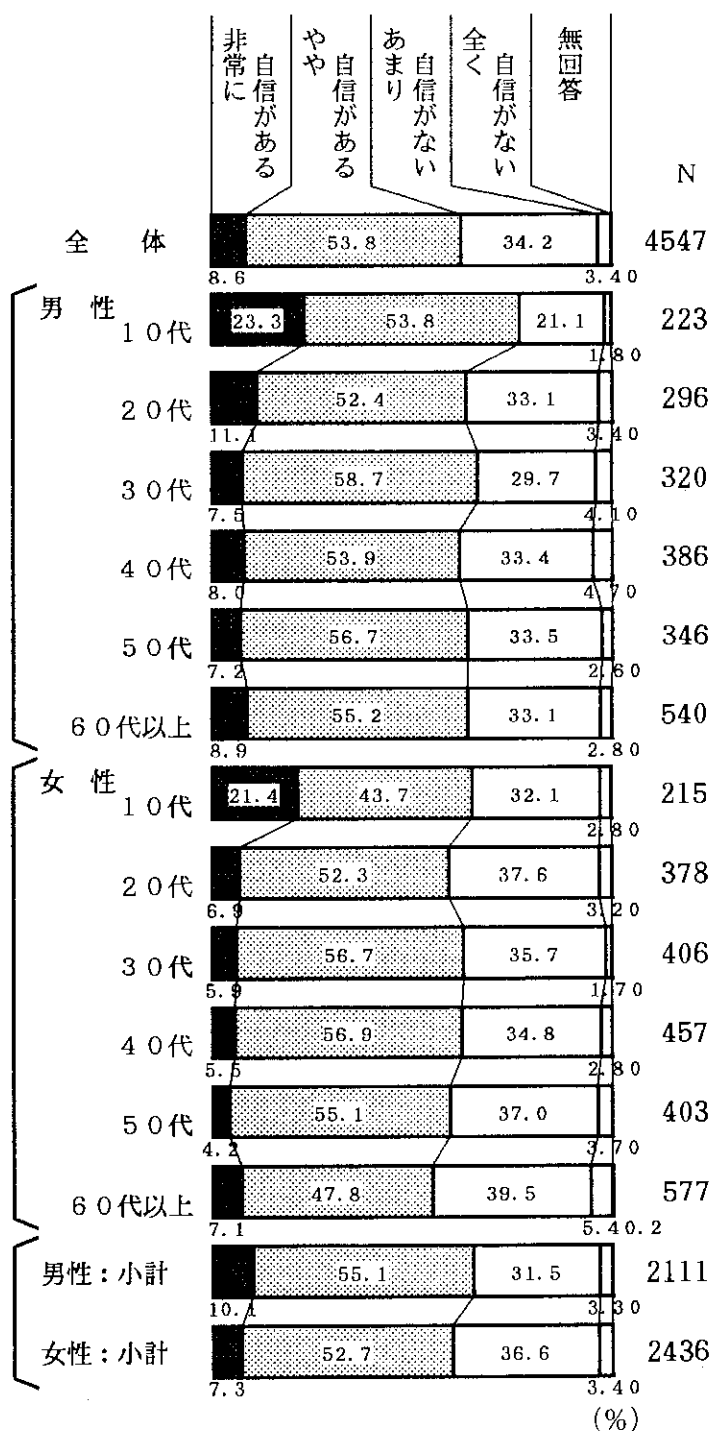
「非常に自信がある」から「全く自信がない」までの4段階で聞いた。

「非常に自信がある」が9%、「やや自信がある」が54%であり、あわせて63%が「自信あり」と回答している。

「自信がない」人は「あまり」と「全く」をあわせて38%である。

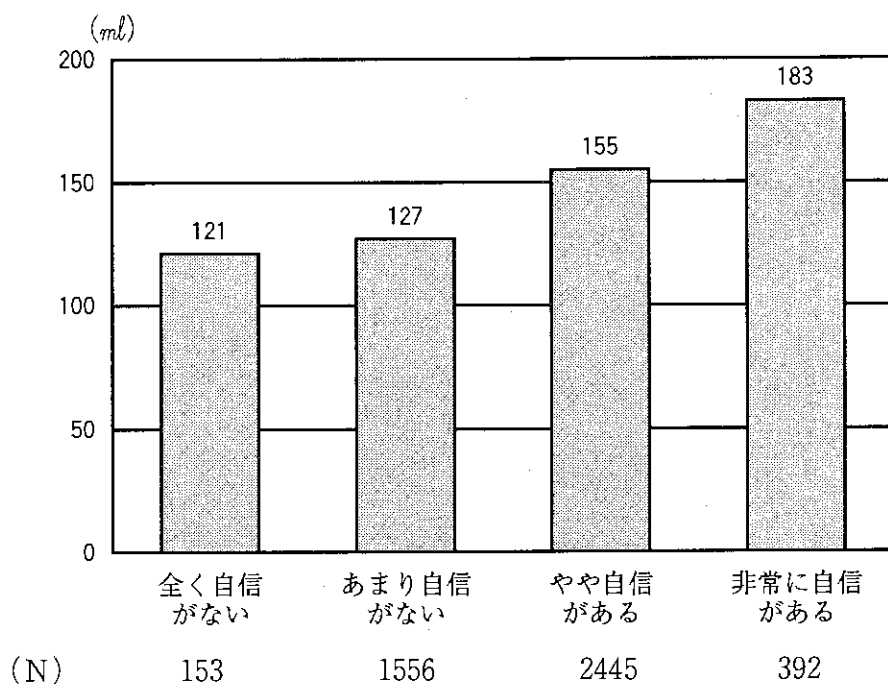
10代の女性は、10代の男性に比べて健康に自信のない人が多い。

図表 IV -3 性・年齢別 現在の健康状態についての自信度



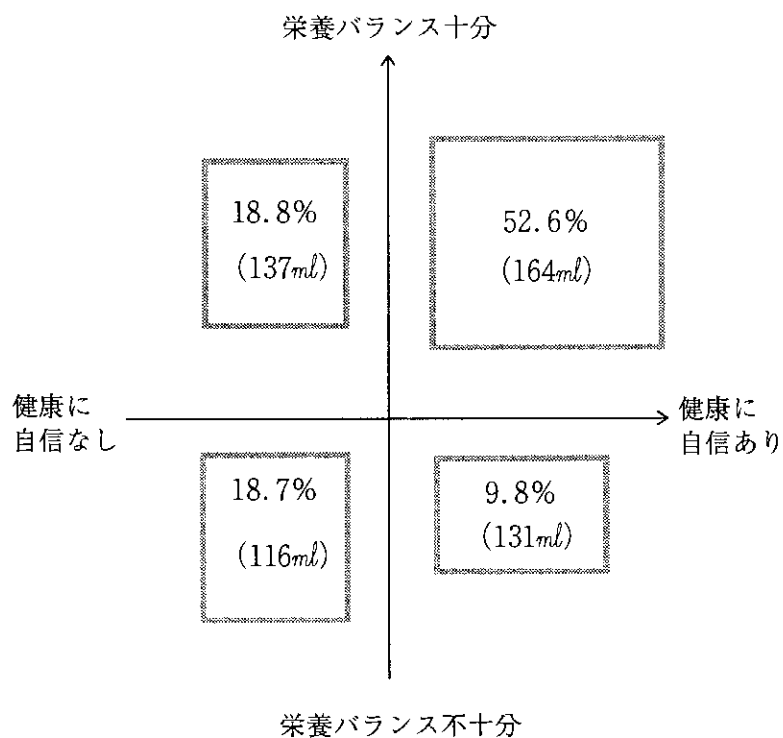
牛乳の飲用量との関連をみると、「自信がある」人の方が飲用量が多く、「自信がない」人の方が飲用量が少ない。

図表 IV - 4 健康自信度別 1人1日あたりの平均牛乳飲用量



「健康への自信」と「食生活の栄養バランスが十分かどうか」の相関関係を分析したところ、次のようなグループ構成になった。

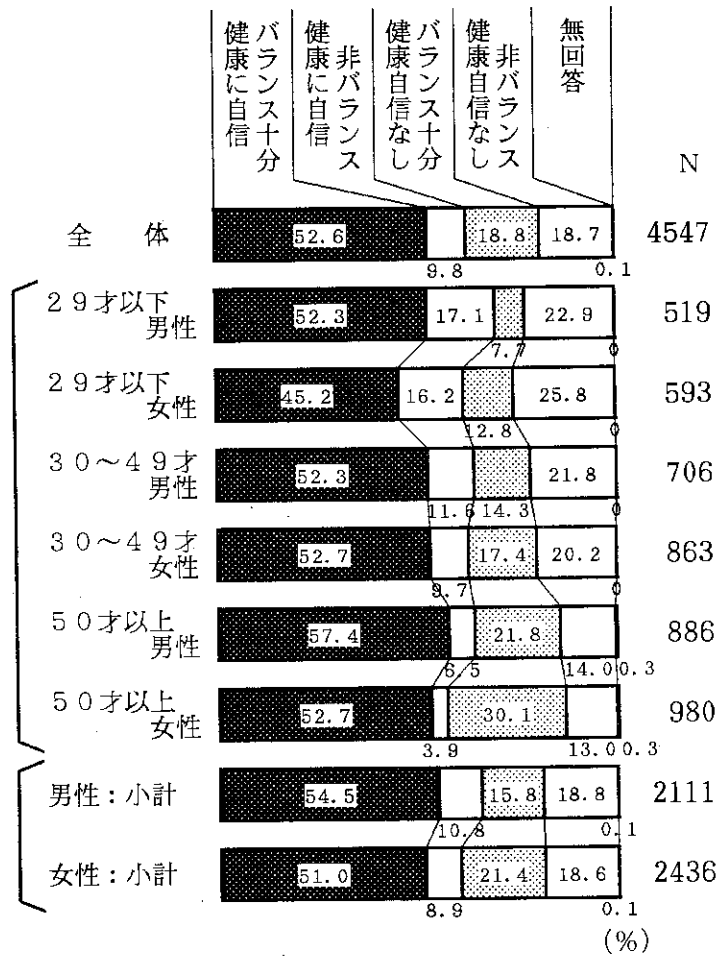
図表 IV - 5 健康自信度と食生活の栄養バランスの自覚度の関係



「健康に自信があり栄養バランスも十分」だとするグループが53%と半数をこえている。このグループの牛乳飲用量が平均164ml(週あたり)と最も多い。「健康に自信がなく栄養バランスが不十分」な層が19%おり、牛乳飲用量も116mlと最も少ない。「健康への自信」や「栄養バランスがとれている」という自覚は牛乳の飲用量と密接に結びついている。

性・年齢別に「健康への自信度」と「栄養バランスのとれた生活をしているか否か」の関連をみると、29才以下の若い男女は「健康に自信がなく、栄養バランスがとれていない」とする人が他の層に比して多い。50才以上になると「バランスは十分だが健康に自信がない」人が逆に多くなっている。

図表 IV - 6 性・年齢別 健康自信度と栄養バランス



3. 健康維持のための配慮

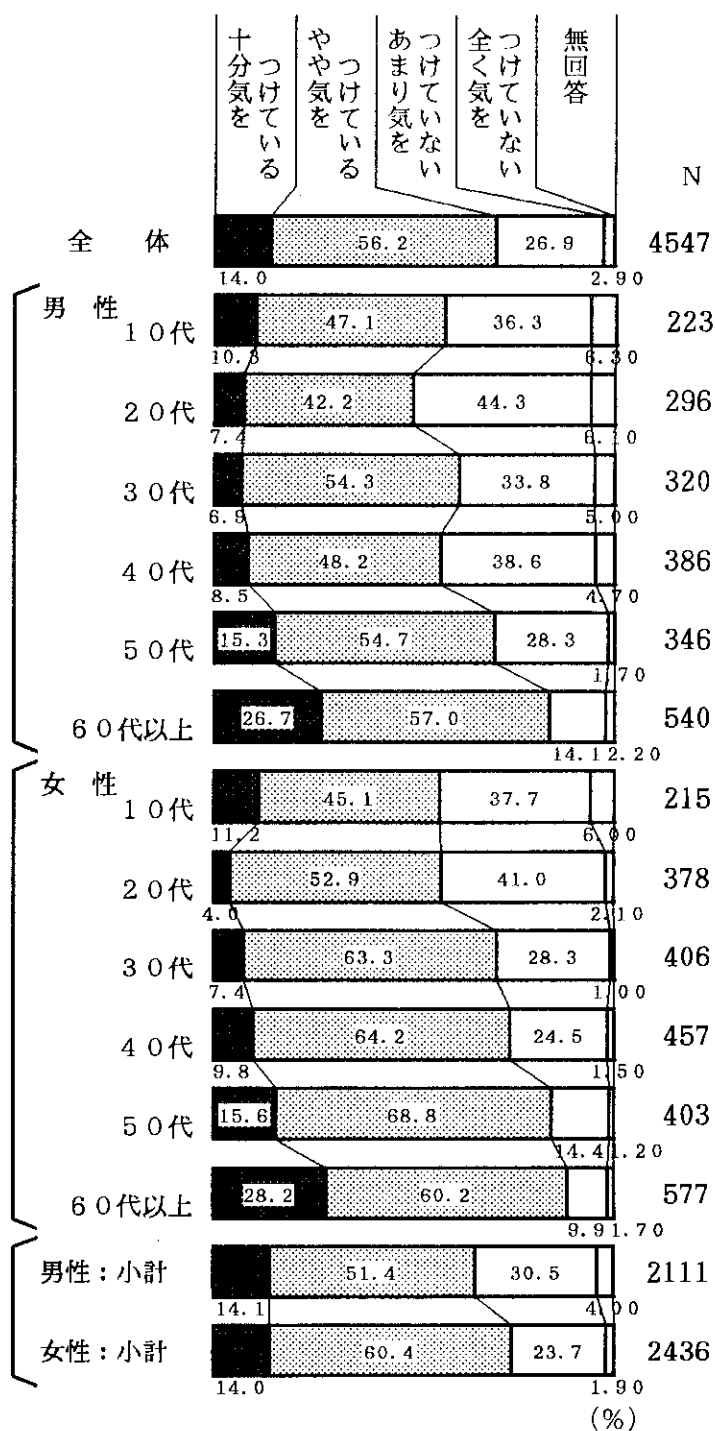
健康のため食生活や運動にどの程度気をつけているか、配慮しているかを4段階で聞いた。

「十分気をつけている」が14%、「やや気をつけている」が56%であわせて70%が「気をつけている」と回答した。

この結果は男女とも明らかな年齢相関があり、若い人ほど「気をつけていない」人が多いのに対し、高齢者ほど「気をつけている」人が多くなっている。

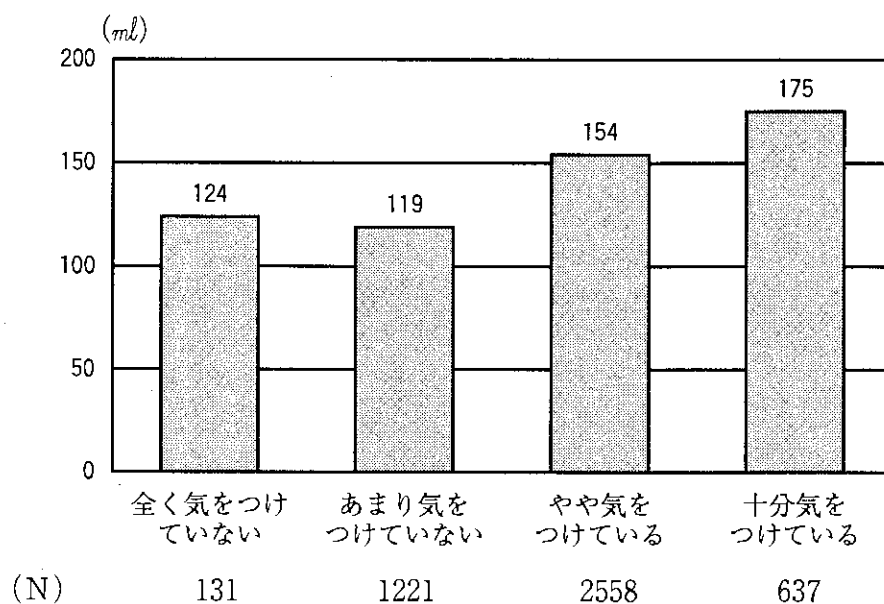
男女を比べると女性の方が気をつけている人が多い。

図表 IV - 7 性・年齢別 健康維持のため食生活や運動等にどの程度気をつけているか



健康への配慮度と牛乳の飲用量はほぼ相関がみられ、十分気を付けている人ほど牛乳の飲用量が多い。

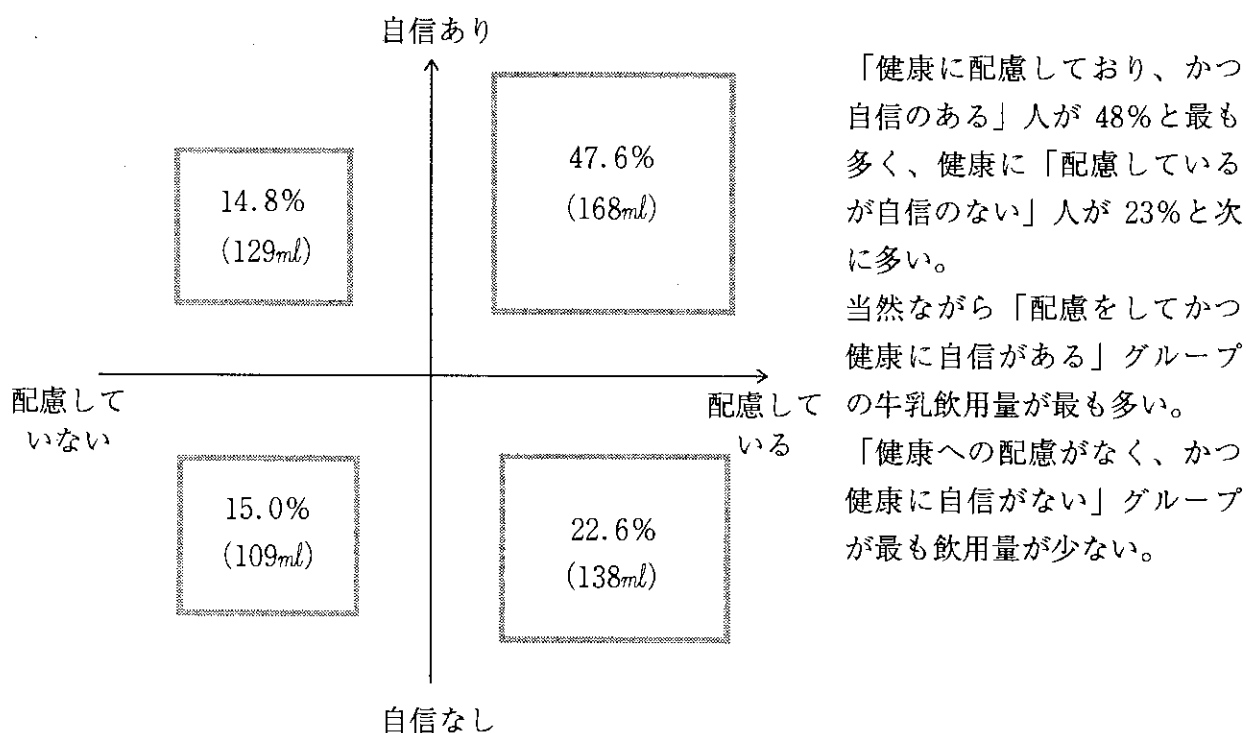
図表 IV - 8 健康への配慮度別 1人1日あたりの平均牛乳飲用量



ただし、「全く気をつけていない」人の平均飲用量の方が「あまり気をつけていない」人よりも多くなっている。これは「全く気をつけていない」人の中に牛乳をよく飲む 10代の若年層が多く含まれていることによる。

健康への配慮の度合いと健康への自信の関連をみてみた。

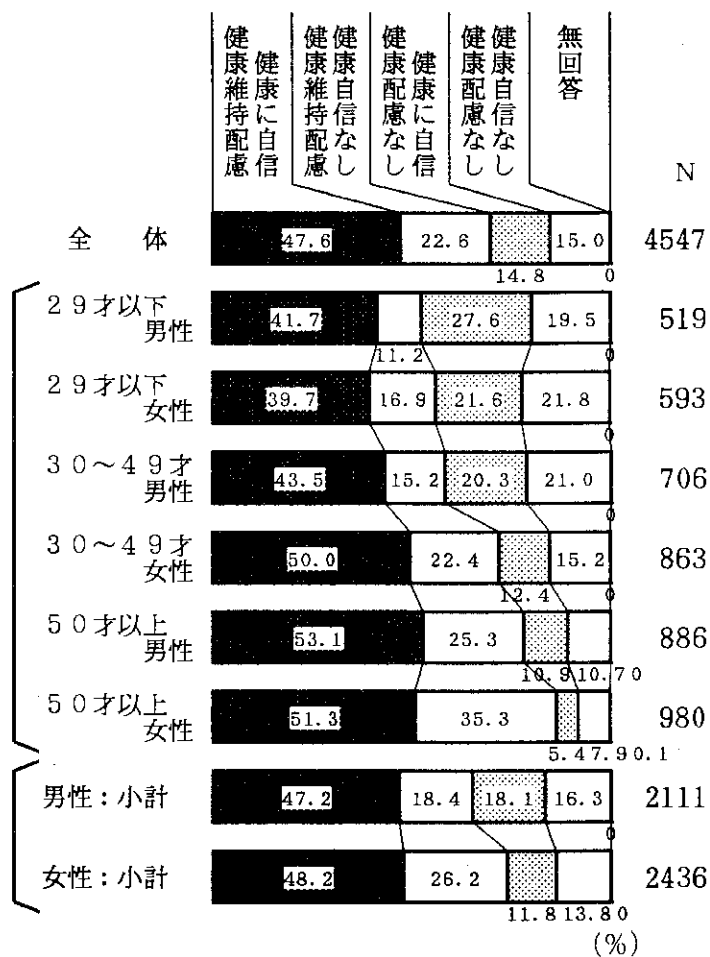
図表 IV - 9 健康への配慮と健康自信度の関係



性・年齢別に構成比をみると、29才以下の若い人は「健康維持に配慮していないが健康に自信がある」人が多いのに対し、年齢が高くなると「健康維持に配慮しているが健康に自信のない」人が増えている。

20代以下の男女の中には「健康に配慮もしていないが、健康に自信もない」人が相対的に多くみられる。

図表 IV -10 性・年齢別 健康への配慮と健康自信度



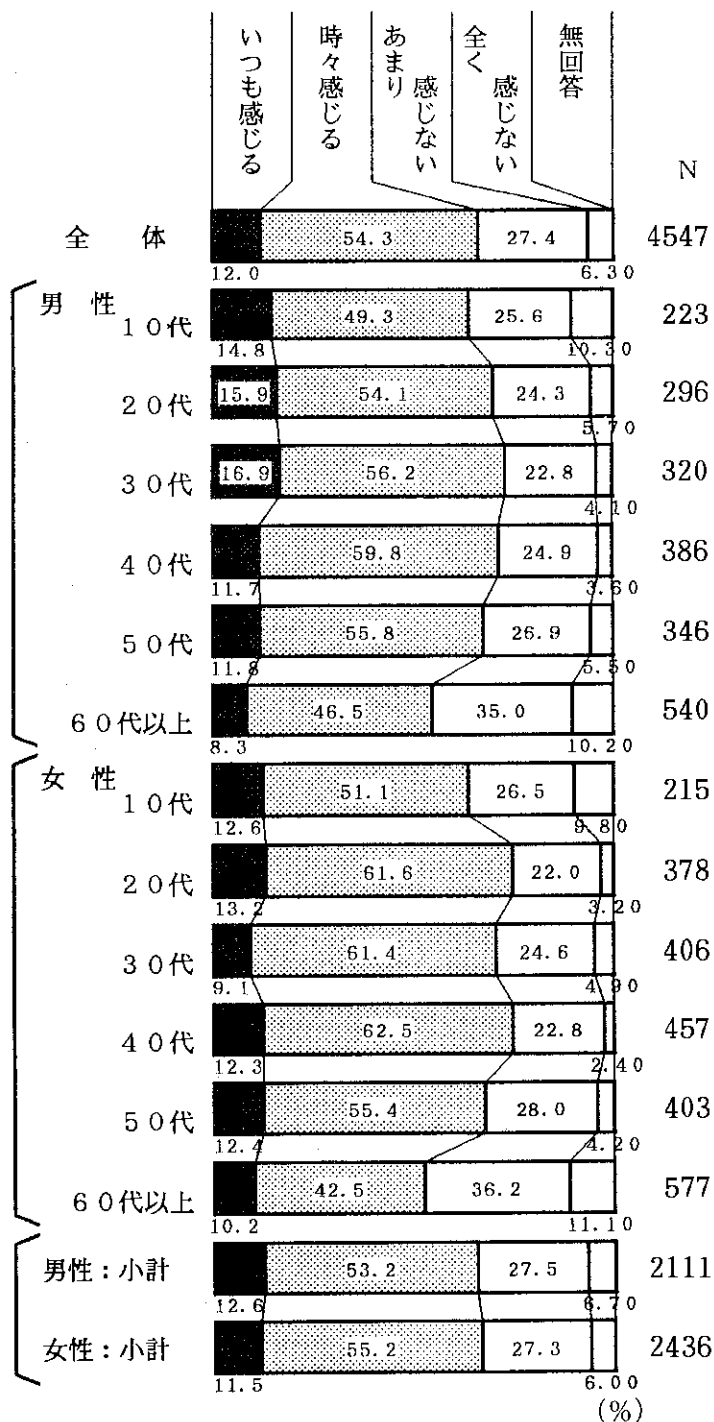
4. 朝起きた時の疲労感

「朝起きた時疲労感が残っているか否か」を「いつも感じる」から「全く感じない」の4段階で聞いた。

「いつも感じる」のは12%であるが、「時々感じる」の54%をあわせると66%と3分の2の人が寝起きに疲労感を覚えている。

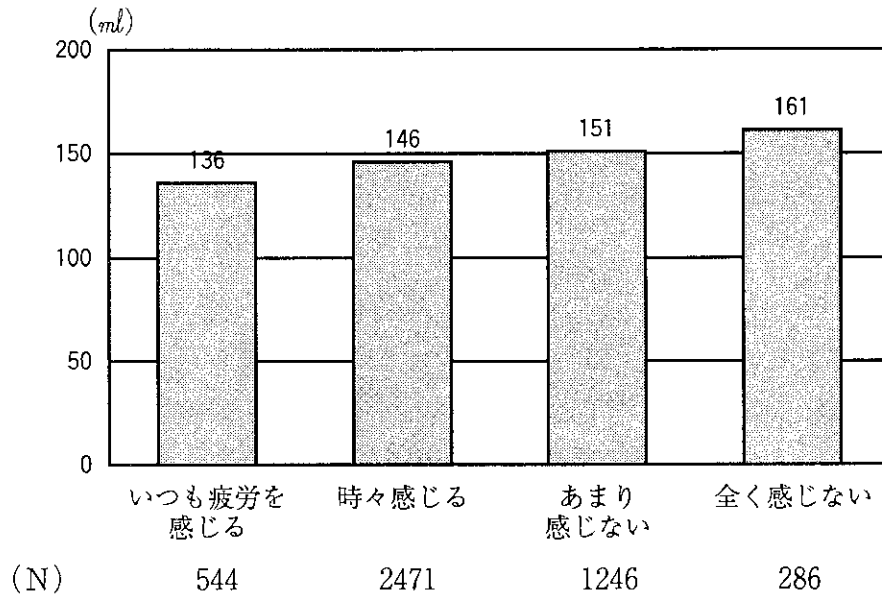
20代から50代の層では男女とも「疲労感を感じる」人が多いが、10代といった若い層でも6割以上の人々が「朝疲労を感じている」のが注目される。

図表 IV -11 性・年齢別 朝起きた時疲労感が残っていると感ずるか



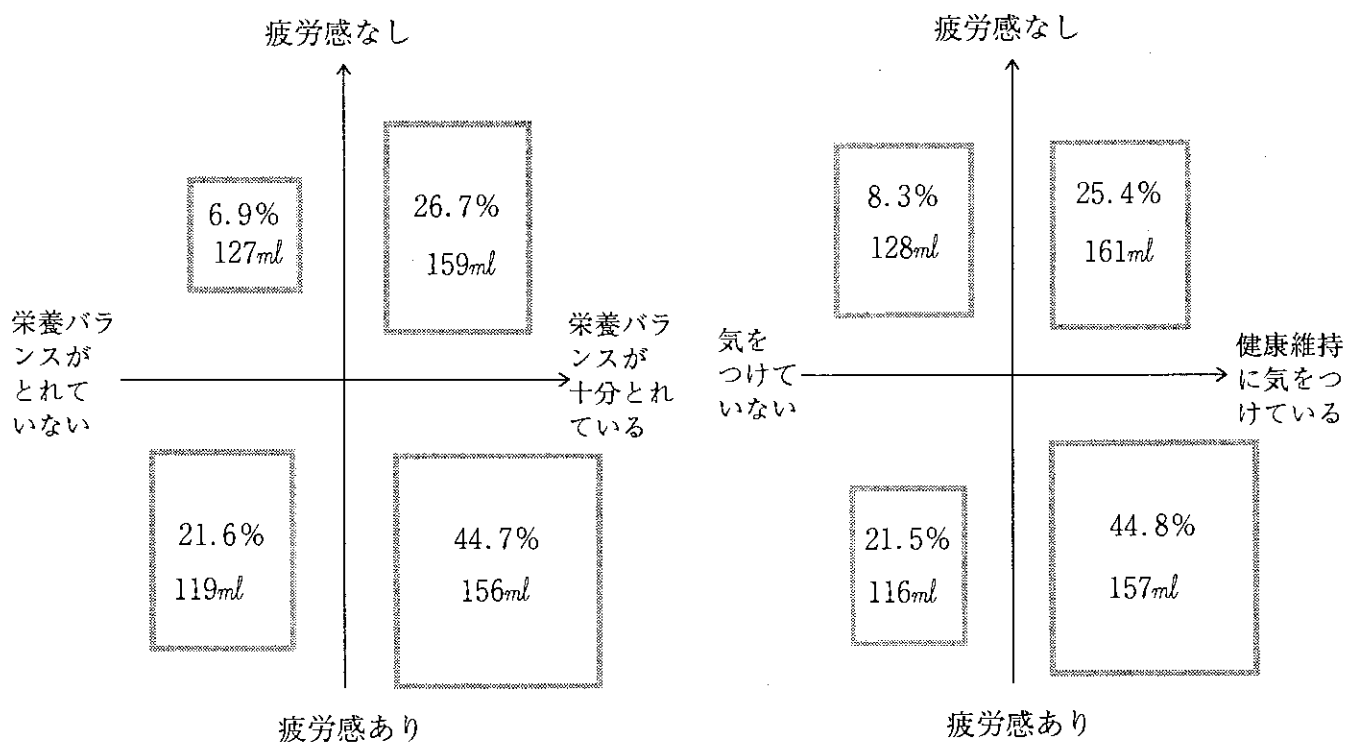
朝の疲労感と牛乳の飲用量の相関をみてみると、「疲労を感じない」人の方がわずかではあるが牛乳の飲用量が多くなっている。

図表 IV -12 朝の疲労感別 1人1日あたりの平均牛乳飲用量



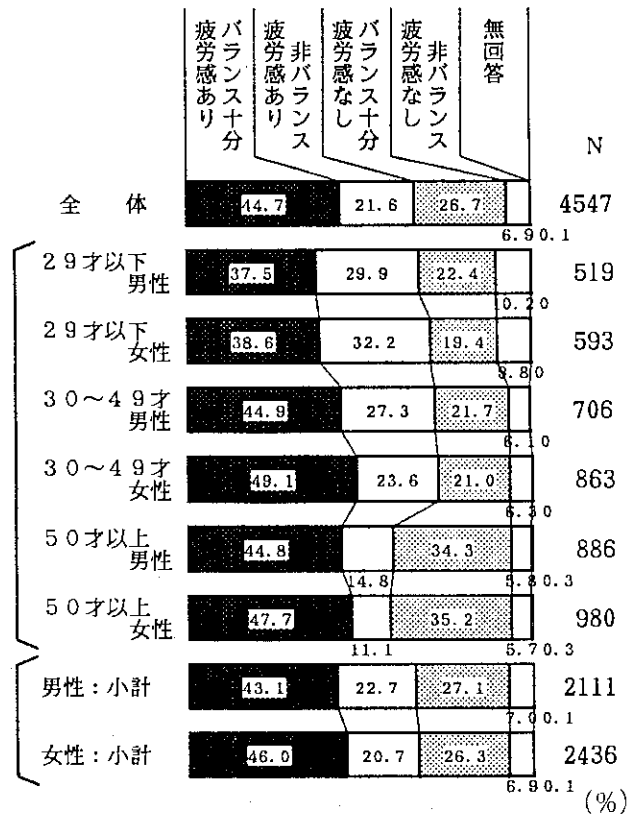
「疲労感の有無」と「栄養バランス」および「健康維持に気をつけているか否か」との関連をみてみた。「健康維持に気を使って」いたり、「栄養バランスに気を使って」いる人でも朝疲労感のある人がいずれも45%と多くおり、健康への配慮にも関わらず朝の疲労感を覚える人が多いことが明らかになった。それぞれのグループの牛乳の飲用量に着目すると、疲労感のないグループの方が牛乳の飲用量はわずかながら多いようだ。

図表 IV -13 栄養バランス/健康への配慮と疲労感の関係



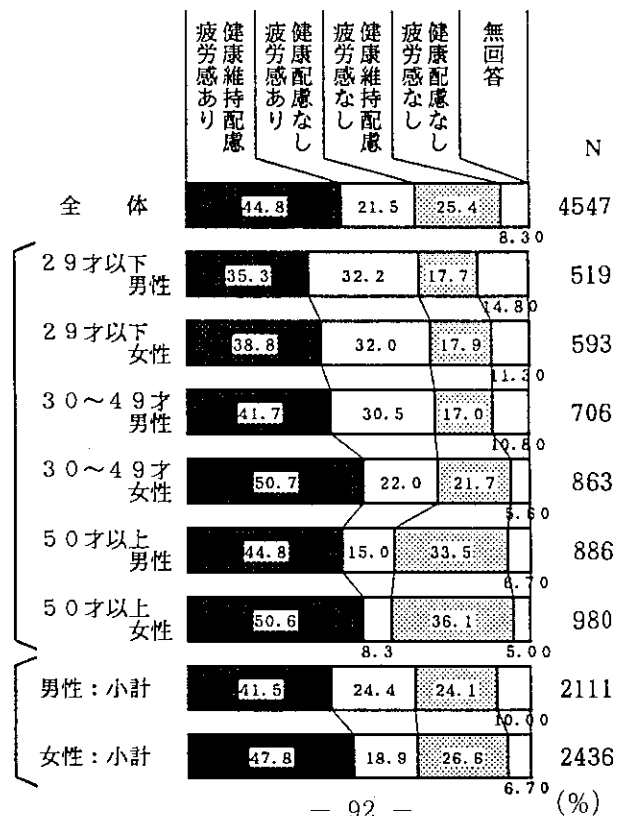
性・年齢別に構成比をみると「疲労感があり栄養バランスの悪い」グループは 29 才以下の若い世代に多く、「疲労感がなく栄養バランスの十分」なグループは 50 才以上の男女に多い。

図表 IV -14 性・年齢別 疲労感と栄養バランス



性・年齢別に疲労感と健康維持配慮の関連をみると、「健康配慮がなく疲労感のある」グループが若い世代に多いのに対し、高齢層は「健康配慮があり疲労感のない」グループが多くなっている。

図表 IV -15 性・年齢別 疲労感と健康への配慮

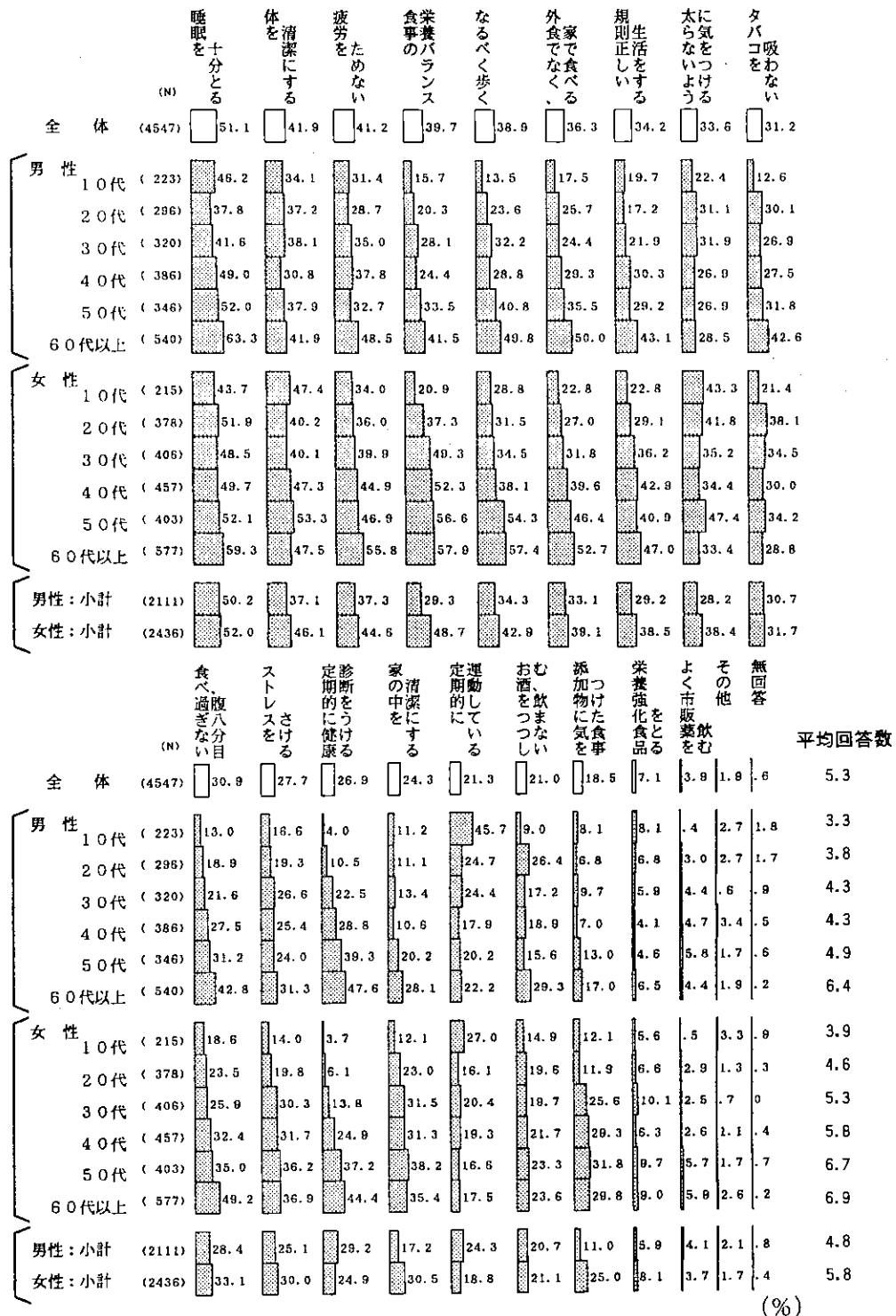


5. 健康のために積極的に行っている具体的な行動

「睡眠を十分とる」51%が1位、2位以下に「体を清潔にする」42%、「疲労をためない」41%、「食事の栄養バランス」40%、「なるべく歩く」39%などが続いている。

食関連に注目すると「食事の栄養バランスに気をつけている」40%、「外食ではなく、なるべく家で食べる」36%、「太らないように気をつける」34%、「食べ過ぎない、腹八分目をこころがける」31%などが上位項目である。「添加物に気をつけた食事をとる」19%、「栄養強化食品をとる」7%などは相対的にみると順位は低い。男性より女性が、若年層より年齢の高い層で、食関連の健康行動はより積極的である。

図表 IV -16 性・年齢別 健康のためにふだん行っていること (MA)



(%)

牛乳の飲用量との関連をみると、ヘビーユーザーほど健康行動に積極性がみられている。特に「食事の栄養バランスに気をつける」「外食でなく家で食べる」「太らないように気をつける」「添加物に気をつけた食事」など食関連の項目での積極性が顕著である。

図表 IV -17 牛乳飲用量別 健康のためにふだん積極的に行っていること (MA)

	全 体	睡眠を 十分とる	体を 清潔にする	疲労を ためない	食事の 栄養 バランス	なるべく歩く	家で食べる 外食でなく、	生活をする 規則正しい	に気をつける 太らないよう	タバコを 吸わない	食へ 腹八分目 過ぎない
全 体	4,547 100.0	51.1	41.9	41.2	39.7	38.9	36.3	34.2	33.6	31.2	30.9
ヘビー ユーザー	1,131 100.0	52.7	48.6	44.3	50.4	45.7	41.6	40.6	38.7	34.6	33.3
毎日ミドル ユーザー	949 100.0	53.3	43.0	41.2	46.3	41.5	40.8	41.7	34.4	34.2	35.7
ミドル ユーザー	1,020 100.0	50.5	39.3	40.9	38.4	37.7	33.9	29.4	35.2	31.4	28.2
ライト ユーザー	799 100.0	45.9	39.0	39.3	28.8	34.0	32.4	27.8	31.4	26.9	28.5
ノンユーザー	648 100.0	52.6	36.3	38.9	27.0	31.0	29.2	27.3	24.1	26.1	26.9

	全 体	ストレスを さける	診断をつける 定期的に健康	家の中を 清潔にする	運動している 定期的に	おむ、飲まない お酒をつつし	添加物に気を つけた食事	栄養強化食品 をとる	よく市販薬を 飲む	その他	無回答
全 体	4,547 100.0	27.7	26.9	24.3	21.3	21.0	18.5	7.1	3.9	1.9	0.6
ヘビー ユーザー	1,131 100.0	32.4	30.4	29.3	27.5	25.0	22.9	7.3	3.1	1.7	0.3
毎日ミドル ユーザー	949 100.0	29.5	31.7	28.1	22.8	21.2	20.3	8.2	4.3	1.3	0.6
ミドル ユーザー	1,020 100.0	26.6	24.1	21.3	22.1	19.4	18.3	7.2	3.8	1.2	0.8
ライト ユーザー	799 100.0	24.7	23.2	21.2	16.5	18.6	14.6	6.0	4.3	2.3	0.5
ノンユーザー	648 100.0	22.7	22.7	18.8	13.3	18.8	13.3	6.3	4.3	4.0	0.8

(%)

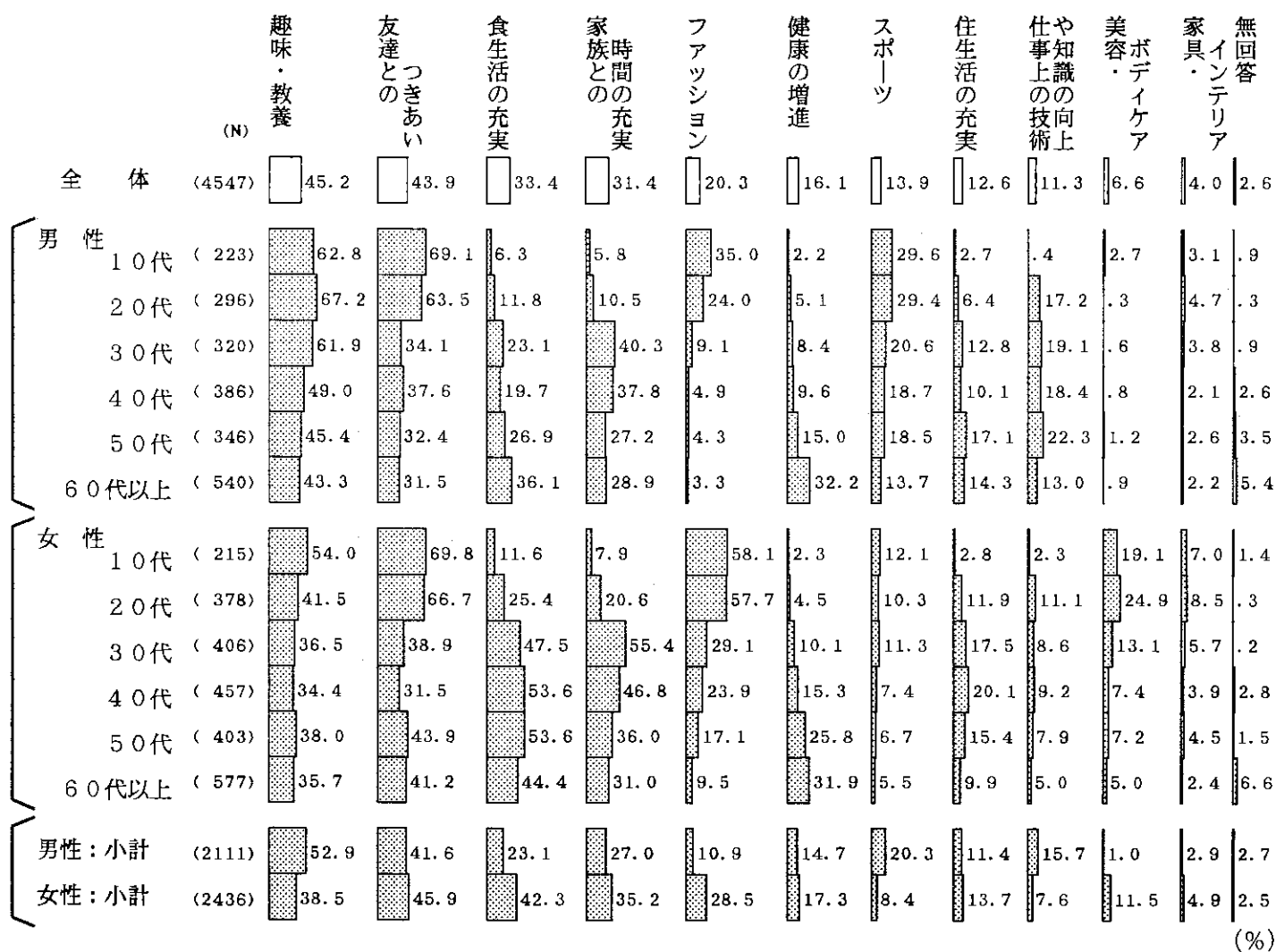
6. 健康の増進のためにお金や時間を使っているもの

ふだんどういうものにお金や時間を使っているか。意識して使っているものをいくつかあげてもらった結果が下図である。

20代までは「友だちとのつきあい」「ファッション」が優先するが、30代になると「家族との時間の充実」がピークに達し、50代になると健康への関心が深まる。趣味・教養への関心はどの層でも高い。

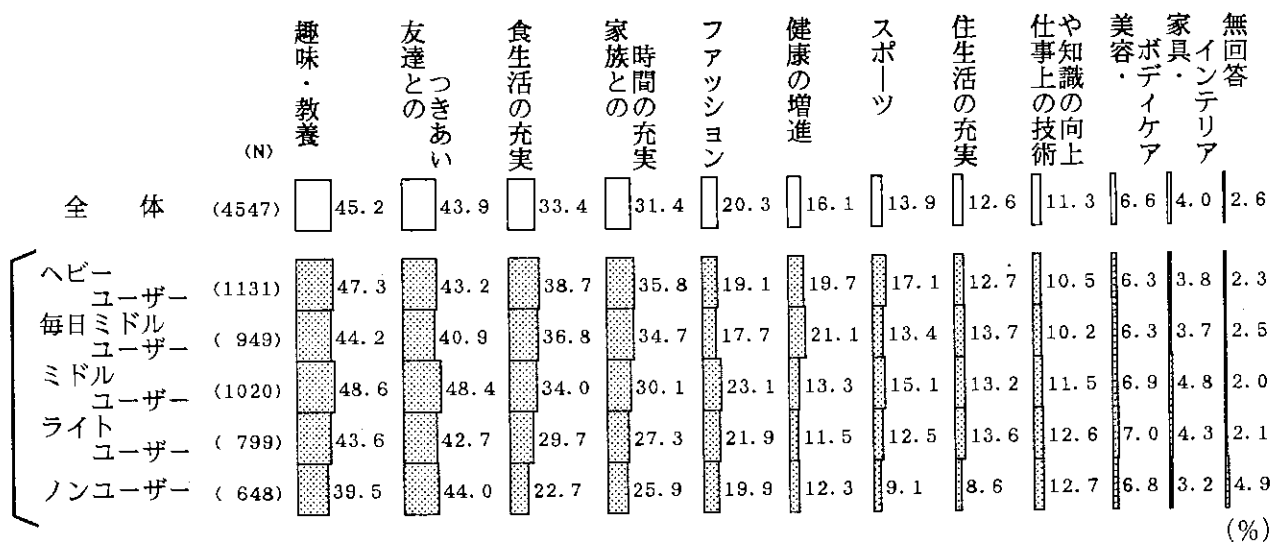
「健康の増進」に意識してお金や時間を使っている人は16%であり、年齢の高い人に多い。女性は40代から健康にお金や時間を使い始めるのに対し、男性は50代以上で健康にお金や時間を使い始めるという差がみられる。

図表 IV -18 性・年齢別 ふだんお金や時間を使っているもの (MA)



牛乳の飲用量との関連をみると、「健康の増進」、「食生活の充実」、「家族との時間の充実」にお金や時間を使う傾向はヘビーユーザーほど多くなっており、ライトユーザーやノンユーザーでは少ない。

図表 IV -19 牛乳飲用量別 ふだんお金や時間を使っているもの (MA)



V 牛乳の購入実態

1. 牛乳全体の購入頻度と購入量

本章の回答者は調査対象世帯の主婦（または主婦役割担当者）である。単身世帯では本人が回答している。

牛乳を「毎日」購入する世帯は 26%、「週に 2～3 回」購入する世帯は 50%となり、その割合は 1996 年とほぼ同じである。月あたりの平均購入回数は、13.3 回であり、1995 年からの 3 年間は約 13 回に安定している。また、週に 1 回にみえない頻度の世帯は、1996 年同様 1 割に満たない。

時系列でみると、「週に 1～3 回」購入する世帯が増加し、「毎日」購入する世帯が減少している。

図表 V -1 牛乳の購入頻度

	毎日	週に 2～3 回位	週に 1 回位	2 週間に 1 回位	月に 1 回位	ほとんど 買わない	無回答	N	平均 (回/月)		
1997年	25.5		49.5			14.6	3.4	4.9	0.3	4547	13.3
							1.7				
1996年	24.5		48.4			16.7	3.5	4.6	0.4	4706	13.0
							1.9				
1995年	26.3		47			15.7	3.1	4.9	0.7	4668	13.4
							2.3				
1994年	31.7		44.3			14.5	2.5	5.1	0.3	4617	14.6
							1.6				
1993年	29.2		46.3			15.3	2.5	4.2	0.7	4553	14.2
							1.8				
1992年	29.3		45.3			14.9	3.3	4.6	1.0	4651	14.2
							1.6				
1991年	31.7		44.8			14.3	2.8	3.9	0.6	4714	14.7
							1.8				
1990年	33.6		44.4			13.2	2.9	3.5	0.7	4691	15.2
							1.8				
1989年	31.9		43.9			12.9	3.0	5.2	1.0	4579	14.7
							2.1				
1988年	32.3		43.1			13.0	3.6	5.5	0.5	4604	15.1
							2.0				

1世帯1週間あたりの購入量は、平均3.6リットルである。時系列で見ると、あまり変わらない。

図表 V -2 1週間あたりの牛乳購入量

	買わない	2 l 未満	4 l 未満	8 l 未満	8 l 以上	無回答	N	平均 (l)
1997年	4.9	18.8	40.7	27.1	7.8	0.8	4547	3.6
1996年	4.6	21.2	39.9	24.9	8.2	1.2	4706	3.5
1995年	4.9	20.6	38.4	25.9	8.6	1.5	4668	3.6
1994年	5.1	18.3	38.2	27.2	9.9	1.3	4617	3.8
1993年	4.2	19.4	39.5	26.9	7.9	2.1	4553	3.6
1992年	4.6	20.6	37.3	27.2	8.0	2.4	4651	3.6
1991年	3.9	21.2	38.0	27.5	7.4	1.9	4714	3.6
1990年	3.5	17.1	39.6	28.6	9.1	2.2	4691	3.9
1989年	5.2	19.7	38.7	26.7	7.2	2.5	4579	3.6
1988年	5.5	20.4	39.5	25.6	7.6	1.4	4604	3.6

7.6
(%)

主婦職業・年齢別に購入頻度の平均値をみると、専業、有職を問わず、30代以下の主婦が低く、1週間あたりの購入量は、専業、有職とも60代以上の主婦の世帯でやや低い。時系列でみてもこの傾向は変わらない。

図表 V -3 主婦職業・年齢別 1世帯あたりの平均牛乳購入頻度 (平均値)

	全 体	専業主婦					有職主婦				
		~29才	30代	40代	50代	60代 以上	~29才	30代	40代	50代	60代 以上
1997年	13.3	12.6		14.6	13.7	13.9	12.9		14.0	13.5	13.8
1996年	13.0	12.7		13.9	13.7	12.7	12.7		13.8	13.5	12.7
1995年	13.4	12.2		13.6	14.1	14.1	13.5		13.9	13.8	12.8
1994年	14.6	14.4	14.7	15.7	15.0		12.0	15.7	15.4	14.2	
1993年	14.2	12.7	14.7	15.2	14.2		10.1	14.2	14.7	14.2	
1992年	14.2	11.6	15.4	15.5	14.5		10.5	14.6	14.7	13.9	
1991年	14.7	13.3	15.3	15.7	14.4		11.3	15.3	15.6	15.5	
1990年	15.2	15.1	15.8	15.2	15.4		13.0	16.4	16.0	14.6	
1989年	14.7	15.1	16.0	15.1	14.8		12.3	15.2	15.1	14.3	
1988年	15.1	15.1	16.2	15.8	14.6		13.9	16.7	15.4	15.2	
1987年	14.3	14.3	15.5	15.5	13.8		11.8	15.6	14.8	13.6	

(回/月)

図表 V -4 主婦職業・年齢別 1世帯1週間あたりの平均牛乳購入量 (平均値)

	全 体	専業主婦					有職主婦				
		~29才	30代	40代	50代	60代 以上	~29才	30代	40代	50代	60代 以上
1997年	3.6	3.8		4.4	3.5	3.0	3.9		4.2	3.5	3.2
1996年	3.5	3.8		4.4	3.3	2.8	3.7		4.2	3.4	3.0
1995年	3.6	3.9		4.4	3.4	2.9	4.0		4.1	3.3	3.1
1994年	3.8	3.6	4.5	4.7	3.3		3.0	4.3	4.3	3.6	
1993年	3.6	3.3	4.3	4.2	3.1		2.6	3.9	4.1	3.3	
1992年	3.6	3.4	4.5	4.3	3.2		2.6	4.1	3.9	3.2	
1991年	3.6	3.4	4.2	4.2	3.2		2.7	4.0	4.1	3.3	
1990年	3.9	3.6	4.7	4.1	3.4		2.9	4.2	4.4	3.3	
1989年	3.6	3.8	4.2	4.0	3.1		2.7	4.0	3.7	3.3	
1988年	3.6	3.6	4.2	4.2	2.9		2.7	4.2	3.8	3.1	
1987年	4.0	4.2	4.7	4.8	3.4		2.6	4.9	4.2	3.4	

(ℓ / 週)

家族構成別にみると、購入頻度・購入量とも家族人数が多いほど多くなり、時系列でもまったく変化はみられない。

図表 V -5 家族構成別 1世帯あたりの平均牛乳購入頻度 (平均値)

	全 体	単身・他	夫婦2人	4人以内	5人以上
1997年	13.3	7.2	11.9	13.1	15.9
1996年	13.0	7.5	10.4	12.8	15.6
1995年	13.4	8.3	11.5	12.9	15.9
1994年	14.6	7.3	12.3	14.3	17.5
1993年	14.2	10.5	12.1	13.6	16.6
1992年	14.2	7.5	11.9	13.7	16.9
1991年	14.7	8.6	12.2	14.4	17.2
1990年	15.2	9.2	13.3	14.3	18.1
1989年	14.7	8.5	13.1	14.0	17.1
1988年	15.1	8.1	12.3	14.3	17.9
1987年	14.3	7.8	11.7	13.8	16.8

(回/月)

図表 V -6 家族構成別 1世帯1週間あたりの平均牛乳購入量 (平均値)

	全 体	単身・他	夫婦2人	4人以内	5人以上
1997年	3.6	1.6	2.5	3.5	5.0
1996年	3.5	1.4	2.2	3.4	4.8
1995年	3.6	1.5	2.3	3.5	4.8
1994年	3.8	1.6	2.5	3.7	5.0
1993年	3.6	1.9	2.5	3.5	4.7
1992年	3.6	1.6	2.3	3.6	4.7
1991年	3.6	1.6	2.5	3.5	4.6
1990年	3.9	1.9	2.8	3.6	4.9
1989年	3.6	1.4	2.5	3.4	4.5
1988年	3.6	1.3	2.4	3.4	4.4
1987年	4.0	1.8	2.8	3.8	5.0

(ℓ / 週)

参考までに地域・都市規模別に、購入頻度、購入量を下に示した。

図表 V -7 地域・都市規模別 1世帯あたりの平均牛乳購入頻度 (平均値)

	全 体	地 域 別								都 市 規 模 別				
		北 海 道	東 北	関 東 甲 信	東 海 ・ 北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	12 大 都 市	15 万 以 上 市	5 万 以 上 市	5 万 未 満 市	郡 部
1997年	13.3	11.7	13.6	12.7	14.1	13.8	13.7	15.4	12.9	12.7	12.7	13.7	13.0	14.4
1996年	13.0	11.0	14.1	12.8	12.6	12.8	12.5	15.5	14.0	13.0	12.9	12.4	13.3	13.5
1995年	13.4	10.1	14.7	12.9	14.3	13.5	12.9	15.3	13.6	12.9	13.3	13.5	13.8	13.8
1994年	14.6	11.9	17.4	13.7	15.1	15.2	15.7	14.7	14.8	14.5	14.0	14.2	16.4	15.5
1993年	14.2	12.3	13.8	13.5	14.7	14.6	13.9	18.2	14.6	13.8	14.0	14.1	13.9	14.8
1992年	14.2	10.5	14.5	14.0	14.4	15.5	13.8	12.4	14.3	13.7	14.3	14.0	14.2	14.5
1991年	14.7	11.5	14.1	14.6	15.0	15.5	15.7	13.7	14.9	14.7	14.4	14.0	15.4	15.4
1990年	15.2	11.7	16.4	14.5	16.3	16.0	15.5	14.6	15.2	15.3	15.0	14.6	15.6	15.9
1989年	14.7	12.8	15.3	13.9	15.2	15.8	15.2	18.1	14.2	14.2	14.1	15.1	15.1	15.4
1988年	15.1	12.5	14.2	14.7	15.7	15.6	16.7	16.4	15.2	14.9	14.5	15.0	16.0	15.9
1987年	14.3	11.1	13.7	13.8	15.1	14.9	15.1	16.5	14.3	14.0	13.8	14.0	14.4	15.5

(回/月)

図表 V -8 地域・都市規模別 1世帯1週間あたりの平均牛乳購入量 (平均値)

	全 体	地 域 別								都 市 規 模 別				
		北 海 道	東 北	関 東 甲 信	東 海 ・ 北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	12 大 都 市	15 万 以 上 市	5 万 以 上 市	5 万 未 満 市	郡 部
1997年	3.6	3.5	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.3	3.5	3.5	3.7	3.7	3.7
1996年	3.5	3.2	3.7	3.7	3.4	3.3	3.3	3.5	3.6	3.7	3.4	3.5	3.3	3.6
1995年	3.6	2.8	4.0	3.8	3.6	3.6	3.2	3.1	3.3	3.7	3.7	3.6	3.3	3.5
1994年	3.8	3.6	4.4	3.8	3.8	3.8	4.1	3.5	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	4.0
1993年	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.5	3.9	3.5	3.6	3.5	3.7	3.5	3.8
1992年	3.6	3.2	3.6	3.9	3.6	3.7	3.4	3.1	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5
1991年	3.6	3.1	3.7	4.0	3.5	3.5	3.4	3.2	3.4	3.7	3.7	3.5	3.7	3.6
1990年	3.9	3.3	4.1	4.1	3.8	3.6	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	4.0
1989年	3.6	3.2	3.8	3.7	3.5	3.6	3.5	3.9	3.3	3.6	3.5	3.7	3.6	3.5
1988年	3.6	3.4	3.4	3.8	3.4	3.6	3.6	3.0	3.4	3.7	3.5	3.5	3.7	3.5
1987年	4.0	3.2	3.8	4.2	4.2	4.1	3.6	4.9	4.0	4.0	4.2	3.9	3.8	4.1

(ℓ / 週)

1997年の結果を属性別にみてみた。

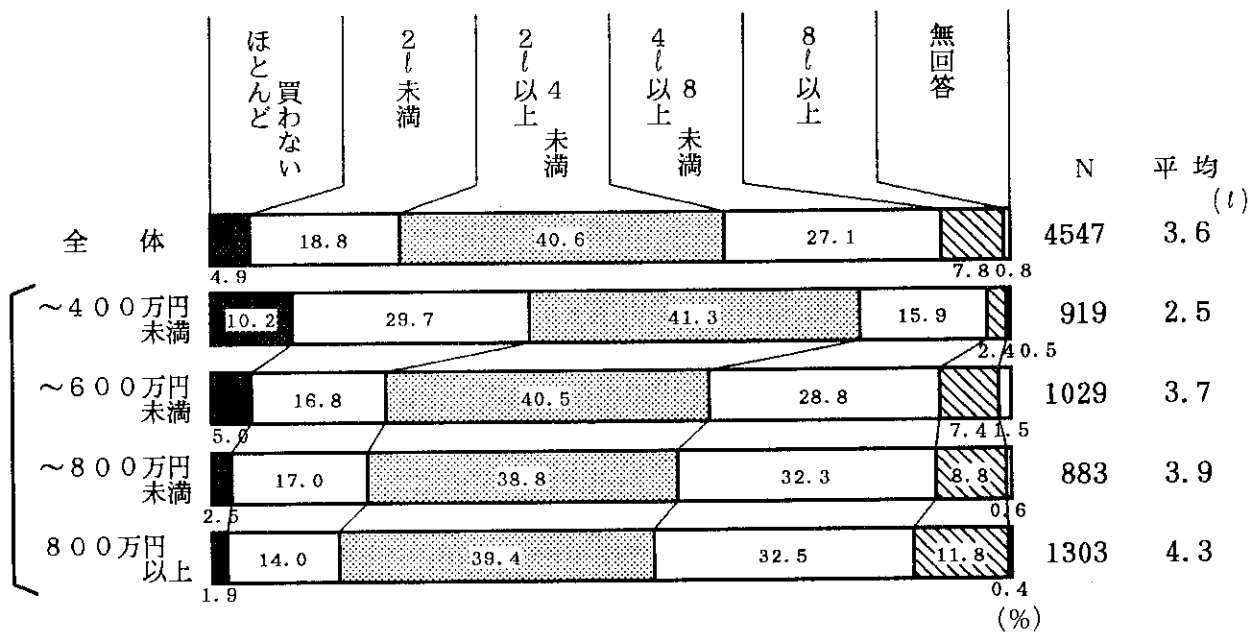
専業主婦と有職主婦を比べると、平均購入頻度は変わらないものの、平均購入量は有職主婦の方が高い。主婦年齢では40代主婦が購入頻度も購入量もともに高くなっている。

図表 V - 9 主婦職業・年齢別
1世帯あたりの平均牛乳購入頻度と平均牛乳購入量 (平均値)

		平均購入頻度 (回/月)	1週間の牛乳購入量 (l/週)
全 体 (N=4547)		13.3	3.6
主婦職業	専業主婦 (N=2062)	13.7	3.6
	有職主婦 (N=2110)	13.6	3.9
	単身・その他 (N= 366)	8.9	2.2
主婦年齢	30代以下 (N=1055)	12.0	3.6
	40代 (N=1387)	14.0	4.3
	50代 (N=1088)	13.5	3.4
	60代以上 (N=1014)	13.5	2.9

世帯年収別に1週間あたりの購入量をみると、世帯年収が高くなるにつれ、購入量は多くなる。また、世帯年収にともない「ほとんど買わない」世帯が減少し、「8l以上」購入する世帯が増加する。

図表 V -10 世帯年収別 1週間あたりの牛乳購入量



2. 牛乳の種類別購入量

本年は、普通牛乳、低脂肪乳、栄養強化牛乳の3つについて、種類別に1週間あたりの購入量を聞いた。

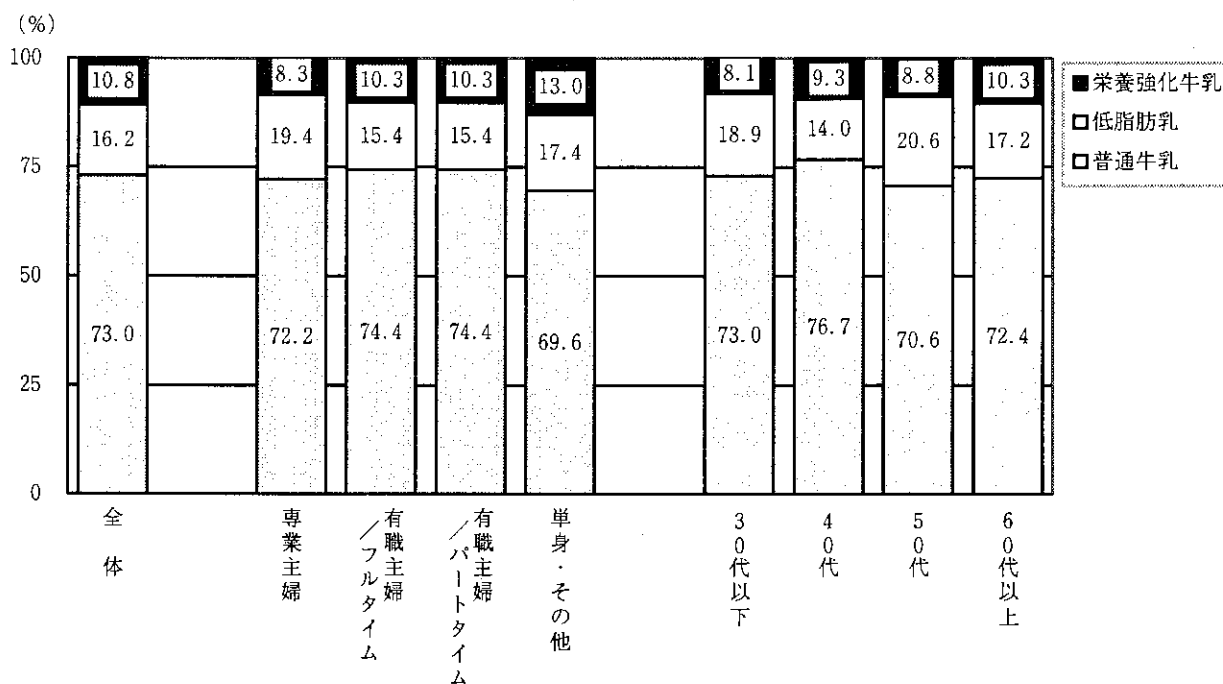
1週間あたりの購入量の平均値は、普通牛乳が2.7ℓ、低脂肪乳が0.6ℓ、栄養強化牛乳が0.4ℓである。購入量の平均値から牛乳全体に占める割合をみると、普通牛乳が73%を占め、低脂肪乳は16%、栄養強化牛乳は11%である。

主婦職業別にみると、有職主婦よりも専業主婦の方が低脂肪乳の購入量もその占める割合もやや多い。年齢別では、50代の主婦で低脂肪乳の購入量、占める割合ともに高い。

図表 V -11 主婦職業・主婦年齢別 1世帯1週間あたりの
普通牛乳・低脂肪乳・栄養強化牛乳の購入量とその割合

	普通牛乳	低脂肪乳	栄養強化牛乳	3種類の合計	*全体の購入量
全 体	2.7	0.6	0.4	3.7	3.6
専業主婦	2.6	0.7	0.3	3.6	3.6
有職主婦/フルタイム	2.9	0.6	0.4	3.9	3.9
有職主婦/パートタイム	2.9	0.6	0.4	3.9	3.8
単身・その他	1.6	0.4	0.3	2.3	2.2
30代以下	2.7	0.7	0.3	3.7	3.6
40代	3.3	0.6	0.4	4.3	4.3
50代	2.4	0.7	0.3	3.4	3.4
60代以上	2.1	0.5	0.3	2.9	2.9

(ℓ)



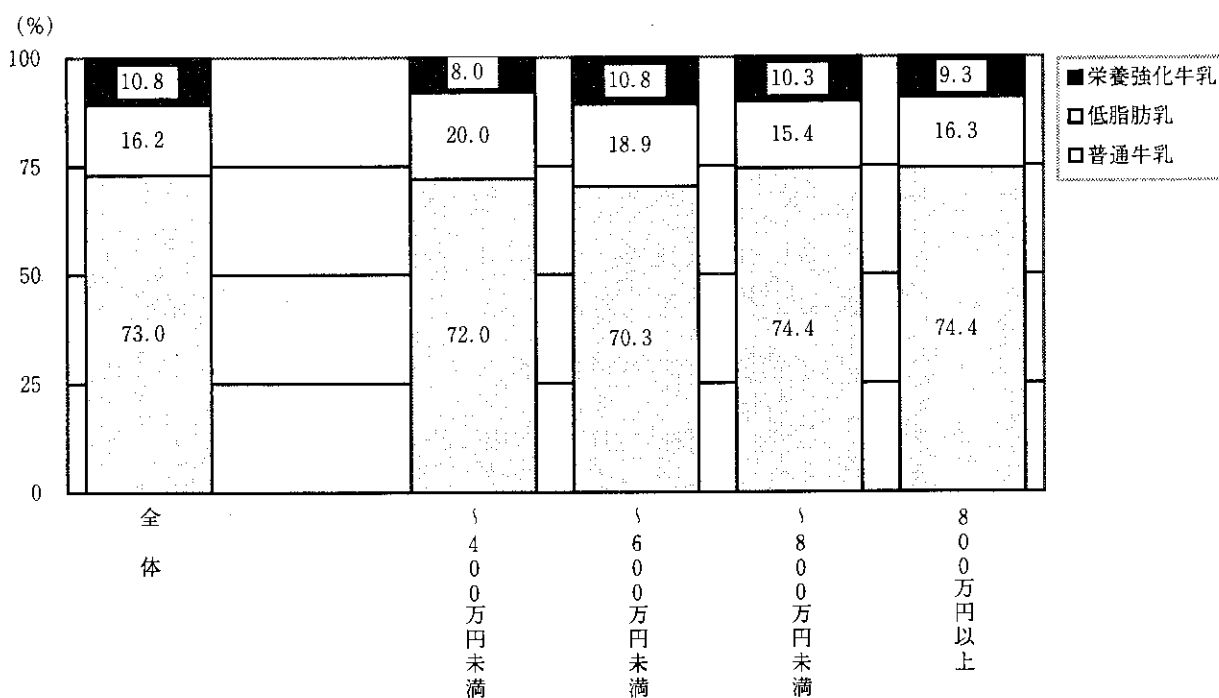
*全体の購入量は「1週間で牛乳をどのくらい購入するか」と聞いたものの平均値であるため、3種類の合計と全体の購入量が一致しない場合もある。

世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるとともに普通牛乳の購入量は増えるが、低脂肪乳と栄養強化牛乳の購入量は変わらない。また、400万円未満の世帯では、普通牛乳、低脂肪乳、栄養強化牛乳とも購入量が最も低い。

図表 V -12 世帯年収別 1世帯1週間あたりの
普通牛乳・低脂肪乳・栄養強化牛乳の購入量とその割合

	普通牛乳	低脂肪乳	栄養強化牛乳	3種類の合計	*全体の購入量
全 体	2.7	0.6	0.4	3.7	3.6
～400万円未満	1.8	0.5	0.2	2.5	2.5
～600万円未満	2.6	0.7	0.4	3.7	3.7
～800万円未満	2.9	0.6	0.4	3.9	3.9
800万円以上	3.2	0.7	0.4	4.3	4.3

(l)



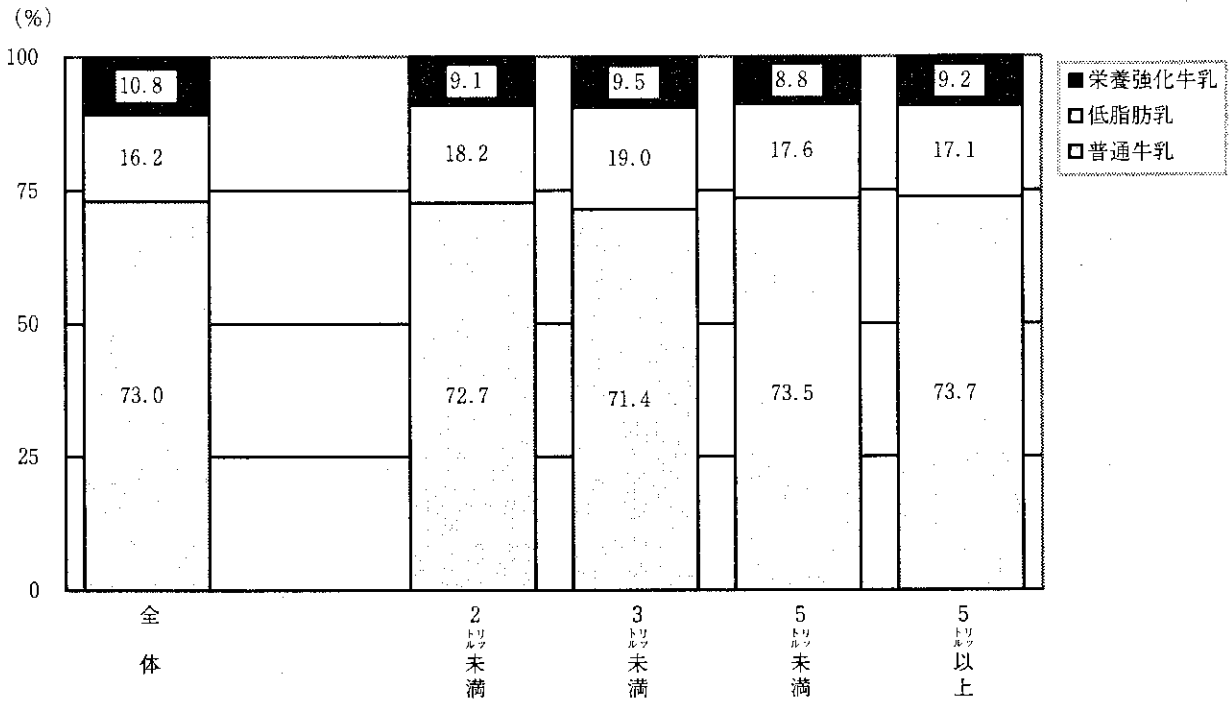
*全体の購入量は「1週間で牛乳をどのくらい購入するか」と聞いたものの平均値であるため、3種類の合計と全体の購入量が一致しない場合もある。

牛乳購入量別にみると、牛乳全体の購入量に比例して、低脂肪乳、栄養強化牛乳の購入量も多いが、占める割合は変わらない。

図表 V -13 牛乳購入量別 1世帯1週間あたりの
普通牛乳・低脂肪乳・栄養強化牛乳の購入量とその割合

	普通牛乳	低脂肪乳	栄養強化牛乳	3種類の合計	*全体の購入量
全 体	2.7	0.6	0.4	3.7	3.6
2ℓ未満	0.8	0.2	0.1	1.1	1.1
3ℓ未満	1.5	0.4	0.2	2.1	2.1
5ℓ未満	2.5	0.6	0.3	3.4	3.4
5ℓ以上	5.6	1.3	0.7	7.6	7.6

(1)



*全体の購入量は「1週間で牛乳をどのくらい購入するか」と聞いたものの平均値であるため、3種類の合計と全体の購入量が一致しない場合もある。

VI 家族と牛乳

家族人数が2人以上いる世帯（4296人）に家族生活について聞いた。

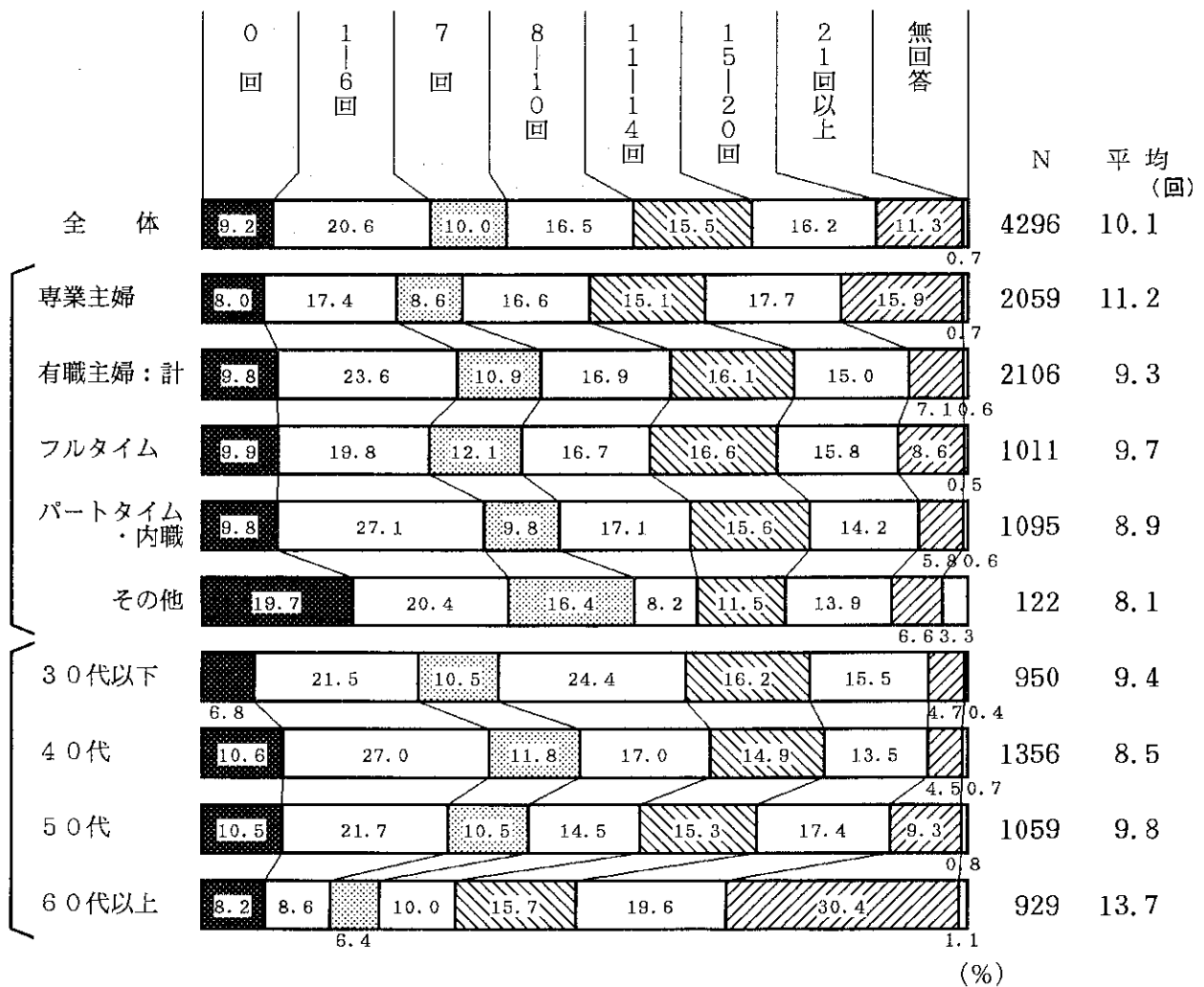
1. 家族全員で食事をする回数と機会

いっしょに住んでいる家族が全員で食事をする回数は、1週間あたり何回くらいあるかを具体的に実数で聞いた。

週に「0回」が9%、「1～6回」が21%あり、結局1日にすると1回未満という層があわせて30%いる。平均では週あたり10.1回ということであり、1日にすると1回強である。

専業主婦と有職主婦を比べると、専業主婦の家族（11.2回）の方が有職主婦（9.3回）に比べて、週のうち2回ほど家族そろっての食事が多い。主婦年齢では30～50代までは9回とほとんど変わらないのに対し、60代以上では平均13.7回と多く、1日に2回は家族そろっていっしょに食事をしている。

図表 VI - 1 主婦職業・年齢別 1週間に家族全員で食事をする回数
(2人以上世帯ベース)



※ その他の世帯とは、きょうだいや父子家庭などいわゆる主婦がいない家庭をさす。

家族そろって食事をする回数の平均値を下表にまとめた。

性・年齢別にみると、男女とも年齢の高い方が家族全員で食事をする傾向がみられ、特に60代以上になると急激に多くなる。最も少ないのが20代の男女である。

職業でみると、自営・家族従業や無職など在宅率の高い層では食事を共にする回数が多いが、勤め人は少ない。最も少ないのは管理職であり、8.2回にとどまる。

世帯年収の高い方が家族そろっての食事が少ないが、これは世帯主の年齢とも相関しているだろう。

都市規模でみると、都市規模の小さい方が家族そろっての食事回数が多く、大都市になるほど回数が少なくなっている。通勤時間との関係も食事回数には関連があるようだ。

図表 VI -2 属性別 1週間に家族全員で食事をする回数
(2人以上世帯ベース：平均値)

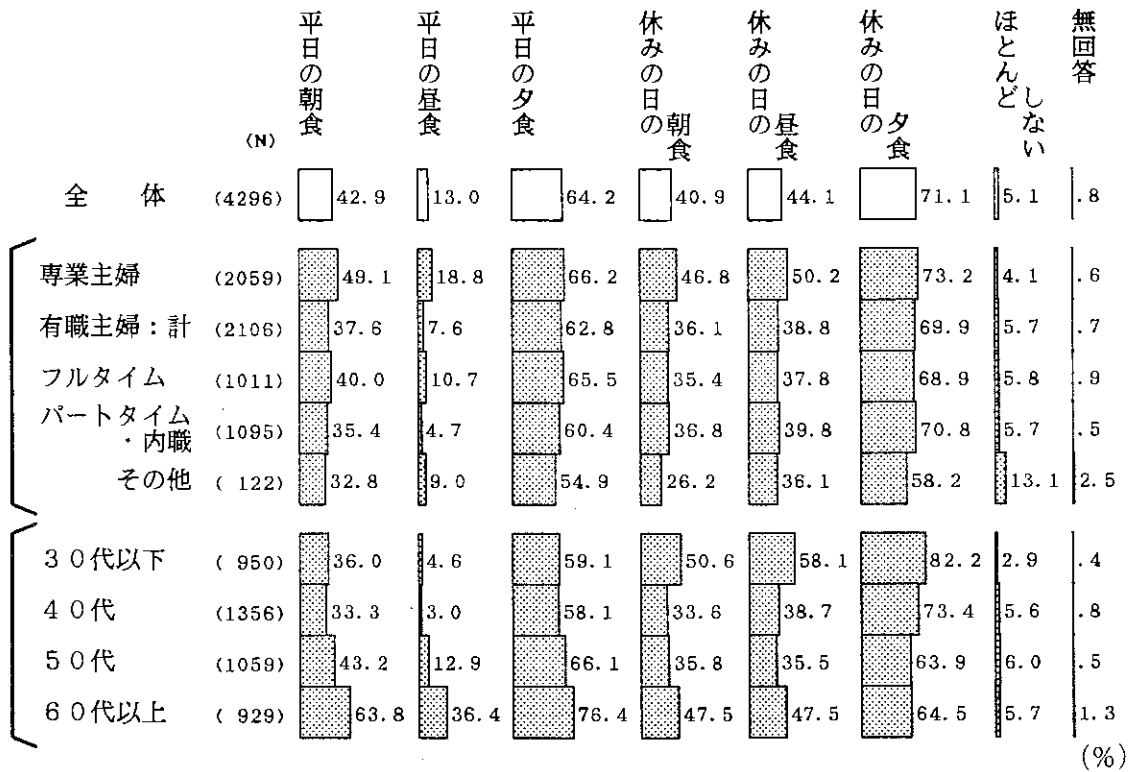
本人の年齢			世帯主職業・世帯年収			地域・都市規模		
	N	平均 (回)		N	平均 (回)		N	平均 (回)
全 体	4296	10.1	全 体	4296	10.1	全 体	4296	10.1
男性 10代	215	8.5	自営・家族従業	984	10.7	12大都市	847	9.4
20代	259	7.1	勤め人：計	2638	9.1	15万以上市	1282	9.8
30代	302	9.3	管理職	585	8.2	5万以上市	907	9.7
40代	366	9.1	専門・技術職	713	9.5	5万未満市	278	11.7
50代	335	10.1	事務職	403	8.9	郡 部	982	11.2
60代以上	520	13.4	労務職	476	9.6	北海道	190	11.1
女性 10代	215	8.4	販売・サービス職	297	8.4	東 北	315	10.7
20代	344	8.1	パート・アルバイト	164	10.1	関東・甲信	1416	9.5
30代	397	9.6	無 職	656	13.7	東海・北陸	757	10.1
40代	445	8.9	～400万円未満	753	12.8	近 畿	702	10.0
50代	388	10.2	～600万円未満	997	10.5	中 国	307	10.9
60代以上	510	14.1	～800万円未満	868	9.6	四 国	149	11.0
男性：小計	1997	10.1	800万円以上	1295	8.6	九 州	460	11.0
女性：小計	2299	10.2						

次に、家族いっしょに食事をする機会はどういう時か（複数回答）をみてみよう。

最も多いのは「休日の夕食」で71%、次が「平日の夕食」で64%となっている。「平日の朝食」をいっしょにという人は43%、「休みの日の昼食」をいっしょにもほぼ同じ44%である。

主婦年齢別にみると、「平日の3回の食事」は年齢の高い層で家族いっしょが多く、「休日の3回の食事」は若い主婦層での努力がみられ、いっしょに食べる率が高い。

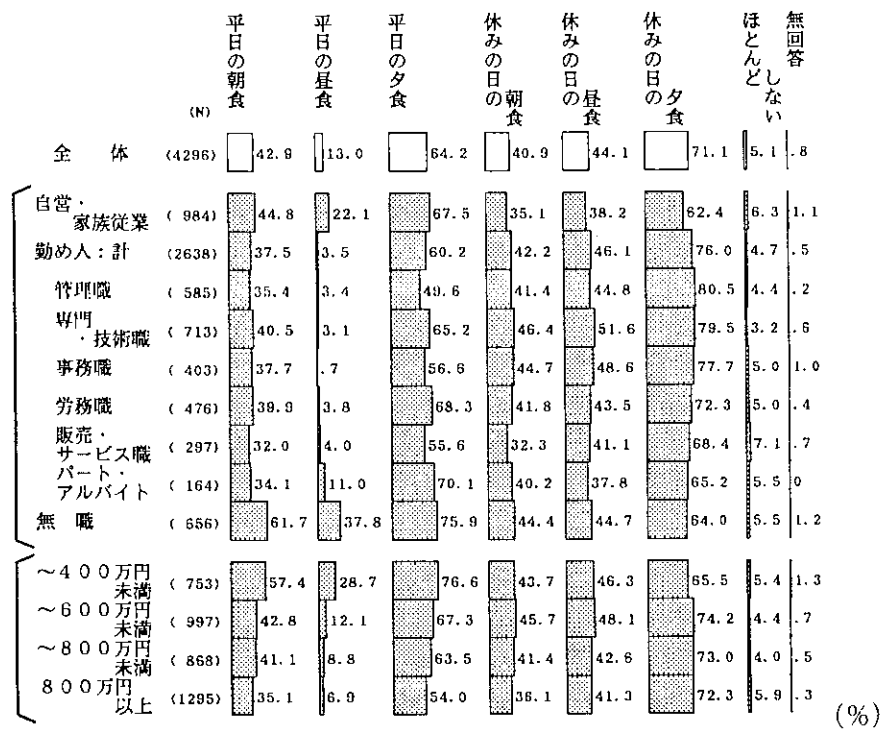
図表 VI -3 主婦職業・年齢別 家族いっしょに食事をする事が多い時
(2人以上世帯ベース：MA)



世帯主の職業別にみると、自営・家族従業は平日の食事機会が多いのに対し、勤め人は平日は少なく、休みの日の朝食、昼食、夕食での機会が多くなっている。

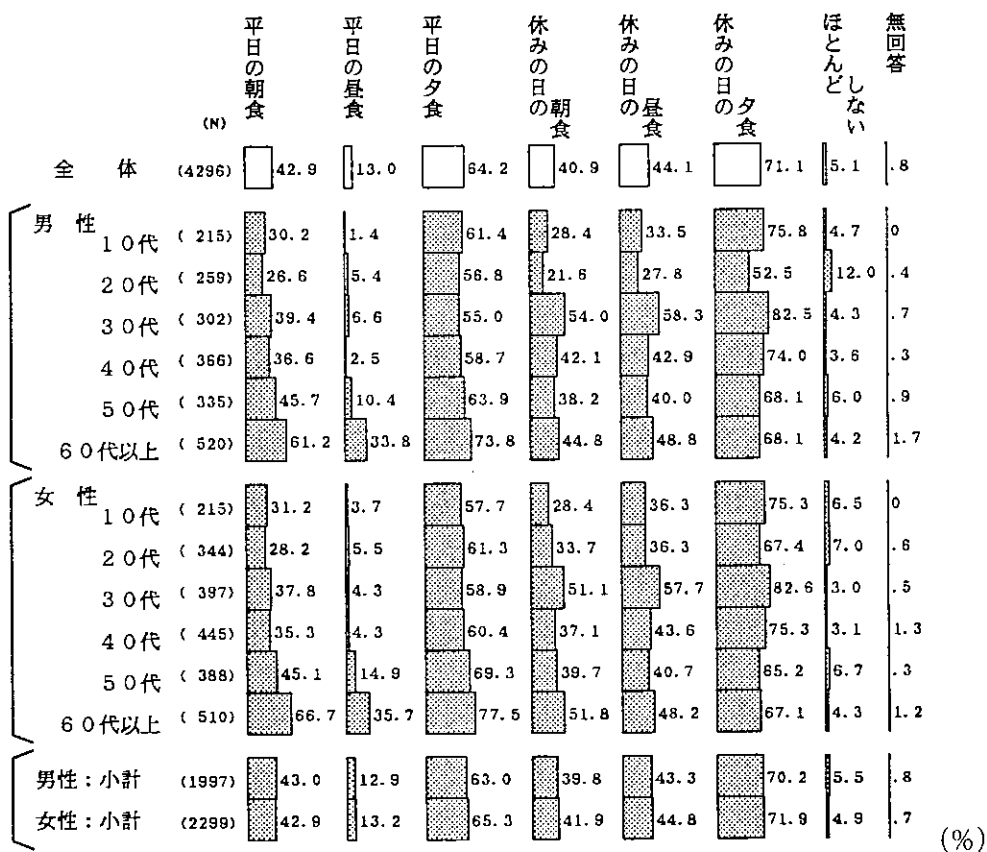
世帯年収別にみると、年収の低い世帯の方がいっしょに食事をする機会が全体に多い。

図表 VI - 4 主婦職業・世帯年収別 家族いっしょに食事をする機会が多い時
(2人以上世帯ベース：MA)



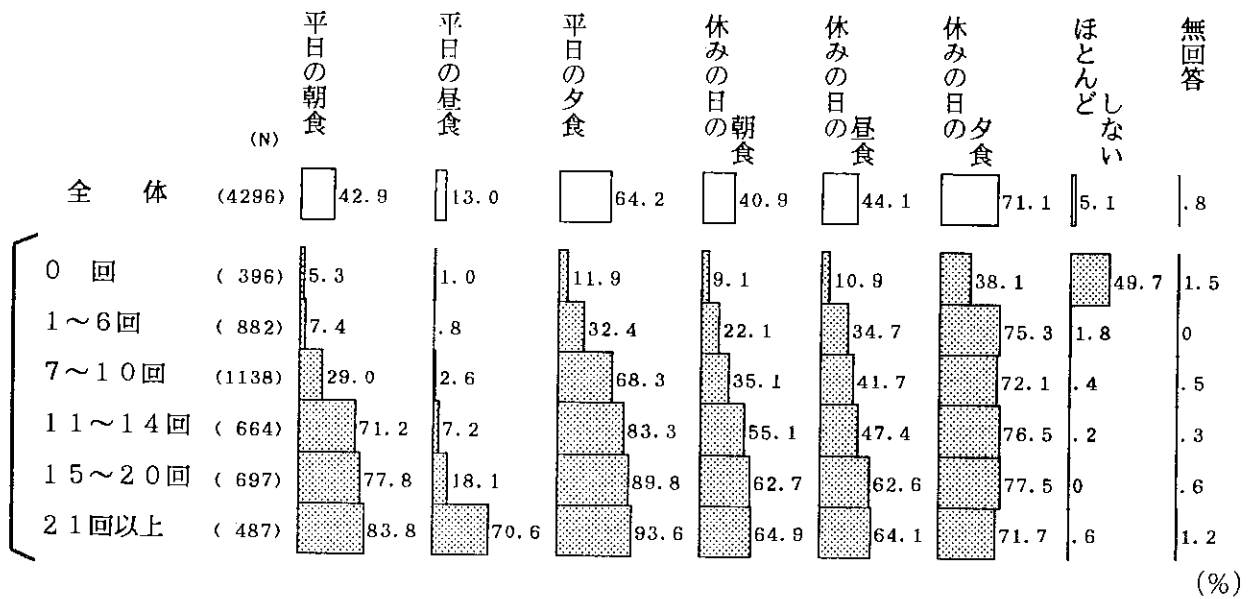
性・年齢別にみると、30代の男女は休みの日の食事をいっしょにしている率がきわだって高い。

図表 VI - 5 性・年齢別 家族いっしょに食事をする機会が多い時
(2人以上世帯ベース：MA)



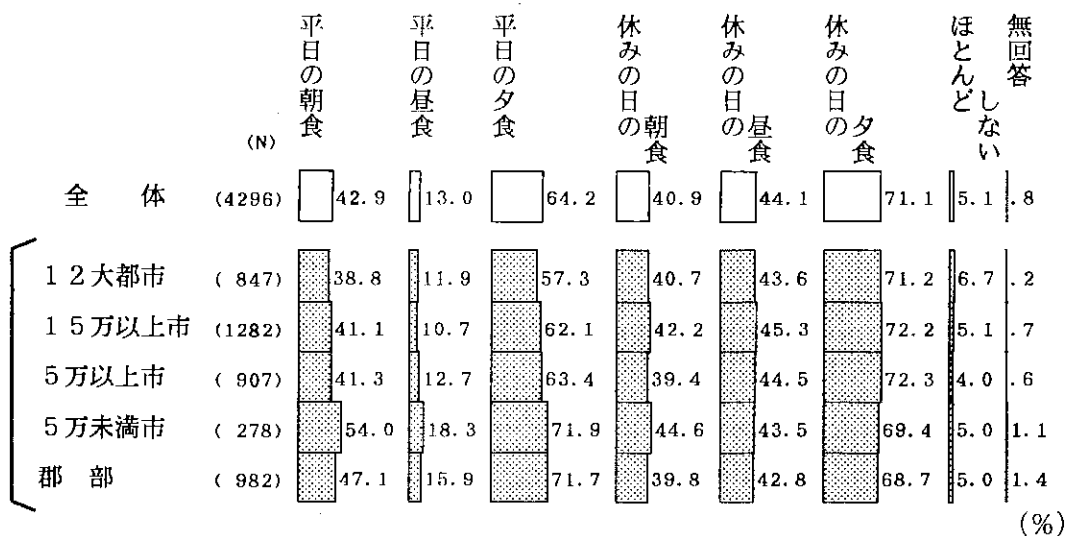
「家族全員と食事をする回数」と「家族いっしょに食事をする機会」との関連をみると、食事回数が少ない層でも休みの日の夕食だけはいっしょにしている人が75%と多い。

図表 VI - 6 家族全員の食事回数別 家族いっしょに食事をすることが多い時
(2人以上世帯ベース：MA)



都市規模別に食事機会をみると、都市規模の大きい地域では平日の食事をいっしょにする割合は朝食、昼食、夕食とも低いですが、休日は都市規模の大きい地域でも3食を共にする傾向が強い。

図表 VI - 7 都市規模別 家族いっしょに食事をすることが多い時
(2人以上世帯ベース：MA)

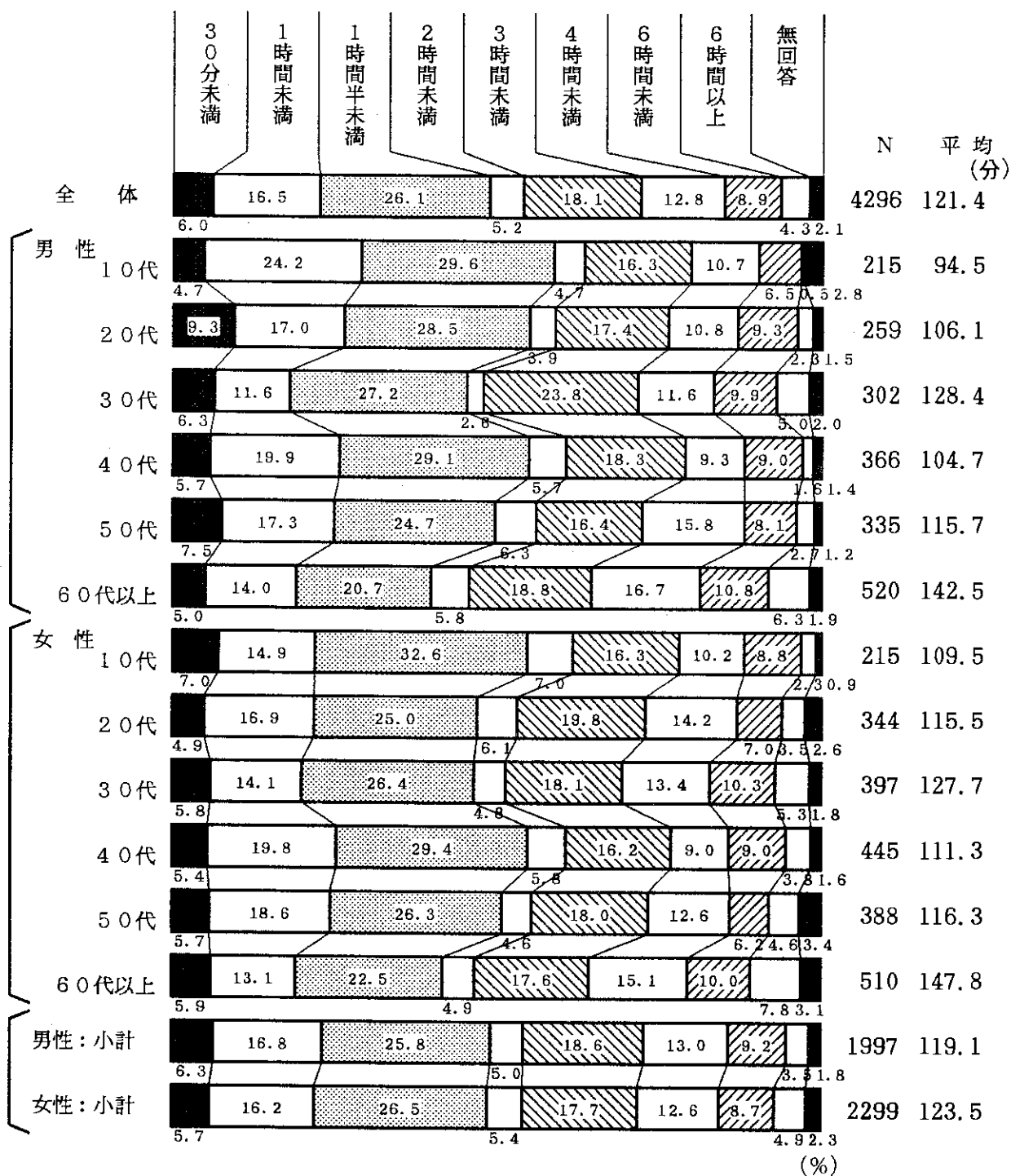


2. 平日に家族間で話をする時間

ふだん平日1日あたり家族間で話をする時間を、具体的に何時間何分単位で聞いた。結果は下図にみるように、「1時間未満」が23%、「1～2時間未満」が31%、「2～3時間未満」が18%、「3時間以上」が26%で非常に多様である。

性・年齢別にみると年齢相関がみられ、男女とも年齢の高い方が家族と話をする時間は長い。最も少ないのは10代の男性で、平均95分である。

図表 VI - 8 性・年齢別 平日1日あたり家族間で話をする時間
(2人以上世帯ベース)



1日あたり家族で話をする時間を属性別に平均値で示した。

専業主婦家庭が平均 132 分に対し、有職主婦家庭では 112 分で 20 分の差がある。フルタイムとパートでは差がない。

主婦年齢でみると、30 代以下と 60 代以上で長く、40 代・50 代はやや短くなる。

世帯主職業でみると、在宅率の高い自営・家族従業や無職では平均が 130 分をこえており長い。

世帯収入の高い方が会話時間が短く、低い方が長くなっている。800 万円以上と 400 万円未満では会話時間に 30 分ほどの差がみられる。

都市規模別にみると、都市規模の大きい方がわずかに会話時間が長く、小さい方が会話時間が短い。

北海道は他の地域に比べて家族と話をする時間が長い。

図表 VI - 9 属性別 平日 1 日あたり家族間で話をする時間
(2 人以上世帯ベース)

主婦職業・年齢			世帯主職業・世帯年収			都市規模・地域		
	N	平均 (分)		N	平均 (分)		N	平均 (分)
全 体	4296	121.4	全 体	4296	121.4	全 体	4296	121.4
専業主婦	2059	131.9	自営・家族従業	984	132.1	12 大都市	847	122.9
有職主婦：計	2106	112.4	勤め人：計	2638	112.3	15 万以上市	1282	123.4
フルタイム	1011	111.5	管理職	585	112.2	5 万以上市	907	122.6
パートタイム・内職	1095	113.4	専門・技術職	713	119.7	5 万未満市	278	116.6
その他	122	98.3	事務職	403	107.7	郡 部	982	117.7
30 代以下	950	134.2	労務職	476	110.2	北海道	190	139.1
40 代	1356	102.3	販売・サービス職	297	109.5	東 北	315	114.1
50 代	1059	116.5	パート・アルバイト	164	103.2	関東・甲信	1416	119.3
60 代以上	929	142.0	無 職	656	141.6	東海・北陸	757	120.5
			～400 万円未満	753	141.6	近 畿	702	124.6
			～600 万円未満	997	122.7	中 国	307	117.6
			～800 万円未満	868	121.3	四 国	149	118.0
			800 万円以上	1295	112.6	九 州	460	125.6

北海道は専業主婦率が他の地域よりも際だって高く、また39才以下の若い主婦も多い。このことが北海道地区における家族コミュニケーションの高さにつながっているといえよう。

図表 VI -10 都市規模別 地区別 主婦の職業および年齢構成 (%)

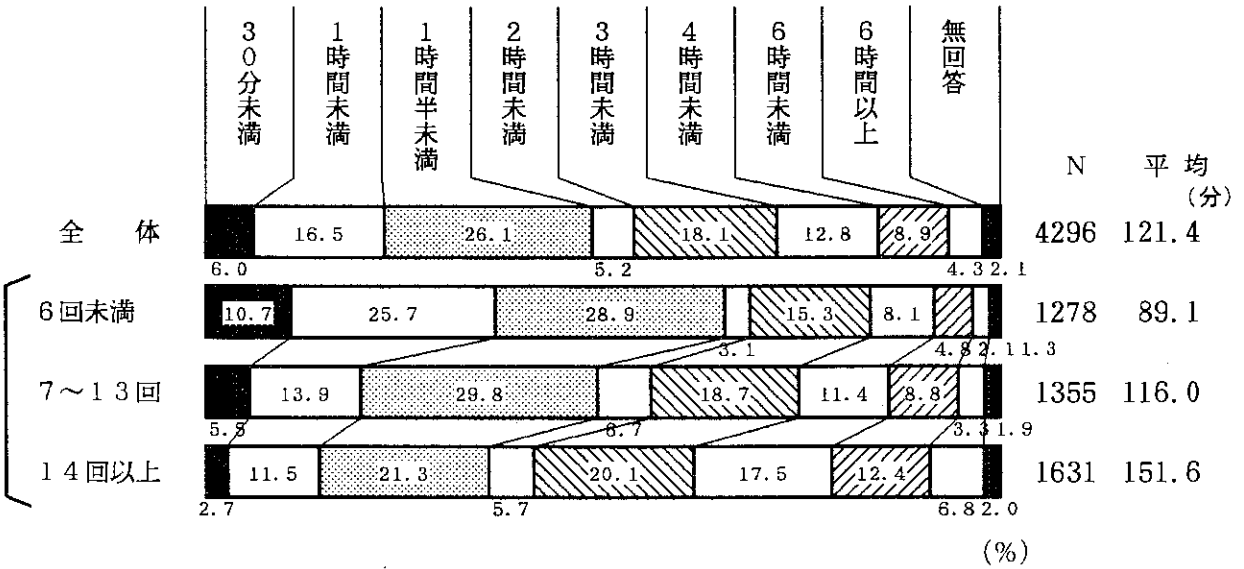
	N	専業主婦	有職主婦	39才以下	40～49才	50～59才	60才以上
全 体	4165	49.4	50.6	21.6	31.8	24.8	21.6
12大都市	828	52.7	47.3	22.2	29.4	25.0	23.2
15万以上市	1236	52.4	47.6	20.3	31.8	26.9	21.0
5万以上市	882	46.5	53.5	22.0	34.0	26.2	17.7
5万未満市	267	43.1	56.9	19.0	33.7	24.7	22.4
郡 部	952	47.3	52.7	23.4	31.5	20.8	24.1
北海道	184	56.5	43.5	26.0	30.5	24.5	19.0
東 北	304	50.0	50.0	23.5	34.2	21.7	20.4
関東・甲信	1380	49.9	50.1	22.8	32.6	25.6	19.0
東海・北陸	729	44.4	55.6	22.4	32.5	24.4	20.8
近 畿	683	52.7	47.3	19.1	27.2	28.9	24.7
中 国	294	49.3	50.7	18.3	32.6	23.1	25.9
四 国	145	37.9	62.1	21.4	35.8	21.3	21.4
九 州	446	51.8	48.2	20.6	32.7	21.5	25.1

※ 上記の表のベースは、2人以上世帯において主婦がいる世帯のみ

1週間に家族全員で食事をする回数と平日1日あたり家族間で話をする時間の関連をみると、家族そろっての食事回数が多い世帯の方が話をする時間も長い。

食事回数が週あたり6回未満であれば89分、週あたり14回以上であれば152分と、ほぼ倍の開きがある。食事時が家族のコミュニケーションの機会であることがわかる。

図表 VI -11 家族全員の食事回数別 平日1日あたり家族間で話をする時間
(2人以上世帯ベース)



3. 家庭での夫婦の役割分担

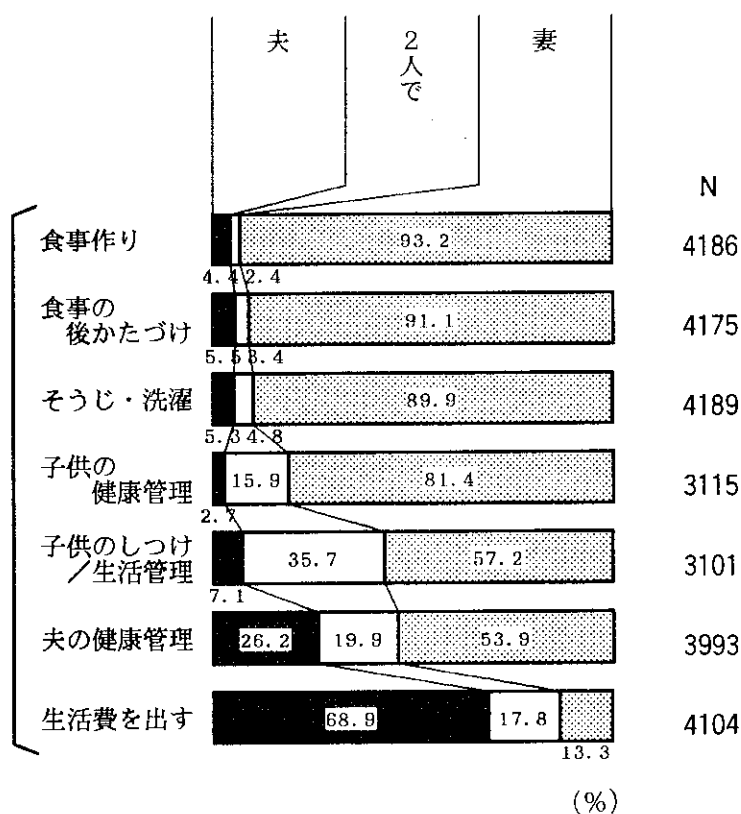
「子どもの健康管理」、「子どものしつけ／生活管理」、「夫の健康管理」、「生活費を出す」、「そうじ・洗濯」、「食事作り」、「食事の後片づけ」の7つの家事について家庭内の役割分担を聞いた。

「そうじ・洗濯」、「食事作り」、「食後の後片づけ」などは妻の分担が圧倒的に多い。「子どもの健康管理」も妻の分担率が高いが、「しつけ」になると夫と妻の共同が4割となる。

「夫の健康管理」は夫が26%、共同が20%、妻が54%とやや分かれているが、結局のところ家族の健康管理は主婦の役割である。

「生活費」は夫の分担が69%、共同が18%、妻が13%であり、夫の分担率が高い。

図表 VI -12 家庭での夫婦の役割分担（2人以上世帯ベース）

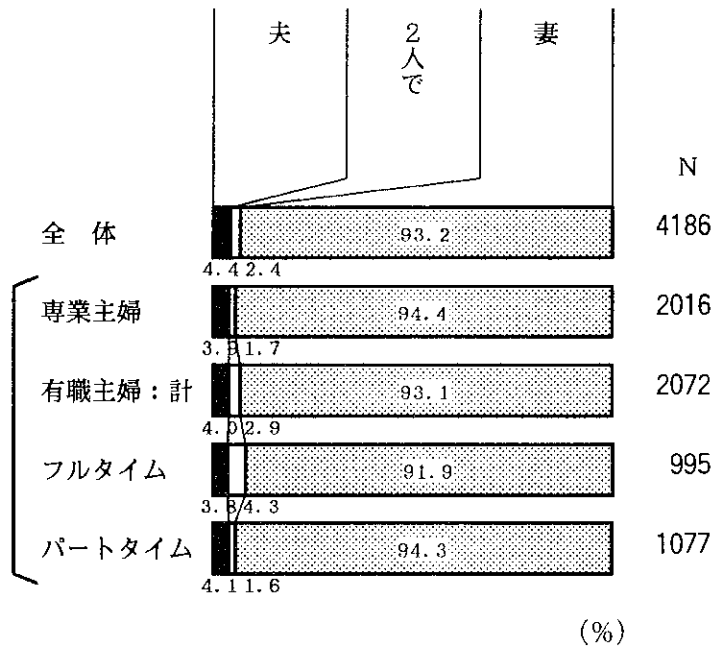


注) ベースは「夫・子どもはいない／誰もしない」と「無回答」を除いた数である

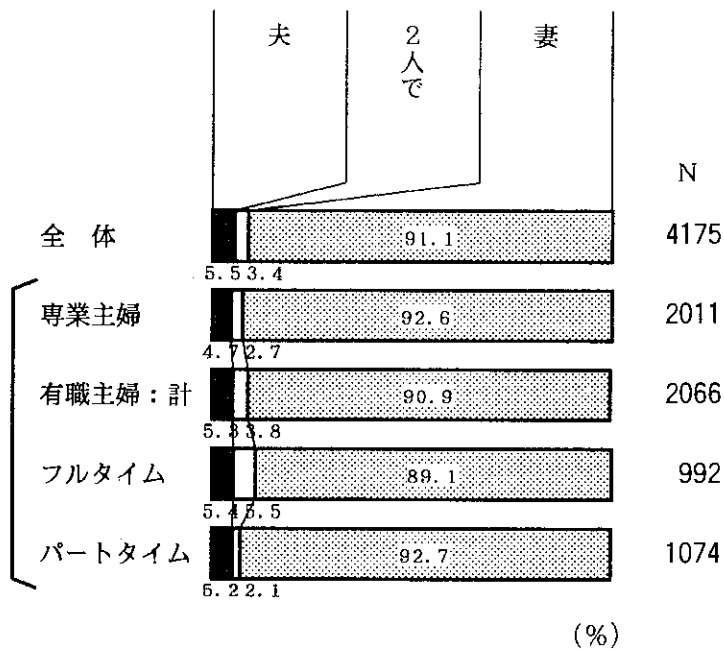
主婦の職業別に家庭の役割分担を分析してみたところ、「夫の健康管理」は専業主婦の方が妻の管理がやや多く、有職主婦は夫自身での管理がやや多い。

その他の家事では顕著な差はみられない。

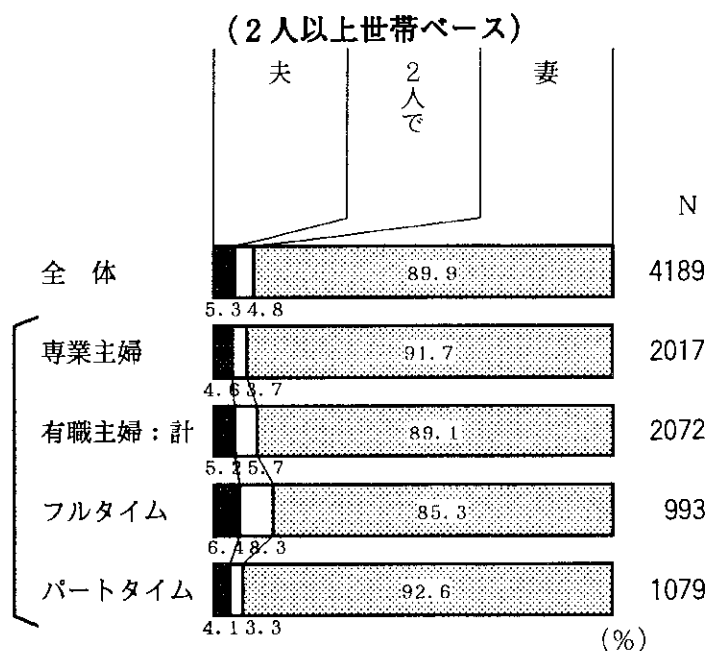
図表 VI -13 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -食事作り-
(2人以上世帯ベース)



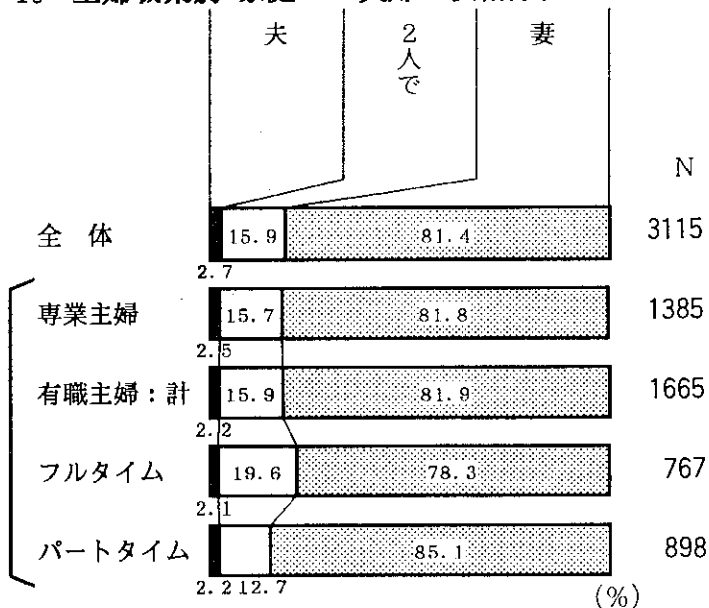
図表 VI -14 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -食事の後片づけ-
(2人以上世帯ベース)



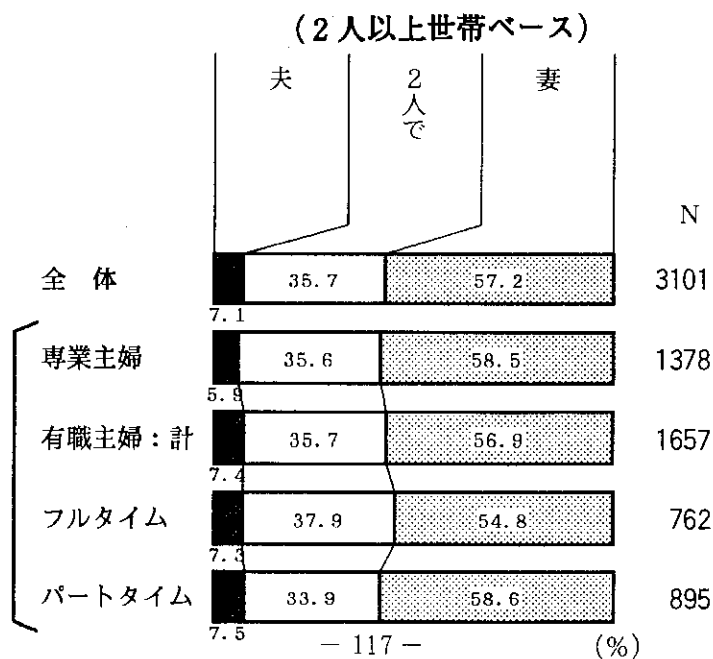
図表 VI -15 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -そうじ・洗濯-



図表 VI -16 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -子どもの健康管理-

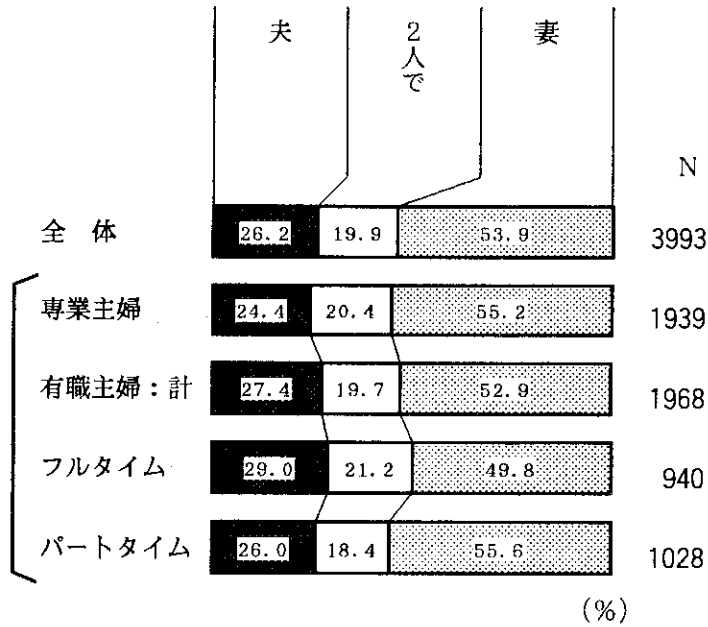


図表 VI -17 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -子どものしつけ/生活管理-



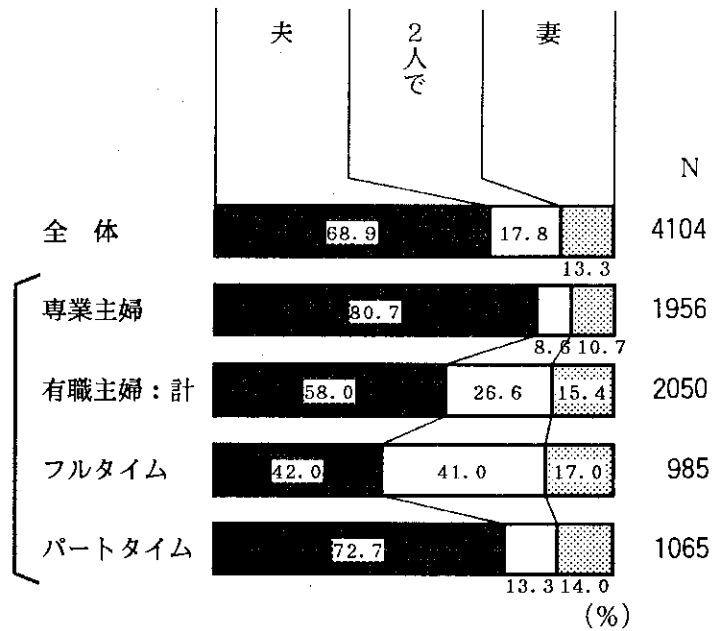
図表 VI -18 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -夫の健康管理-

(2人以上世帯ベース)



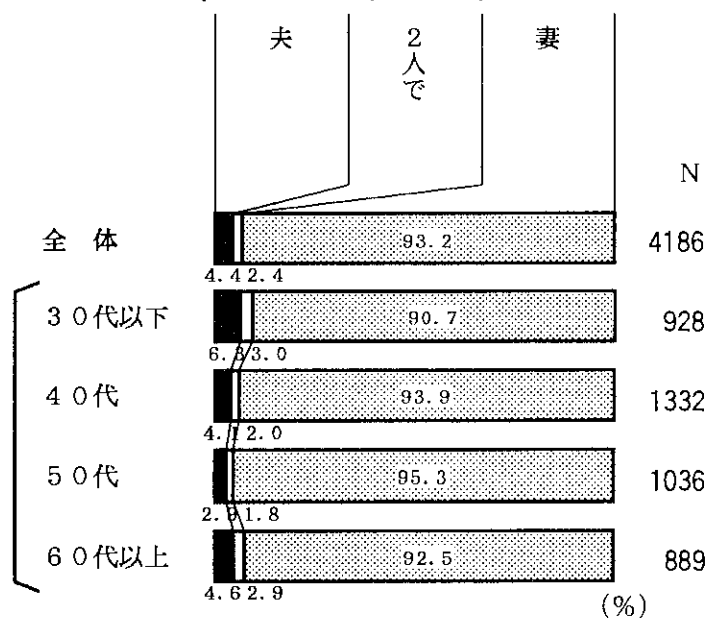
図表 VI -19 主婦職業別 家庭での夫婦の役割分担 -生活費を出す-

(2人以上世帯ベース)

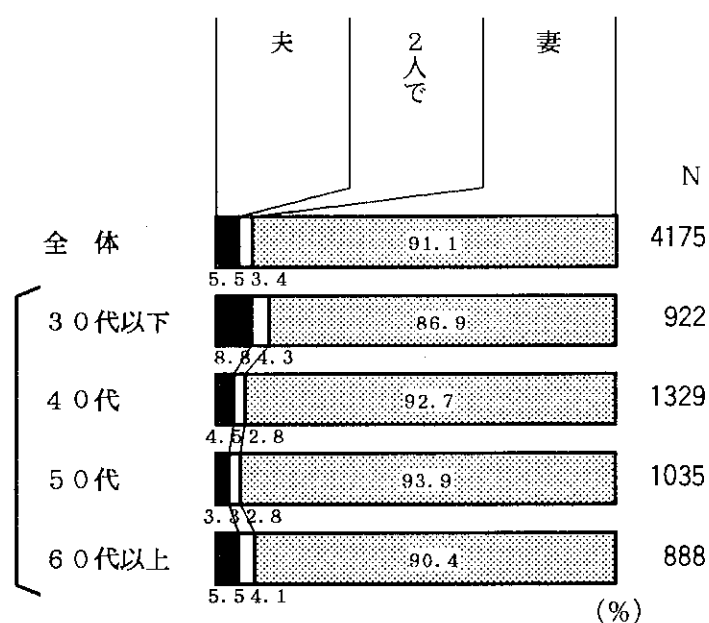


主婦の年齢でみると、若いほど「子のしつけ」は夫婦共同が多い。「夫の健康管理」は50代の主婦が最も「妻がする」が多く、30代以下では「夫」もしくは「2人で」が5割以上と多い。「掃除・洗濯」、「食事作り」、「食事の後片づけ」などは概して妻の分担ではあるが、30代以上および60代以上の家庭ではわずかに夫の分担もみられている。若い世帯および高齢者世帯での夫の家事参加がみられている。

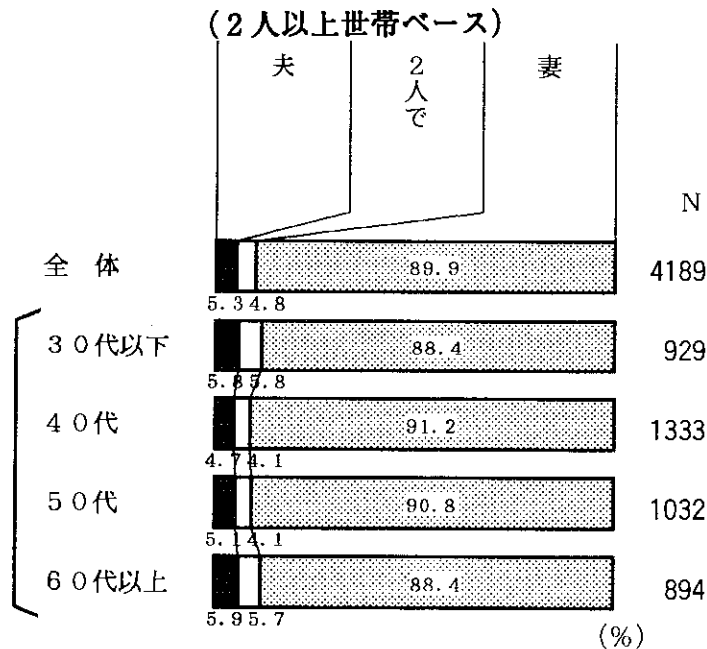
図表 VI -20 主婦年齢別 家庭での夫婦の役割分担 -食事作り-
(2人以上世帯ベース)



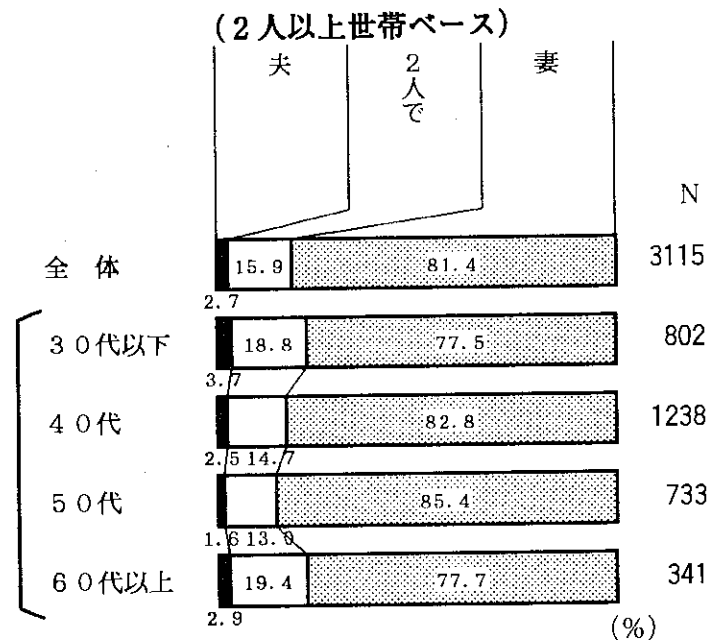
図表 VI -21 主婦年齢別 家庭での夫婦の役割分担 -食事の後片づけ-
(2人以上世帯ベース)



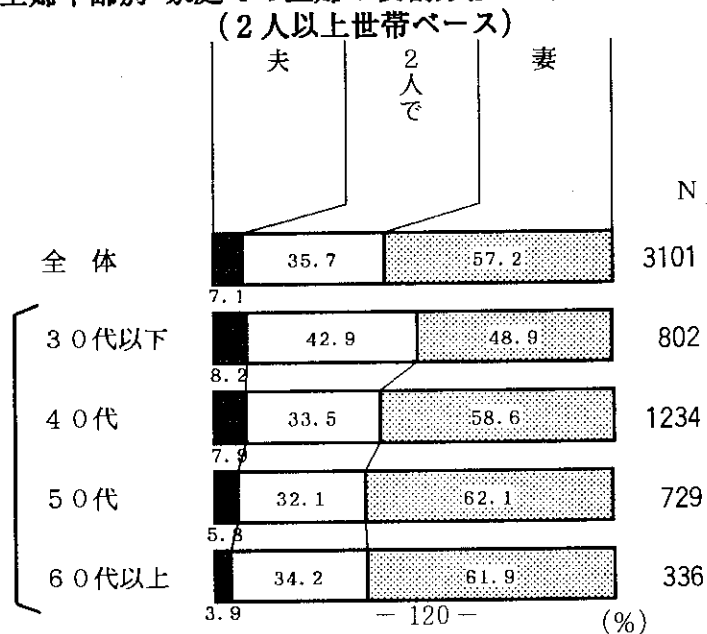
図表 VI -22 主婦年齢別 家庭での主婦の役割分担 -そうじ・洗濯-



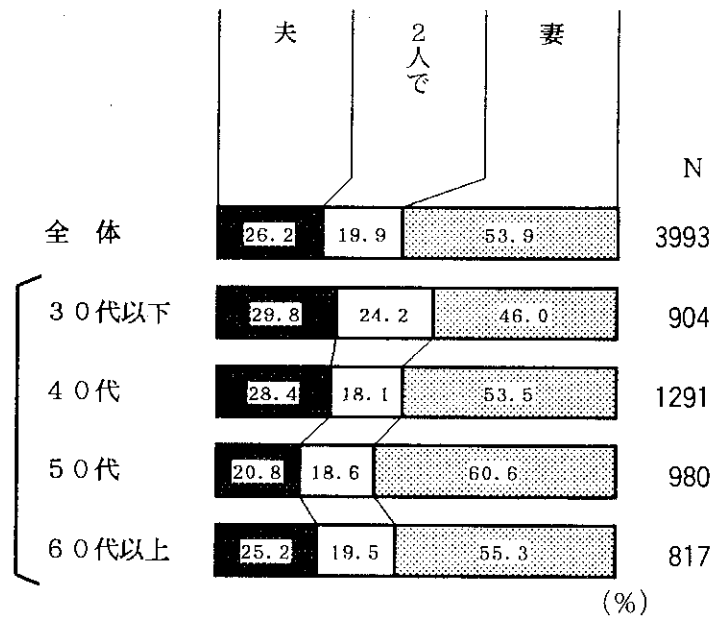
図表 VI -23 主婦年齢別 家庭での主婦の役割分担 -子どもの健康管理-



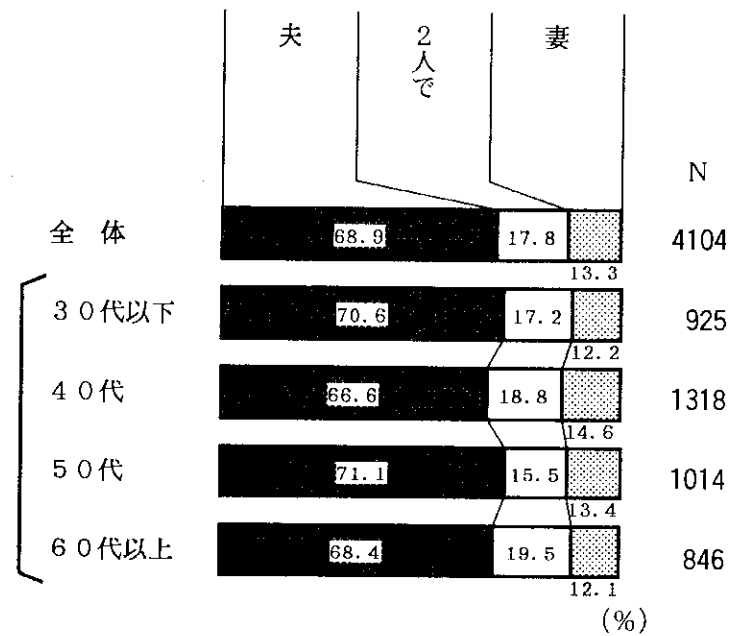
図表 VI -24 主婦年齢別 家庭での主婦の役割分担 -子どものしつけ/生活管理-



図表 VI -25 主婦年齢別 家庭での夫婦の役割分担 -夫の健康管理-
(2人以上世帯ベース)



図表 VI -26 主婦年齢別 家庭での主婦の役割分担 -生活費を出す-
(2人以上世帯ベース)



4. 家族の姿

あなたの家族はどのような姿のものであるかを 10 のアイテムについて「あてはまる」から「全くあてはまらない」の 4 段階で聞いた。

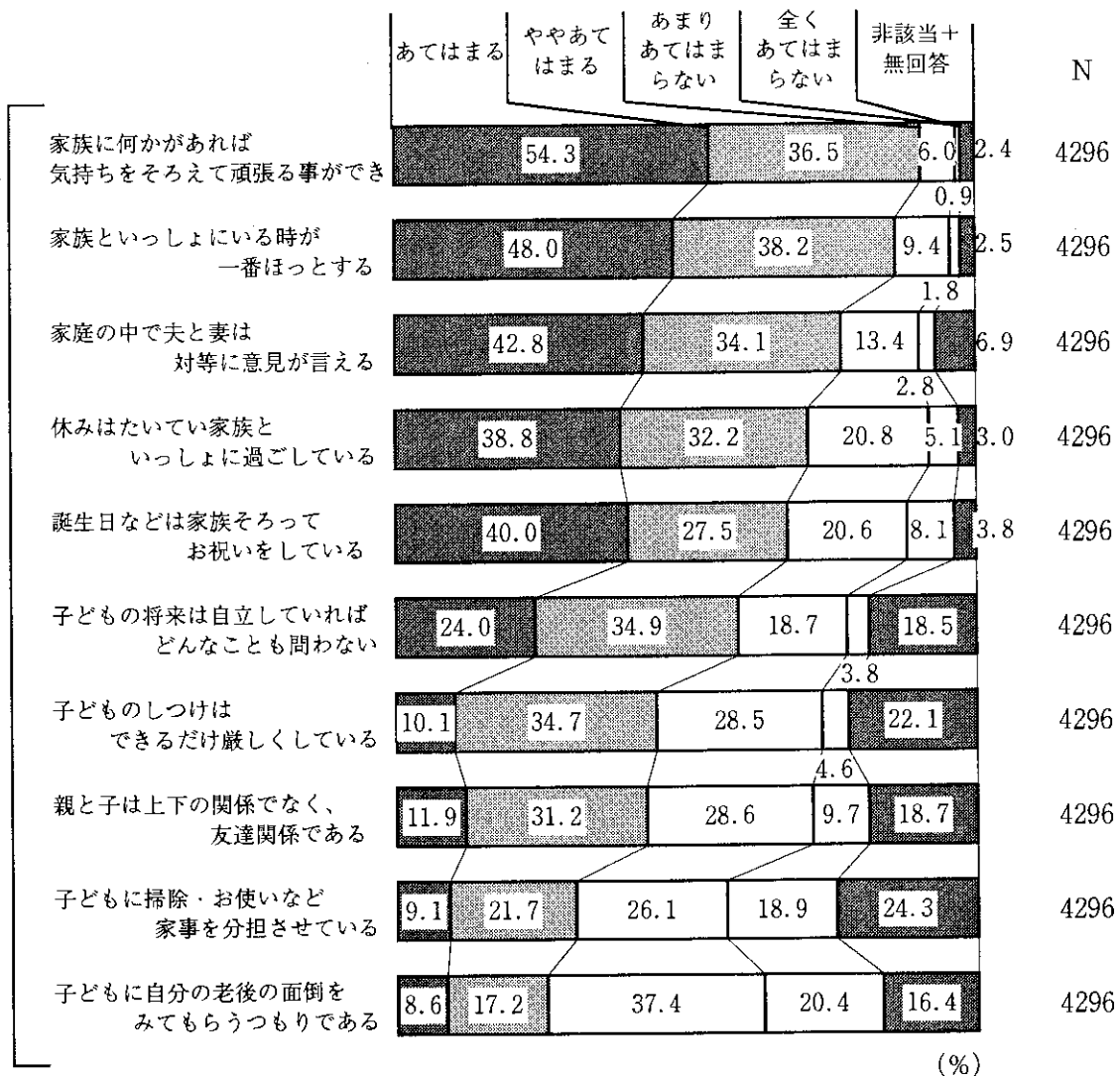
「家族で何かがあれば気持ちをそろえて頑張ることができる」が 91% と最も多く、「家族といっしょにいる時が一番ほっとする」が 86% と次に多くなっている。「家族は何かあったら一致団結し、いっしょにいるとほっとできる」というのが基本であるようだ。

子どもとの関連で見ると「子どもの将来については本人が自立してくれれば職業、結婚相手などどんなことも問わない」が 59% と多く、また「子どもに自分の老後の面倒をみてもらうつもりである」も 26% と非常に少ない。“子どもとは自立して暮らしたい”というのが主要である。

夫婦の関係でいうと「家庭の中で夫と妻は対等に意見が言える」は 77% と多く、そうでないという人は 4 分の 1 を切っている。

「家族とは何かあれば一致団結」するものではあるが、家族内では夫婦も子どもも対等で、友だちのようなサラサラした関係となっているようだ。

図表 VI -27 家族の姿 (2 人以上世帯ベース)



注) 2 人以上世帯のすべてを対象としたため、「非該当」が生じている。「非該当」とは家族に夫や子どもがいないケースを示す。

「あてはまる」と「ややあてはまる」だけの比率を足しあわせて基本属性と比較してみた。

主婦の年齢別にみると、若い主婦の方が「子どものしつけは厳しく」、「子どもに家事を分担させる」、「子どもが自立してくれば将来は問わない」などが多くなっている。

一方、「子どもに老後はみてもらう」は年齢の高い主婦ほど多く、30代以下では17%に対し、60代以上では35%とほぼ倍になっている。

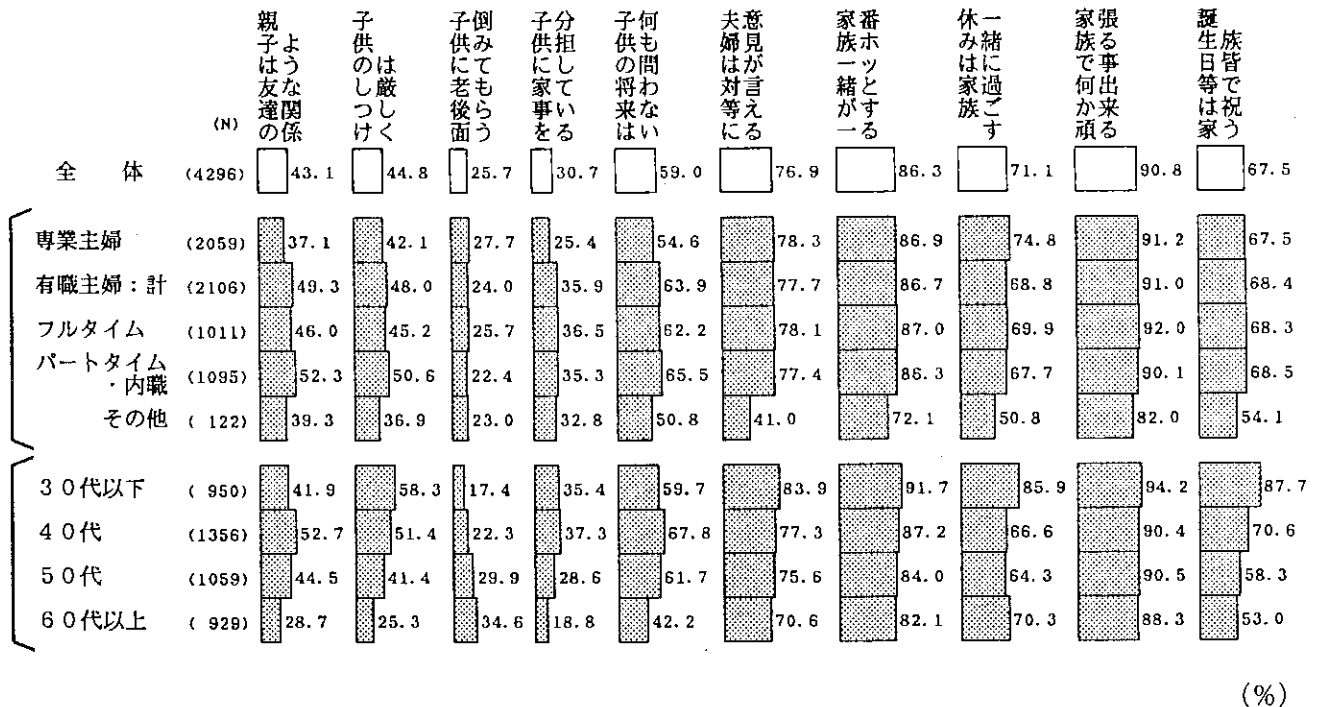
「夫婦は対等に意見が言える」も年齢の若い人ほど多く、年齢の高い人ではやや少なくなる。

「家族といっしょにいる時が一番ほっとする」、「休みはたいてい家族といっしょに過ごしている」、「誕生日などは家族そろってお祝いをしている」など家族であることをエンジョイするのも若い主婦層の方に多い。

「親子は友だちのよう」は40代で53%と多いが、この年代が最も子どもと親のメンタリティーが近くなる世代といえよう。

有職主婦と専業主婦と比べてみると、有職主婦の方が「子どもに家事を分担させている」は10ポイントほど多い。

図表 VI -28 主婦職業・年齢別 家族の姿 (2人以上世帯ベース：
あてはまる+ややあてはまるの比率)



(%)

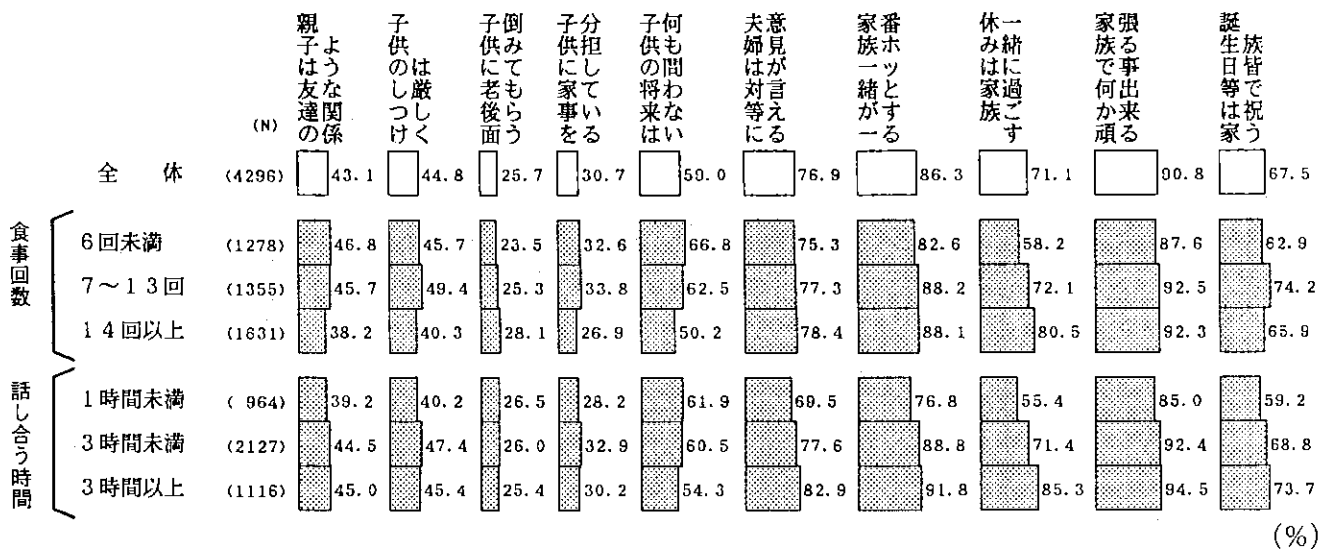
家族いっしょの食事回数と家族のイメージとの関連をみると、食事回数の多い方が「休みは家族といっしょに過ごす」が多く、食事回数の少ない方が「子どもの将来は何も問わない」などが多い。

話し合う時間との関連でみると、話し合いの時間の長い世帯では「夫婦は対等に意見が言える」「家族いっしょが一番ほっとする」、「休みは家族といっしょに過ごす」などが多くなっており、家族であることをエンジョイする傾向が強い。

牛乳の購入量の多い世帯は「子どものしつけは厳しく」、「子どもに家事を分担させている」、「子どもの将来は何も問わない」、「親子は友だちのような関係」、「夫婦は対等に意見が言える」、「家族いっしょにが一番ほっとする」、「家族で何かあれば頑張ることができる」、「誕生日等は家族で祝う」などが多い。牛乳の購入量の多さは「家族であること」の喜びと同時に「しつけをきびしく」や「子どもに家事の分担をさせる」など教育面でも十分努力していることとつながっている。

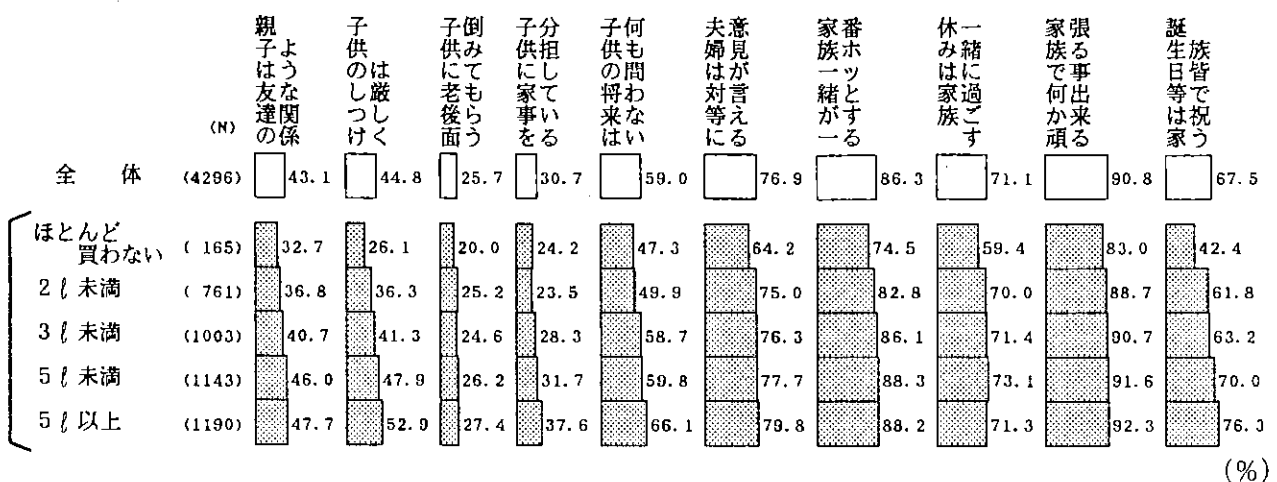
図表 VI -29 家族全員の食事回数と話をする時間別 家族の姿

(2人以上世帯ベース：あてはまる+ややあてはまるの比率)



図表 VI - 30 1週間の牛乳購入量別 家族の姿

(2人以上世帯ベース：あてはまる+ややあてはまるの比率)



5. 家族の健康への配慮

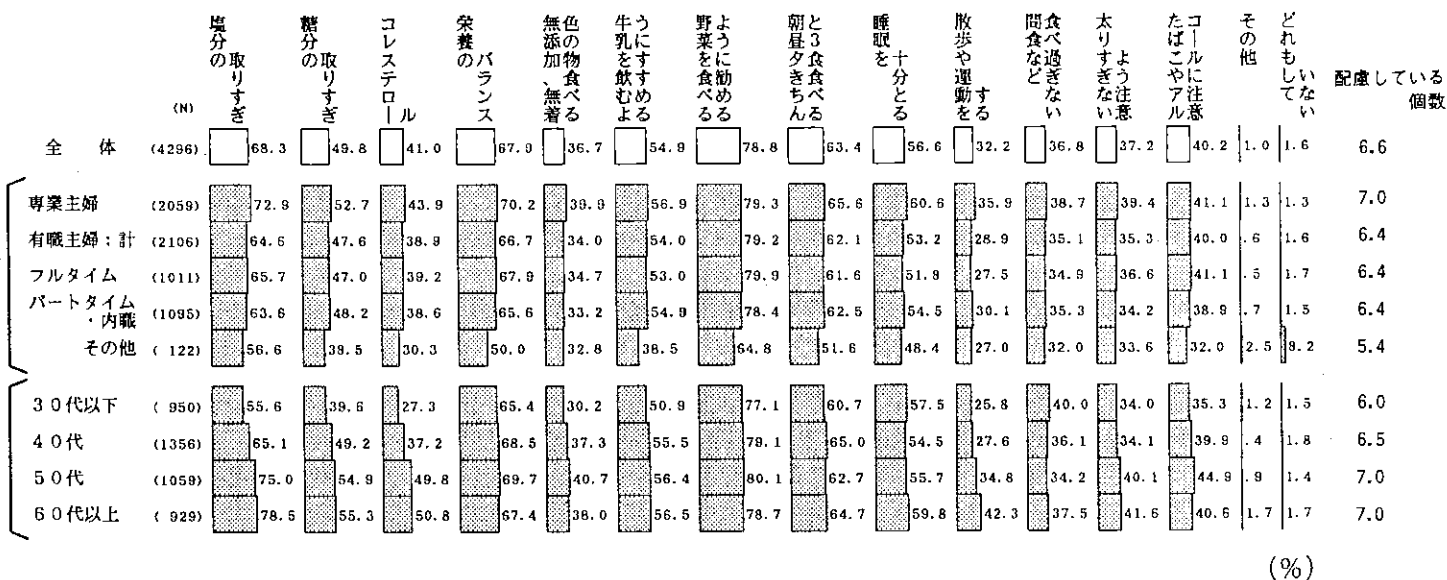
夫や子どもなど家族の健康のためにどのような配慮をしているかを13の項目をあげて聞いた（複数回答）。

全体の傾向で見ると、「野菜を食べるように勧める」79%、「塩分の取りすぎに注意」68%、「栄養のバランスに気をつける」68%、「朝昼夕きちんと食べる」63%など食生活に関連した項目が一般的に多い。

主婦年齢で見ると、年齢の高い層では配慮している項目が多く、特に「塩分の取りすぎ」「糖分の取りすぎ」「コレステロール」「散歩や運動」「太りすぎないように」などへの配慮が多くなっている。「牛乳を飲むように勧める」も40代を過ぎると55%をこえて多い。

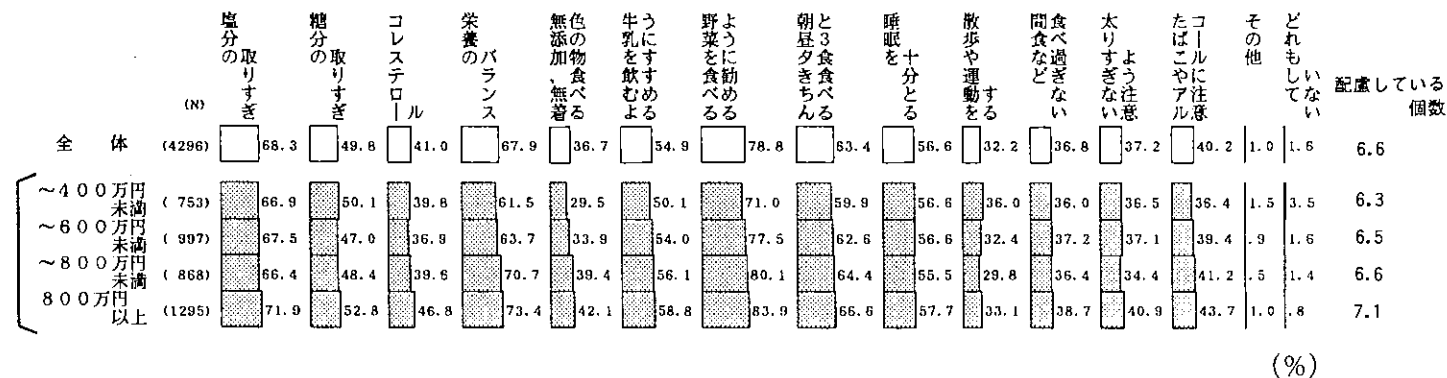
世帯年収との関連で見ると、高収入層の主婦の方が一般的に健康配慮アイテムが多いようだ。高収入層では「牛乳を飲むように勧める」、「野菜を食べるように勧める」、「朝昼晩きちんと3食食べるように勧める」という配慮も強く働いている。

図表 VI -31 主婦職業・年齢別 主婦が家族の健康のためにふだん配慮していること
(2人以上世帯ベース：MA)



(%)

図表 VI -32 世帯年収別 主婦が家族の健康のためにふだん配慮していること
(2人以上世帯ベース：MA)

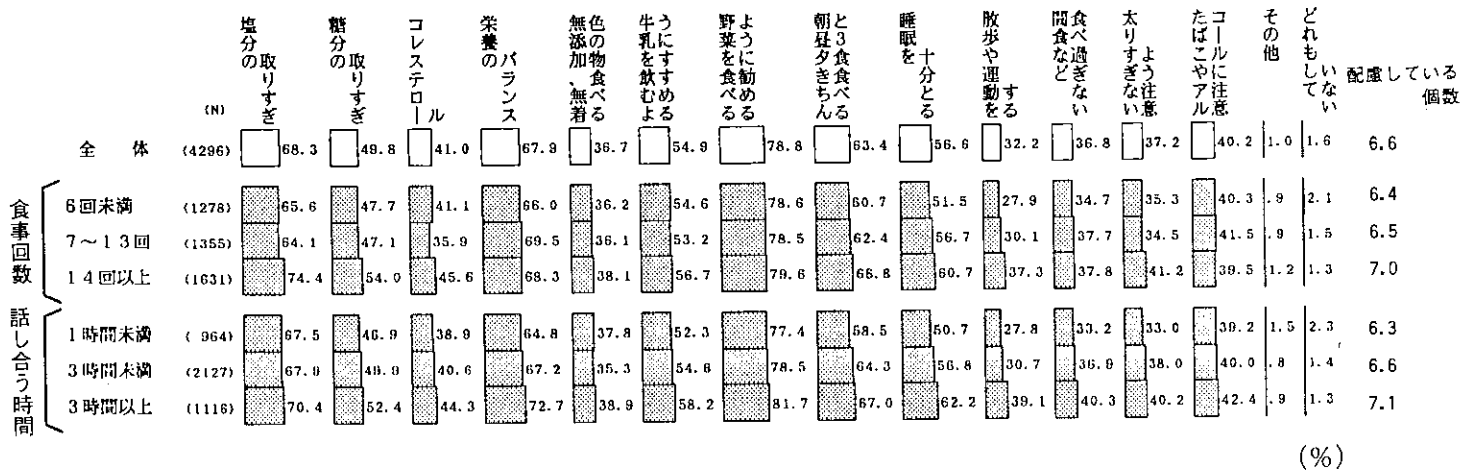


(%)

家族との食事回数との関連で見ると、食事回数（1週間あたり）の多い人の方が配慮しているアイテム数が多く、なかでも「きちんと3食食べる」、「睡眠を十分とる」など規則正しい生活をするよう配慮する傾向が強い。

さらに会話時間との関連をみると、会話する時間の長い人の方が家族の健康のための配慮が多岐に渡っている。

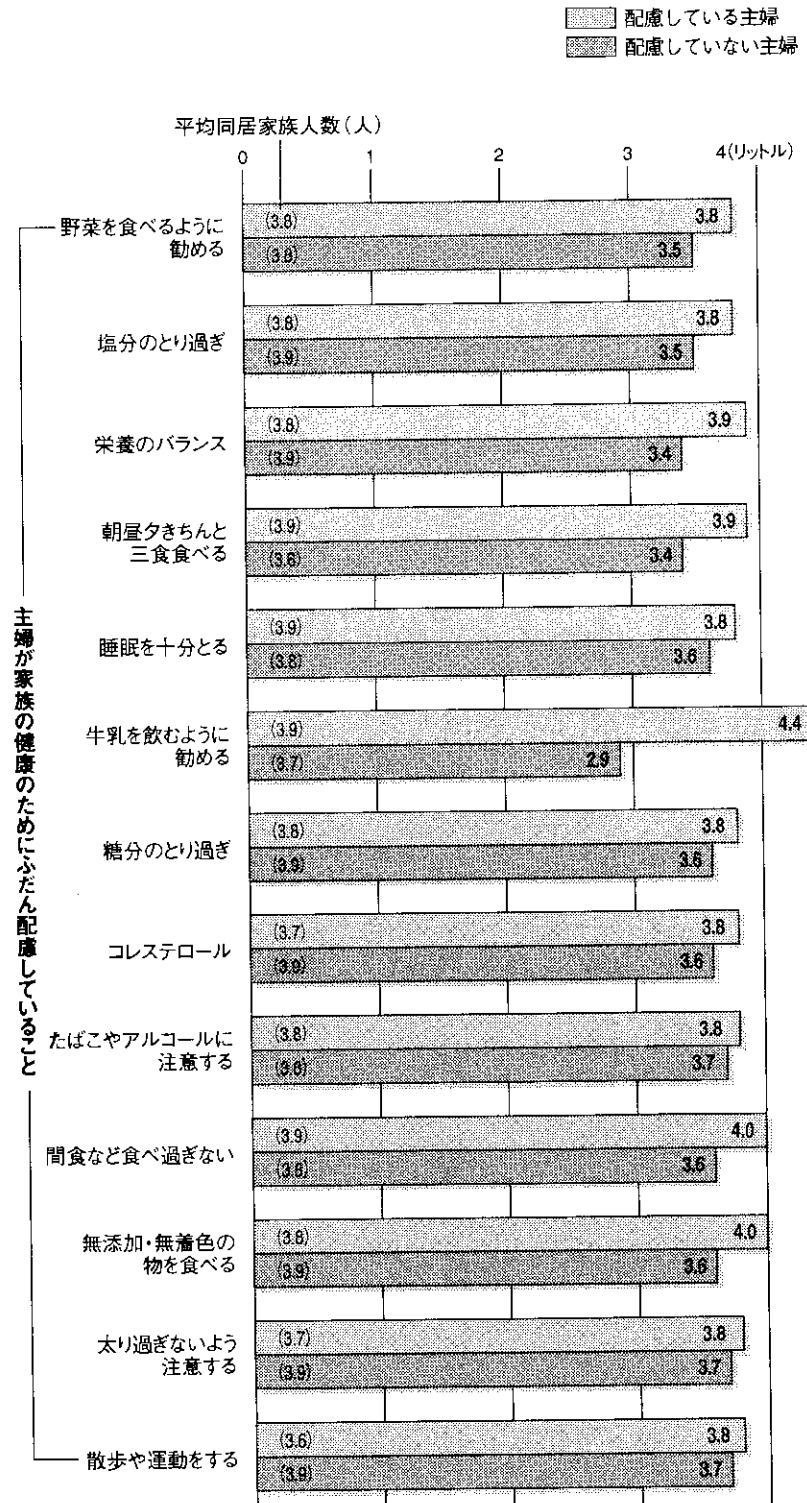
図表 VI -33 家族全員の食事回数と話をする時間別 主婦が家族の健康のためにふだん配慮していること（2人以上世帯ベース：MA）



(%)

牛乳の購入量との関係で見ると、主婦の健康配慮がいきとどいている家庭ほど牛乳の購入量が多くなっている。特に、「栄養のバランスに注意」、「朝昼夕きちんと食べる」、「牛乳を飲むようにすすめる」、「間食など食べ過ぎない」、「無添加・無着色の物を食べる」などで差がみられる。

図表 VI -34 主婦の健康配慮別 1世帯1週間あたりの平均牛乳購入量
(2人以上世帯ベース：平均値)



〈付録 1〉 各年度のテーマと
サンプル数

年 度	サンプル数	テーマ
1987 年度	4,664	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国の消費動向の研究 ・ 有職者から牛乳消費拡大のためのアイデアを収集
1988 年度	4,604	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳・乳製品の表示の表示に関する知識と評価 ・ 牛乳・乳製品の種類に関する知識の度合い
1989 年度	4,579	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳・乳製品の種類の多様化への対応 ・ 各種宅配牛乳の利用実態と意見 ・ スポーツと牛乳・乳製品のかかわり
1990 年度	4,691	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツと栄養に関する知識 ・ 輸入乳製品の利用実態と意見
1991 年度	4,714	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳の購買場面での選択基準の再度検証 ・ 飲用場面別の牛乳の競合商品 ・ 牛乳に関する知識と飲用量の関係
1992 年度	4,651	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果汁 100%ジュースとの競合関係の変化 ・ 家庭外での牛乳の飲用場面拡大のための方向性
1993 年度	4,553	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識と購買行動の関係 ・ 牛乳の伸び悩みがどのような方向にいくか ・ 果汁 100%ジュースの行方
1994 年度	4,617	<ul style="list-style-type: none"> ・ ティーンエイジャーの女の子への訴求方法 ・ 骨粗しょう症予防と牛乳の結びつき ・ 購買時点での牛乳の課題 (特売の利用状況、宅配の利用理由)
1995 年度	4,668	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳をとりまくライフスタイルを明らかにする ・ 「牛乳は太る」イメージの解明を ・ 骨粗しょう症予防とカルシウム、牛乳の関係を明確に
1996 年度	4,706	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスタイルと牛乳との関係 ・ 消費実感としての牛乳の需要量の変化 ・ 色々な牛乳商品の飲用・購入実態 ・ 骨粗しょう症とカルシウム、牛乳の関係について ・ 1987 年から 1996 年の 10 年間の変化をみる
1997 年度	4,547	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳飲用量の変化とその理由 ・ 牛乳とチーズ・ヨーグルトの消費量 ・ 牛乳と他の飲料 ・ 健康意識と牛乳 ・ 現在の家族の姿と健康

〈付録 2〉 単純集計結果付き
調査票

牛乳（注）についてお聞きします

（注）ここでいう牛乳とは、ふつうの白い牛乳や低脂肪牛乳（ローファットミルク）や栄養強化牛乳（カルシウム、鉄分、ビタミンDなどを加えたもの）などをいいます。

〔全員に〕 (N=4547)

問1 あなたは、日頃どの程度白い牛乳をお飲みになりますか。紅茶やココアなど他の飲み物に入れたり、コーンフレークスやシリアルにかけたりなど、そのまま飲む以外の場合も含めてお答え下さい。（1つだけ○印）

毎日飲む	45.7	月に2～3回飲む	6.7	} → 問1-1へ
週に5～6日飲む	9.1	それ以下しか飲まない	5.1	
週に3～4日飲む	13.7	全く飲まない	9.1	
週に1～2日飲む	10.4			

NA -

〔問1で5～7に答えた方に〕 (N=952)

問1-1 あなたがあまり牛乳を飲まない理由は何ですか。次の中からいくつでもお選び下さい。（いくつでも○印）

もともと嫌い	28.7	お腹がゴロゴロする	21.8
味にくせがある	11.9	下痢をすることがある	28.7
においが嫌い	16.3	家に置いてない	9.7
口当たりが悪い	6.9	他の飲み物を飲むので牛乳を飲む機会がない	31.9
太ると思う	2.2	強制的に飲まされた悪い思い出がある	2.0
買いに行くのが面倒	2.2	牛乳のイメージがよくない	1.4
日持ちがしない	4.1	その他（具体的に)	7.2

NA 1.1

〔全員に〕 (N=4547)

問2 あなたは牛乳を飲む時は1日に合計で何杯飲みますか。1杯は140 ml位です。そのまま飲む以外の場合も含めて、だいたい結構ですから、次の中から1つだけお答え下さい。（1つだけ○印）

コップ半杯位	7.5	コップ4杯位	2.0	} → 問7へ
コップ1杯位	43.5	コップ5杯位	0.9	
コップ2杯位	26.6	コップ6杯以上	0.8	
コップ3杯位	7.7	全く飲まない	11.1	

NA -

〔問2で1～7に答えた方に〕 (N=4042)

問3 あなたはふだん牛乳を1日に何回飲みますか。そのまま飲む以外の場合も含めてお答え下さい。（1つだけ○印）

1回だけ	58.2	3回	7.8
2回	30.6	4回以上	2.7

NA 0.7

〔問2で1～7に答えた方に〕 (N=4042)

- 問4 (1) あなたが牛乳を飲むのは、どんな時ですか。そのまま飲む以外の場合も含めて、時々でもよいので飲む機会をお答え下さい。(いくつでも○印)
- (2) この5年くらいの間に飲む機会が増えたのはどれですか。次の中からいくつでもお答え下さい。(いくつでも○印)

	(1) 飲む機会	(2) この5年 くらいの間に 増えた機会
朝食時	59.3	22.5
昼食時	21.2	7.2
夕食時	13.1	4.7
おやつや間食	41.0	18.4
夜食や寝る前	24.5	12.4
工作中	6.9	3.9
勉強中	1.2	0.5
レジャーやスポーツ時	5.4	2.6
風呂上がり	35.4	15.2
その他 ()	6.8	4.6
NA	0.7	32.0

〔問2で1～7に答えた方に〕 (N=4042)

- 問5 あなたはどんな所で牛乳を飲んでいますか。(いくつでも○印)

自宅で	96.3	喫茶店、レストランや娯楽施設等で(屋内)	5.5
職場で	11.9	屋外で	3.3
学校で	4.7	その他 ()	1.0

NA 0.1

〔問2で1～7に答えた方に〕 (N=4042)

- 問6 あなたが牛乳を飲む理由は何ですか。次の中からいくつでもお選び下さい。(いくつでも○印)

おいしい	27.4	家族がすすめる	8.6
好き	26.4	骨粗しょう症が心配	27.1
栄養がある	46.1	良質のタンパク質がある	17.0
カルシウムがある	62.3	美容によい	3.5
朝食など食事代わりに	9.1	消化がよい	4.0
水の代わりに	19.5	便秘に効果がある	18.0
習慣で	14.7	おしゃれ・さわやかなイメージがある	0.3
いつも家にある	31.2	その他 ()	3.7

NA 0.1

〔全員に〕 (N=4547)

問7 この5年くらいの間に、あなたは牛乳を飲む量（摂取量）が増えましたか、それとも減りましたか。（○は1つだけ）

増えた	29.2		
減った	10.7	→	問7-3へ
同じ/変わらない	49.7	→	問7-5へ
牛乳はもともと飲まない	9.6	→	問8へ
			NA 0.7

〔増えた方に〕 (N=1329)

問7-1 増えたのは、1回に飲む量が増えたからですか。それとも飲む回数が増えたからですか。（1つだけ○印）

1回に飲む量が増えた	20.5	
飲む回数が増えた	66.6	
1回あたりの量と回数の両方が増えた	12.3	NA 0.6

〔増えた方に〕 (N=1329)

問7-2 なぜ牛乳を飲む量（摂取量）が増えたのですか。次の中からその理由をお知らせ下さい。（いくつでも○印）

好き・おいしい	25.2	身長を伸ばしたい	5.3
栄養バランスを考えて	35.0	美容によい	2.9
カルシウムをとる	59.9	健康に気をつけるようになって	38.5
家に常備するようになった	28.1	なんとなく	5.7
牛乳を飲むようにすすめられた	10.8	その他（ ）	7.1
			NA 0.5

〔問7で減ったとお答えの方に〕 (N=488)

問7-3 減ったのは、1回に飲む量が減ったからですか。それとも飲む回数が減ったからですか。（1つだけ○印）

1回に飲む量が減った	8.6	1回あたりの量と回数の両方が減った	17.6
飲む回数が減った	69.7	全く飲まなくなった	3.3
			NA 0.8

〔問7で減ったとお答えの方に〕 (N=488)

問7-4 なぜ牛乳を飲む量（摂取量）が減ったのですか。次の中からその理由をお知らせ下さい。（いくつでも○印）

もともと嫌い	7.4
他の食品でカルシウムをとるようになった	10.5
代わりにヨーグルトなどの乳製品をとるようになった	24.0
他の飲料を飲むようになった	38.9
学校などの給食がなくなった	21.3
家に置かなくなった	11.7
家族から飲むように言われなくなった	2.9
牛乳は太ると思って控えるようになった	6.6
健康に不安を感じないので、牛乳を飲まなくなった	2.5
その他（ ）	20.1
	NA 2.0

〔問7で同じ／変わらないとお答えの方に〕 (N=2258)

問7-5 牛乳を飲む量(摂取量)が変わらない理由を次の中からいくつでもお知らせ下さい。(いくつでも○印)

今の量で十分だと思っている	43.6	
これ以上飲む機会や回数がない	24.6	
他の飲み物を飲むので、これ以上牛乳は飲めない	34.9	
健康に不安がないので、これ以上必要を感じない	6.2	
その他()	7.3	NA 0.4

〔全員に〕 (N=4547)

問8 (1) 牛乳にはいろいろな商品がありますが、次のうち、あなたがこの1ヵ月くらいの間に飲んだものはどれですか。
(いくつでも○印)
(2) では、これから飲みたいと思うものはどれですか。
(いくつでも○印)

	(1) 過去1 ヵ月間 に飲 んだも の	(2) 今後 飲ま たいも の
普通牛乳	69.8	30.2
低脂肪牛乳(ローファットミルク) (乳脂肪分の割合が低いもの)	29.1	18.6
濃厚牛乳(乳脂肪分の割合が高いもの)	15.5	10.8
ロングライフ牛乳(LL牛乳) (60日間常温で保存できるもの)	3.8	3.1
低温殺菌牛乳 (62℃~65℃で30分かけて殺菌している牛乳)	10.0	10.4
クリームの層ができる牛乳(ノンホモ牛乳)	1.5	4.6
産地表示牛乳(北海道産など産地名がブランドになっているもの)	15.9	13.3
お腹がゴロゴロしない牛乳	2.4	8.6
栄養素を強化した牛乳 (カルシウム、鉄分、ビタミンDなどを加えたもの)	18.5	29.0
ひとつもない	10.1	15.5

NA 1.1 3.1

チーズとヨーグルトについてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

問9 (1) あなたはチーズをどの位の頻度で食べますか。
(2) また、ヨーグルト(飲むヨーグルトも含む)はどうですか。
(それぞれ1つずつ○印)

	週に 4回 以上	週に 2~ 3回 位	週に 1回 位	月に 2~ 3回 位	それ 以下	全く 食べ ない (飲ま ない)	
(1) チーズ ⇨	4.8	12.2	16.3	24.6	23.4	18.4	NA 0.3
(2) ヨーグルト ⇨ (飲むヨーグルトも含む)	15.1	18.7	16.3	18.0	12.9	18.8	0.2

*このページはヨーグルトを食べる人（問9(2)で1～5と答えた方）にお聞きします。
問9(2) ヨーグルトを全く食べない人は次ページの間14へおすすみ下さい。

ヨーグルトについてお聞きします

〔ヨーグルトを食べたり飲んだりする方に〕 (N=3686)

問10 ヨーグルトはどのような時に食べたり、飲んだりしますか。次の中からいくつでもお知らせ下さい。（いくつでも○印）

朝食時	31.7	工作中	3.6
昼食時	13.5	勉強中	1.1
夕食時	11.3	レジャーやスポーツ時	2.6
おやつや間食	65.0	風呂上がり	17.8
夜食や寝る前	13.8	その他（ ）	2.3
			NA 0.5

〔ヨーグルトを食べたり飲んだりする方に〕 (N=3686)

問11 あなたはどんな所でヨーグルトを食べたり飲んだりしていますか。（いくつでも○印）

自宅で	95.3	喫茶店、レストランや娯楽施設等で（屋内）	5.9
職場で	12.3	屋外で	3.7
学校で	4.0	その他（ ）	0.4
			NA 0.6

〔ヨーグルトを食べたり飲んだりする方に〕 (N=3686)

問12 あなたは、どのようなタイプのヨーグルトを食べたり飲んだりすることが多いですか。（いくつでも○印）

プレーンで無糖のヨーグルト	46.4	
加糖のヨーグルト	44.7	
果肉フルーツ入りのヨーグルト	39.4	
ドリンクヨーグルト（飲むヨーグルト）	41.0	
その他（ ）	1.4	NA 0.6

〔ヨーグルトを食べたり飲んだりする方に〕 (N=3686)

問13 あなたがヨーグルトを食べる（飲む）理由を、次の中からいくつでもお選び下さい。（いくつでも○印）

おいしい	54.3	家族がすすめる	7.1
好き	44.8	骨粗しょう症が心配	11.0
栄養がある	35.1	良質のタンパク質がある	9.0
カルシウムがある	32.5	美容によい	10.1
朝食など食事代わりに	8.1	消化がよい	15.0
牛乳の代わりに	15.4	便秘に効果がある	22.7
習慣で	5.2	おしゃれ・さわやかなイメージがある	1.8
いつも家にある	15.0	その他（ ）	3.6
			NA 0.7

ふだんお飲みになっている飲料についてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

問 14 あなたは、ふだんどのような飲み物を飲んでいますか。朝食、昼食、おやつ、夜くつろいでいる時の4つの機会別に、あなたがよく飲んでいるものをいくつかでもお知らせ下さい。(それぞれいくつでも○印)

	朝食によく飲むものは ↓	昼食によく飲むものは ↓	おやつによく飲むものは ↓	夜くつろいでいる時よく飲むものは ↓
牛乳	42.5	14.3	22.2	18.1
コーヒー (インスタント、レギュラー)	35.7	20.8	38.8	17.6
紅茶(リーフ、ティーパック)	9.7	7.5	16.2	8.4
日本茶	49.0	61.7	31.0	42.3
ペットボトルや缶のコーヒー、紅茶、お茶類	7.1	14.9	18.7	9.4
ミネラルウォーター	4.4	3.6	4.0	5.4
コーラなどの炭酸飲料	0.9	3.5	13.6	7.6
果汁飲料/ジュース	4.8	6.2	21.8	11.3
ビール、ワイン等のアルコール類	0.3	0.4	0.5	33.8
その他	4.2	3.1	2.7	3.9
	NA 2.4	4.0	5.6	4.6

カルシウムについてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

問 15 成人の1日のカルシウム必要量は平均でどのくらいだと思いますか。

(1つだけ○印)

100 mg位	1.5	500 mg位	8.0
200 mg位	7.6	600 mg位	28.2
300 mg位	9.3	それ以上	1.8
400 mg位	6.5	わからない	36.8

NA 0.2

〔全員に〕 (N=4547)

問 16 牛乳200 mlにはどれくらいのカルシウムが含まれていると思いますか。

(1つだけ○印)

100 mg位	15.5	500 mg位	1.8
200 mg位	29.9	600 mg位	1.2
300 mg位	7.4	それ以上	0.4
400 mg位	3.0	わからない	40.6

NA 0.2

〔全員に〕 (N=4547)

問 17 あなたは、骨が新陳代謝することをご存知でしたか。(1つだけ○印)

知っていた	56.2	知らない	43.6
		NA	0.2

〔全員に〕 (N=4547)

問 18 骨の密度がピークになる(一番高くなる)のは何歳の時か、ご存知ですか。次の中から1つだけお答え下さい。(1つだけ○印)

10代前半	7.0	40代以上	5.1
10代後半	35.6	骨の密度は変わらないと思う	0.3
20代	22.3	わからない	23.9
30代	5.6		
		NA	0.2

健康についてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

問 19 あなたの食生活は、全体として栄養バランスが十分とれていると思いますか。(1つだけ○印)

十分バランスがとれている	13.9
ややとれている	57.4
あまりとれていない	25.7
全くとれていない	2.9

NA 0.1

〔全員に〕 (N=4547)

問 20 あなたは、現在の自分の健康状態について、どの程度自信をお持ちですか。(1つだけ○印)

非常に自信がある	8.6
やや自信がある	53.8
あまり自信がない	34.2
全く自信がない	3.4

NA 0.0

〔全員に〕 (N=4547)

問 21 あなたは、自分の健康を維持するため食生活や運動などに、どの程度気をつけていますか。(1つだけ○印)

十分気をつけている	14.0
やや気をつけている	56.3
あまり気をつけていない	26.9
全く気をつけていない	2.9

NA -

〔全員に〕 (N=4547)

問 22 あなたは、「朝起きた時疲労感が残っている」という感じがありますか。

(1つだけ○印)

いつも感じる	12.0
時々感じる	54.3
あまり感じない	27.4
全く感じない	6.3

NA -

〔全員に〕 (N=4547)

問 23 健康のために、あなたがふだん積極的に行っていることがありますか。次の中からいくつでも選んで下さい。(いくつでも○印)

定期的に運動している	21.3
なるべく歩くようにしている	38.9
お酒をつつしむ、飲まない	21.0
タバコを吸わない	31.2
太らないように気をつけている	33.6
食べ過ぎない、腹八分目をこころがける	30.9
食事の栄養バランスに気をつける	39.7
栄養強化食品をとる	7.1
よく市販薬を飲む	3.9
添加物に気をつけた食事をとる	18.5
外食でなく、なるべく家で食べる	36.3
睡眠を十分とる	51.1
規則正しい生活をする	34.2
ストレスをさけるよう、ゆったりした気持ちをこころがける	27.7
体を清潔にする	41.9
家の中を清潔にする	24.3
疲れたら休んで、疲労をためない	41.2
定期的に健康診断をうける	26.9
その他 ()	1.9

NA 0.6

〔全員に〕 (N=4547)

問 24 あなたは、ふだんどのようなものにお金や時間を使っていますか。意識して使っているものをいくつでもお選び下さい。(いくつでも○印)

ファッション	20.3	住生活の充実	12.6
美容・ボディケア	6.6	家具・インテリア	4.0
友達とのつきあい	43.9	趣味・教養	45.2
家族との時間の充実	31.4	スポーツ	13.9
健康の増進	16.1	仕事上の技術や知識の向上	11.3
食生活の充実	33.4		

NA 2.6

【フェイスシート】

□□ あなたご自身のことについてお答え下さい。□□

〔全員に〕 (N=4547)

F 1 性 別

男	46.4	女	53.6
---	------	---	------

〔全員に〕 (N=4547)

F 2 年 齢

13～15才	4.2	35～39才	8.6	60～64才	9.3
16～19才	5.5	40～44才	8.0	65～69才	6.7
20～24才	7.7	45～49才	10.5	70才以上	8.6
25～29才	7.1	50～54才	8.3		
30～34才	7.4	55～59才	8.2		

〔全員に〕 (N=4547)

F 3 あなたの職業は何ですか。あてはまるものを1つだけお答え下さい。(1つだけ○印)

〔自営・家族従業〕	〔勤 め〕	〔無 職〕
農林漁業 3.3	管理職 5.1	専業主婦 16.4
商工サービス業 7.8	専門・技術職 11.8	学 生 10.4
自由業 3.1	事務職 8.4	無 職 10.2
内 職 0.7	労務職 6.8	
	販売・サービス職 6.3	
	パート・アルバイト 9.3	

NA 0.3

〔全員に〕 (N=4547)

F 4 あなたは結婚なさっていますか。(1つだけ○印)

既婚 (同居)	67.0
既婚 (離婚・死別・別居)	7.5
未婚 (結婚したことがない)	25.4

NA 0.1

ここからはお宅での牛乳や乳製品の購入の仕方、飲み方、食べ方などについてお聞きします。お宅で食料品の買い物など主婦の役割をなさっている方がお答え下さい。主婦及び単身世帯の方はご自身をご記入下さい。

〔全員に〕 (N=4547)

Q 1 あなたご自身は、あなたの世帯の中でどういう位置づけにありますか。次の中から1つだけ選び、番号に○をつけて下さい。(1つだけ○印)

専業主婦	45.3	内職	1.5
有職主婦(フルタイム)	22.3	単身世帯	5.4
有職主婦(パート・アルバイト)	22.6	その他(具体的に)	2.7

NA 0.2

〔全員に〕 (N=4547)

Q 2 あなたご自身の年齢をお知らせ下さい。(1つだけ○印)

19才以下	0.3	35～39才	9.5	55～59才	11.2
20～24才	2.1	40～44才	13.5	60～64才	9.9
25～29才	4.3	45～49才	17.0	65～69才	6.0
30～34才	7.0	50～54才	12.8	70才以上	6.3

NA 0.1

〔全員に〕 (N=4547)

Q 3 世帯主の方の職業を次の中からお知らせ下さい。(1つだけ○印)

〔自営・家族従業〕	〔勤め〕	〔無職〕
農林漁業	管理職	無職
4.4	13.0	16.4
商工サービス業	専門・技術職	
11.6	16.4	
自由業	事務職	
6.0	9.4	
内職	労務職	
0.1	11.0	
	販売・サービス職	
	7.3	
	パート・アルバイト	
	3.9	

NA 0.5

〔全員に〕 (N=4547)

Q 4 お宅の世帯年収は全部でどのくらいになりますか。ご家族全部の収入を税込みでボーナス、内職、利息収入なども含めて概算でお教え下さい。(1つだけ○印)

～400万円未満	20.2	800～1000万円未満	14.5
400～600万円未満	22.6	1000万円以上	14.1
600万円～800万円未満	19.4		

NA 9.1

牛乳の購入についてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

Q5 お宅ではどれくらいの頻度で牛乳を購入していますか。(1つだけ○印)

毎 日	25.5	2週間に1回位	3.4
週に2～3回位	49.5	月に1回以下	1.7
週に1回位	14.6	ほとんど買わない	4.9

→ Q8へ

NA 0.3

〔Q5で1～5とお答えの方に〕 (N=4547)

Q6 お宅では、平均すると1週間に牛乳をどのくらい購入していますか。下記の記入例に従い、リットルを単位として小数点以下1位まででお答え下さい。
なお、牛乳を全く買わない方は「0」とお書き下さい。

約 3 . 6 リットル

〈記入例〉

1週間に1リットルパックを2本と200mlビンを3本買っている場合
(100mlは0.1ℓです)

約 2 . 6 リットル

〔Q5で1～5とお答えの方に〕 (N=4547)

Q7 お宅では、ふだんふつうの白い牛乳や低脂肪牛乳(ローファットミルク)や栄養強化牛乳(カルシウム、鉄分、ビタミンDなどを加えたもの)を1週間にどのくらいお買いになっていますか。リットルを単位として、少数点以下1位まででお答え下さい。なお、それぞれの牛乳を全く買わない方は「0」とお書き下さい。

ふつうの牛乳 約 2 . 7 リットル

低脂肪牛乳 約 0 . 6 リットル

栄養強化牛乳 約 0 . 4 リットル

ご家族のことについてお聞きします

〔全員に〕 (N=4547)

Q 8 お宅の家族構成（同居家族）を、次の中から1つだけお選び下さい。（1つだけ○印）

単身世帯	5.4	3世代世帯（親、子、孫）	19.5
夫婦2人	17.4	その他	2.7
2世代世帯（親と子）	54.6	（具体的に	）

NA 0.5

〔全員に〕 (N=4547)

Q 9 あなたの家族は何人ですか。ご自分も含めた同居家族人数をお知らせ下さい。（1つだけ○印）

1人（単身世帯）	5.4	5人	13.7
2人	20.3	6人	8.4
3人	21.5	7人以上	4.9
4人	25.6		

NA 0.2

以下からは家族人数が2人以上の方（単身家族でない方だけ）がお答え下さい。

単身世帯（1人世帯）の方は調査終了です。

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 10 お宅では、次のようなことはどのような役割分担になっていますか。

（それぞれ1つずつ○印）

	ほとんど夫がする	時々夫がする	いっしょに、2人で半々	時々妻がする	ほとんど妻がする	夫・子どもはいない／誰もしない	NA
子どもの健康の管理	0.4	1.5	11.5	2.6	56.5	24.3	3.2
子どものしつけ ／生活管理	0.8	4.3	25.8	2.4	38.9	24.5	3.4
夫の健康管理	20.7	3.6	18.5	7.3	42.8	5.3	1.8
生活費を出す	65.0	0.9	17.0	1.1	11.5	1.5	2.9
そうじ・洗濯	0.7	4.5	4.7	1.8	85.8	1.1	1.4
食事作り	0.7	3.6	2.3	1.6	89.3	1.2	1.4
食事の後片づけ	0.9	4.4	3.3	1.7	86.9	1.2	1.7

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 11 いっしょにお住まいの家族全員で食事をする回数は1週間あたり何回くらいありますか。朝食、昼食、夕食、休日、平日を含めて21回（1日3回×7日間）のうち何回ですか。週でははかれず、月に数回しかないという人は「0」として下さい。

1 0 . 1 回

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 12 家族いっしょに食事をする事が多いのはどういう時ですか。(いくつでも○印)

平日の朝食	42.9	休みの日の朝食	40.9	ほとんどしない	5.1
平日の昼食	13.0	休みの日の昼食	44.1		
平日の夕食	64.2	休みの日の夕食	71.1		

NA 0.8

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 13 ふだんの平日で、いっしょにお住まいのご家族とあなたが話し合う時間は1日に何分くらいありますか。

2 時間 1 分

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 14 あなたのご家族はどのようなご家族ですか。次の事柄についてあてはまる番号を選び下さい。(それぞれ1つずつ○印)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	非該当	NA
親と子は上下の関係ではなく、 友だちのような関係である	11.9	31.2	28.6	9.7	16.9	1.8
子どものしつけはできるだけ 厳しくしている	10.1	34.7	28.5	4.6	20.3	1.8
子どもに自分の老後の面倒を みてもらうつもりである	8.6	17.2	37.4	20.4	14.9	1.5
子どもに掃除・お使いなど 家事を分担させている	9.1	21.7	26.1	18.9	22.3	2.0
子どもの将来については本人が自立してくれば、 職業、結婚相手など、どんなことも問わない	24.0	34.9	18.7	3.8	16.7	1.8
家庭の中で夫と妻は対等に 意見が言える	42.8	34.1	13.4	2.8	5.5	1.4
家族といっしょにいる時が 一番ほっとする	48.0	38.2	9.4	1.8	1.4	1.1
休みはたいてい家族と いっしょに過ごしている	38.8	32.2	20.8	5.1	2.0	1.0
家族に何かがあれば気持ちを そろえて頑張ることができる	54.3	36.5	6.0	0.9	1.4	1.0
誕生日、クリスマスなどは 家族そろってお祝いをしている	40.0	27.5	20.6	8.1	3.1	0.7

〔2人以上世帯の方に〕 (N=4296)

Q 15 あなたはご主人や子どもたちなど家族の健康のために、ふだん次のような配慮をしていますか。(いくつでも○印)

塩分の取りすぎに気をつけている	68.3
糖分の取りすぎに気をつけている	49.8
コレステロールに気をつけている	41.0
栄養のバランスに気をつけている	67.9
無添加、無着色のものを食べるように気をつけている	36.7
牛乳を飲むようにすすめている	54.9
野菜を食べるようにすすめている	78.8
朝昼夕きちんと3食食べるよう言っている	63.4
睡眠を十分とるよう言っている	56.6
散歩や運動をするよう言っている	32.2
間食など食べ過ぎないように注意している	36.8
太りすぎないように注意している	37.2
たばこやアルコールのみすぎに注意している	40.2
その他 ()	1.0
どれもしていない	1.6

NA 0.3

～～ご協力下さいましてありがとうございました。～～

1997年 牛乳乳製品の消費動向に関する調査
〔第11回〕

1997年11月発行

発行 社団法人 全国牛乳普及協会
東京都千代田区一番町22-1
一番町セントラルビル
電話(03)3262-7181(代)

後援 農 林 水 産 省
農 畜 産 業 振 興 事 業 団

調査実施機関 株式会社 日本リサーチセンター